

「リタイアドシニア研究シリーズ」 平成18年度研究

「団塊世代の退職研究」 総合報告書

平成19年4月

研究体制

株式会社	パワーウィングス	高橋洋一郎
財団法人	ハイレイフ研究所	加藤信介
財団法人	ハイレイフ研究所	中山 進

＜はじめに＞

ハイレイフ研究所の団塊世代研究、シニア世代研究も10年近い歴史を持つようになった。第1回(99年度)－団塊世代「ネオ'50」分散・分化する中高年世代、第2回(00年度)－団塊世代の女性、「私達」の履歴書、に始まり、直近では、第7回(05年度)－団塊世代と団塊ジュニアにおける価値観の世代間比較研究、ハイレイフ研究(06年度広報誌)－「団塊世代2007年問題を考える」まで、18編にわたる研究・調査・セミナー・出版などを行ってきた。この間、少子高齢化社会におけるよりよい生き方をテーマに取り組んできており、高齢化社会への対応という点で、シニア全体はもとよりであるが、とりわけその趨勢に大きな影響を及ぼすであろう「団塊世代」に特にスポットを当てた研究を進め、現在に至っている。

団塊世代に対してはその人口ボリュームと高度成長時代を支えた世代ということで、消費のターゲットとして、またその労働力など、経済的価値から言及されることが多かった。しかしハイレイフ研究所では、一貫して、社会構造の変化に対応したより良い生活の追及という観点を忘れず、「団塊世代のハイレイフの可能性」を研究調査に盛り込んできた。

今回の「リタイアドシニア研究」は、団塊世代・シニア世代研究の総合的な到達点となる、「団塊世代の定年退職調査研究」に取り組むこととなった。団塊世代が高度成長期を支え、またバブル崩壊以降のリスク社会を生き延び、ここに定年退職期を迎えたのと同じく、当研究所における団塊世代・シニア世代研究も、一度、中間総括的に整理する必要があると考えた。それと同時に、団塊世代が第二の人生に積極的に取り組む意思と希望を持つのも同様に、当研究所の次のテーマへの礎石となるべく、団塊世代の退職後の暮らしぶり、消費行動、貯蓄行動に関して一定の視点を提供したいとも考えた。

そこで、調査研究は、退職直前の団塊世代とすでに退職した先輩たち、そしてそれぞれの妻たちといった異なる集団に対し、退職前・退職後、夫対妻という視点で、団塊世代の退職を複合的に浮き彫りにすることを狙った。更に直近の退職者へ追跡調査をおこない、リアルな変化を捉える試みも行った。結果として5本の調査が実施され、その調査対象者は総数で約1400名を数えることとなった。

結果については、各章において詳述されるが、興味深い事実や分析が行われている。たとえば、

- 1) 退職前の団塊世代の希望と不安
 - 2) 退職後の夫と妻との気持ちの揺らぎ
 - 3) 生活リストラにかかる時間と方法
 - 4) 退職前の大きな夢とその実現率
 - 5) 夢実現の鍵となる退職金の行方
 - 6) 退職後の暮らしを豊かにする消費行動の特徴
 - 7) リタイヤリーの退職後消費の4種の神器
- などである。

既存の退職者の行動・意識から団塊世代の退職後の行動・意識を予測するには困難を伴うが、それを補うためにおこなった妻の側の調査や直近退職者の追跡調査も有意義な結果をもたらしている。

最後に、本調査研究を推進するにあたって、ヒアリングやアドバイスをいただいた多くの方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。

2007年4月
研究員を代表して
高橋洋一郎

<総合目次>

第1章 調査研究のまとめ	
Ⅰ 本調査研究の課題	1
Ⅱ 調査仮説	2
Ⅲ 調査概要	3
Ⅳ 調査結果のまとめ	4
第2章 「団塊世代の退職予定者および団塊世代の妻への調査」結果報告	24
＜調査概要＞	25
Ⅰ 調査結果の要約	28
第3章 「退職者および退職者の妻への調査」結果報告	58
＜調査概要＞	59
Ⅰ 調査結果の要約	62
第4章 「退職予定者の退職後の追跡調査」結果報告	94
＜調査概要＞	95
Ⅰ 調査結果の要約	97

<別紙：調査結果数表>

- Ⅰ－1 団塊世代の退職予定者調査数表
- Ⅰ－2 団塊世代の退職予定者の妻調査数表
- Ⅱ 退職者および退職者の妻への調査数表
- Ⅲ 退職予定者の退職後の追跡調査数表

第1章 調査研究のまとめ

本調査研究の課題

1) 本調査研究の目的と視点

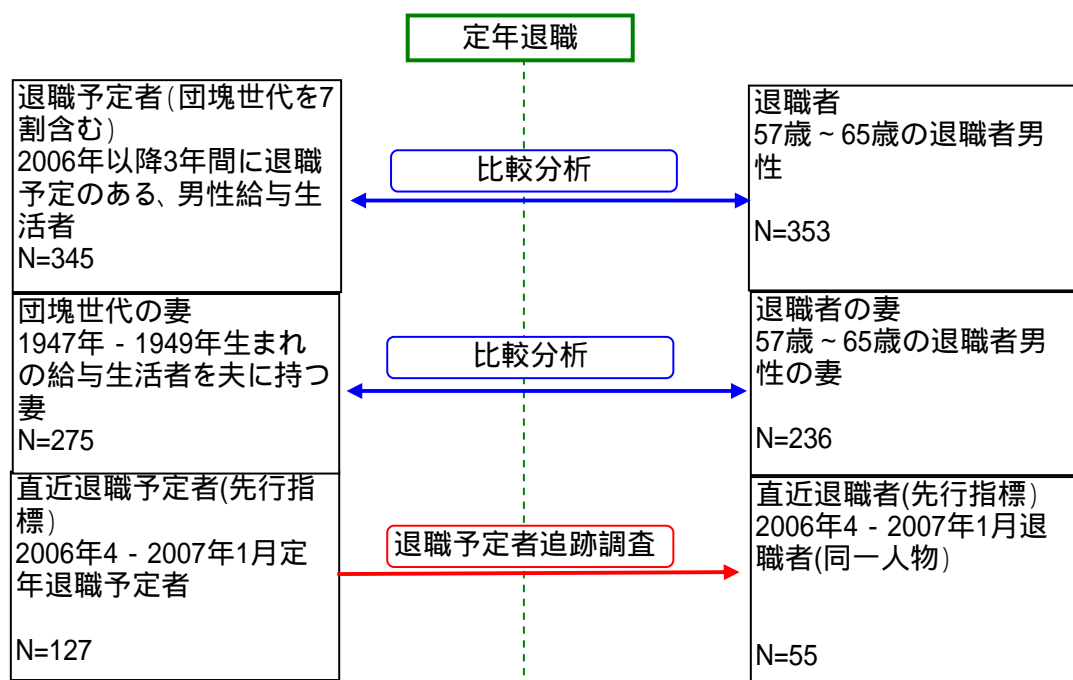
2007年以降、680万人の団塊世代のうち、300万人といわれる給与生活者が退職を迎える。その退職金は韓国のGDPに匹敵する50兆円という試算もある。その膨大なキャッシュフローは日本経済にとって大きなインパクトとなるであろう。また団塊世代は数が多いだけでなく、独自の価値観を持つといわれる。そうであれば、団塊世代の退職後のライフスタイルは従来にはない動きとなって現れるに違いない。いわば、2007年は時代・年代・世代の3重効果が期待できる変節点である。とすれば、ライフスタイルとライフステージが関係したいくつもの変化がおこるだろう。

そうした状況で、本研究は団塊世代の退職後のライフスタイル変化およびそれにともなう支出動向を含めた退職金の行方を占いつつ、来るべき2007年以降の日本社会に大きな影響を与える団塊世代の退職をめぐる課題に対し実効的な提案を行うことを目的としている。

したがって、本調査研究はいくつかの視点を複合的に持たざるを得ない。それは1) 団塊世代は退職後どのような変化を示すのか。それは現在の退職者とどう違うのかという視点である。この問題の困難な点は、事後にならないと同一人物の退職前と後とを比較できない点である。いいかえると団塊世代の退職前に退職後を予想するには、団塊世代の退職前の意図と、既存の退職者とを比較せざるを得ないということなのである。したがって、ある変化が退職による変化なのか、それとも団塊世代特有の変化なのかの判断が必要になるということだ。2) これを補うために、少数であっても、同一人物のフォロー調査が必要である。退職予定者の事前の態度が、退職後にどう変化したか直接追跡することである。しかしフォローアップといえども十分ではない。というのも時間枠があり、2007年に退職する団塊世代の退職予備軍を捉えるには2006年しか余裕がないからである。このため退職後マックス12ヶ月の人しか対象にできず、やはり団塊世代の退職後数年たった姿は、今すでにいる先輩退職者から推測するしかできないのである。また3) 妻の視点が必要である。退職後の生活には妻との関係が大きく影響するので、夫が退職する前と後とにおいて夫だけでなく妻の側の視点を確保しておかねばならない。こうした複合的視点にたち、きたるべき団塊世代の退職後のあり様の予測を試みてみたい。

2) 調査のフレーム

調査のフレームは以下の図で示したとおりである。調査概要の詳細は別途記述した。



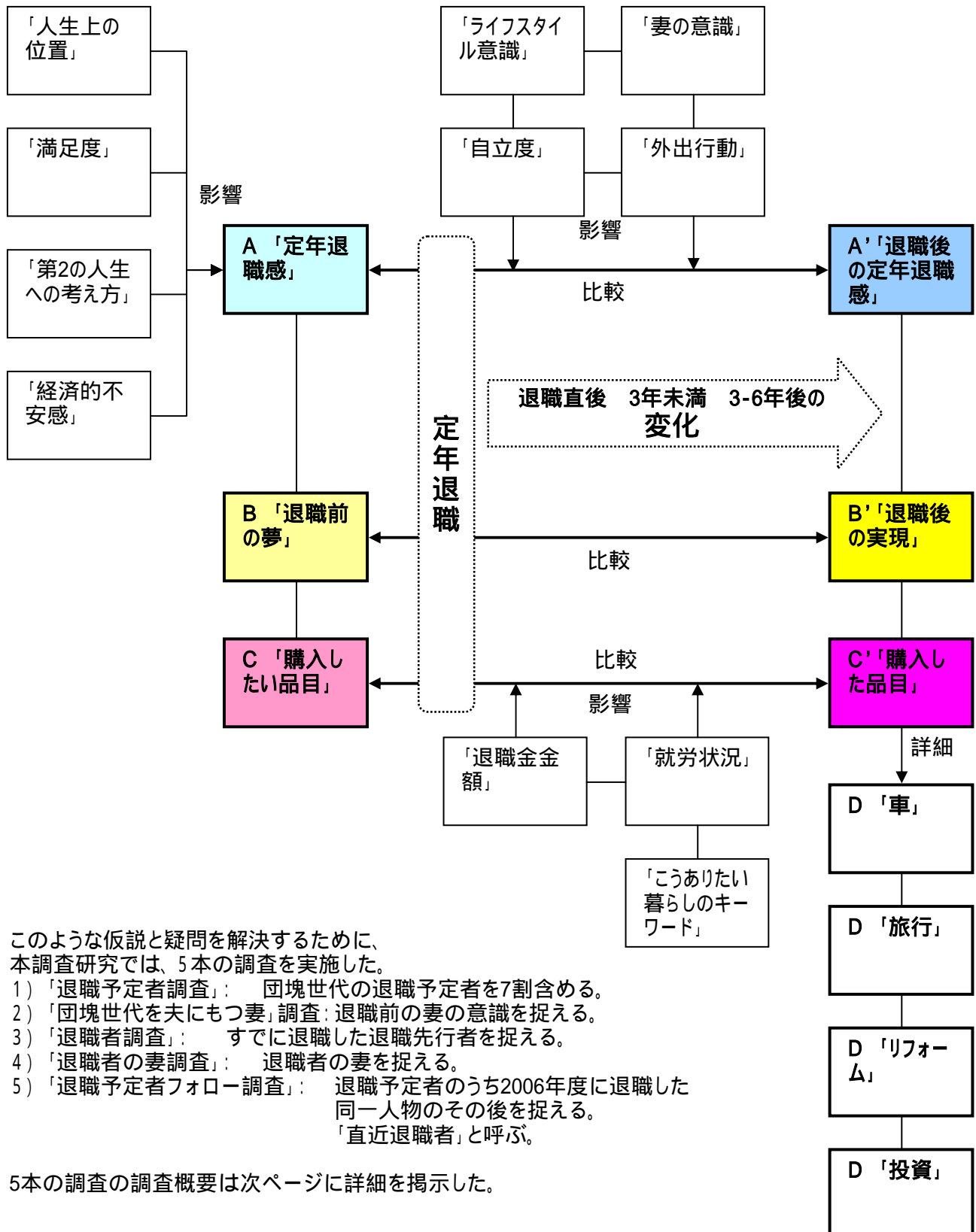
調査仮説

本調査研究の調査フレームと仮説は次のような図で示される。

A 「定年退職感」は定年前と定年後ではどのように違うのか

B 「退職前の夢」は退職後、実現されるのか

C 夢の実現のためにどのような「購入したい品目」があり、それは退職後購入されるのか。



このような仮説と疑問を解決するために、本調査研究では、5本の調査を実施した。

- 1) 「退職予定者調査」： 団塊世代の退職予定者を7割含める。
- 2) 「団塊世代を夫にもつ妻」調査： 退職前の妻の意識を捉える。
- 3) 「退職者調査」： すでに退職した退職先行者を捉える。
- 4) 「退職者の妻調査」： 退職者の妻を捉える。
- 5) 「退職予定者フォロー調査」： 退職予定者のうち2006年度に退職した同一人物のその後を捉える。
「直近退職者」と呼ぶ。

5本の調査の調査概要は次ページに詳細を掲示した。

調査概要

(1)退職予定者調査

- 1 対象者: 2006年以降3年間に退職予定のある、男性給与生活者
- 2 有効回答数: N = 345
- 3 調査方法: インターネット、メール&ウェブ
- 4 調査地域: 全国
- 5 調査時期: 2006年4月22日～4月26日

(2)団塊世代を夫にもつ妻調査

- 1 対象者: 1947年～1949年生まれの給与生活者の男性を夫に持つ妻
- 2 有効回答数: N = 275
- 3 調査方法: インターネット、メール&ウェブ
- 4 調査地域: 全国
- 5 調査時期: 2006年4月22日～4月26日

(3)退職者調査

- 1 対象者: 57歳～65歳の退職者男性
- 2 有効回答数: N = 353
- 3 調査方法: インターネット、メール&ウェブ
- 4 調査地域: 全国
- 5 調査時期: 2006年8月12日～8月15日

(4)退職者の妻調査

- 1 対象者: 退職の夫を持つ妻
- 2 有効回答数: N = 236
- 3 調査方法: インターネット、メール&ウェブ
- 4 調査地域: 全国
- 5 調査時期: 2006年8月12日～8月15日

(5)退職予定者フォロー調査

- 1 対象者: 2006年4月実施「退職予定調査」対象者のうち2007年1月までに退職予定ありの人
- 2 有効回答数: N=127
実際に2006年4月から2007年1月までに退職した人「直近退職者」: N=55
- 3 調査方法: インターネット、メール&ウェブ
- 4 調査地域: 全国
- 5 調査時期: 2007年1月22日～1月23日

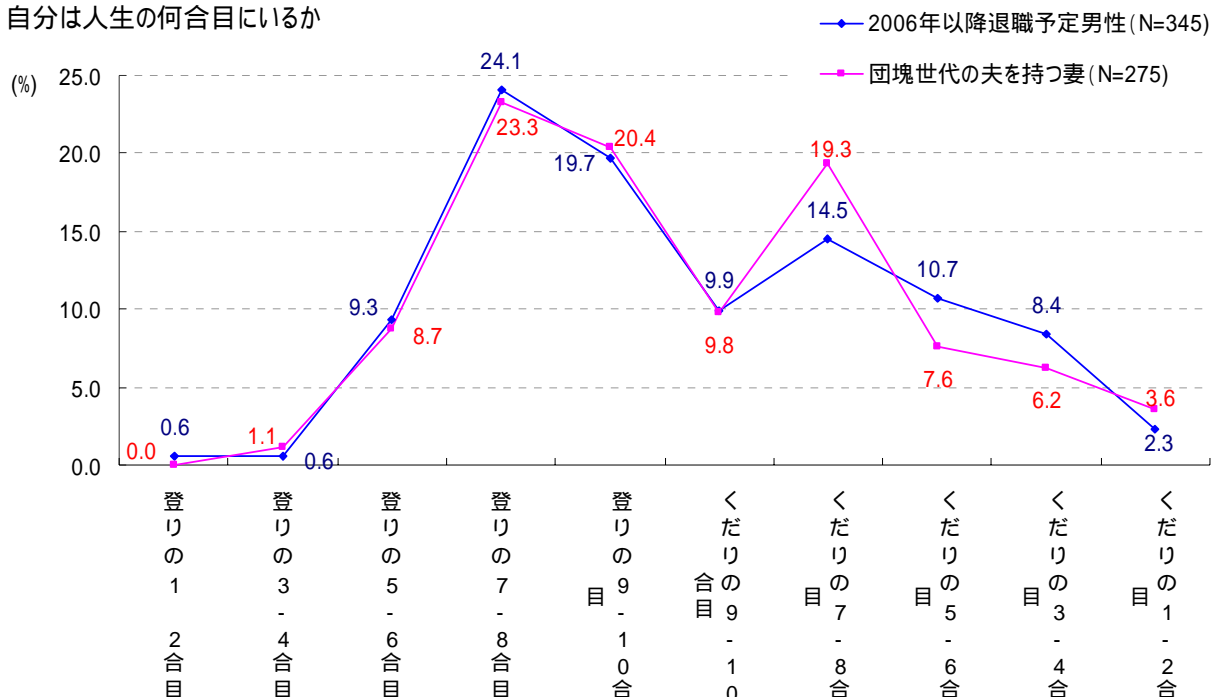
調査結果のまとめ

テーマA) 定年退職に対する態度はどのように変化するか。
状況1: 定年退職前

A
1-1

これから退職する人は、自分は人生のまだ7合目でしかない。これからだ！と考えている。妻もそうだが、下りの7合目という人も出始めている。

自分は人生の何合目にいるか



人生を山登りにたとえて、いまどの辺に差し掛かっているのか、二つの山が出来た。「登りの7-8合目」と「下りの7-8合目」だ。まだまだ、人生はこれからがある、と考える人と、もう一番よいところは終わった、これから下り坂だ、という人とがいるわけだ。男性退職予定者では「上り坂派」は合計54.3%。「下り坂派」は45.8%。最も多いのは「登りの7-8合目」と考えている人だ。団塊世代を夫に持つ妻でも同様の数字だ。53.5% vs 46.5%。
< -1 >

【質問】人生を山登りにたとえると、あなたはいま山の何合目にいると思われますか。
(頂上を10合目とします) (SA)
< 退職予定男性、団塊世代を夫に持つ妻調査2006年4月 >

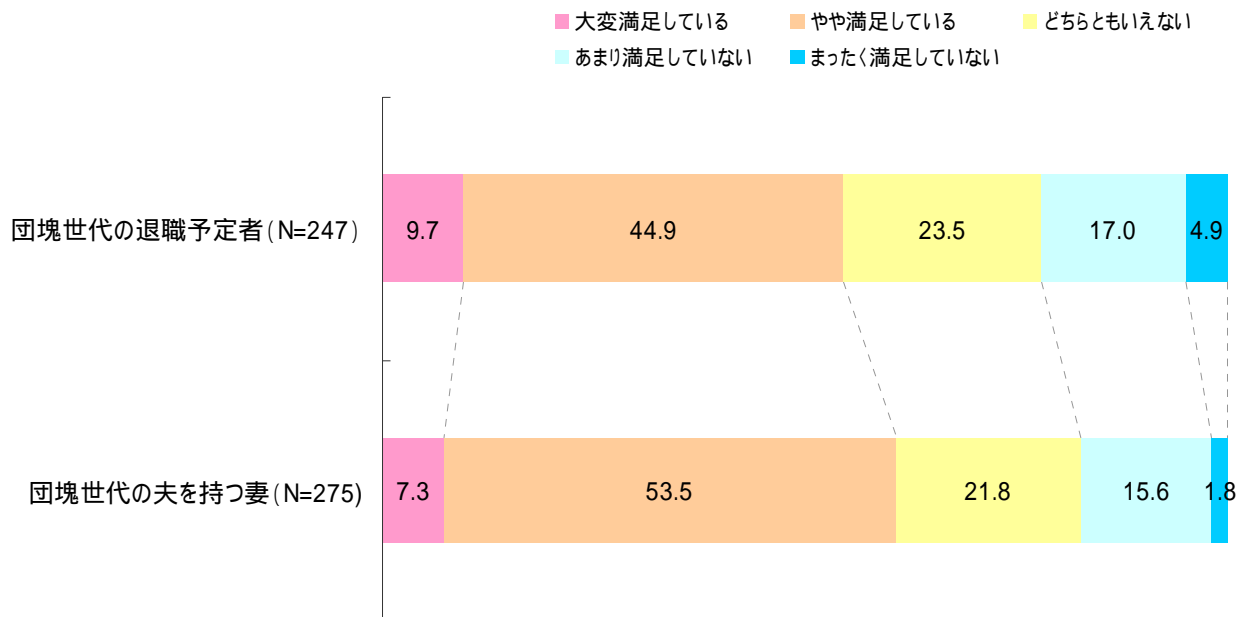
自分の人生における、「今」の位置づけは、これからの活動に大きな心理的影響をもたらすだろう。「上り坂派」の方が「下り坂派」より多いということは、今後の可能性を予想させられる。

テーマA) 定年退職に対する態度はどのように変化するか。
状況1: 定年退職前

A
1-2

大部分の退職予備軍はこれまでの人生への満足度は高い。少なくとも自分の人生を後悔しているという人は少数派だ。団塊世代の予備軍もまったく同じである。

自分の人生の満足度(SA)



これまでの自分の人生への満足度は、団塊世代の男性退職予定者においても団塊世代を夫に持つ妻も、「満足派」が多数を占めている。男性退職予定者の55%は満足派(満足合計)で、団塊世代を夫に持つ妻では61%が満足派だ。逆に不満足派は男性退職予定者では22%、団塊世代を夫に持つ妻では17%。

ただし、「大変満足」というわけにはいかないようだ。「やや満足」という人が半分を占めている。自分の歩いた後ろに足跡が出来る。失敗もあったし、完璧でもなかった。しかし大きな失敗や不幸もなく、それなりにここまでやってきた、だから「やや満足」だという感想であろうか。

< - 2 >

【質問】あなたはこれまでのご自分の人生にどの程度満足なさっておりますか。(SA)
< 退職予定男性、団塊世代を夫に持つ妻調査、2006年4月 >

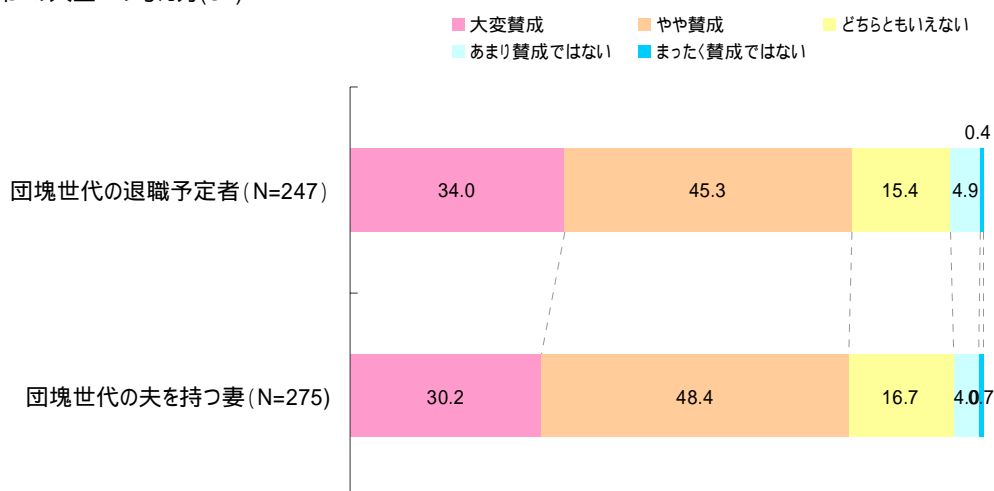
これまでに満足しているのなら、これからも「それなりに」満足できるだろう、と考えるのは人情だ。それと同時に、ある種の保守的な態度を生むことにもなる。第2の人生をどう考えるのだろうか。

テーマA) 定年退職に対する態度はどのように変化するか。
状況1: 定年退職前



「退職後や子育て後にこそ、自分の第二の人生が待っている」と、第二の人生を期待し、積極的な人が大部分である。とくに「上り坂派」は積極的だ。

第2の人生への考え方(SA)



第2の人生に対する考え方はどうだろう。「男性退職予定者」も「団塊世代を夫に持つ妻」も「もうひとつの人生がある」という考え方に大部分の人が賛成している。退職後にいろいろな期待をかけているということだろう。

%	大変賛成	やや賛成	どちらともいえない	あまり賛成ではない	まったく賛成ではない
全体	31.9	46.5	15.8	5.2	0.6
登り派	38.0	44.3	12.9	4.5	0.3
下り派	24.8	49.0	19.2	5.9	1.0

さらに、自分の人生は「上り坂」と考えている人のほうが、第2の人生に期待している人が多い。退職後の人生に積極的にかかわって行きたいということだ。

< - 3 >

【質問】「人生は仕事や子育てがすべてではない、退職後や子供が成長した後にこそ、もうひとつ自分の人生がある」という考えがありますが、あなたはこの考えについてどう思われますか。(SA)
< 退職予定男性、団塊世代を夫に持つ妻調査、2006年4月 >

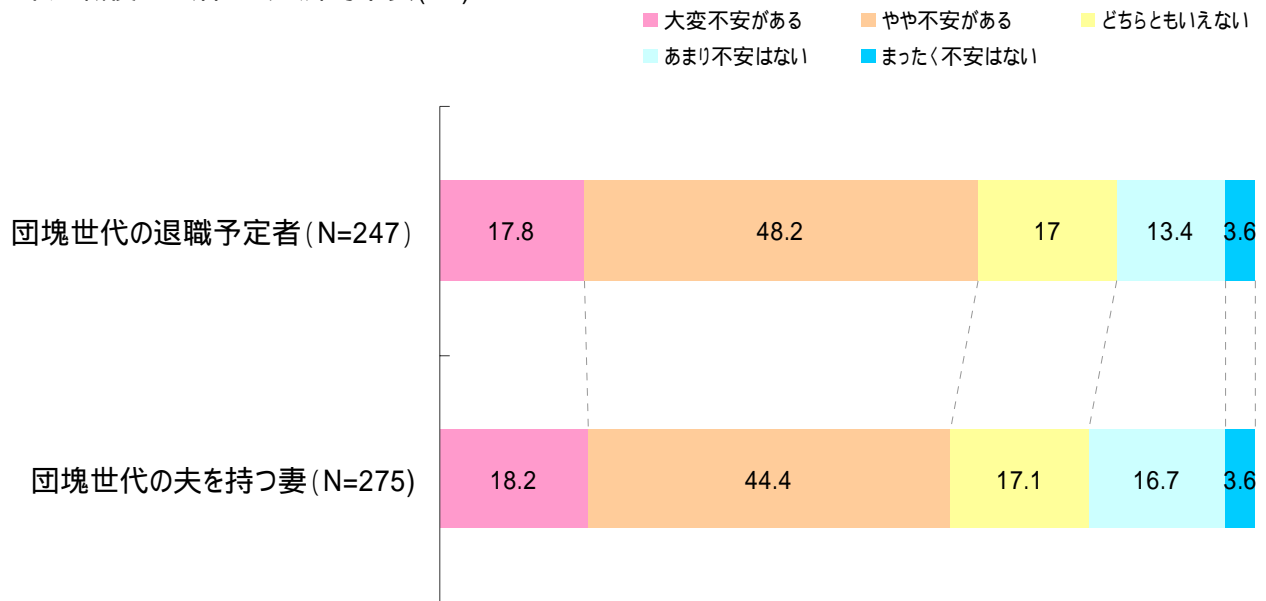
基本的には、ほとんどの人が積極的だ。願い事だからである。実際はどうか。暮らしの経済や現実の夫婦関係の中では、どうなのか。

テーマA)「定年退職に対する態度はどのように変化するか」
状況1： 定年退職前



定年退職後の経済的不安を抱えている団塊世代の退職予備軍はたいへん多い。団塊世代を夫に持つ妻も同様である。しかし、それはある意味で「見えない定年後」に対する、不安「感」でしかない可能性もある。

定年退職後の生活への経済的不安(SA)



定年退職後の生活への経済的不安感は強い。団塊世代の退職予定者では「不安がある」人は66%にのぼっている。団塊の妻たちも同様だ。過度な経済的将来不安は消費マインドを冷え込ませ、団塊世代の退職マネーがタンスにしまいこまれてしまう恐れも十分ある、ということだ。

予想退職金額が「1500万円以下」では80%の人が不安を感じ、「1500万円 3000万円以下」の中間層でも58%、しかも「3000万円以上」のプチ退職金富裕層においても、43%の人が不安感を持っている。
< - 4 >

【質問】あなたは定年退職後の生活について経済的不安がありますか。(SA)

【質問】あなたは夫の定年退職後の生活について経済的不安がありますか。(SA)

< 退職予定男性、団塊世代を夫に持つ妻調査、2006年4月 >

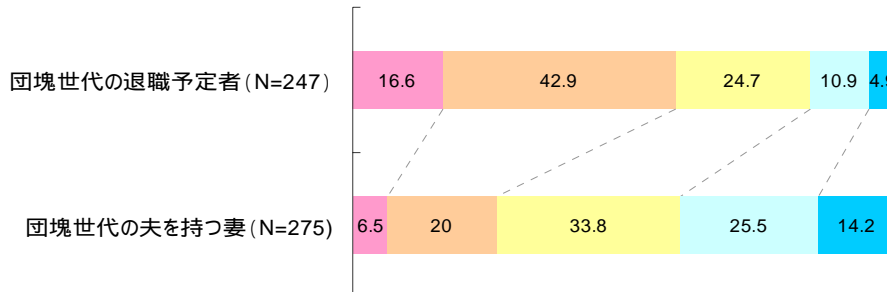
家計の心理的な先行き不安は団塊消費マインドにネガティブに働く。2007年以降の退職金フローについて、慎重に考える必要があるが、しかし、「案ずるより生むは易し」の側面もある。消費は順調に進む、という見方もある。



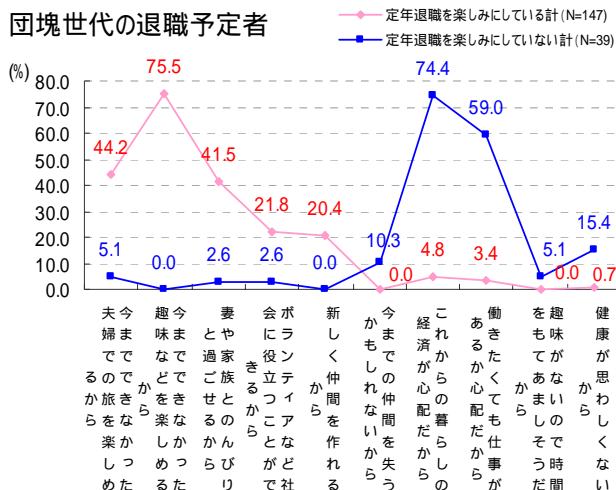
夫の定年退職に対しての考え方は、夫と妻とで大きく違う。妻の側は決して「楽しみにしていない」のだ。それは夫と毎日顔をあわせることへのイライラ感が原因だ。

定年退職への態度(SA)

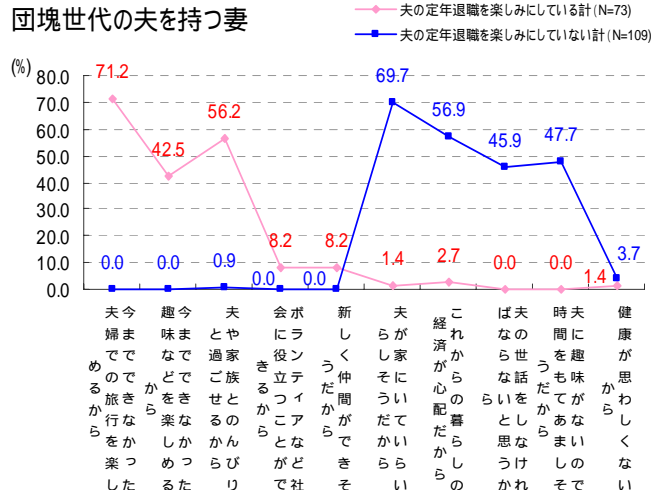
■ 大変楽しみにしている
 ■ やや楽しみにしている
 ■ どちらともいえない
 ■ あまり楽しみにしていない
 ■ まったく楽しみにしていない



団塊世代の退職予定者



団塊世代の夫を持つ妻



団塊世代の男性にとって定年退職とは「楽しみにしている」(約6割)ものといえるが、女性にとっては、夫の定年退職は「楽しみにしているものではない」(約4割)。

この違いはどこに由来するのだろうか。団塊世代の男性にとっては、＜定年退職が楽しみ＞なのは「今まで出来なかった趣味などを楽しめるから」であり、「夫婦での旅」や「のんびりと過ごせる」からである。一方、女性にとっては、楽しみにしている人は、「夫婦の旅行」や「のんびりと暮らせる」と考えているからである。

逆に、＜定年退職を楽しみにしていない＞という人は、「暮らしの経済が心配」だからであり、「働きたくても仕事があるか心配」という、経済的な不安感を持っているからである。また、女性が夫の定年退職を楽しむに出来ない、という理由は、「夫が家にいてイライラしそうだ」、「夫の世話をしなければならない」、「夫に趣味がないので時間をもてあましそう」、「暮らしの経済が心配」などがあげられている。夫が突然帰宅して、自分のペースが乱れ、世話をしなければならない状況になり、しかも毎日顔をあわせるなんて真っ平だ、という本音がうかがえる。

< - 5 >

【質問】あなたは(夫の)定年退職についてどのようにお感じになっていますか。(SA)

< 退職予定男性、団塊世代を夫に持つ妻調査、2006年4月 >

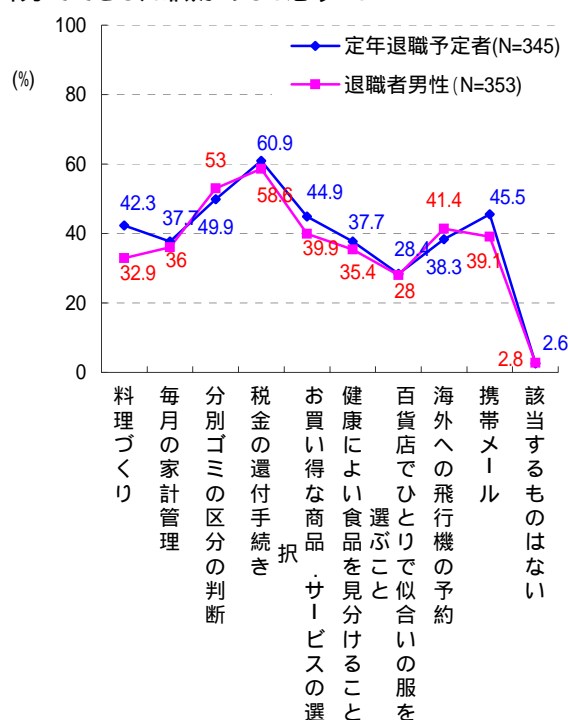
定年後の暮らしには、第2の人生への考え方、家計の将来不安、に加え、夫婦間の新しい関係性が大きく影響する。夫婦関係は夫がどれだけ自立できるか、就労をするかどうかによって違って来る。

テーマA)「定年退職に対する態度はどのように変化するか」
状況2： 定年退職前 定年退職後

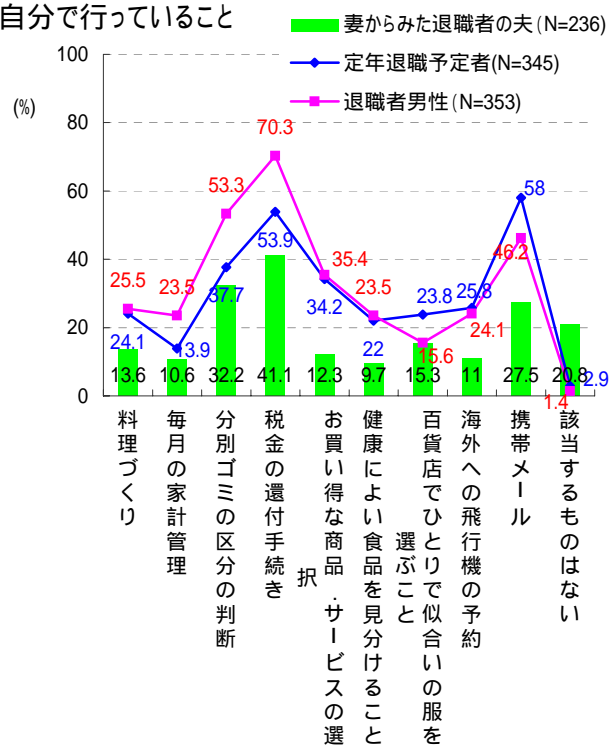
A
2-1

退職後、男性はどの程度自立できるのか。それが妻の幸福感に影響する。男性はそれなりにがんばっているが、妻から見ればまだまだだ。

自分でできる知識があると思うこと



自分で行っていること



退職男性の自立について検討した。＜できていること＞と＜自分でやっていること＞(図の左と右)を比較してみよう。男性退職者が自分でできているし、実際自分で行っていることは多くはない。「税金の還付手続き」と「携帯メール」「分別ゴミ区分」だけである。後の項目は＜できる知識はあるが、実際には行っていない＞という人が多い。
ということは、妻の側からみれば、実際にやっていないことは知識があるということにはならなくて、自立していることにはならないだろう。逆に夫の側が「できる」と主張すれば、＜なぜやってくれないのか＞というイライラの原因になる。

そうはいても、男性は退職後ずいぶん自立の努力をしている様子が見られる。右図で退職予定男性と比べ、退職男性が上回っている項目は、「毎月の家計簿」「分別ゴミ」「税金の還付手続き」がある。家事分野で改善が見られるわけで、そのことは妻も認めている傾向である。

< - 12 >

【定年予定者&定年者】問17:以下の行動の中で、あなたご自身が「関心があること」「自分でできる知識があると思うこと」「自分で行っていること」をそれぞれいくつでもお知らせください。(MA)
< 退職予定男性調査:2006年4月、退職男性調査2006年8月 >

自立できない男性に対しては、「できるはずなのに、何でやってくれないの？」という妻のイライラが生まれよう。

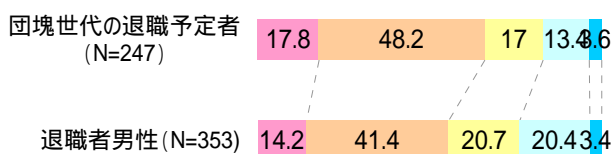
テーマA)「定年退職に対する態度はどのように変化するか」
 状況2: 定年退職前 定年退職後

A
2-2

家計の経済的不安についてはどう変わるのか。「疑心暗鬼」だった定年前と比べ、経済的不安感はいくぶん和らぐ。しかし、それは実際の家計収入が増えたためではない。

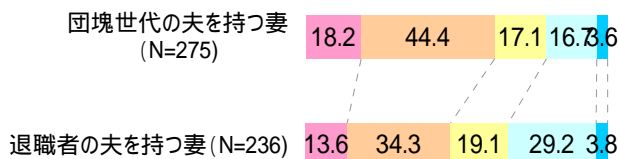
定年退職後の生活への経済的不安(男性)
(SA)

■ 大変不安がある ■ やや不安がある ■ どちらともいえない
 ■ あまり不安はない ■ まったく不安はない

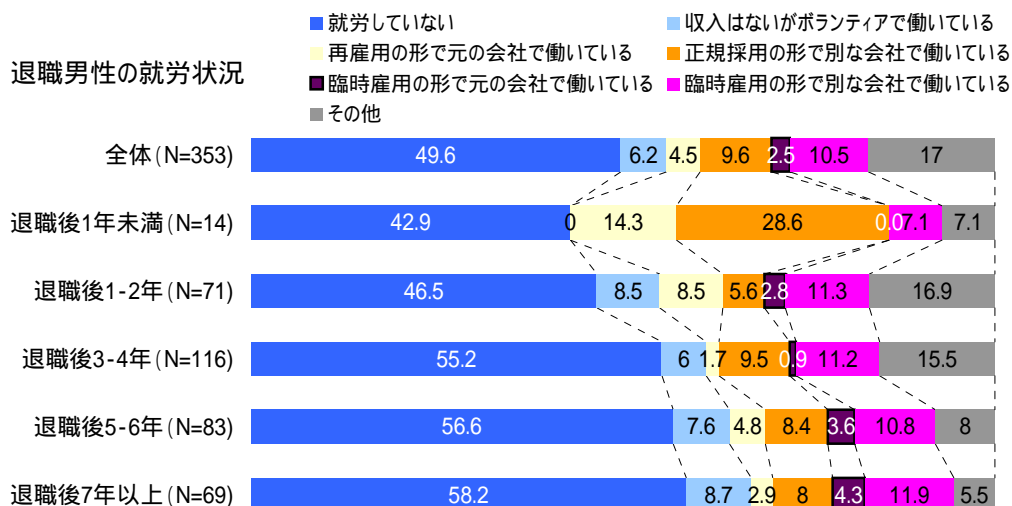


定年退職後の生活への経済的不安(女性)
(SA)

■ 大変不安がある ■ やや不安がある ■ どちらともいえない
 ■ あまり不安はない ■ まったく不安はない



退職男性の就労状況



経済的「不安」感は男性・女性ともにやや和らぐ傾向が見られる。「不安がある計」でみると、男性は、退職前66% 62%、女性では63% 48%である。おそらく、経済的に楽になったということではなく、実際に退職経験をしてみると、それなりに暮らしの工夫も会得し、意識の上で自信がもてるようになるからであろう。

というのも、退職男性の就労状況は厳しく、就労意向があっても就労率は高くはない。したがって、キャッシュフローが好転するわけではない。生活費に回るフローは預貯金からが多いわけである。意識の上で不安感は減るとはいうものの、おそらく団塊世代の退職後でも、今回調査でみられる家計構造にない変化がないであろうから、将来不安の下で、安易な大型消費に直ちに火が付くという状況になるとは考えにくいところだ。

< - 8 >

[定年予定者] 問9: あなたは定年退職後の生活について経済的不安がありますか。

[退職者] 問9: あなたは今後の生活について経済的不安がありますか。(SA)

< 退職予定男性調査: 2006年4月、退職男性調査: 2006年8月 >

だから、退職後には経済的不安感は和らぐといっても、直ちに大型消費へ回すほど余裕があるわけではない。団塊世代だから、消費に火がつくと言う期待は根拠が薄い。

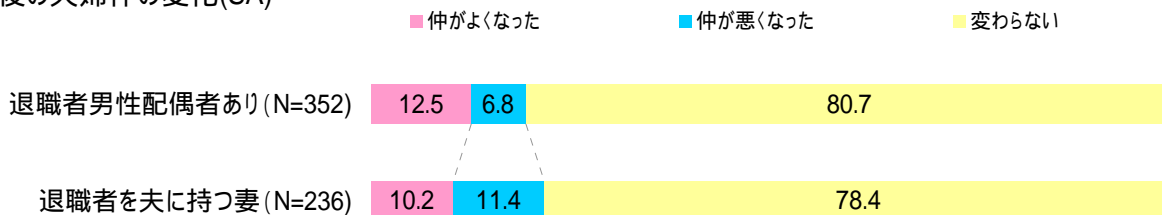
テーマA)「定年退職に対する態度はどのように変化するか」

状況2: 定年退職前 定年退職後

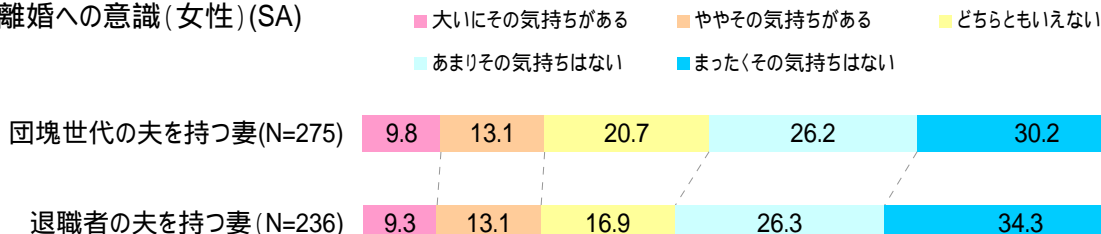
A
2-3

夫婦関係は悪化するのか。大部分の人は夫の退職後にも「夫婦仲」は変わらないとしている。若干「夫婦仲が悪くなった」としている人が増えるが、だからといって熟年離婚が増えるとは考えにくい。

退職後の夫婦仲の変化(SA)



熟年離婚への意識(女性)(SA)



熟年離婚が取りざたされている。果たして退職後の夫婦仲はそれほど悪化するものなのか。

夫婦仲について質問すると、男性と女性とを比べて、男性の方が「夫婦仲がよい」とする傾向が一般にある。本調査でも若干その傾向が見られるし、また退職前と退職後とでの夫婦仲の認識についても「かわらない」が最も多い(約8割)のだが、夫の退職後「仲が悪くなった」とする人が、退職男性よりも退職者男性の妻の側で5%ほど多くなっている。確かに妻の側のイライラを考えると、妻が「仲が悪くなった」と感じて当然かもしれない。

しかし、その感情が熟年離婚へストレートにつながってしまうとは考えにくい。「子供や経済の問題がないとしたら」という条件付で熟年離婚への意識をたずねているが、それでも「大いにその気持ちがある」のは9%強程度しかない。また、退職者の妻では、むしろ熟年離婚の気持ちは「まったくない」という人が退職前の妻よりも、むしろ増えている。さらに、子供や経済の問題のない離婚など、もちろんありえないから、実際の離婚がこの数字で発生するということは考えにくいということだ。

< - 14 >

【退職者 & 退職者の妻】問20: あなたが退職なさった後、夫婦の仲には変化が起きましたか。

(夫が退職すると、夫婦の仲には変化が起きましたか。)(SA)

【団塊の妻 & 退職者の妻】問21: 熟年離婚が増えているといわれていますが、もし、

子どもや経済の問題がないとしたら、あなたにも離婚の気持ちがありますか。(SA)

< 団塊世代を夫に持つ妻調査: 2006年4月、退職者の妻調査: 2006年8月 >

熟年離婚の問題は、実際に離婚率が高まるか、というより、夫に寄りかかられたい、自分の気持ちを分かって欲しい、という妻が増加する、という観点で捉えた方がよいのではないか。

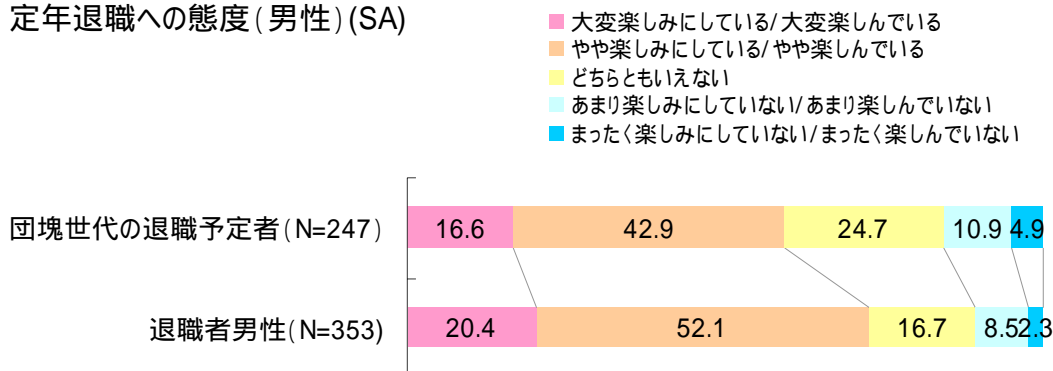
テーマA)「定年退職に対する態度はどのように変化するか」

状況2: 定年退職前 定年退職後

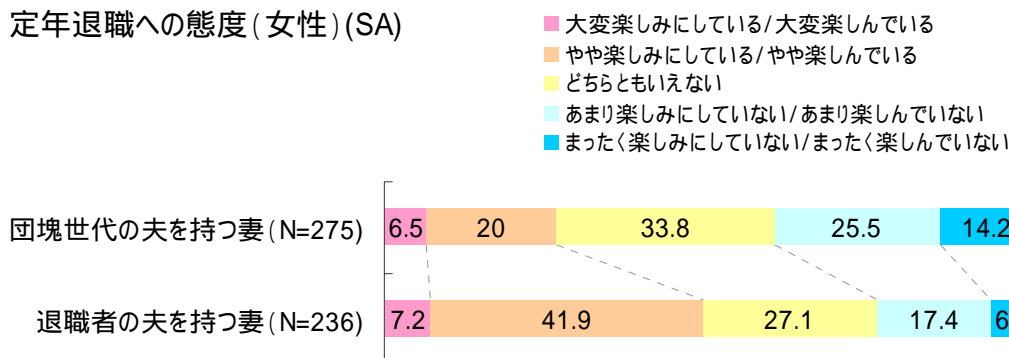
A
2-4

結局、夫は定年退職後、予想通り「楽しんでいる」人が増える。また妻の側も、夫ほど「楽しんでいる」にしろ、退職前の不安を乗り越え、楽しんでいる人が増える。

定年退職への態度(男性)(SA)



定年退職への態度(女性)(SA)



団塊世代の退職予定男性は定年退職を「楽しみにしている計」で約6割、そして退職男性では7割が「楽しんでいる計」である。退職前に「楽しみにしている」という人より、実際に退職した人はいっそう「楽しんでいる」という人が増えるわけである。

また、女性の場合は男性ほど夫の退職を「楽しみにしていない」し、夫の退職後も「楽しんでいない」。しかし、夫の退職前と退職後とを比較してみれば明らかなように、夫が退職後は、「楽しんでいる」という人がかなり増加する。退職前に妻が予想していた以上に、夫の自立が進んだか、経済的不安が薄らいだか、あるいはその両方だからだ。

< - 6 >

【定年予定者】問7: あなたは(夫の)定年退職についてどのようにお感じになっていますか。(SA)

【退職者】問7: あなたは(夫の)定年退職について現在どのようにお感じになっていますか。(SA)

< 退職予定者調査2006年4月、退職者調査2006年8月 >

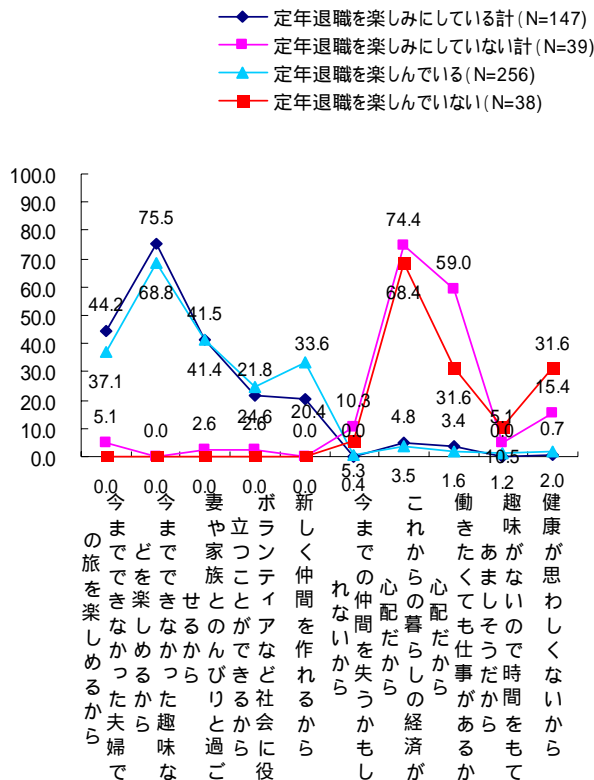
つまり、夫にも妻にも退職後、「生活リストラクチャー」が起こることだ。不安を乗り越え、新しい生活になじむには一度「生活リストラクチャー」が不可欠なのだ。

テーマA)「定年退職に対する態度はどのように変化するか」
 状況2: 定年退職前 定年退職後

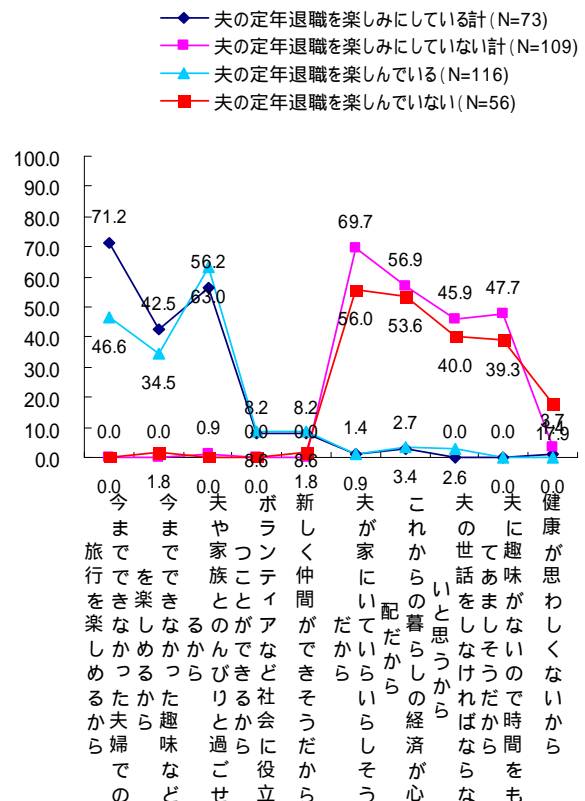
A
2-5

生活リストラを乗り越えるコツは、夫の側では「新しい仲間」をつくり、「仕事の心配」をやめ、「趣味」など新しいことを始めること。妻の側では、夫との旅などハレの部分より「のんびり過ごせる」ことを楽しみとし、イライラを減らすことである。

男性定年退職 - 楽しみな理由・楽しみでない理由 (MA)



夫の定年退職 - 楽しみな理由・楽しみでない理由



退職者男性の妻は夫退職前と比べて、定年退職を「楽しんでいる」人が増えることはわかったが、その理由はどのようなのだろうか。団塊世代を夫に持つ妻と比べ、「楽しんでいる」理由としては「今までできなかった夫婦の旅」は71% 47%と減っているが「夫と家族とのんびり過ごせるから」が56% 63%と増えている。夫婦の旅がそれほど楽しくはなかったのか、あるいはより日常的な日々、夫や家族とのんびりすることの方が「楽しみ」なのか。おそらく夫婦の旅のハレよりも、波風のない日々是好日のケの方をいっそう大切に思うのであろう。

一方、「楽しみではない」理由も退職前の意識と比べて変化がある。「いらいら」感は70% 56%、「夫の世話」の負担感46% 40%、「夫の時間もてあまし」48% 39%と、夫が原因のイライラ感・負担感は減少する。おそらくは夫の自立や協力もあり、妻の側に余裕が生まれ、「楽しめる」ようになるからであろう。
 < - 5、 - 7 >

【定年予定者 & 団塊の妻、退職男性 & 退職者の妻調査】: そう思われるのはどのような理由からですか。(MA)
 < 退職予定者、団塊世代を夫に持つ妻調査、2006年4月 >
 < 退職者、退職者の妻調査、2006年8月 >

退職後ハッピーになるには、仕事観を変え、新しいことを始め、自立する、つまり「第二の人生」を実行することに尽きる。妻も良妻賢母であることをやめ、自立型の夫婦関係に作り変えることが、よさそうだ。

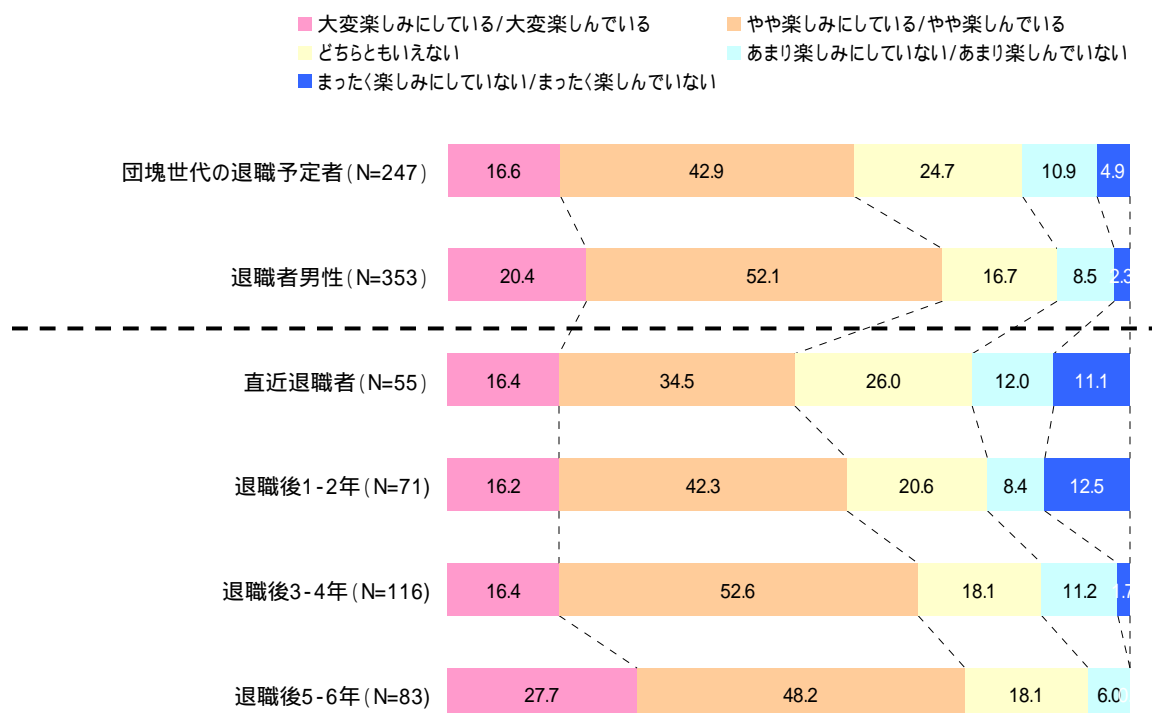
テーマA)「定年退職に対する態度はどのように変化するか」

状況2: 定年退職前 定年退職後

A
2-6

ただし、定年退職直後には居場所をなくし、かなり落ち込む人がいる。リタイア生活をほんとうにエンジョイできるようになるのは定年後3-4年たってからだ。

定年退職への態度の推移



退職男性はたしかに、リタイア生活をエンジョイしていることは明らかになったが、定年退職を「楽しむ」ことができるようになるには、実際は退職後どの程度経ってからできることなのだろうか。

「直近退職者」「退職後1-2年」の人たちに関しては、必ずしもエンジョイできない人も多いようだ。退職後3-4年、5-6年たってようやく「楽しんでいる」という人がたいへん多くなる。

「直近退職者」とは、退職予定男性の対象者のうち、2007年1月までに実際に退職した人たちで、同一の質問を繰り返し、退職前と退職後の意識、態度がどう変わったか追跡できる人たちである。

比較のために、「直近退職者」の人たちの意識の変化を追跡してみると、
 「たいへん楽しみにしている/たいへん楽しんでいる」退職前18.2% 退職後16.4%
 「やや楽しみにしている/やや楽しんでいる」退職前40.0% 退職後34.5%
 「あまり楽しみにしていない/あまり楽しんでいない」退職前12.7% 退職後12.0%
 「まったく楽しみにしていない/まったく楽しんでいない」退職前3.6% 退職後11.1%
 と定年退職直後にはかなり、落ち込む世界があるようだ。

< - 6、 - 2 >

【定年予定者】問7: あなたは定年退職についてどのようにお感じになっていますか。(SA)

【退職者】問7: あなたは定年退職について現在どのようにお感じになっていますか。(SA)

< 退職予定者: 2006年4月、退職者調査: 2006年8月、追跡調査2007年1月 >

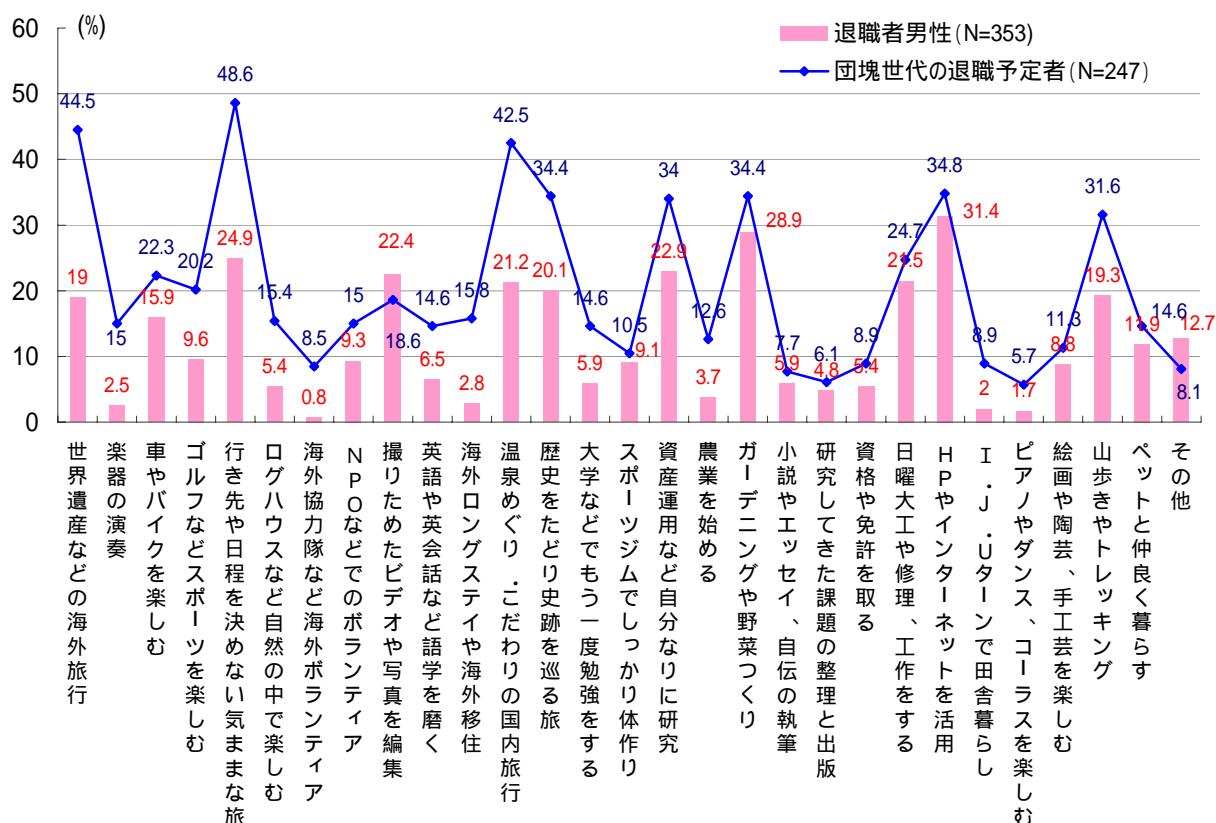
退職直後は厳しいものがある。経済的不安感、夫婦関係、生活リストラと、アイデンティティの再構築までには時間がかかる。団塊世代だからといって、この時期を経ずにエンジョイできると言う根拠は見当たらない。

テーマB) 退職前の夢はどの程度実現されるのだろうか。
 状況1: 退職前後



退職前に夢んでいたことは退職後に必ず実現するとは限らない。
 夢は夢、でいいのかもしれない。実現したことは遥かな夢ではなくて、身近な事柄中心だ。

退職後にやりたい夢やアイデア(予定者)・退職後に実現したこと(退職者)(MA)



退職前に見ていた「夢」や「希望」はどの程度「実現」するのだろうか。必ずしも裏付けのある夢や希望ではなかったかもしれないし、同一人物の追跡ではないから、正確には言い切れない。しかし定量としてみると、退職前の夢が退職後に実現した率は多くの例であまり高くはない。実現したことは、一般的にいて、あまりとっぴなことや費用のかかることなく、身近なことであることが多い。

退職予定者が夢みる退職後のイベントは、希望の多いものから「行き先や日程を決めない気ままな旅」(49%)、「世界遺産などの海外旅行」(45%)、「お遍路や温泉めぐりなどこだわりの国内旅行」(43%)、である。4割以上の人をひきつけている。

それに対して、実現できたものは「ホームページ作りなどインターネット・・・」(31%)「ガーデニング・・・」(29%)など日常の出来事に近いものが多い。

< - 5 - (1) - >

【定年予定者】問5: あなたには、「これまでやりたくてもできなかったが、退職後にはできればやってみたい。」という夢やアイデアがありますか。(MA)

【退職者】問5: あなたには、「退職前にはやりたくてもできなかったが、退職したのようやく実現した、あるいは退職をきっかけに新しく始めた。」ということはありませんか。それはどんなことでしょうか。(MA)

< 退職予定者: 2006年4月、退職者調査: 2006年8月 >

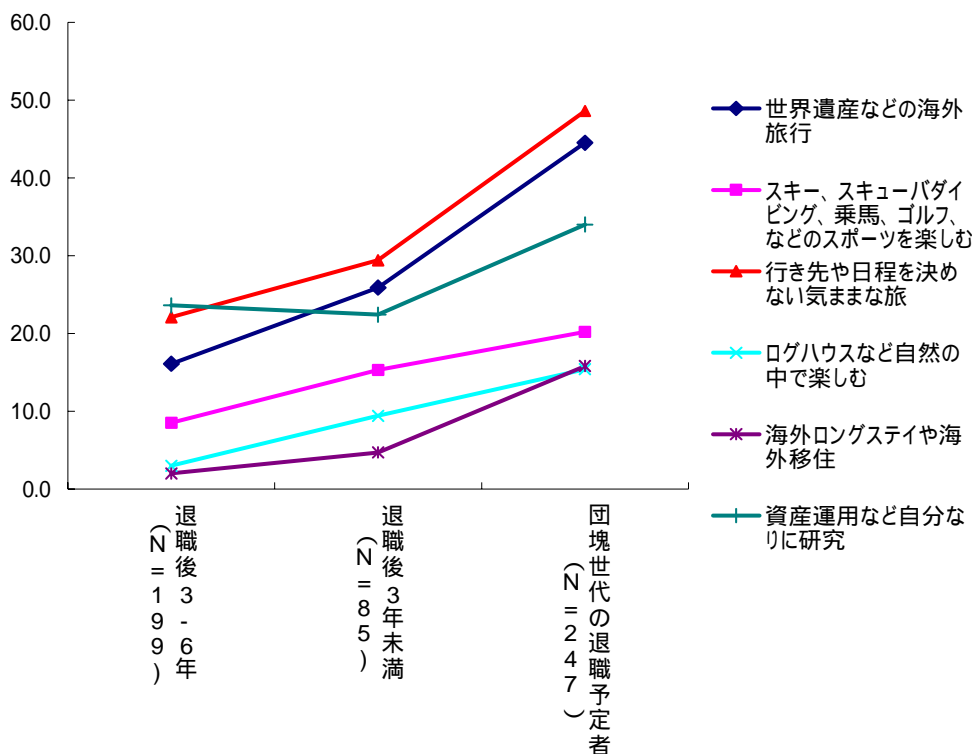
青い鳥は近くにいて、ということか。しかしいつかは夢を実現できるのかもしれない。それがウオントツというものなら、きっと何らかの形で(代替物や縮小版で)実現される可能性がある。

テーマB) 退職前の夢はどの程度実現されるのだろうか。
状況1: 退職前後

B
1-2

退職後、昔より今の退職者の方が実現率が高くなっているイベントは今後も伸びるだろう。しかも団塊世代の夢の率がさらに高いのなら、おそらく確実に増加するイベントだ。

退職後に実現したこと(経年別)VS団塊世代の退職後の夢



退職者が退職前にどのような夢をもっていたか、すでに退職した人の夢についてはわからない。また、団塊世代の退職予定者が実際にどのようなことを退職後に実現させるかはわからない。しかし、傾向として、徐々に退職者が時系列的に「何か」を実現することが多くなっているとしたら、また団塊世代の退職前の夢が、同様に高いとしたら、おそらく団塊世代はさらにその「何か」の夢を実現する割合は高くなるだろう。もちろん、夢は夢であって、実現するには障害がある。だから夢の率そのものが実現率にはならないだろう。しかし3年前の退職者よりも実現率は高くなってよいと思われる。

そこで、退職者を36年前に退職した人とここ3年以内に退職した人とにわけ、どのようなことを実行する人が多くなっているのかを見てみよう。さらにその先に団塊世代の夢を置いてみよう。おそらく、ここにあげられた夢や希望が実現する率は前の年代の退職者よりも大きくなるのではないだろうか。

例えば、「気ままな旅」「世界遺産の旅」「資産運用」「スポーツ」「ログハウス」「史跡めぐり」「海外ロングステイ」など、ここにあげた行動はすべて右肩上がりであって、団塊世代の夢はその上を行っている。

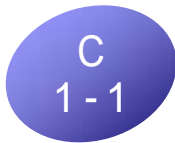
団塊世代だから実現するという理由はここでは見つからないが、6年前より3年前のほうが増加しているイベントは、2007年以降には実行者が減少するという根拠はないとおもわれる。夢は念じれば実現するという性格もあろう。おそらくここにあげたイベントの実行者はかなり増加すると見るべきだろう。

< - 5 - (1) - >

< 退職予定者:2006年4月、退職者調査:2006年8月 >

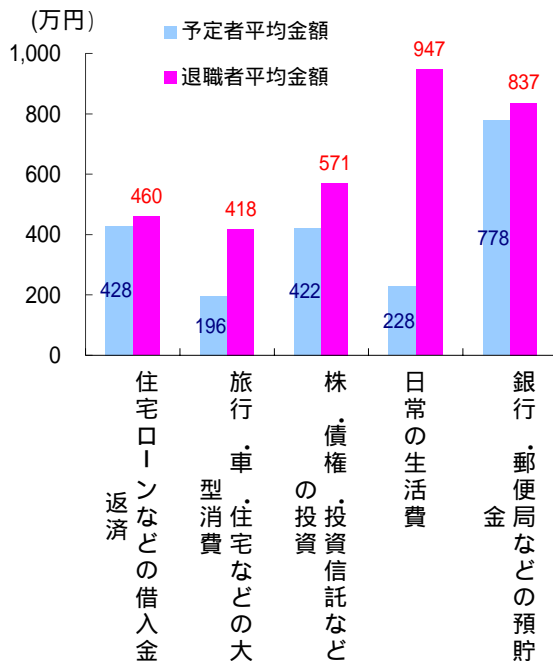
「気ままな旅」「世界遺産の旅」「資産運用」「スポーツ」「ログハウス」「史跡めぐり」「海外ロングステイ」。これらは、今後さらに伸びることが確実な夢だろう。

テーマC) 退職金はどのように使われるだろうか。
状況1: 退職前 退職後

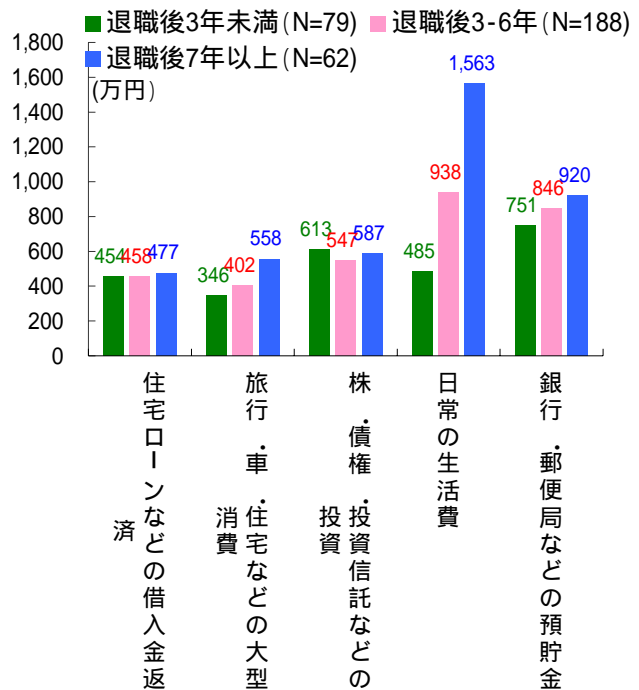


旅・車・住宅など大型消費への支出は、退職前では不安要素が多くて手控ええられる。退職後には確実に支出され、事前には196万円の予定のところ、退職後3・6年で400万円を越える。

退職予定者の退職金計画VS退職者の支出金額



退職後の累積支出(退職後年経過別)



退職予定男性の退職金の予定金額は平均2,052万円。その用途は、400万円ほどの住宅ローンなどの借入金を返して、すぐに大型消費へ走ることなく200万円ほどにとどめ、将来の生活費のためにとりあえず銀行・郵便局へ800万円ほど預けるが、金利を考えて400万円ほどは投資型の金融商品を買おう、というような堅実なプランとして要約される。

一方、退職男性は平均2,271万円。退職後今日までの用途を累積金額でたずねた。(退職後経年平均4.3年)

- 1) 大きく伸びるのは、当然ではあるが日常生活費である。就労収入や年金収入でまかなっている人が大部分だろうが、預貯金からの取り崩しからもフローがあるだろう。(日常生活費だけで月平均18万円)。
- 2) 住宅ローンなどの返済はほぼ予定通り460万円実施されている。
- 3) 旅行・車・住宅などの大型消費へは4.3年後には420万円ほど支出され、予定の2倍となっている。
- 4) 株などの金融商品へは予定が420万円のところ570万円である。

退職男性の退職後の経年別に用途の変化を見ると(右図)、確実に増加する支出費目と一度返済・購入したら増加しない支出(住宅ローン・株などの投資型金融商品)があるが、旅などの大型消費は確実に増加するタイプの費目である。

< - 18 >

< 退職予定者:2006年4月、退職者調査:2006年8月 >

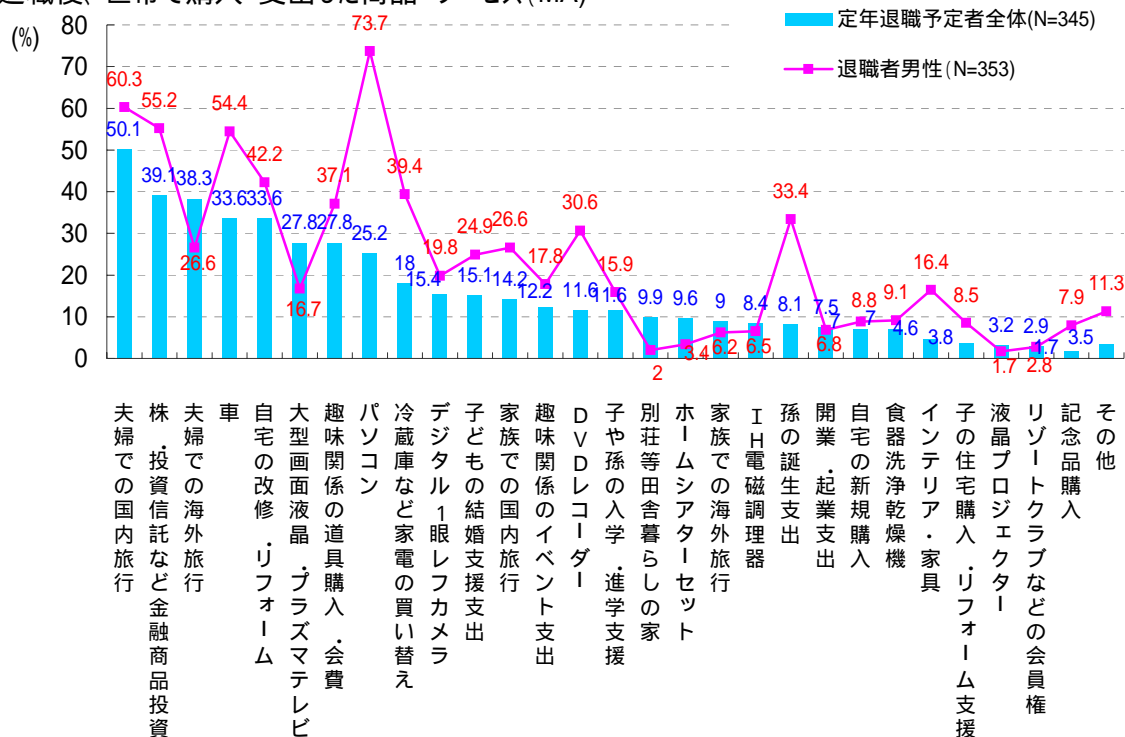
予定は予定であるから、確実なものではない。計画延期もあろうし、計画変更もあろう。しかし退職予定者の退職金使途計画は堅実だ。借入金返済後、とりあえず預金し、一部を投資へまわす。大型消費はゆっくりと増加すると見られる。

テーマC) 退職金はどのように使われるだろうか。
状況1: 退職前 退職後



リタイア消費の4種の神器は、「夫婦での国内旅行」「株・債券・投資信託などの金融商品」「車」「自宅の改修・リフォーム」である。また今後大きく伸びそうなのは、「夫婦での海外旅行」「大型液晶・プラズマテレビ」である。

定年退職後の生活を豊かにするために購入したい、サービス・商品(MA)
退職後、世帯で購入・支出した商品・サービス(MA)



退職前の購入意向と退職者の購入した品目にはギャップがある。

退職予定男性が購入したいとしているよりも退職男性が多く購入したものは、「パソコン」「夫婦での国内旅行」「株・債券・投資信託などの金融商品」「車」「自宅の改修・リフォーム」の5品目である。ただし本調査がネット調査であることを考慮し「パソコン」は例外的に高いことから、これをはずすと、残り4つの商品が退職後暮らしの＜新4種の神器＞ということになる。

一方、退職予定男性の希望の方が退職男性を上回る品目は団塊世代を7割含む退職予定男性に特徴的な購入意向品目といえるだろう。それらは「夫婦での海外旅行」「大型液晶・プラズマテレビ」である。また購入意向率は少ないが退職予定男性で特徴的に多い品目は、「別荘等田舎暮らしの家」「ホームシアターセット」がある。これらの品目も今後伸びていくと見てよいだろう。

また、購入率はやや下がるが、退職予定男性と比べ、退職男性で明らかに高い品目は「冷蔵庫など家電の買い替え」「孫の誕生支出」「DVDレコーダー」である。これらは退職予定男性ではまだ気がつかないシニアライフステージ品目であって、今後も継続的に期待できる品目といえるだろう。＜ - 19 - (1) >

< 退職予定者:2006年4月、退職者調査:2006年8月 >

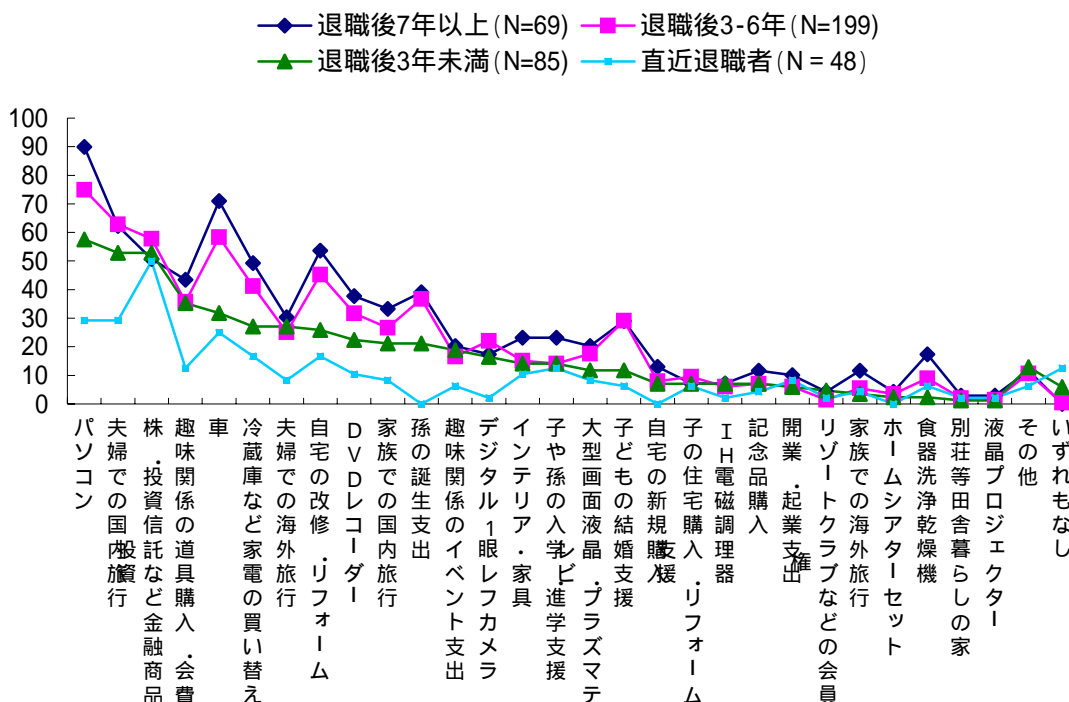
付け加えると、リタイアメント後のライフステージに特有な消費品目には「家電の買い替え需要」「孫の誕生支出」などがあり、団塊世代の人口を考慮すると、花形ではないが無視できない品目となるだろう。

テーマC) 退職金はどのように使われるだろうか。
状況1: 退職後の経年変化



退職後の経年変化を見ると、次第に購入する人が増える品目と増えない品目とがある。増える品目は、「パソコン」「車」「リフォーム」などの買い替え品目である。増えない品目は「株」「海外旅行」などセグメントが明瞭な品目である。

退職後の購入品目の経年変化



購入品目には退職後時間を経れば、それだけ多くの人が購入する品目と、一方それほど広がらず、限られた人が購入する品目とがある。

< 時間がたてば広がる品目 >

「パソコン」「車」「自宅の改修・リフォーム」「家電の買い替え」「孫の誕生支出」など。これらの品目はそう何度と同じ分野の商品を購入するわけではなく、1-2度程度であろうから、裾野を広げる努力が必要だろう。

< 時間が経っても一定の人以上には広がらない品目 >

「株などの金融商品」「趣味関係の道具支出」「夫婦の海外旅行」「趣味関係のイベント支出」があげられる。

もっとも、これらの品目は広がりには少なくとも反復頻度は高いであろうから、囲い込むことが重要だ。

< 退職後最初の3年以内が特に購入率が高い品目 >

「株などの金融商品」「パソコン」「夫婦の国内旅行」「趣味関係の道具支出」「車」「家電の買い替え」「夫婦の海外旅行」。これらの品目は最初の3年以内に30%程度の人が購入する。早い時期から仕掛ける必要がある。

< - 19 - (2)、 - 11 - (2) >

< 退職者調査:2006年8月、退職予定者追跡調査:2007年1月 >

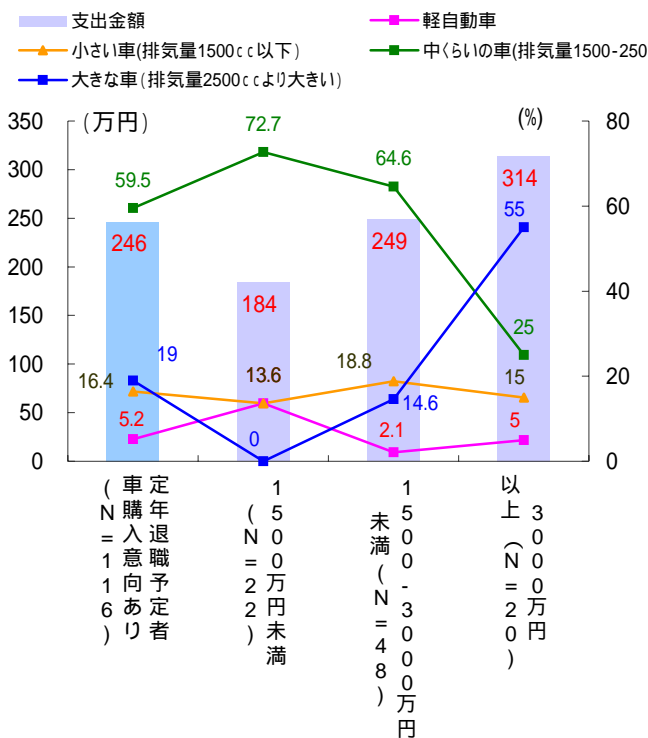
早期囲い込みとタイミングが重要な品目と、じっくり取り組める品目とがあるということだ。特に、株などの金融商品や海外旅行は退職前からのアプローチが重要だといえるだろう。一方、パソコン・車・リフォーム・家電の買い替えなどは退職後の生活リストラクチャーを考慮した商品である必要がある。

テーマD) 4種の神器へのニーズを探る
状況1: 退職前 退職後

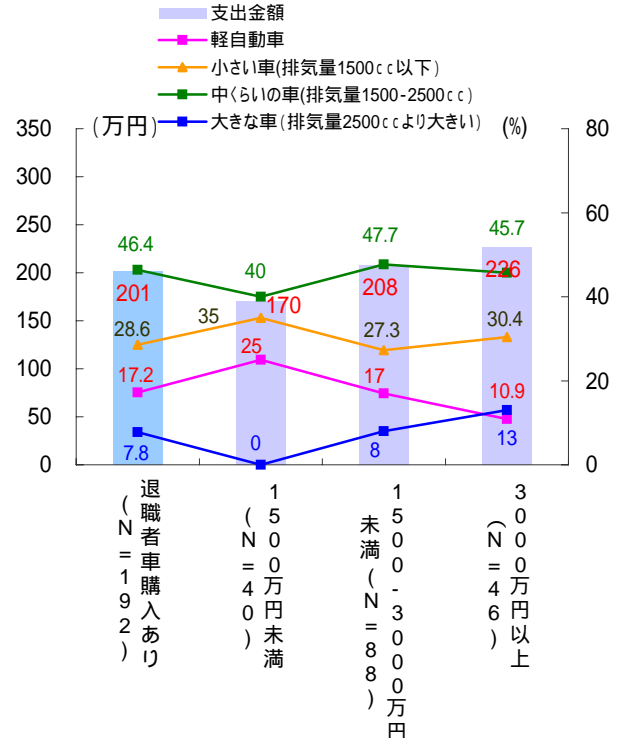


退職前の希望車種と、退職後の選択機種とは異なっている。「小型」「コンパクト」志向が明らかな。退職金3000万円クラスの人でも「大型」選択は少ない。夫婦二人のライフスタイルだから。

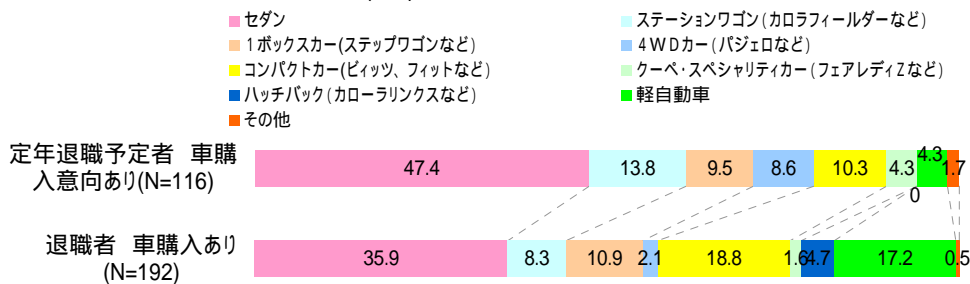
購入したい車の大きさ(排気量)と支出金額



購入した車の大きさ(排気量)と支出金額



購入したい(購入した)車のタイプ(SA)



定年予定者で車の購入意向のある人は<車>に246万円の支出を予定しているが、退職者で車を購入した人は201万円の支出だった。予定者と退職者とはかなりの差があるといえる。

排気量でみると、予定者の6割の人が「中くらいの車(排気量1500-2500cc)」を購入したい、と考えているが、退職者の購入者は46%でしかない。また予定退職金額3000万円以上の人の55%は「大きな車」を購入したいと考えているが、実際の退職金3000万円以上に人が購入した車で「大きな車」の人は12%でしかない。

逆に予定者の意向よりも退職者が購入した方が多かった車は「軽自動車」(5.2% 17.2%)、「小さい車」(16.4% 28.6%)である。団塊世代の今の購入意向を持って、退職後の購入を占うのはリスクを伴うということである。

車種別に見ると、予定者の意向車種は「セダン」が多いが、退職者が購入した車種は「セダン」は相対的に少なく、その代わり、「コンパクトカー」(+8%)、「軽自動車」(+13%)が多くなっている。夫婦だけの生活に大型車は要らないと考えるのは当然かもしれない。

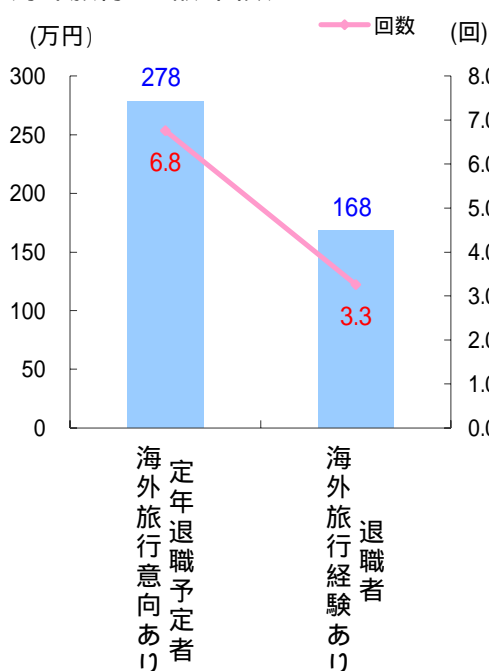
< - 20 - (1) >

テーマD) 4種の神器へのニーズを探る
状況1: 退職前 退職後

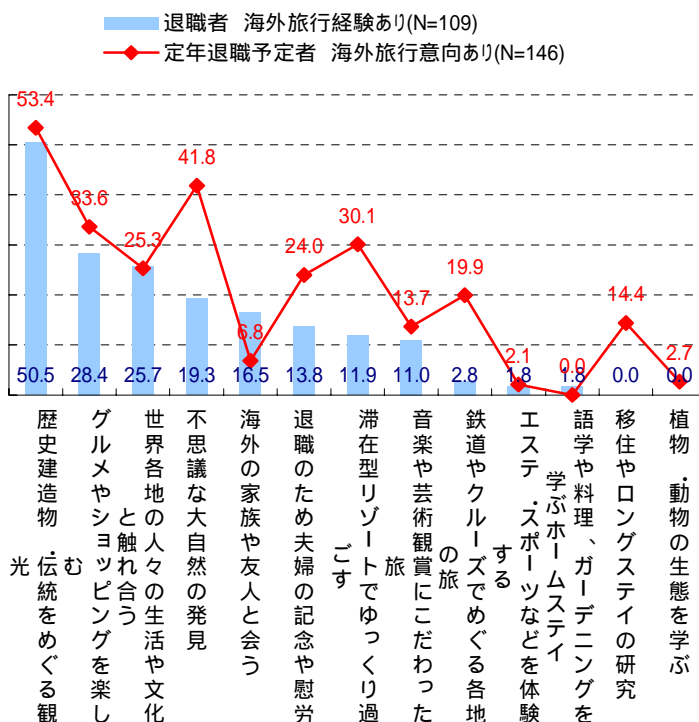


海外旅行は順調に伸びるだろう。退職前の希望が全面的にかなうとは思えないが、今までの退職者ほど少ないとは思えない。おそらくはこの中間。問題は、海外旅行に期待するニーズの変化だ。

海外旅行:金額・回数



海外旅行の目的:退職者と予定者の比較



退職予定者は退職後に総額270万円あまりを海外旅行にあてたいと考えているが、退職者は170万円あまりしか支出していない。また回数も退職予定者では7回あまりを予定しているが、退職者においては3.4回あまりである。退職予定者はあくまで希望であって、退職後に実際にはそこまではいかない、と見ることは妥当だと思うが、しかし、希望は必ず実現するという見方もある。おそらく、予測はその中間で、海外旅行は伸びることは間違いないが、爆発的にはなく着実に、とみるのが妥当だろう。

問題は旅行コンテンツに対するニーズの変化である。退職者の海外旅行の狙いは「歴史建造物・伝統をめぐり観光」が最も多く、また、それに集中する傾向がある。一方退職予定者の狙いはもっとバラエティに富み、個性的な狙いを持っていると思われる。例えば「不思議な大自然」「滞在型リゾート」「鉄道やクルーズ」「移住やロングステイ」などリピーターならではのこだわりが見られる。いはば脱パック旅行であって、観光から体験へ、観光から滞在へと関心がいっそう移行するだろう。

< - 2.2 - (1)・(2) >

【定年予定者 & 団塊の妻】【退職者 & 退職者の妻】問3 2-4:退職後、出かけたい海外旅行の狙いは次のどれですか(一番最近行かれた海外旅行の狙いは何ですか)。(3MA)

< 退職予定者:2006年4月、退職者調査:2006年8月 >

これからは、もっと目的志向的な、脱パック旅行へ。観光から体験へ、体験から滞在へ、とニーズが変化するだろう。

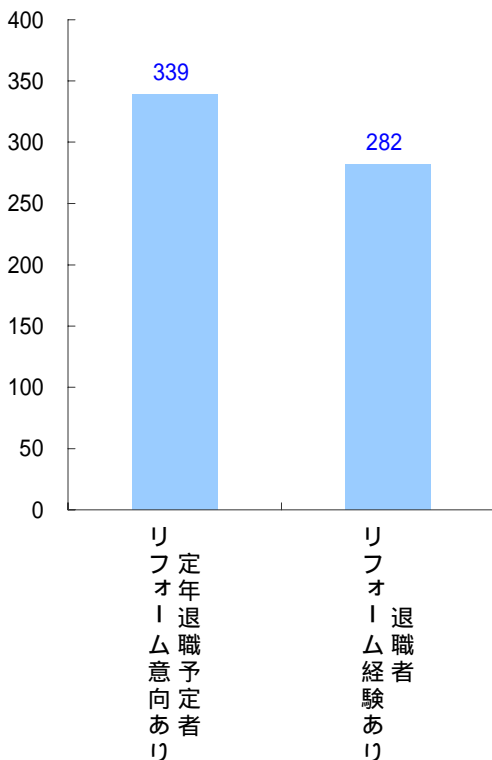
テーマD) 4種の神器へのニーズを探る
状況1: 退職前 退職後



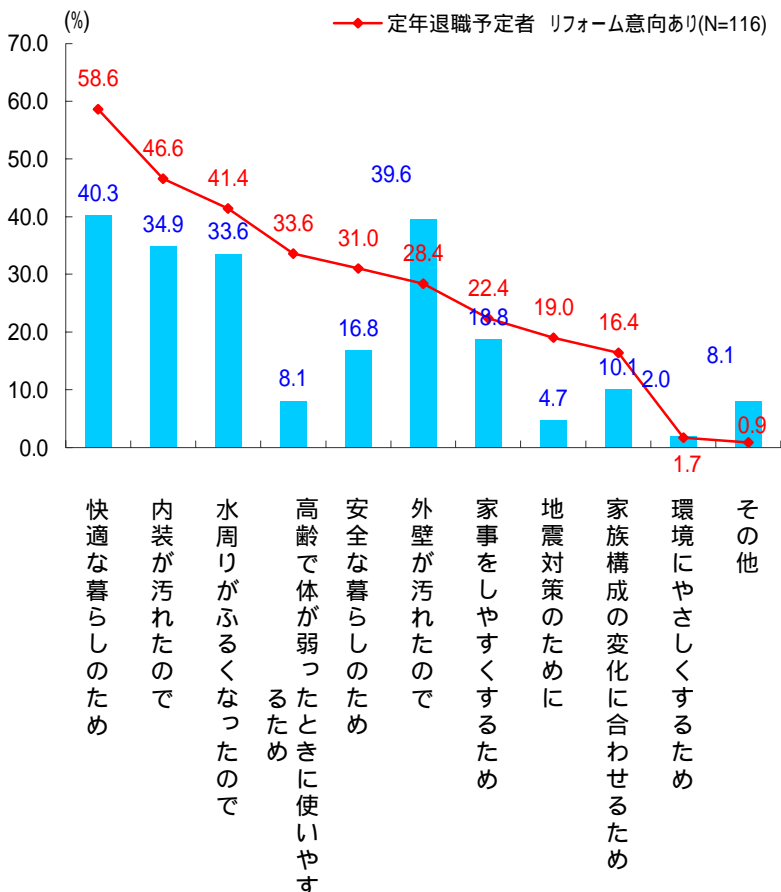
リフォームにかけた費用・内容は、予定者が思っている予定金額・内容ともに異なっている。金額では2割ほど少ない支出だ。

リフォーム(予定)金額(平均)

(万円)



リフォームの目的(MA)



定年予定者のうちリフォーム予定のある人の平均予定金額は339万円。一方退職者のうちリフォームした人のかけた金額平均は282万円。やはりリフォームにおいても差は大きい。

リフォームの目的は予定者においては「快適な暮らしのため」「内装が汚れたので」「水周りが古くなったので」「高齢対策」となっているが、退職者の目的は「外壁が汚れたので」「快適な暮らし」「内装」「水周り」となっていて、両グループでの居住形態は違いが少なく、戸建て持ち家が多数派であるにもかかわらず、意外にも実際にはバリアフリー対策が少ないところ。まだ、その時期ではないということか。

< - 21 - (1)・(2) >

【定年予定者】【退職者】問3 1 - 3: リフォームをなさろうという目的(なされた目的)は何ですか。(MA)
< 退職予定者: 2006年4月、退職者調査: 2006年8月 >

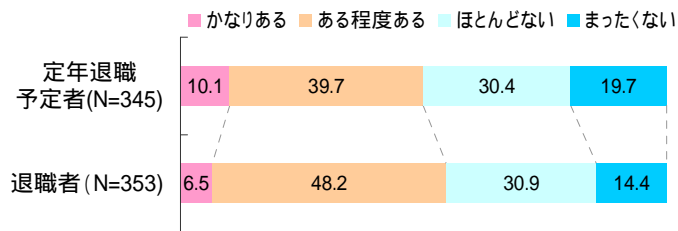
リフォーム内容として、退職前では高齢対策なども視野に入っているが、退職後の実際は、バリアフリー的な対策は少なく、より現実的な外壁塗り替えなどが主流となるだろう。バリアフリー対策はもう少し後か。

テーマD) 4種の神器へのニーズを探る
状況1: 退職前 退職後

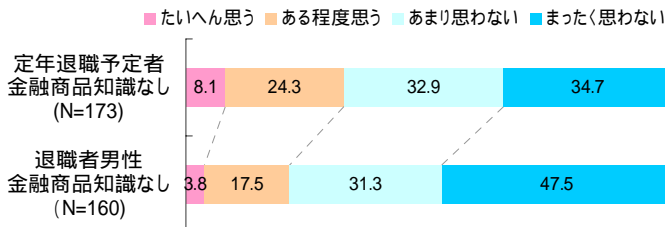
D
1-4

退職者の55%が投資を実施中。退職予定者でまだ始めていない人が、新しく始めることによって、数年の後には、退職者の6割以上が金融商品を購入していることになるだろう。

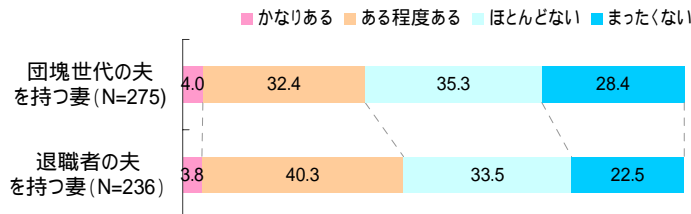
投資型金融商品の知識(男性)



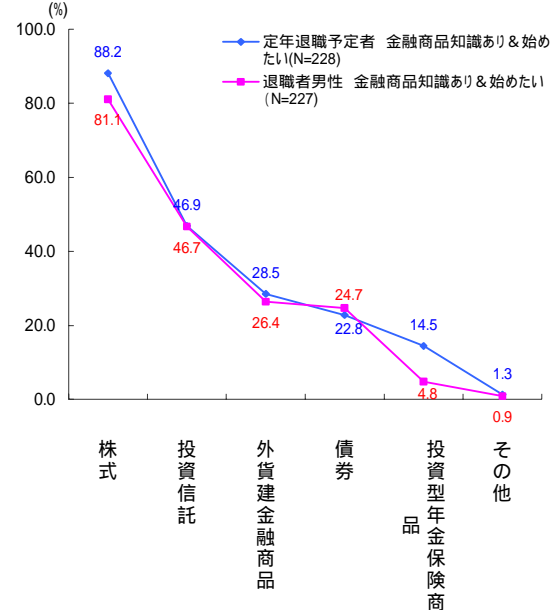
投資型金融商品を始める意向(男性)



投資型金融商品の知識(女性)



関心のある金融商品のタイプ(MA)



投資型金融商品についての知識があるとする人は退職予定者で50%程度。退職者で55%あまり。これからは知識のない残りの5割が退職後、どう動くかがキーである。今は知識のない人も、その3割は「始めたい」としている。つまり、全体では6割以上の人が「投資型金融商品」を実行している予想が立つ。

また、投資型金融商品は男性ほどではないにしろ、女性にも知識や関心がある。団塊世代の夫を持つ妻では36%が、退職者の妻では44%が、知識がある。退職後は、預貯金の使途も夫婦の協議事項ということになるから、夫が金融資産を勝手に使うことはなかなかむずかしいだろう。だから投資促進へは夫だけでなく妻も巻き込んだアプローチが必要だ。

< - 23 >

【定年予定者&退職者】問33: あなたは外貨建金融商品・株式・投資信託などの投資型の金融商品についてどの程度の知識があると思われますか。(SA)

実は、妻の側にも金融商品の知識があり、夫も妻の了解なしには、勝手に資産を使うことはできないから、夫と妻を、ともに説得するような促進プログラムが有効ではないか。生活リストラの一環として、「貯めるから上手に使う」タイプのプログラム提案がよいだろう。

「団塊世代の退職調査研究」

第2章 「団塊世代の退職予定者および団塊世代の妻への調査」 結果報告

<調査概要>

1)退職予定の男性調査

- 1 対象者: 2006年以降3年間に退職予定のある、男性給与生活者
- 2 有効回答数: N=345
- 3 調査方法: インターネット、メール&ウェブ
- 4 調査地域: 全国
- 5 調査時期: 2006年4月22日～4月26日

2)団塊世代の妻調査

- 1 対象者: 1947年～1949年生まれの給与生活者の男性を夫に持つ妻
- 2 有効回答数: N=275
- 3 調査方法: インターネット、メール&ウェブ
- 4 調査地域: 全国
- 5 調査時期: 2006年4月22日～4月26日

3)調査項目 目次

○ 対象者のプロフィール	3
○ 団塊世代の男女それぞれの配偶者の年令分布	4
○ 自分は人生の何合目にいるか	5
○ 自分の人生への満足度	5
○ 第2の人生への考え方	6
○ 60代の生活目標	6
○ 定年退職への態度	7
○ 定年退職後の生活への経済的不安	8
○ 定年退職後の就労予定	8
○ 退職後にやりたい夢やアイデア	9
○ 定年退職後の夢の実現に向けての準備	10
○ 団塊世代を夫に持つ妻の生活スタイル	11
○ 夫の自立と妻の評価:自分でできること、できると思うこと	13
○ 男性退職予定者の自立状況:まとめ	14
○ 自分の居場所	15
○ 夫婦仲の認識	15
○ 団塊世代の意識	16
○ 定年退職後のライフスタイル意識	18
○ 退職金金額	22
○ 定年退職金の使途	23
○ 退職金別 退職金の使途	24
○ 定年退職後の生活を豊にするために購入したい、サービス・商品	25
○ 購入したい車の大きさ(排気量)と支出金額	26
○ 購入したい車のタイプと重視点	26
○ 夫婦で楽しむ商品サービスへのこだわりの重視点(キーワード) :夫婦で乗る車	27
○ 住宅リフォームの内容	28
○ 夫婦で楽しむ商品サービスへのこだわりの重視点(キーワード) :住宅リフォーム	28
○ 海外旅行への希望	29
○ 夫婦で楽しむ商品サービスへのこだわりの重視点(キーワード) :海外旅行	29
○ 夫婦で楽しむ商品サービスへのこだわりの重視点(キーワード) :まとめ	30
○ 夫婦で楽しむこれからの暮らしへのこだわりの重視点(キーワード)	32
○ 投資型金融商品への関心	34

<(1)対象者のプロフィール>

2006年以降退職予定男性

年齢別 (SA)

■ 56歳以下 ■ 57-59歳 ■ 60歳



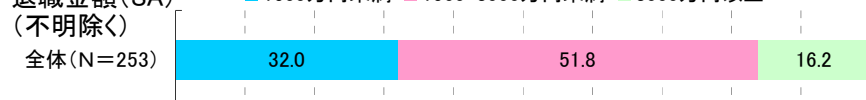
退職予定年 (SA)

■ 2006年中 ■ 2007-2009年 ■ 2010年以降



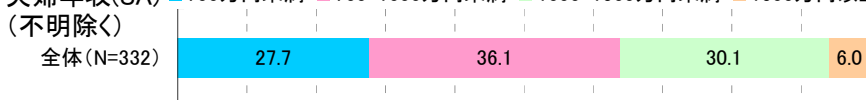
退職金額 (SA) (不明除く)

■ 1500万円未満 ■ 1500-3000万円未満 ■ 3000万円以上



夫婦年収 (SA) (不明除く)

■ 700万円未満 ■ 700-1000万円未満 ■ 1000-1500万円未満 ■ 1500万円以上



就労パターン (SA)

■ 1社で継続勤務中 ■ 籍は元の会社にあるが関連会社へ出向中
■ 籍をかえて関連会社社員として勤務中 ■ 前の会社から別会社へ転職
■ その他



●本調査の対象者の属性を事前に見ておこう。

●退職予定男性は、ここ3年程度で退職予定があるという限定から、57-59才(現在の団塊世代)が72%をしめ、56才以下が22%、60才が6%を占めている。

●退職予定年も2007-2009年が73%、2006年中が20%という構成である。

●退職金額の回答を得られたのは345s中253sである。1500-3000万円が52%をしめるが、1500万円以下も22%あり、3000万円以上は16%。

●夫婦合算額年収は700-1000万円が36%、1000-1500万円が30%、700万円以下が28%である。

●その就労パターンは1社で継続勤務中が55%。何らかの転職・移籍・出向組みは42%という構成である。

団塊世代の夫を持つ妻

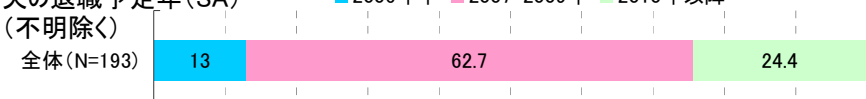
年齢別 (SA)

■ 54歳以下 ■ 55歳以上



夫の退職予定年 (SA) (不明除く)

■ 2006年中 ■ 2007-2009年 ■ 2010年以降



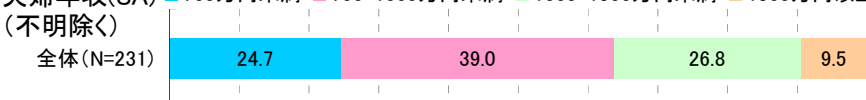
夫の退職金額 (SA) (不明除く)

■ 1500万円未満 ■ 1500-3000万円未満 ■ 3000万円以上



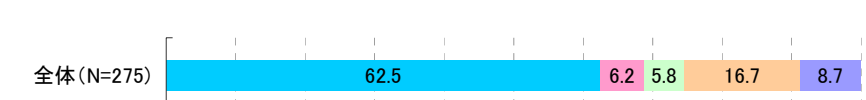
夫婦年収 (SA) (不明除く)

■ 700万円未満 ■ 700-1000万円未満 ■ 1000-1500万円未満 ■ 1500万円以上



夫の就労パターン (SA)

■ 1社で継続勤務中 ■ 籍は元の会社にあるが関連会社へ出向中
■ 籍をかえて関連会社社員として勤務中 ■ 前の会社から別会社へ転職
■ その他



●対照グループとしての妻の側の属性は以下のようになっている。

●年齢は団塊世代の妻ということもあって、同年代もかなり含まれて入るが(後述)、55歳を分岐点として、その上、その下がおよそ半分ずつとなっている。

●夫の退職予定年は、(夫の退職予定年をわかっている193sについて)2007-2009年が63%、2010年以降が24%、2006年中が13%となっている。

●夫の退職金額は、(わかっている92sについて)男性退職予定者の回答分布と近い。

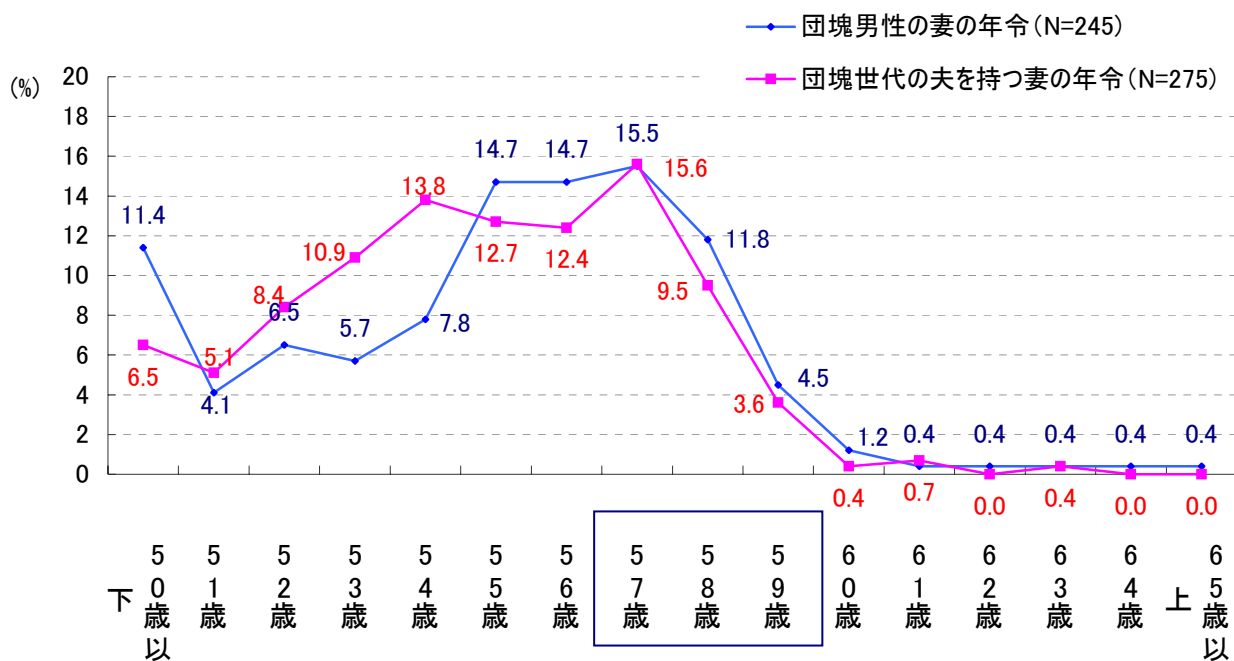
●夫婦合算年収も男性退職予定者調査の回答分布に近い。

●夫の就労パターンも、1社で継続勤務中が63%と、やや多いものの、夫側の回答と類似している分布である。

※これらから、団塊世代を中心とした夫側と妻側の退職意識を比較可能と考える。

<(2)団塊世代の男女それぞれの配偶者の年齢分布>

団塊世代の男女それぞれの配偶者年齢分布

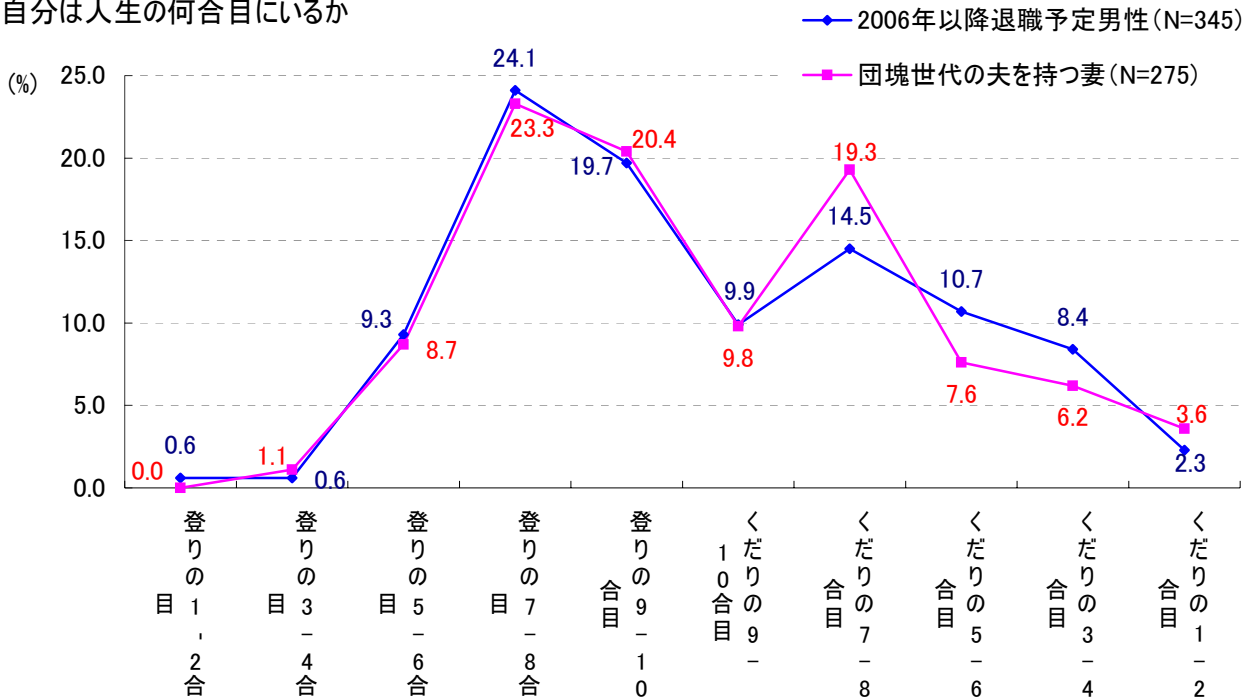


I. 調査結果の要約

1<自分は人生の何合目にいるか>

問1: 人生を山登りにたとえると、あなたはいま山の何合目にいると思われますか。(頂上を10合目とします) (SA)

自分は人生の何合目にいるか



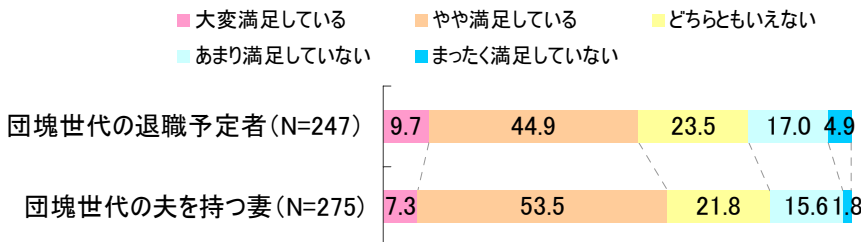
●人生を山登りにたとえて、いまどの辺に差し掛かっているのか、二つの山が出来た。「登りの7-8合目」と「下りの7-8合目」だ。まだまだ、人生はこれから、と考える人と、これからは下り坂だ、という人がいるわけだ。男性退職予定者では「上り坂派」は合計54.3%。「下り坂派」は45.8%。団塊世代を夫に持つ妻も同様の数字だ。53.5%vs 46.5%。

※退職後、2年、3年と経つうちに、この自分の人生におけるポジションはどう変化するだろうか。ハッピーなはずのリタイアメントがアンハッピーに転じるのだろうか、それともさらにハッピーになるのだろうか。

2<自分の人生への満足度>

問2: あなたはこれまでのご自分の人生にどの程度満足なさっておりますか。(SA)

自分の人生の満足度(SA)



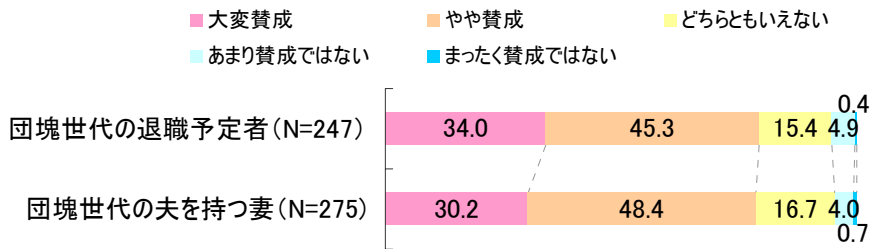
●これまでの自分の人生への満足度は、男性退職予定者においても団塊世代を夫に持つ妻も、満足派が多い。男性退職予定者の55%は満足派(満足合計)で、団塊世代を夫に持つ妻では61%が満足派だ。逆に不満足派は男性退職予定者では22%、団塊世代を夫に持つ妻では17%。

ただし、「大変満足」というわけにはいかないようだ。「やや満足」という人が半分を占めている。自分の歩いた後ろに足跡が出来る。失敗もあったし、完璧でもなかった。しかし大きな失敗や不幸もなく、それなりにここまでやってきた、という感想であろうか。

3＜第2の人生への考え方＞

問3:「人生は仕事や子育てがすべてではない、退職後や子供が成長した後にこそ、もうひとつ自分の人生がある」という考えがありますが、あなたはこの考えについてどう思われますか。(SA)

第2の人生への考え方(SA)



●第2の人生に対する考え方はどうだろう。「男性退職予定者」も「団塊世代を夫に持つ妻」ももうひとつの人生があるという考え方に賛成だ。退職後にいろいろな期待をかけているということだろう。

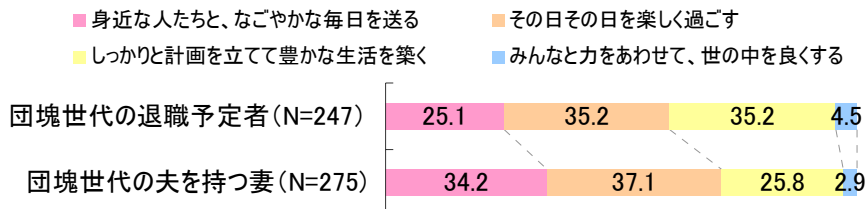
	大変賛成	やや賛成	どちらともいえない	あまり賛成ではない	まったく賛成ではない
%					
全体	31.9	46.5	15.8	5.2	0.6
登り派	38.0	44.3	12.9	4.5	0.3
下り派	24.8	49.0	19.2	5.9	1.0

●さらに、自分の人生は「登り坂」と考えている人のほうが、第2の人生に期待していることが多い。気持ちの持ちよりの重要さが伺われる。

4＜60代の生活目標＞

問4: あなたは60代のご自分の生活についてどのような目標をおもちですか。(SA)

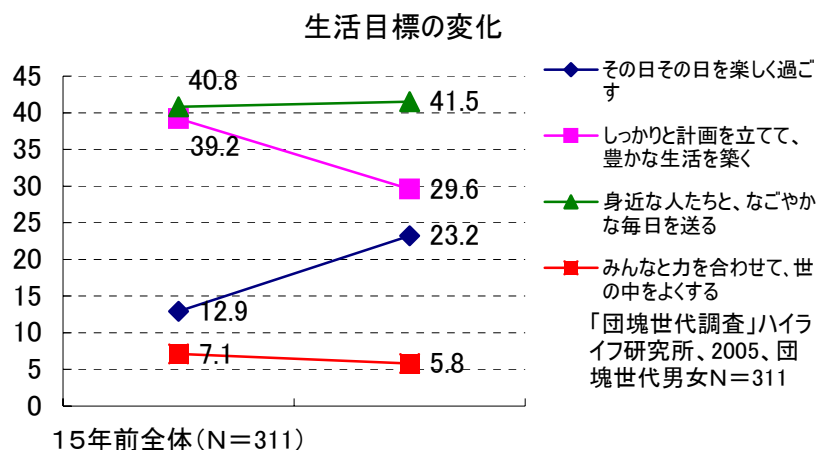
60代の生活目標(SA)



●60代における生活目標は男性と女性との考え方の違いが現れている。男性では60代になっても「利」志向、つまり「しっかりと計画を立てて豊かな生活を築く」と考える人が35%もいるのに対し、女性では26%しかいない。さらに、「和」志向、つまり「身近な人たちと、和やかな毎を送る」という項目では男性が25%に対し、女性は34%もいる。「快」志向（その日その日を楽しく過ごす）も大きい。

<参考>

※ハイレイフ研究所では、2005年団塊世代と団塊ジュニア世代の価値観比較調査研究を行った。その結果、団塊世代は「利」志向（しっかりと計画を立て豊かな生活を築く）という志向性が昔と比べ、大きく減少し、「快」志向（その日その日を楽しく暮らす）志向性が増加する、ということが明らかになった。



5＜定年退職への態度＞

問7：あなたは定年退職についてどのようにお感じになっていますか。(SA)

問7：あなたは夫の定年退職についてどのようにお感じになっていますか。(SA)

定年退職への態度(SA)

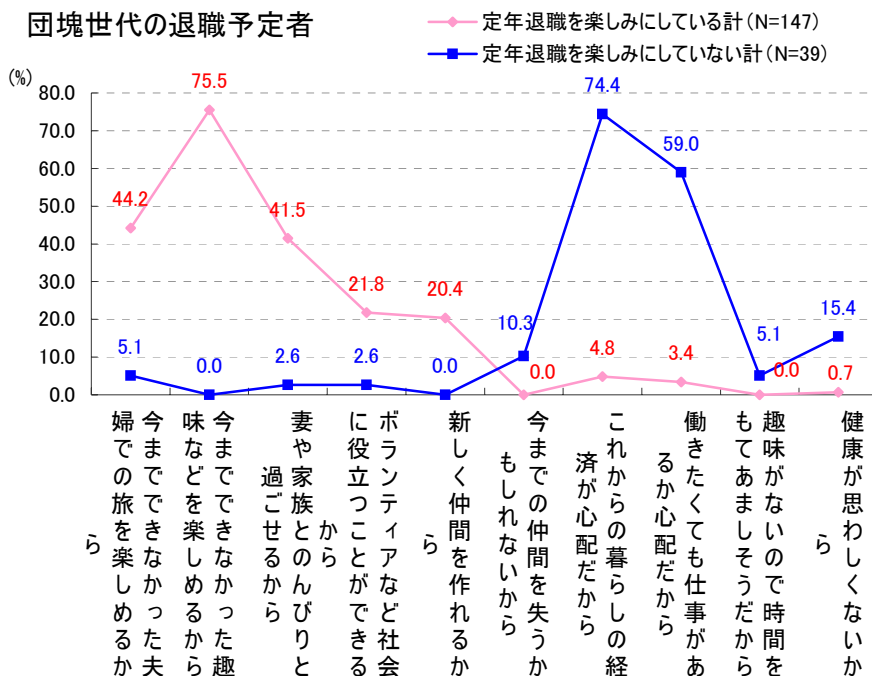
態度	割合
大変楽しみにしている	16.6%
やや楽しみにしている	42.9%
どちらともいえない	24.7%
あまり楽しみにしていない	10.9%
まったく楽しみにしていない	4.9%

団塊世代の退職予定者 (N=247)

団塊世代の夫を持つ妻 (N=275)

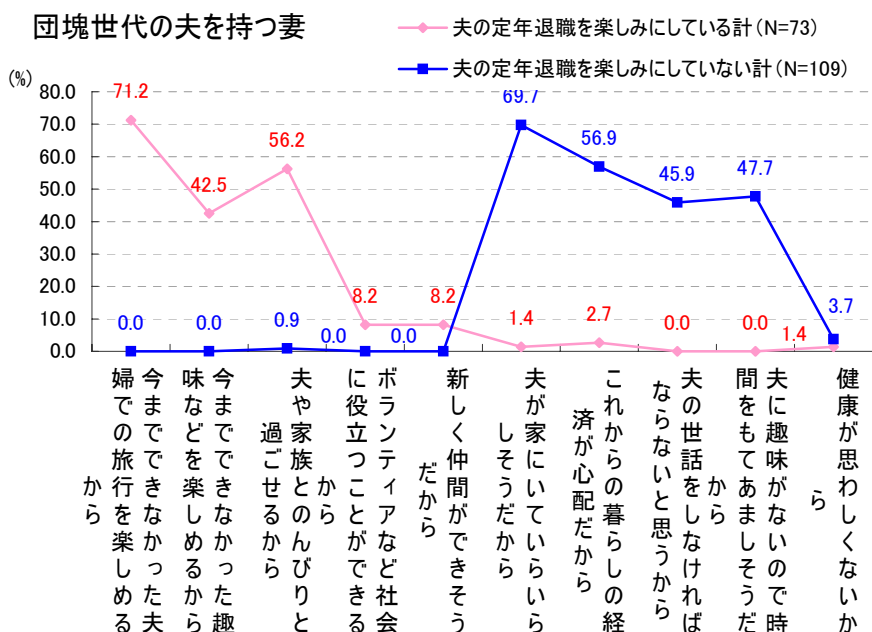
●団塊世代の男性にとって定年退職とは大方「楽しみにしている」(約6割)ものといえるが、女性にとっては、夫の定年退職は「あまり/まったく楽しみな」ものではない(約4割)。

団塊世代の退職予定者



●団塊世代の男性にとっては、定年退職が楽しみなのは「今まで出来なかった趣味などを楽しめるから」であり(楽しみにしている人の76%)、「夫婦での旅」や「のんびりと過ごせる」からである。一方、団塊世代でも、定年退職を楽しみにしていないという人は、「暮らしの経済が心配」(楽しみにしていない人の74%)だからであり、「働きたくても仕事があるか心配」という、経済的な不安感を持っているからである。

団塊世代の夫を持つ妻

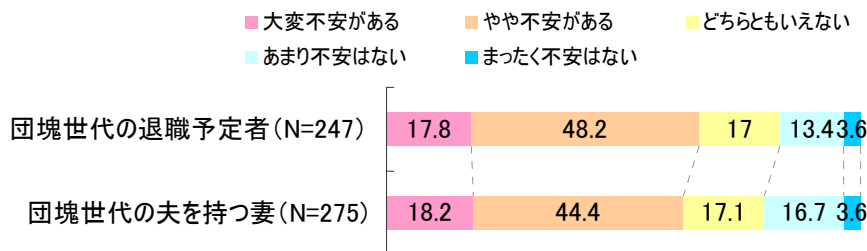


●女性にとっては、楽しみにしている人は、「夫婦の旅行」(71%)や「のんびりと暮らせる」と考えているからである。一方、夫の定年退職にあたって、定年退職を楽しみに出来ない、という理由は、「夫が家にいてイライラしそうだ」(楽しみにしていない人の70%)、「夫の世話をしなければならぬ」「夫に趣味がないので時間をもてあましそう」「暮らしの経済が心配」などがあげられている。夫が家にいる様になり、自分のペースが乱れ、世話をしなければならぬ。しかも24時間顔を合わせるなんて真っ平だ、という本音がうかがえる。

6-(1) <定年退職後の生活への経済的不安>

問9:あなたは定年退職後の生活について経済的不安がありますか。(SA)
問9:あなたは夫の定年退職後の生活について経済的不安がありますか。(SA)

定年退職後の生活への経済的不安(SA)

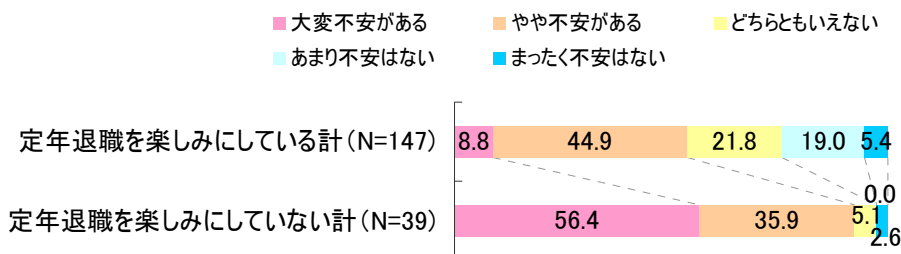


●定年退職後の生活への経済的不安感は団塊世代の退職予定者では「不安がある」66%にのぼっている。団塊の妻たちも同様だ。

※当然ではあるが、推定退職金額が「1500万円以下」では80%の人が不安を感じ、「1500万円-3000万円以下」の中間層でも58%、しかも「3000万円以上」のプチ退職金富裕層においても、43%程度が不安感を持っている。

6-(2) <定年退職への態度×定年退職後の生活への経済的不安>

団塊世代の退職予定者(SA)

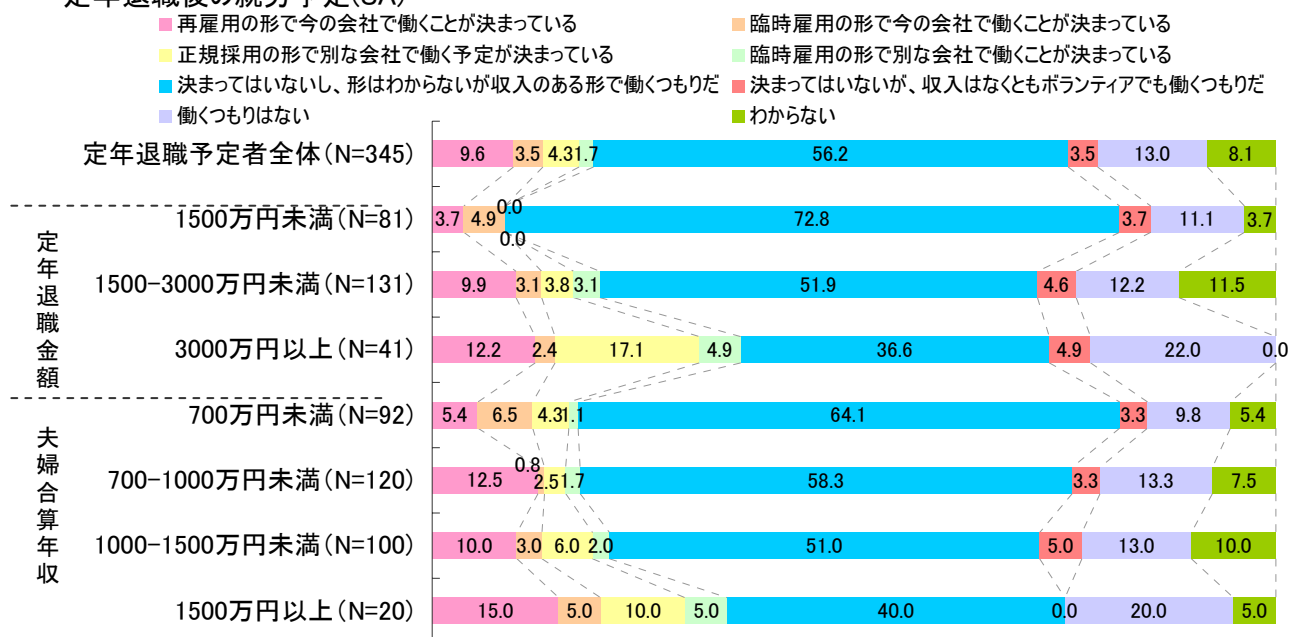


●退職金額が少ないということは、当然退職後の生活をエンジョイしにくいということで、過度な将来不安が消費マインドを冷え込ませ、団塊世代の退職マネーがタンスにしまいこまれてしまう可能性も十分ある、ということだ。

7 <定年退職後の就労予定>

問10:あなたは現在の職場を定年退職した後も、収入を得て働く決まった予定はありますか。(SA)

定年退職後の就労予定(SA)



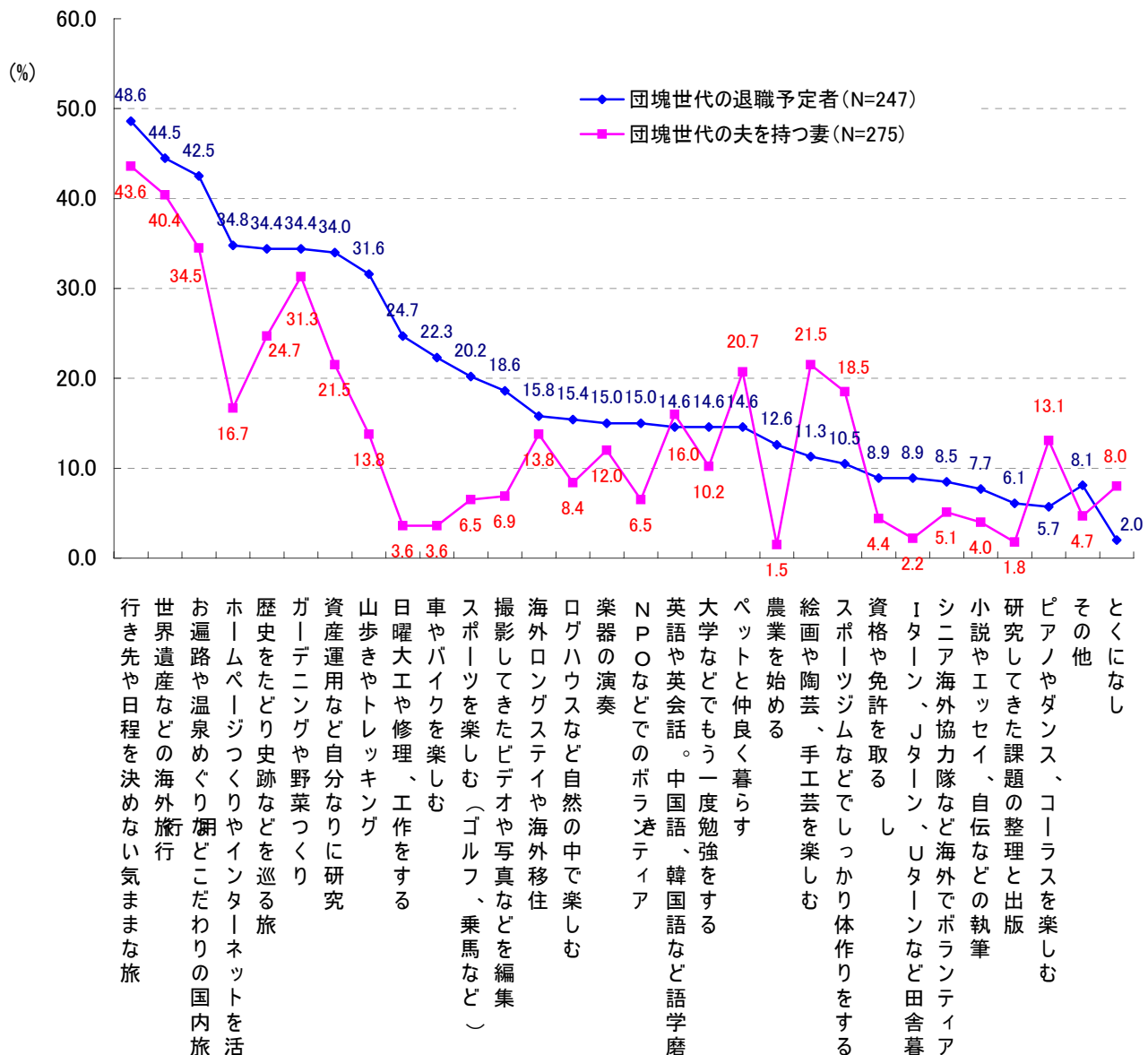
●定年退職後の就労予定においても、格差は存在する。現在の会社、他の会社を問わず、何らかの収入を伴う(「再雇用」「臨時」「常雇」含む)就労予定がある人は、この時点で、19%に過ぎない。一方、「決まていないが、収入ある形で働きたい」という人は退職予定者全体の56%にのぼる。「働くつもりはない」人は、13%にすぎない。しかも、退職金額3000万円以上の人の37%は次の就労予定が決まっている一方、1500万円未満の人は9%が決まっているに過ぎない。2重のギャップが存在するといえるだろう。

8-(1)＜退職後にやりたい夢やアイデア＞

問5: あなたには、「これまでやりたくてもできなかったが、退職後にはできればやってみたい。」という夢やアイデアがありますか。それはどんなことでしょうか。(MA)

問5: あなたには、「これまでやりたくてもできなかったが、夫が退職後したときには是非やってみたい。」という夢やアイデアがありますか。それはどんなことでしょうか。(MA)

退職後にやりたい夢やアイデア(MA)



●将来不安や退職金格差、就労格差の存在する中でも、退職はいずれにしろセカンドライフのスタート地点だ。それなりに新しいライフスタイルを構築し、消費も起こるだろう。団塊世代の夫と妻は退職後の夢やアイデアとして、どのようなことを胸に抱いているのだろうか。トップ10をあげてみると・・・

「団塊世代の男性」

- 1位 行き先も決めない気ままな旅
- 2位 世界遺産などの海外旅行
- 3位 こだわりの国内旅行
- 4位 ホームページづくりなどインターネット
- 5位 歴史・史跡めぐり
- 6位 ガーデニング・野菜づくり
- 7位 資産運用研究
- 8位 山歩き
- 9位 日曜大工や工作
- 10位 車やバイク

「団塊世代を夫に持つ妻」

- 行き先も決めない気ままな旅
- 世界遺産などの海外旅行
- こだわりの国内旅行
- ガーデニング・野菜づくり
- 歴史・史跡めぐり
- 絵画・陶芸・手工芸/資産運用研究
- ペットと仲良く暮らす
- スポーツジムで体づくり
- ホームページづくりなどインターネット
- 語学の学習

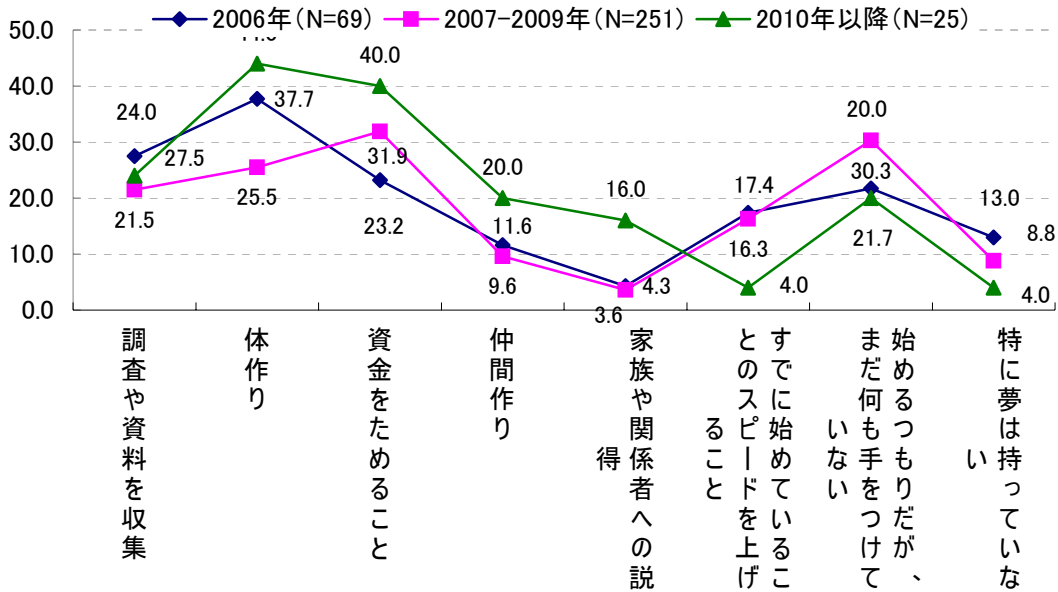
●夫婦で一緒に出来ることと、夫は夫、妻は妻という夢やアイデアがあるようだ。「気ままな旅」や「海外旅行」「こだわりの国内旅行」は夫婦に共通する代表的な夢だといえよう。しかし、夫では高いが妻では低い、というアイテムには「ホームページ」「山歩き」「日曜大工」「車やバイク」「スポーツ」などがある。夫の一人遊びというアイテムだ。妻が高く夫が低いアイテムは、「スポーツジム」「絵画や陶芸・手工芸」「ペット」「ピアノ・ダンス・コーラス」「語学」などである。

●トピックス的なアイテムとしては、「海外ロングステイや海外移住」がある。夫・妻ともに14-15%をあげ、かなり共通の関心となっている様子だ。また、「ログハウス」「農業」「田舎暮らし」では、夫はある程度関心があっても、妻からは敬遠されている傾向が見える。

8-(2)＜定年退職後の夢の実現に向けての準備＞

問11：退職後の夢の実現へ向けて、あなたが始められていること、あるいは始めようとしていることをいくつかお知らせください。(MA)

夢の実現のために準備していること(MA)



●退職後の夢の実現のために、準備していることには情報やお金や体力、仲間づくりなどがあるだろう。退職予定年別に何を準備しているかを見たのが上の図である。「2010年以降」というまだ先の人たちは、「体づくり」「資金づくり」など基礎的な準備をしているようすだ。また、相対的には「仲間づくり」や、「家族や関係者への説得」などの根回しもそれとなく進んでいる。かなり用意周到だといえるだろう。

●「2007-2009年」に退職するという、いわゆる団塊の退職者には「始めるつもりだがまだ何も手をつけていない」人が30%も存在している。「資金づくり」という人も32%いるが、最後の追い込みというところだろうか。団塊世代といっても定年退職(早期退職)に関して、意識が十分ではないような気配である。

●「2006年」には退職するという目前グループでは、もう後は「体づくり」しか残っていない、というか、「すでに始めていることのスピードを上げる」ということだろう。

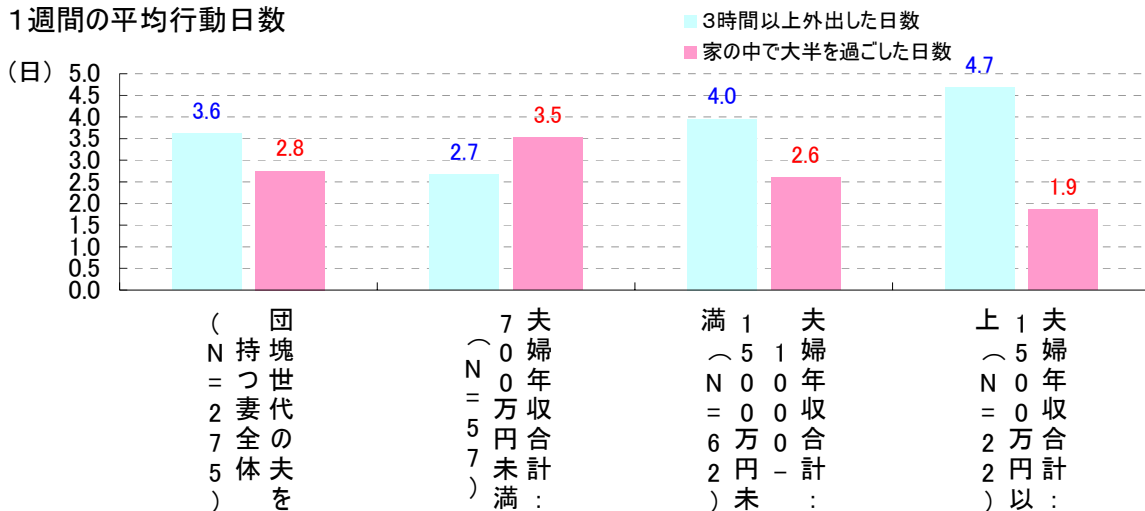
※団塊世代に関しては、まだ何も手をつけていない、が多いことを反映してか、「体づくり」「仲間づくり」にも十分準備がすすんでいない傾向がある。退職後はそのときになって考えるさ、という楽観的な考えをしている人が多いともいえるが、退職した途端に道を見失ってしまうことがないか心配になる。

9＜団塊世代を夫に持つ妻の生活スタイル＞

問13：3時間以上外出した日数は何日ありましたか。(SA)

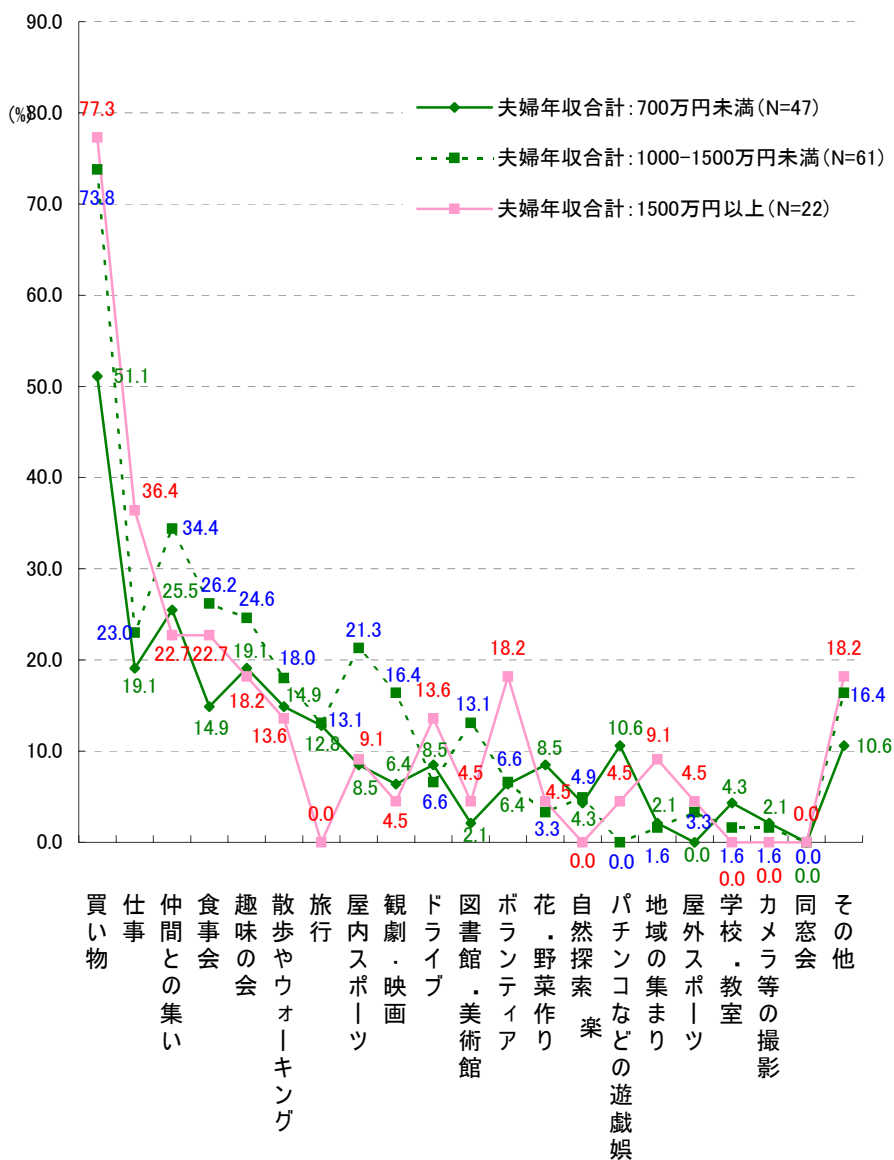
問15：家の中で大半を過ごしたのは何日ありましたか。(SA)

1週間の平均行動日数



問14：外出の目的はなんでしたか。(MA)

外出目的(MA)



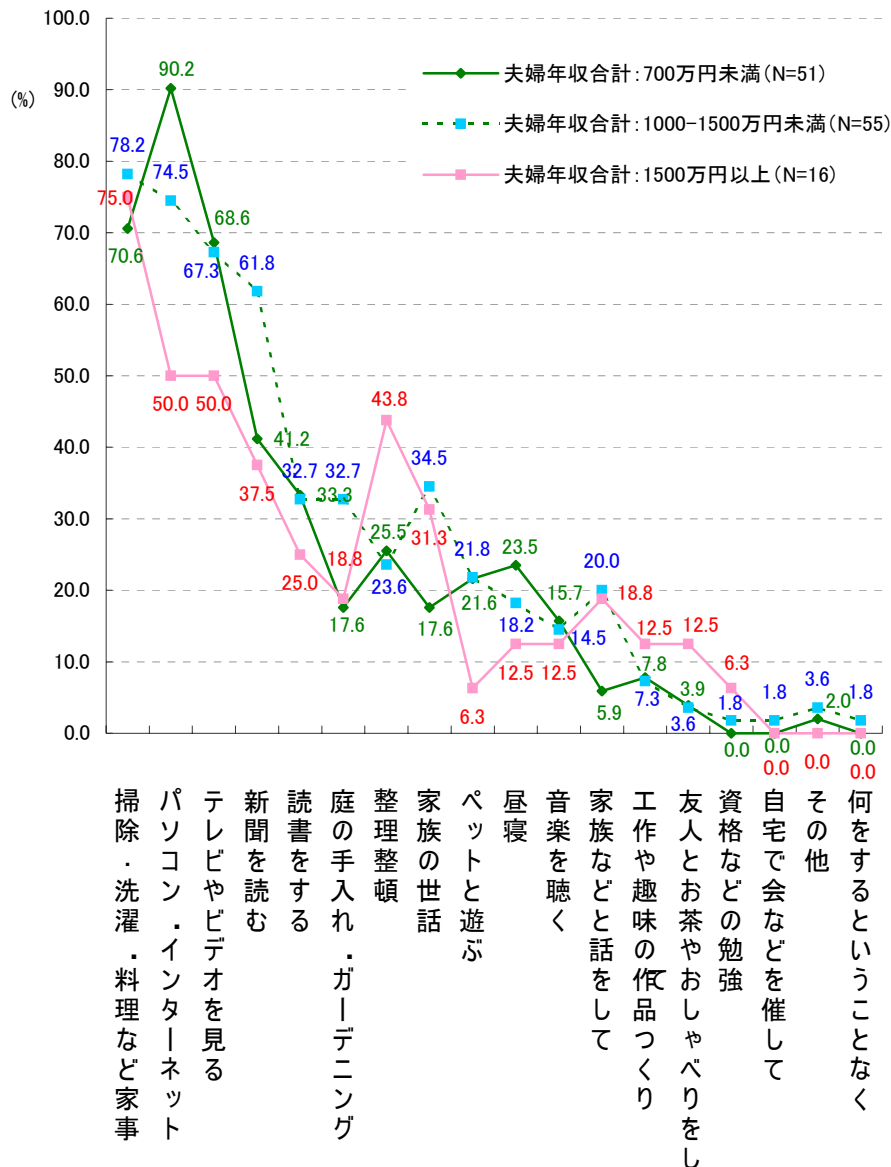
●団塊世代の男性はいま、最後の勤め中で、生き残りに懸命なところ。さて「団塊世代を夫に持つ妻」はどんな日常を送っているのだろうか。

●「外出した日数」と「家にいた日数」を比べてみよう。「外出した日数」の平均は3.6日。1週間におよそ4日は外出。「家で大半を過ごした日数」の平均は2.8日。およそ3日、となる。夫婦年収別に見ると、年収が高くなるほど、外出日数が増える。夫婦合計年収が1500万円以上の妻では、外出目的が「仕事」という人が35%いるので、共働きが多いことになる。1000万-1500万円グループと700万円以下のグループでは「仕事」は20%前後で相対的に少ない。

●外出目的のトップはいずれのグループでも「買い物」である。日常をエンジョイしているのはどのグループなのか、という視点で見ると、それは1000-1500万円グループだ。「仲間との集い」「食事会」「趣味の会」「屋内スポーツ」(おそらくジムやスポーツクラブ)「観劇・映画」と週に4日では足りないくらいである。プチ裕福な専業主婦たちである。それに比べて、1500万円以上クラスでは「旅行」など一度もなく、「趣味の会」「観劇」も少ない。仕事に時間をとられれている様子。なぜか「ボランティア」や「地域の集まり」には参加している。700万円以下のクラスでは、先立つものが足りないというところで、「買い物」すくなく、「食事会」「趣味の会」「屋内スポーツ」などが軒並み最低の活動だ。「パチンコ」が最も多く、「花・野菜づくり」など実質的なところも相対的に多い。

問16: 主に何をして過ごしていましたか。(MA)

家の中でしたこと(MA)



●「団塊世代を夫に持つ妻」の家の中の行動はどのようなものなのだろうか。
どのグループにおいても「家事」のしめる割合が高いが、「パソコン・インターネット」の利用、「テレビやビデオ」の視聴、「新聞」の閲読においては、収入ランクによって違いが大きい。

●700万円以下ランクにおいて、「PC/インターネット」利用が9割にのぼるのに対し、1500万円以上ランクでは5割でしかない。「テレビ・ビデオ」においても1500万円以下ランクは少ない。「新聞」も少ない方だ。外で情報に接する機会が多いから、自宅ではあえて、関心がないということか。

●1500万円以上ランクで特徴的なのは、「整理整頓」が多いことだ。普段出来ない整理整頓をまとめて行うということか。そのため、「読書」「昼寝」「音楽」などの活動も他のグループと比べて、一般に少ない。

●1000-1500万円ランクでは「パソコン・インターネット」「テレビ・ビデオ」も多い活動だが、「新聞」をかなり時間をかけて読んでいることが特徴的だ。「読書」「庭の手入れ」「家族の世話」などの行動がついで多い。専業主婦的といえるだろう。

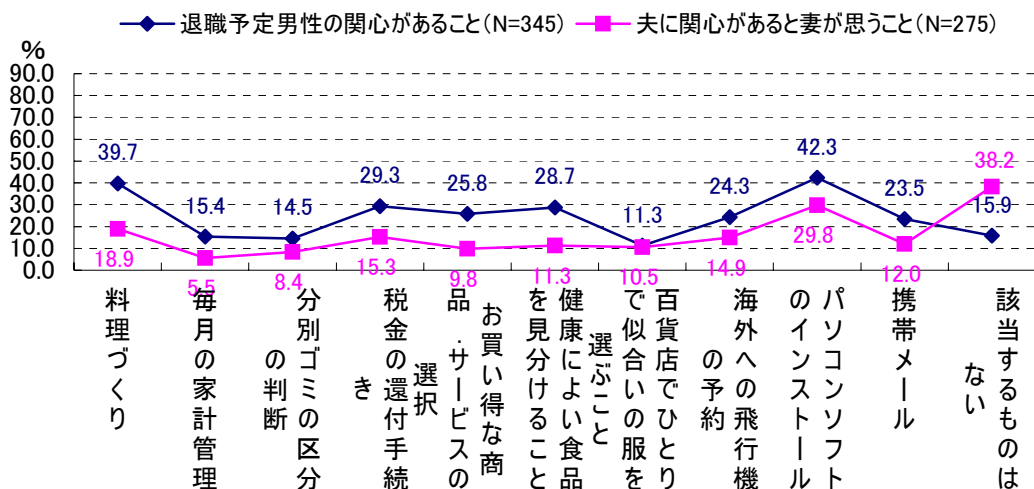
●700万円以下ランクでは「PC/インターネット」「テレビ・ビデオ」は多いのだが、「新聞」にかかる時間はかなり少ない。「庭の手入れ」「家族の世話」「家族と話をする」などが少ないのが特徴だ。総じて、非活動的といえるだろう。

10-(1) <夫の自立と妻の評価：自分でできること、できると思うこと>

問17：以下の行動の中で、あなたご自身が「関心があること」「自分でできる知識があると思うこと」「自分で行っていること」をそれぞれいくつでもお知らせください。(MA)

問17：以下の行動の中で、あなたの夫が「関心があること」「夫が自分でできる知識があると思うこと」「夫が自分で行っていること」をそれぞれいくつでもお知らせください。(MA)

夫の自立度と妻の評価(1)関心度

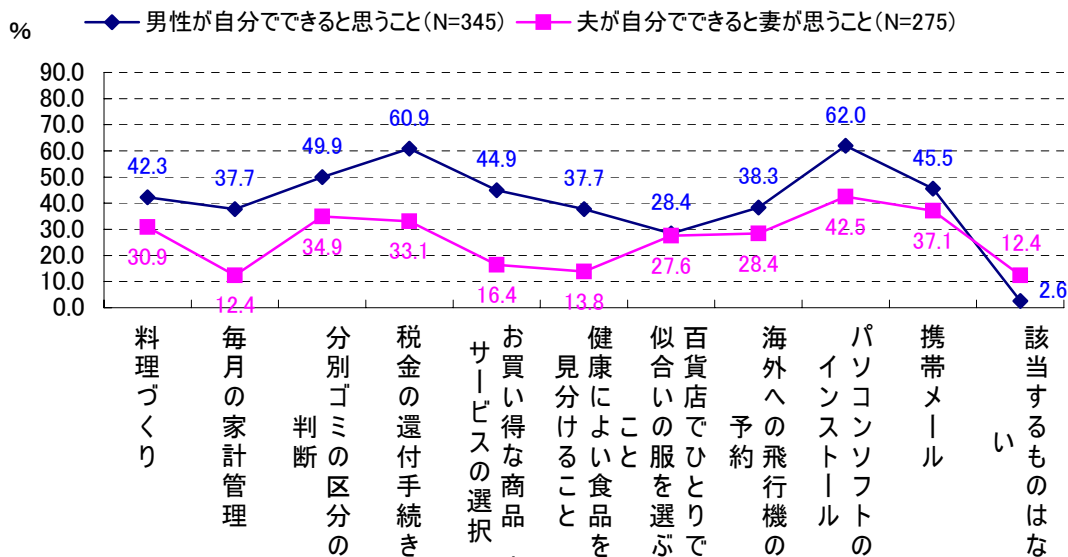


● 人生の折り返し点に近くなり、夫婦はそれぞれ自立して夫婦から個人へ還る時期にある、と指摘される。性別役割分業から夫婦の役割分業を新しく見つけ出す時期(夫婦リストラ)にあるという指摘である。そのような時期に差し掛かって、男性はどの程度まで自立しており、妻はそれをどの程度評価しているのだろうか。家庭内の個々の家事についてはどうなのか、定年前と定年後とではどのように変化するのか、そのあたりを見てみたい。

● (1)「家事についての関心度」についてはどうか。

一般に夫が関心があるとしても妻はそうとは見ていない。もちろん関心があるかどうかは、その行動で評価されるものであるから、仮に夫が関心があるといっても、その行動が伴わなければ、関心があるとは見なされない。だから、妻の側からは夫は家事に協力的ではないと思われるのは当然のことかもしれない。

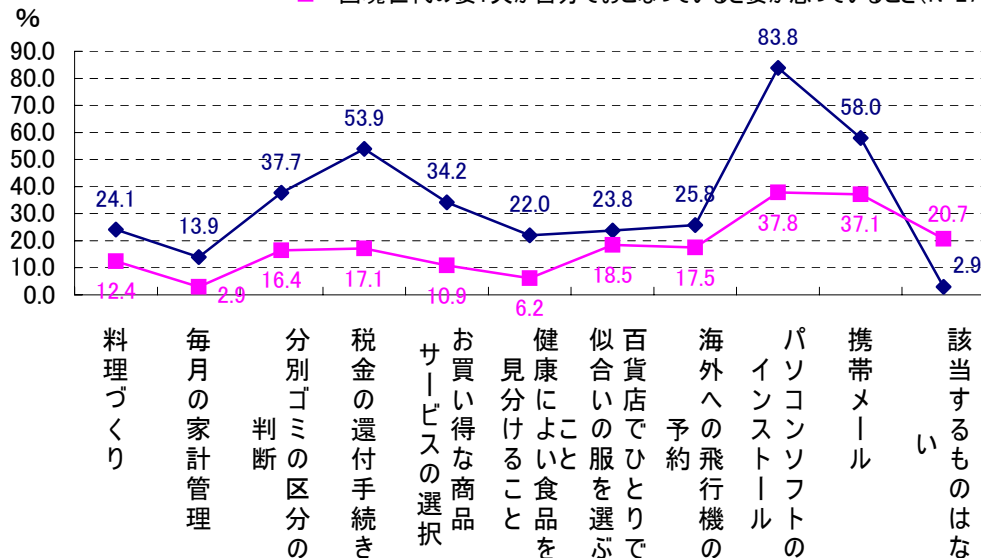
(2) 自分でできると思うこと



● 6割以上の男性が自分でできていることは、「税金の還付手続き」「パソコンソフトのインストール」。ほぼ4-5割の男性ができてと思っていることは「分別ゴミの区分」「携帯メール」「お買い得商品の選択」「料理作り」である。

● 一方妻の側からは「パソコン」「携帯メール」はいいとしても、「お買い得商品の選択」や「税金の還付手続き」などができるにはあまり高い評価ではない。「百貨店で一人で服を選ぶこと」は男性自身も妻も、夫が一人でできている人は3割にも満たない。

(3) 自分で行っていること
 ◆ 退職予定者：自分でおこなっていること(N=345)
 ■ 団塊世代の妻：夫が自分でおこなっていると妻が思っていること(N=275)

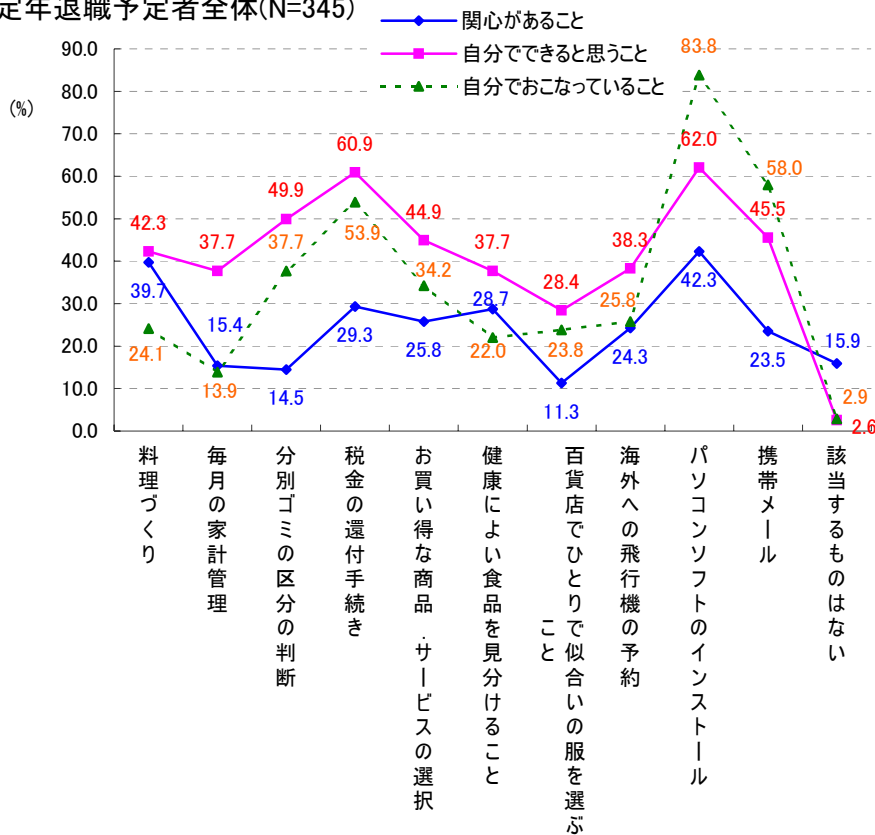


● 自分で実際にやっている家事となると、夫と妻との差はかなり開く結果だ。「パソコン」や「携帯メール」は別とすれば、「税金の還付」や「分別ゴミの区分」お買い得商品の選択」など夫はしているつもりでも、妻の側からは十分ではないという評価である。

● 男性は、＜やろうと思えばやれるし、実際やっている＞という家事も多いのだが、妻の側からは＜やろうと思えばできるのに、関心がないから実際やっていない＞という評価となっている。夫の自立という観点からは家事やお金に関わる分担当が退職後には大きな夫婦の課題になろう。退職後の変化については退職者調査で検討を加えたい。

10- (2) <男性退職予定者の自立状況:まとめ>

定年退職予定者全体(N=345)



● 男性で、関心があるという%が実際にやっている%よりも高い家事は「料理作り」と「健康によい食品選び」である。関心がなく、やっていないという他の家事と違って、「料理作り」は自分でもできるともおもわれているので、男性の自立という課題に関しては、適当な道筋にある家事のひとつだろう。

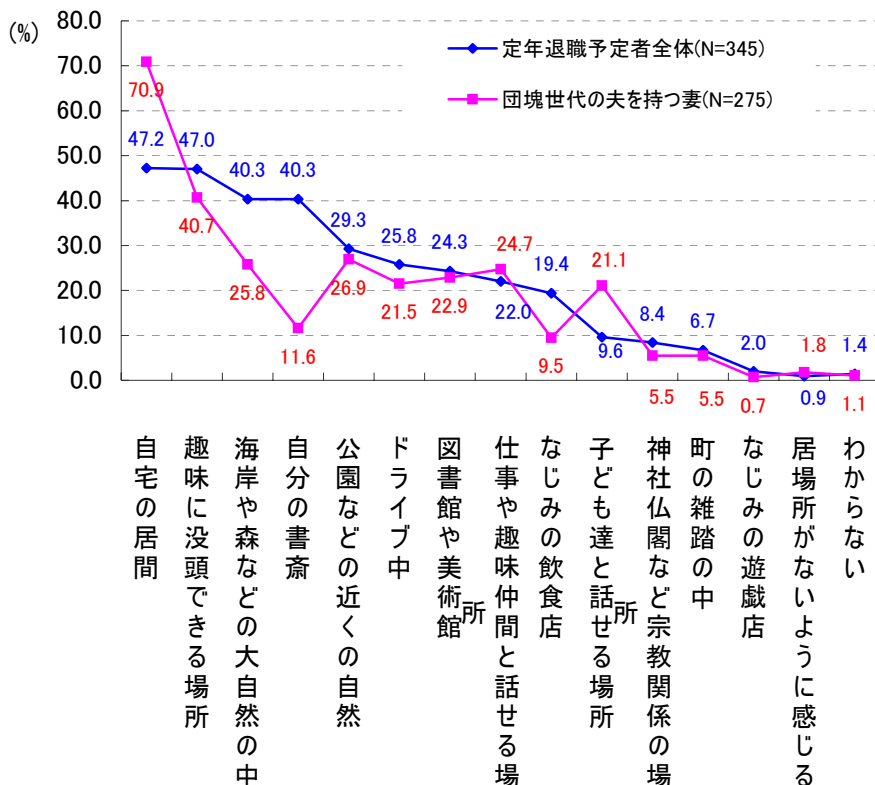
● 毎月の家計管理はもともと関心がなく、自信を持って自分でもできるという家事ではないので、実際にやっていないという項目のようだ。退職後限られた収入になった退職男性がどれほど家計管理に乗り出してくるか、関心があるところだ。

● 一人で似合いの服を選べない、という男性も多い。もともと服装にこだわらない、ということではあるが、自分には出来ない、と思っている人も多い。ファッション面からの自立した生き方についても学習が必要ということだろうか。

11＜自分の居場所＞

問18：あなたがそこいるとストレスが癒され、気持ちが安らぐような、あなたの居場所はどこですか。(MA)

自分の居場所(MA)



●退職を控え、仕事や社会、夫婦関係にも変化の起こる時期にあって、退職予定者の居場所はどこにあるのだろうか。また、退職後にはどこに居場所を求めるのだろうか。

●男性にあって、女性にはない場所は「自分の書斎」である。一方妻の側で居場所とされているのは、「自宅の居間」である。書斎がないから居間になるのか、もともと居間が居心地がいいのかはわからないが、男性では一人になれる場所が好まれ、女性は何かと話ができる場所が好まれるようだ。

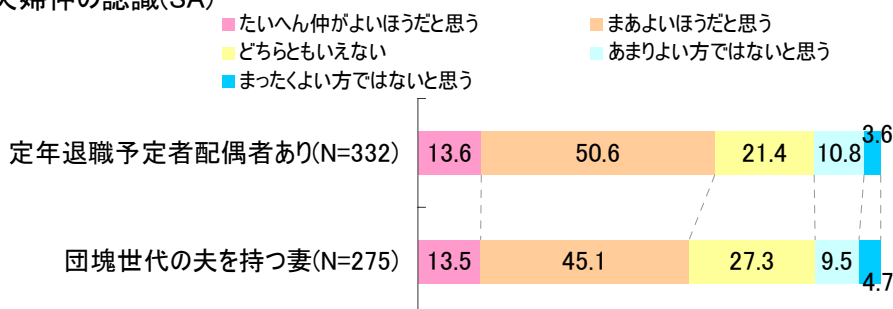
●「趣味に没頭できる場所」は夫・妻にかかわらず居場所と目されている。何かに没頭してストレスを癒し、自分を取り戻したいということだろうか。

●「大自然の中」については男性と女性とで差が大きい。

12＜夫婦仲の認識＞

問19：あなたは一般の夫婦と比べて、夫婦の仲が良い方だと思いますか。それともよい方ではないと思いますか。(SA)

夫婦仲の認識(SA)



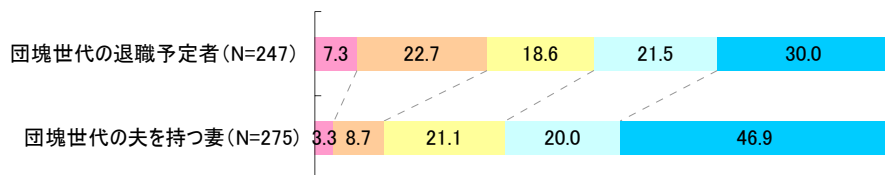
●現在の夫婦関係について、どのように認識しているか、夫側と妻側へたずねた。総じて、「よいほうだと思う小計」は夫側64%、妻側59%となっており、「よい方ではない小計」の夫側14%、妻側14%と比べて、かなり「夫婦仲」はよい結果である。

●退職前の、このよい夫婦関係は退職後も持続されるのかどうか。一時は夫婦関係のリストラクチャがあって、悪くなる可能性はあっても、退職後数年たてば又仲の良い夫婦になるのではないかという仮説を持っているが、あるいはそうではなくて、退職後いっそう夫婦の仲の良い関係は強化されるのかもしれない。退職者調査の結果とこの調査結果とを後で比較したいと思う。

13＜団塊世代の意識＞

問22:いろいろな意見があげてあります。あなたはそれぞれの意見にどの程度賛成なさいますか。(SA)

- (1) 全共闘などの学生運動は自分にとって意味あることだった
- たいへんそう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない
 ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない



● 団塊世代の男性退職予定者と団塊世代を夫に持つ妻は、団塊世代が持っていたとされる価値観や考え方について、いまだどのような意識でいるのだろうか。

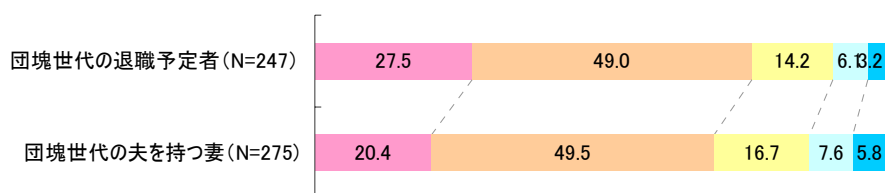
● 「学生運動」について、今の意識をたずねた。

● 学生運動は自分にとって意味あることだったかどうか。意味あることは、質問としてはダブルミーニングになっているので、肯定も否定もするわけではない。ただ、自分にとってなんらかの影響があったかどうか、と受け止めるのがよいだろう。

● 男性では、「意味があることだった」30%、「意味があることだった、とは思わない」52%。女性では同様に12%にたいし、67%となっている。もともと学生運動をしていたかどうかは問わないので、全体として、学生運動に意味があったとは思わないという結果である。

(2) 団塊世代は時代のブームを作ってきたと思う

- たいへんそう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない

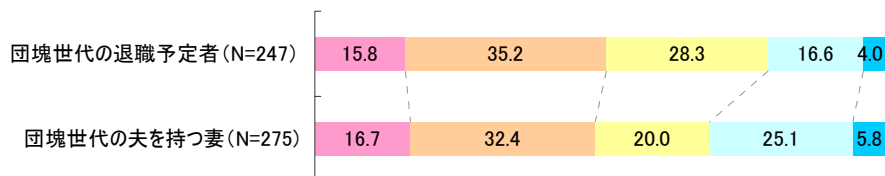


● 団塊世代が時代のブームを作ってきたかどうか。これについては男性・妻ともに「そう思う」人はそれぞれ77%、70%と多い。自分たちが時代の先端を行き、自分たちへ時代がブームを作ってきたという自負なり認識を強く持っている。

● 特に団塊男性ではその傾向がある。妻は団塊世代を含むものの、そのやや下の年代であって、そのためにも男性よりも少ない肯定率となっていると考えられる。

(3) 仕事や家族のために自分はずいぶん我慢してきたと思う

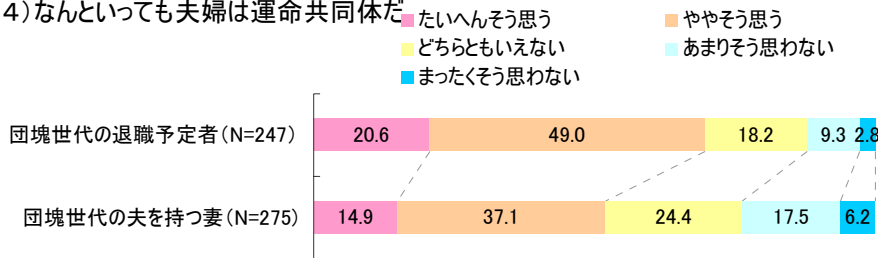
- たいへんそう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない



● 団塊世代は高度成長期にあつて、会社人間として、あるいは中流を目指す専業主婦として、自分たちのしたいことを我慢して頑張ってきた、という側面もある、果たしてどうなのか。

● 確かに「ずいぶん我慢してきた」という人は、団塊男性で「そう思う小計」51%、妻で49%と約半数は我慢してきたという意識をもっている。実際はともかく、少なくとも現在そういう意識をもっている団塊世代およびその妻が全体の半数はいる、という点が重要である。

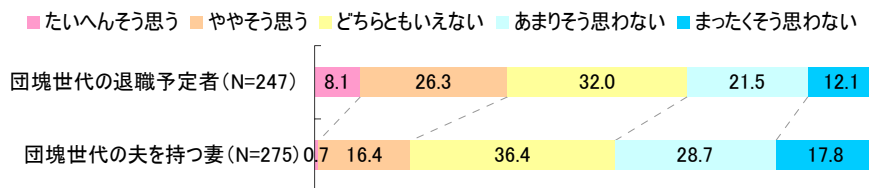
(4)なんといっても夫婦は運命共同体だ



●団塊世代は友達夫婦とも言われてきた。同年代結婚も多くいたため、価値観の近い夫婦が多かったためといわれている。果たして定年を控えた今、夫婦関係について運命共同体という強い意識はどれほどの人が持っているのだろうか。

●男性では「なんといっても夫婦は運命共同体だ」という人は70%に達する。妻でも62%である。「夫婦仲がよい」という人はそれぞれ、64%、59%であったから、夫婦仲がよかれ、悪しけれ、運命共同体という意識はさらに強い、ということになる。ただし、妻の側では「運命共同体・そう思わない」という人が24%いることも見過ごせない。

(5)男は外で働き、女は家庭を守るべきだ

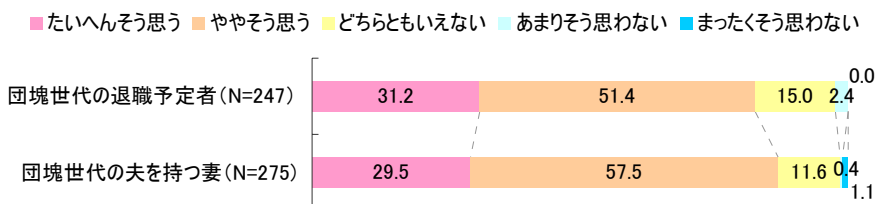


●性による役割分業も高度成長期の家庭規範のひとつだった。生産性向上のための手段として、団塊世代男性の会社人間化を促進し、女性の専業主婦化を促した考え方だ。

●今日、団塊世代の男性もその妻もこの考え方に対しては大きな疑問をもっている。男性では「そう思う」人と「そう思わない」人とは同じ34%である。また妻では賛成派は17%に対し、反対派は46%である。

※ハイライフ研究所2005年度調査研究「団塊世代と団塊ジュニア世代の価値観比較研究」においても同様の結果が得られている。

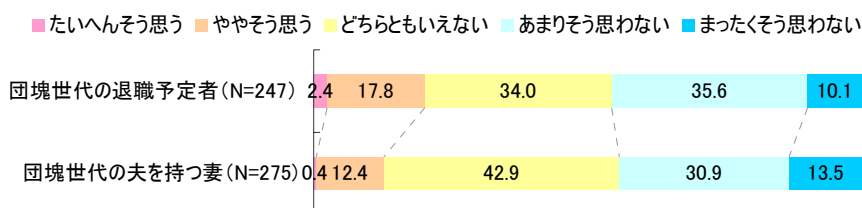
(6)子供はその個性を大切に育てるべきだ



●個性重視主義は団塊世代の子育て期の中心的な考え方だった。戦後民主主義教育の基本だったからだ。

●この考え方は現在も団塊世代が持つ、子どもの教育に対する中心的考え方であることは変わっていない。この意見に対する肯定派は、男性で83%、妻で87%にのぼる。

(7)多少家庭を犠牲にしても仕事中心であるべきだ

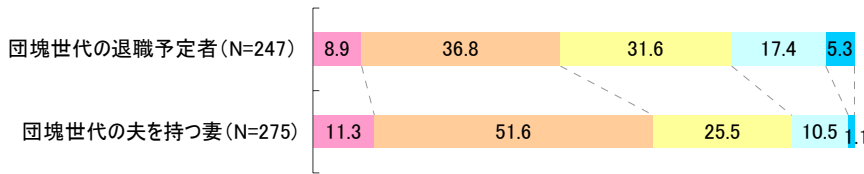


●仕事中心主義。家庭と仕事では仕事を取る、という考え方。

●この考え方については否定派が明らかに多くなっている。「そう思わない」人は男性で46%、妻は44%を占めている。すでに退職時期に入っている団塊世代にあっては、いまさらこだわるほどの仕事はない、という人が主流であり、すでに十分やってきたという意識が強いからと考えられる。

(8) 努力すれば結果は相応についてくる

■ たいへんそう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない



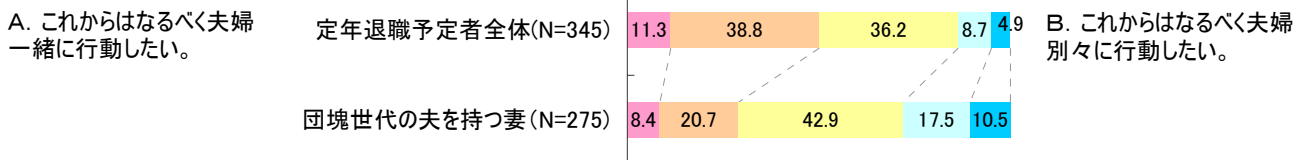
● 努力成果主義は中流を目指した団塊世代の生活信条のひとつだった。右肩上がりの成長の中では、確信に近い信条だった。

● 今日では、男性の「そう思う」人は46%、「そう思わない」人は23%。女性の「そう思う」63%、「そう思わない」12%と微妙である。今日までいわば大過なく過ごしてきたという意味では、男性46%がそれなりに結果はついてきた、と考えていることはうなずけるところだが、努力しても報われないものは確かにある、という意味では23%が反対するところもうなずける。「中流」は果たしたものの、リストラあり、将来不安ありで、このような%に落ち着いたものだろう。

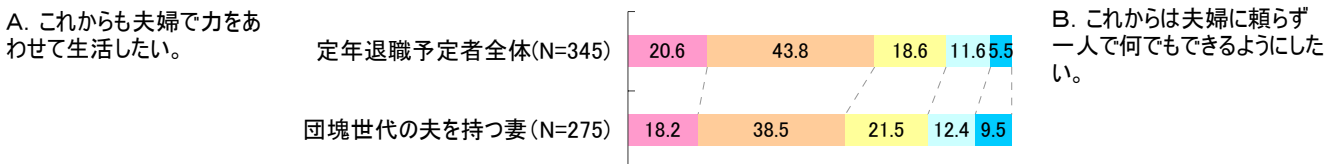
14 < 定年退職後のライフスタイル意識 >

問23: 対になった意見があげられています。あなたはそれぞれどちらの意見に近いでしょうか。(SA)

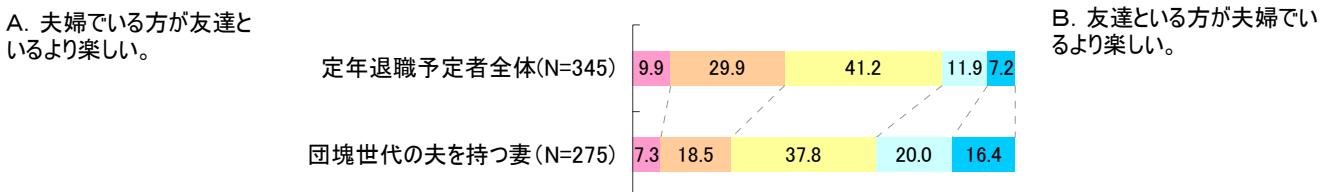
■ Aにたいへん賛成 ■ Aにやや賛成 ■ どちらともいえない ■ Bにやや賛成 ■ Bにたいへん賛成



● 夫婦での一緒に行動にたいする考え方は、定年退職予定の夫側と妻側では開きがある。「これからはなるべく夫婦一緒に行動したい小計」は夫側50%に対し、妻側では「同」29%に過ぎず、妻側では逆に「これからはなるべく夫婦別々に行動したい小計」28%を占める。妻は夫の先を行っており、夫の世話でイライラさせられたくないという心情がみうけられる。



● 「これからも夫婦力をあわせて生活したい」「夫婦に頼らず一人で何でも出来るようにしたい」というレベルでは、やや妻の側も「力をあわせて」派が増加し、「一人で何でも」派は減少する。なるべく別々に行動したいが、力をあわせるときは一緒に、という妻の打算と夫の依頼心が垣間見えるところだ。

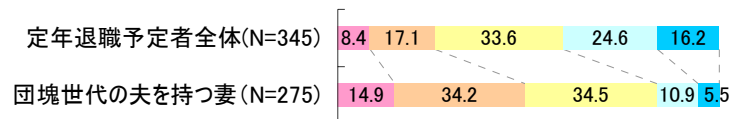


● 夫婦別々に行動したい、といっても一人で遊ぶわけではない。妻の側の36%は「友達という方が夫婦でいるより楽しい」としている。逆に夫の側は「夫婦でいるほうが友達というより楽しい」という方が多い(40%)

A. やむをえなければ夫婦は離婚しても良い。

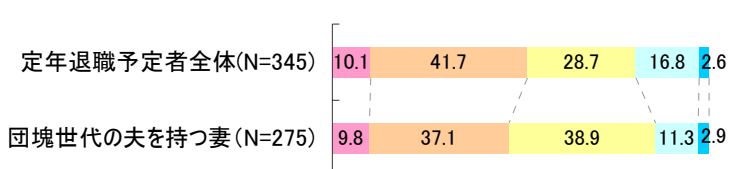
■ Aにたいへん賛成 ■ Aにやや賛成 ■ どちらともいえない
■ Bにやや賛成 ■ Bにたいへん賛成

B. やむをえなくても夫婦は離婚すべきではない。



●実際に離婚するかどうかは別として、その覚悟が出来ているのが妻の側だ。妻は「やむをえなければ夫婦は離婚しても良い小計」49%と半数は心の中で考え、15%はそう確信している。一方、夫の側は「やむをえなくても夫婦は離婚すべきではない小計」41%と約半数が考えている。ほぼ正反対の割合である。

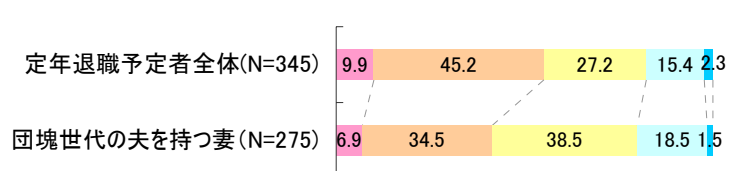
A. 多少規則に外れてもこれからは自由にやりたい。



B. これからも規則にしたがった生き方を守りたい。

●会社人間という枠が外れ、自分で自分の暮らしを設計することになる定年退職後、「多少規則に外れてもこれからは自由にやりたい」と考えるのか、それとも「これからも規則に従った生き方を守りたい」のか。男性も妻もこれからの基調は「しばらくは」ことだ。ともに50%前後の人が「多少規則から外れても・・・」と考えている。

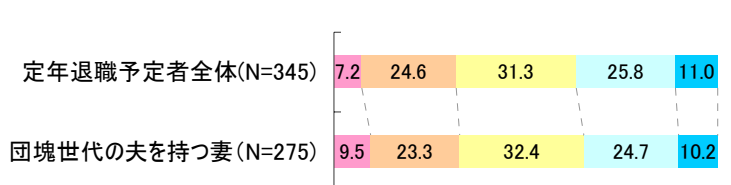
A. 年相応の生き方をしたい。



B. 若さにこだわった生き方をしたい。

●むやみに「若さにこだわった生き方をしたい」(2割前後)わけではなく、「年相応の生き方をしたい」(4-5割)ということではある。

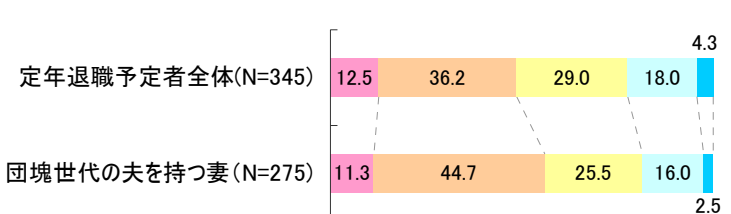
A. 若さとは体が元気なことだと思う。



B. 若さとは心が元気なことだと思う。

●「若さとは体が元気なことだと思う」(小計32%)と同時に、「若さとは心が元気なことだと思う」(小計37%)からだ。男性も妻も若さについては、体だけではなく、こころの元気が大切であるという認識があり、「年相応の生き方」とはこの二つのバランスをさしているように思う。

A. 自分らしさとはもともと自分が持っている個性だ。



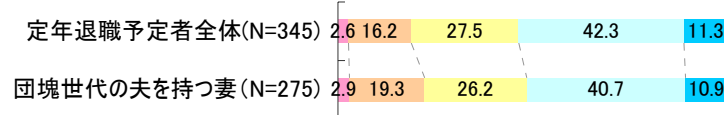
B. 自分らしさとは自分が努力して作った成果だ。

●定年後自由に、自分らしく生きる、というときの自分らしさ、とはどのようなものだと考えているのか。「自分らしさとはもともと自分が持っている個性だ」とする人は、男性も妻も5割前後。一方「自分らしさとは自分が努力して作った成果だ」という人は2割前後。自分らしく生きるとは、もともとの自分へ帰ることに近く、自分がなしてきた成果を積み上げることではなさそうである。

A. これまでに、やりたいことはほとんどやってきた。

■ Aにたいへん賛成 ■ Aにやや賛成 ■ どちらともいえない
■ Bにやや賛成 ■ Bにたいへん賛成

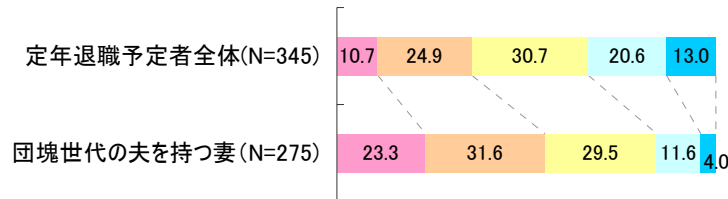
B. これまでに、やりたくてもできなかったことがいくつかある。



● それでは、「これまでにやりたいことはほとんどやってきた」のか「これまでに、やりたくても出来なかったことがいくつかある」のか。男性・妻ともに「やりのこしてきたことがある」という人が5割を越えている。自分らしく生きるとは、だから「やりのこしてきたこと」を取り戻すプロセスにあるのかもしれない。「自分は仕事や家族のためにずいぶん我慢してきた」という人が5割を越えていることも思い起こせば、「取り戻す」というキーワードはもっとポジティブな意味合いを含んでいると思う。

A. 便利な都会に住みたい。

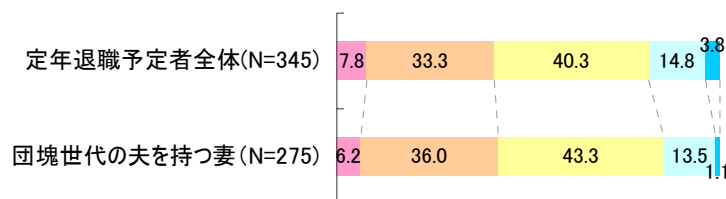
B. 自然の豊かなところに住みたい。



● 自然への志向が言われている。「便利な都会に住みたい小計」は男性で36%、妻で54%。逆に「自然の豊かなところに住みたい小計」は男性では34%、妻では16%。男性と妻との間には大きな違いがある。退職後の夢プランにおいても、I/U/Jターンの希望は、男性8.9%に対し、妻2.2%、ログハウスに住む希望は、男性15.4%、妻8.4%である。かならずしも団塊世代が自然志向であるとはいえないところだ。

A. 環境やエコロジーを守る方が便利な暮らしより優先する。

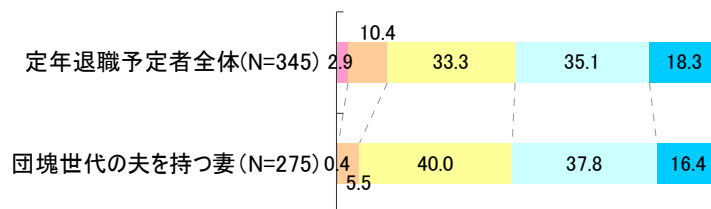
B. 便利な暮らしをする方が環境やエコロジーより優先する。



● ロハスへの志向はとかく、建前に走りがちなところだ。「環境やエコロジーを守るほうが便利な暮らしより優先する」については男性は小計41%。「便利な暮らしをする方が環境やエコロジーより優先する小計」の18%を大きく上回る。「便利な都会に住みたい」が36%あるわけだから、比較して少なすぎる。本音と建前の違いと考えられる。

A. 組織や団体に属している方が好きだ。

B. 組織や団体に属さない方が好きだ。

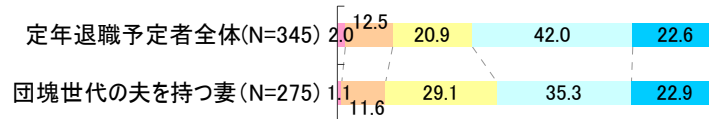


● 「組織や団体に属する方が好きか」「属さない方が好きか」では、男性でも妻でも「属さない方が好き」が5割を上回っている。あれほど会社人間だったこの世代の男性でも、この年令、この時期にいたっては、自由さを求める人がこれほど多くなった、と見る事が出来るのではないか。

A. 人を判断するときに肩書きや役職名は重要な要素だ。

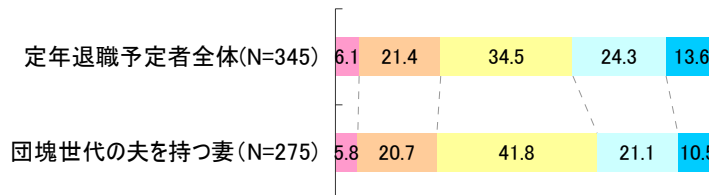
■ Aにたいへん賛成 ■ Aにやや賛成 ■ どちらともいえない
■ Bにやや賛成 ■ Bにたいへん賛成

B. 人を判断するときに肩書きや役職名は重要ではない。



●この年令、退職前のこの時期になって、いやこの時期だからこそ、「人を判断するときに肩書きや役職名は重要な要素ではない」とする人が男性で6割を越え、妻でも6割近い。自由・自立・自尊の定年退職者が袂を脱いでリスタートを切ることが出来る可能性をここに見ることが出来る。

A. これからはなるべく海外のよさを発見したい。



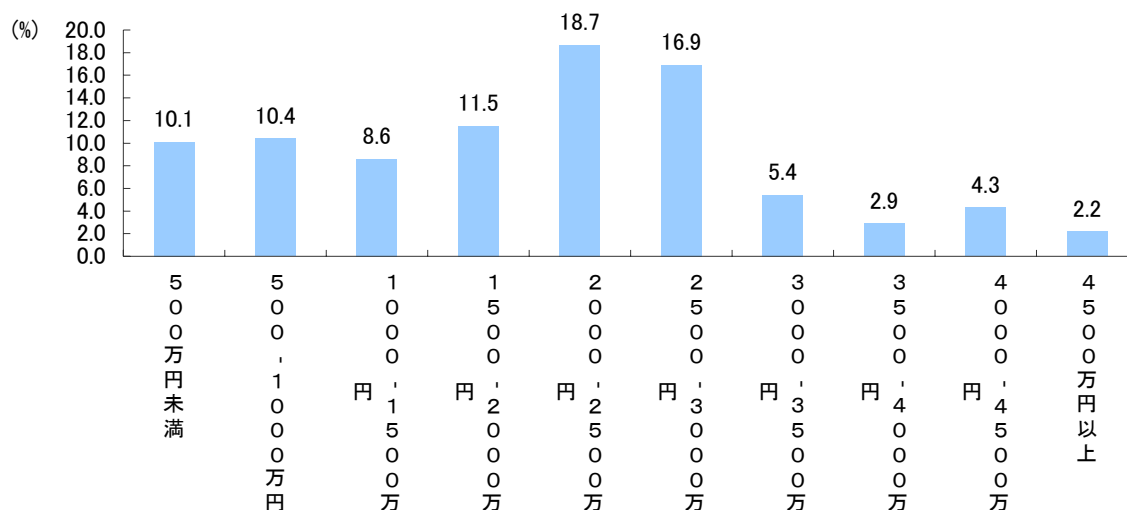
B. これからは日本のよさを発見したい。

●「これからは日本のよさを発見したい」という男性が4割近くいても不思議ではないだろう。「海外のよさを発見したい」という男性も3割近くいるが、相対的に少ない。保守化というより、本物・遣り残したもの・自立などの文脈で考えた方がわかりやすい。

15＜退職金金額＞

問26: 失礼ですが、その額はいくらですか。二度以上受け取ったか、受け取る予定の方はその合計額をお聞かせください。(SA)

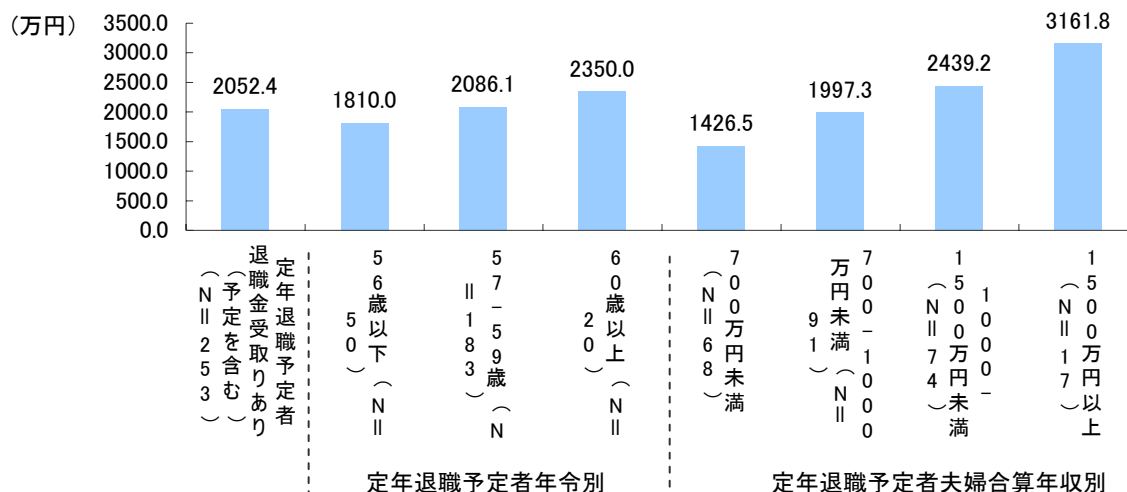
定年退職予定者 退職金受取り予定あり(受け取ったを含む) 全体(N=278)



●すでに受け取った退職金を含む退職金の受け取り予定額の分布は以上の通りである。最頻値・中央値とも「2000-2500万円」である。分布では500万円未満や1000万円未満の人も出現しているが早期退職者が該当していると思われる。(本調査はインターネットに接続された会社員、公務員などの給与所得者の早期退職者を含む全国男性を母集団としている)

16＜年令・夫婦合算年収別＞

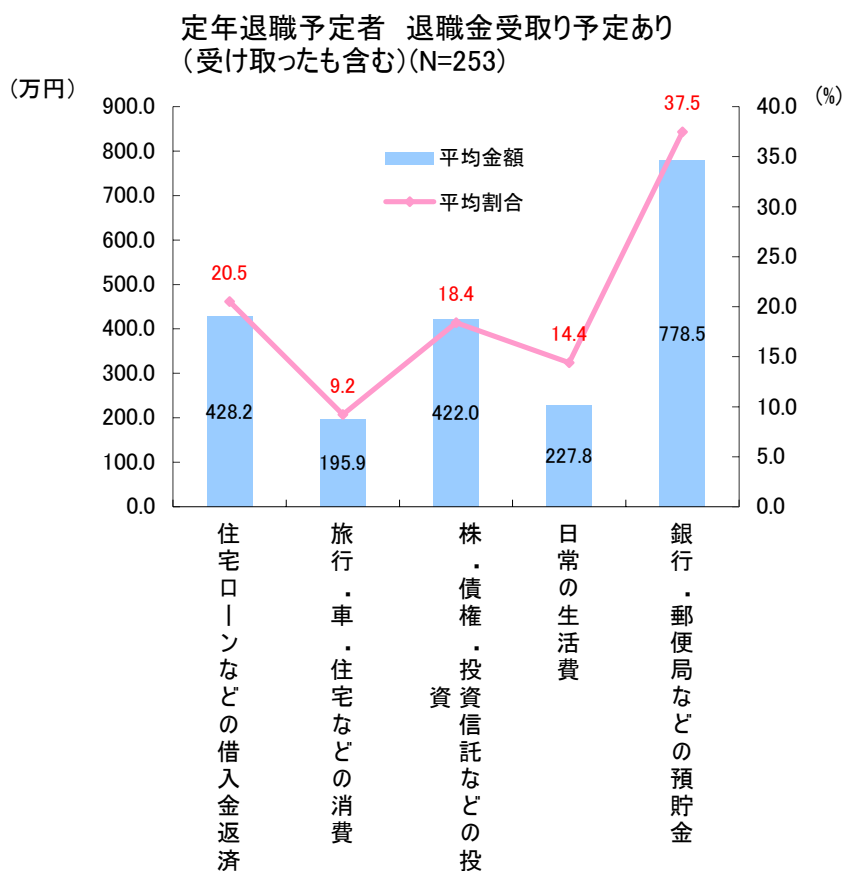
年令・夫婦合算年収別 退職金金額平均



●退職金額の平均は2052万円で、56歳以下では1810万円、団塊世代の57-59才では2086万円、60才以上では2350万円となっている。また、夫婦合算年収別には、700万円未満で1427万円、700-1000万円が1997万円、1000-1500万円においては2439万円、1500万円以上では3162万円となっている。

17＜定年退職金の使途＞

問28：退職金をどのようにお使いになる予定ですか、あるいはどのようにお使いになりましたか。退職金入手後、1年間の想定して、それぞれの項目へ割り当てる%をおきかせください。現在しっかりした計画がない場合でも、およその心積もりで結構ですので、お聞かせください。



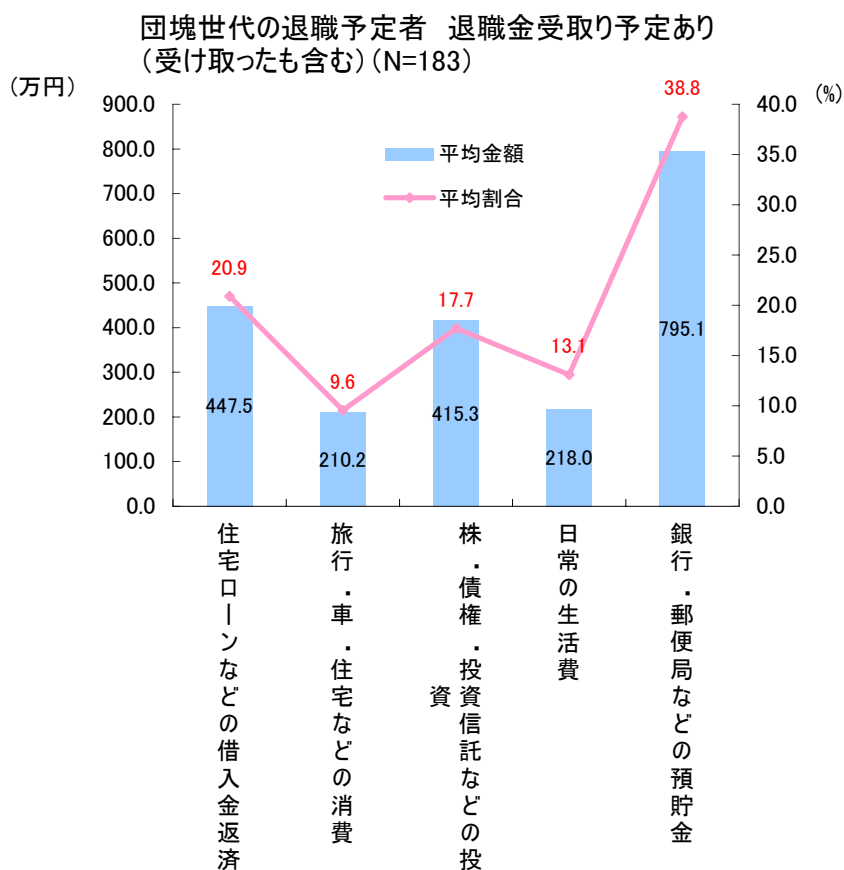
●退職金の使途を5カテゴリーに分け、それぞれの使途へ予定退職金のどのように割り振るか、その%を尋ねる形で質問した。

●定年退職者全体ではその使途への割り振り%と平均金額は左表のようになる。

●現在まだ退職金を受け取っておらず、この3年先の退職予定であるから、正確な計画はできていないということを反映して、「銀行・郵便局などの預貯金」が38%、779万円と、最も多い使途となっている。

●「株・債券・投資信託などの投資」へは18%、422万円へ振り向け、「住宅ローン」などの借入金返済へは21%420万円、「日常生活費」へは14%、227万円。「旅行・車・住宅などの消費」へは9%、196万円となった。

●消費へ回る部分が少ないと感じるが、まだ支出計画がしっかりしていない以上、手控えたいという意識があるのだろう。

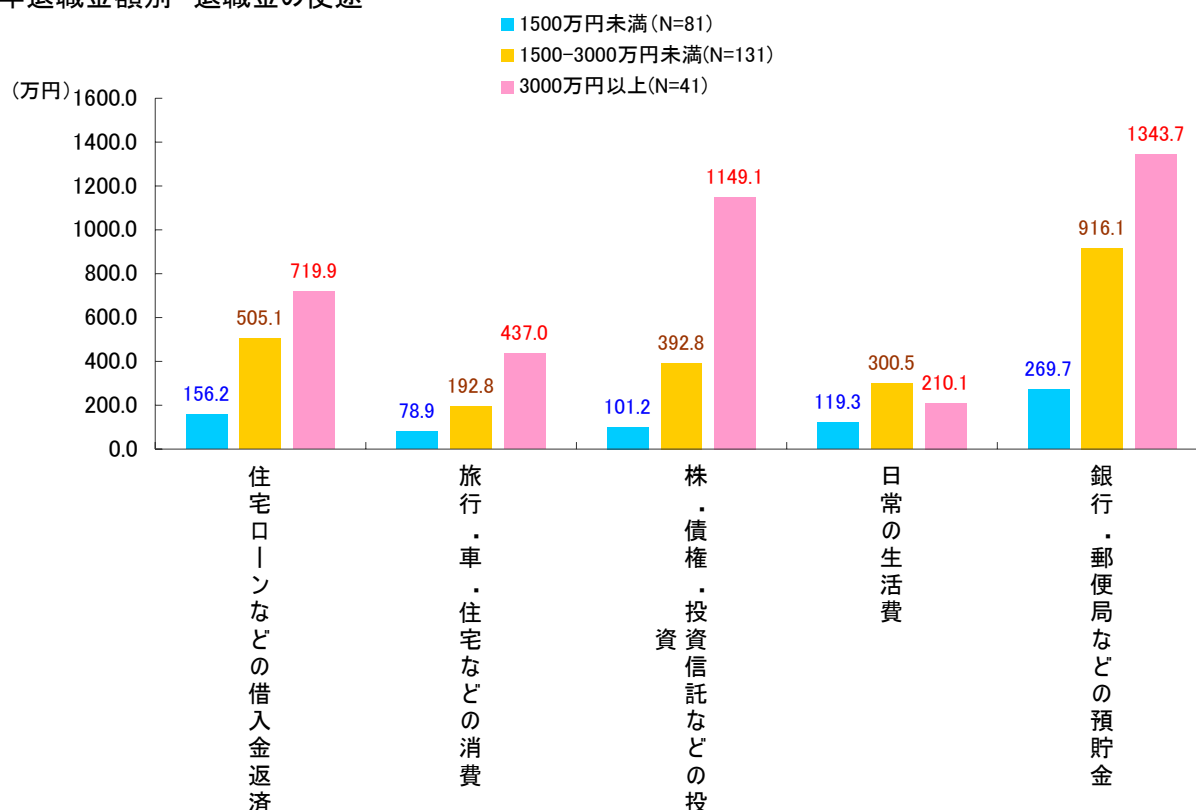


●団塊世代だけについても左表にまとめてある。

●大筋において退職予定者全体と違いはなく、とりあえず「ローンは返済し」「ある程度は投資にまわし」あとは様子を見るために「銀行・郵便局」へ預けておくというところであろう。

18＜退職金額別 退職金の使途＞

定年退職金額別 退職金の使途



●退職金の受け取り予定額別にその使途を見てみよう。

●「1500万円未満」の人の平均受取額は725万円、「1500-3000万円」の人の平均金額は2307万円、「3000万円以上」の人は3860万円である。

●絶対額に大きな差があるが、とくに差がある使途は株・債券・投資信託などの投資へあてる予定の金額だ。「3000万円」以上の人は、これに1148万円もあてるが、中間クラスで393万円、少ないクラスでは101万円と開きが大きい。逆に日常生活費にあてる予定金額は、「3000万円」クラスでは中間クラスより少ない210万円でしかなく、少ないクラスとそれほど違いがない。つまり、「3000万円」クラスでは日常生活費には困らないだろうと考えており、そこで投資にまわす余裕があるということだ。

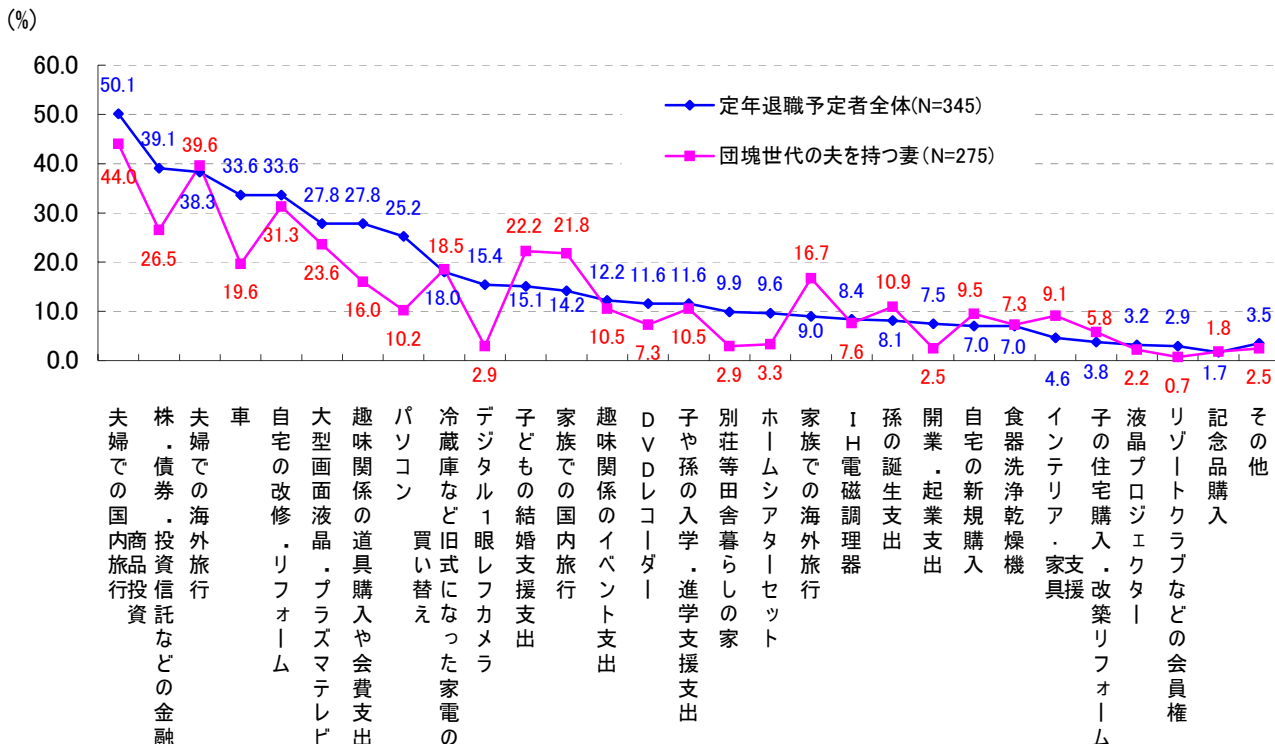
●中間クラスでは銀行・郵便局などの預貯金が相対的に大きい。ローンなどの借入金505万円を返済すると投資へまわす残りがそれほどあるわけではなく、結局当面の預貯金へ回っているということだ。この中間クラスの数が多いわけだから、預貯金からどれだけ消費に回るのが経済的な意味合いでは重要だ。

●実質的な大型消費は旅行・車・住宅が3大支出先だが、予想外に慎重な支出予定だ。「3000万円」クラスでも437万円であって、このクラスの平均受け取り予定額の11%でしかない。中間クラスでは192万円（同8%）、少ないクラスでは79万円（同10%）である。退職後の夢やアイデアがいくらあっても、経済的な将来不安が払拭されな限り、ただちに爆発的な消費が起こるとはいえないだろう。ただし、預貯金へ仮にあてられた金額が退職後どのような時期に、どのように支出されていくのか見極める必要があろう。

19<定年退職後の生活を豊にするために購入したい、サービス・商品>

問29: 退職金や預貯金を使って、退職後の生活を豊かにするために、どのような商品やサービスを購入なさりたいですか。今後購入したい・実行したいとお考えの品目・サービスをすべてお聞かせください。(MA)

定年退職後の生活を豊にするために購入したい、サービス・商品(MA)



●消費へ向かうだろうという退職予定者平均金額約200万円の品目別用途に目安をつけたい。

●購入したいサービスのトップ10(株・投信などの金融商品を除く)は以下ようになる

男性退職予定者			団塊世代の妻		
1位	夫婦での国内旅行	50.1%	1位	夫婦での国内旅行	44.0%
2位	夫婦での海外旅行	38.3%	2位	夫婦での海外旅行	39.6%
3位	車	33.6%	3位	自宅のリフォーム	31.3%
4位	自宅のリフォーム	33.6%	4位	大型画面テレビ	23.6%
5位	大型画面テレビ	27.8%	5位	子供の結婚支援	22.2%
6位	趣味関係の道具	27.8%	6位	家族での国内旅行	21.8%
7位	パソコン	25.2%	7位	車	19.6%
8位	家電の買い替え	18.0%	8位	家電の買い替え	18.5%
9位	デジタル一眼レフカメラ	15.4%	9位	家族での海外旅行	16.7%
10位	子供の結婚支援	15.1%	10位	趣味関係の道具	16.0%

●夫婦での「国内」「海外」旅行、「自宅リフォーム」、「大型画面テレビ」がほぼ夫婦共通した購入希望アイテムであって、男性が希望する割合が高いのが「車」と続いている。

●後に、海外旅行・リフォーム・車への購入希望の詳細を分析するが、ここでは購入希望者の平均購入(支出金額)を用いて、退職金の割り振り%から計算した大型消費(上記海外旅行・リフォーム・車)とのバランスをみてみよう。

●海外旅行の平均支出希望金額278万円(6.8回)、リフォーム339万円、車246万円であって、それぞれの男性の購入意向は38.3%、33.6%、33.6%であるから、全体としてはこの3つの合計支出は男性退職予定者平均で314万円となる。割り振り%からの計算が200万円であったから、それを上回ることになる。

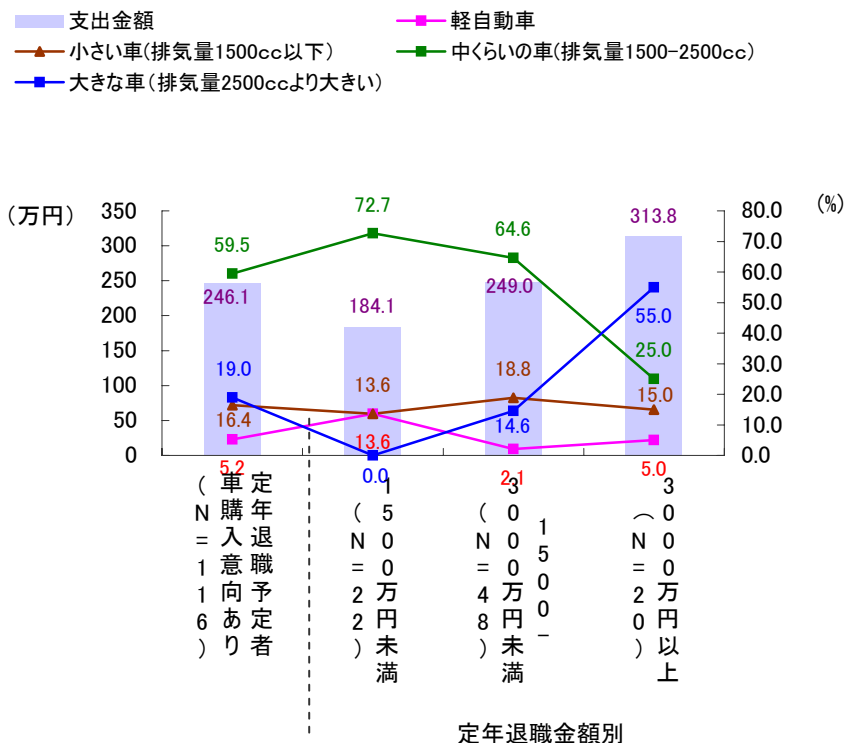
●もちろん、これらは現在の貯蓄や、いったん預貯金へ回された退職金からも支出されるだろうから、おかしな話ではない。むしろ原資はどこであろうと、この程度の支出はありうると考えられる。

20-(1) <購入したい車の大きさ(排気量)と支出金額>

問30-2: ご購入なさりたい車の大きさ(排気量)をお知らせください。(SA)

問30-4: 車の購入に支出してもよいと思われる金額をお知らせください。(SA)

購入したい車の大きさ(排気量)と支出金額



●退職予定者の車への希望の内容から見ていこう。

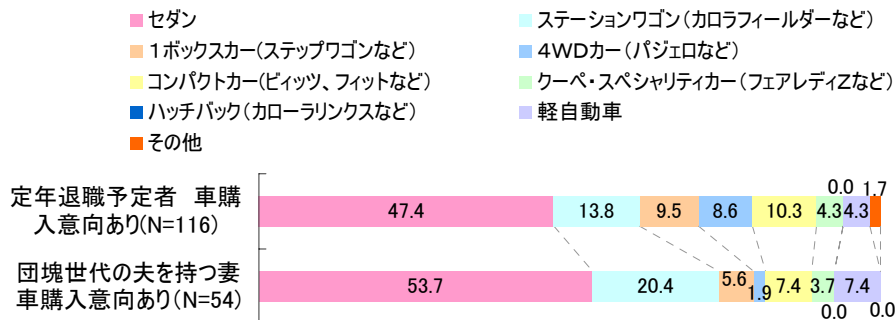
●車の購入希望者は男性退職予定者の33.6%。支出しても良いという平均支出予定金額は246万円。希望サイズは排気量1500-2500ccの中型車。

●退職金額別には、3000万円以上のプチ退職富裕層では排気量2500ccより大きい大型車への希望が多く、平均314万円支出しても良いとしている。

●小型車(排気量1500cc以下)を購入したいという人は、退職金額の多寡にかかわらず存在しており、夫婦でのライフスタイルを意識したものかもしれない。

20-(2) <購入したい車のタイプと重視点>

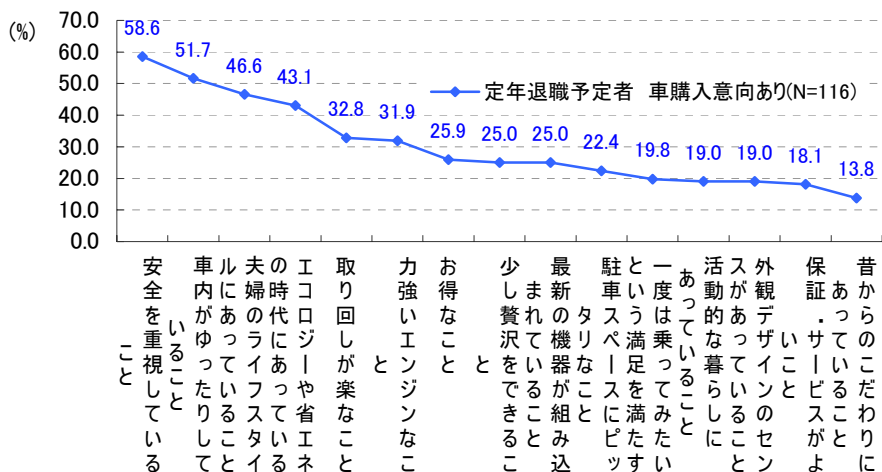
購入したい車のタイプ(SA)



●購入したい車のタイプは「セダン」が最も多く5割前後を占めるが、妻では「ステーションワゴン」にも人気がある、一方1ボックスカーや4WDには妻の支持は少ない。

●車購入時の重視点は「安全を重視していること」がもっとも多く、ついで「車内がゆったりしていること」「夫婦のライフスタイルに合っていること」「エコロジーや省エネの時代にあっていること」が続く。「取り回しが楽なこと」も3割人が支持している。

車を購入する時の重視点(MA)



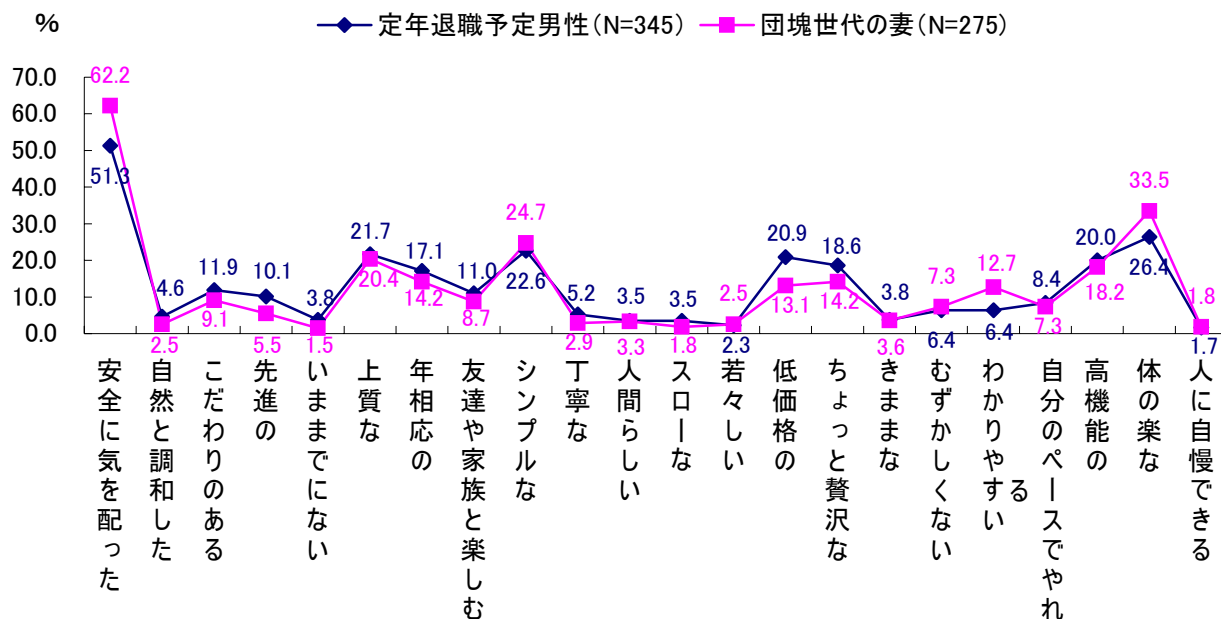
●逆に「昔からのこだわり」や「保証・サービスのよさ」「外観・デザインのよさ」などは下位の重視点となっている。

※総じて、機能や能力というより、安全性やゆったり感のある車であることを重視しているといえるだろう。

20-(3) <夫婦で楽しむ商品サービスへのこだわりの重視点(キーワード) : 夫婦で乗る車>

問24: 夫婦で楽しむための商品・サービスを選ぶとき、あなたがこだわって重視したいキーワードは以下のどれですか。あなたの感じに少しでもピンと来るものがあれば、それぞれいくつでもお知らせください。(MA)

夫婦で乗る車を選ぶキーワード

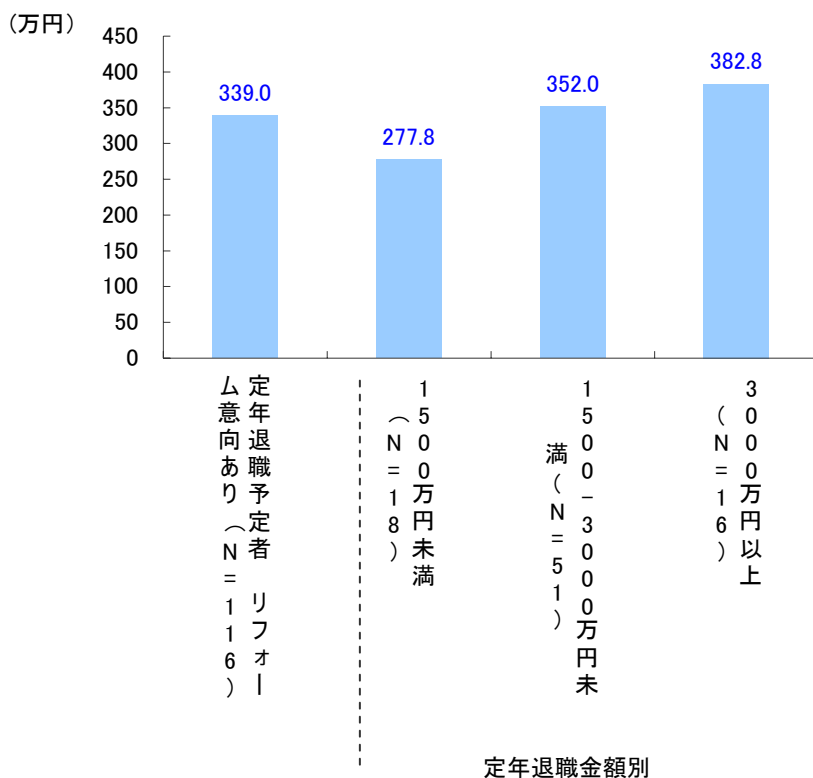


●<夫婦で乗る車>というコンセプトでのこだわりのキーワードは「安全に気を配った」が最も受容なこだわり点であるが、「体の楽な」「シンプルな」「上質な」などのキーワードが続いている。前の重視点の回答と類似した結果となっており、車選びは夫婦中心のライフスタイルをかなり意識したものだといえるだろう。

21-(1) <住宅リフォームの内容>

問31-2: リフォームにかけてもよいという金額はいくらぐらいでしょうか。(SA)

リフォームにかけてもよい金額(平均)



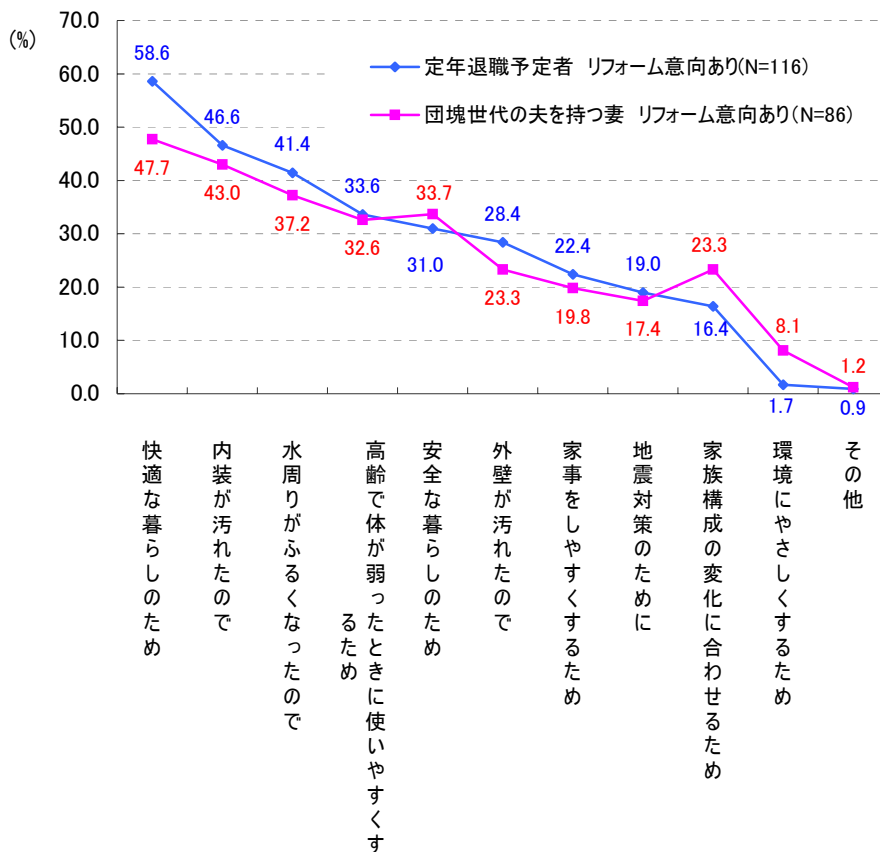
●住宅リフォームをする予定の人は退職予定者の33.6%。

●住宅リフォームにかけても良いという金額はリフォーム予定のある退職予定者平均で339万円。

●退職金額の多寡にはそれほどかわらず、3-400万円というところであろうか。

問31-3:リフォームをなさろうという目的は何ですか。(MA)

リフォームの目的(MA)



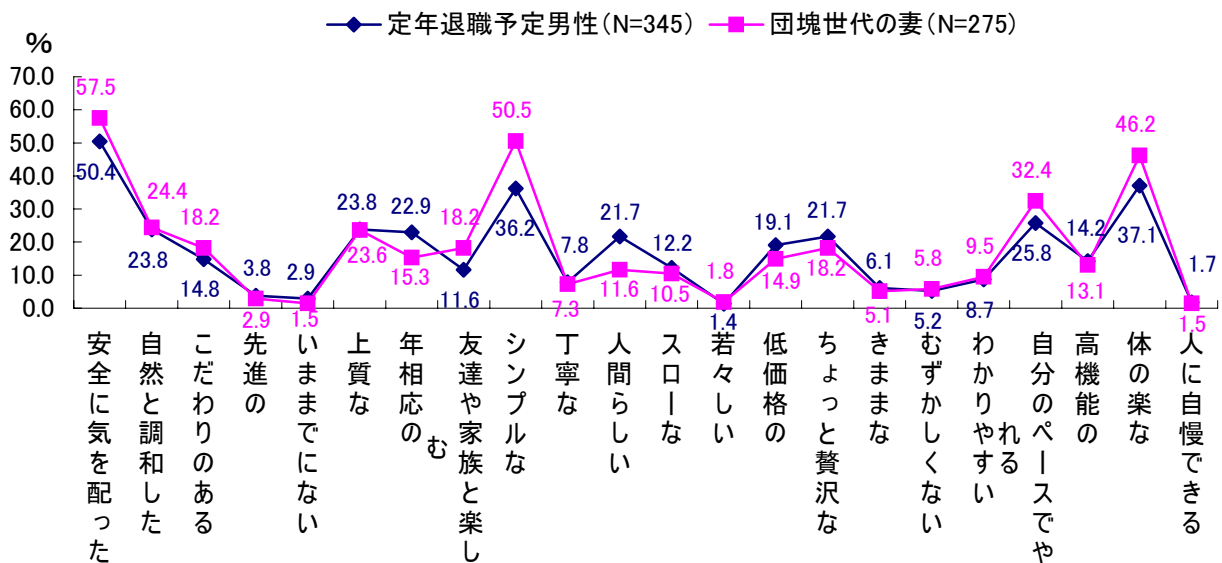
●住宅リフォームの目的は、「快適な暮らしのため」という項目を除いて考えると、「内装が汚れたので」「水周りが古くなったので」など住宅のネガティブを改修するという側面が多く、「高齢で体が弱ったときに使いやすくなるため」というバリアフリー対策や「安全な暮らしのため」という安全対策、「環境にやさしくするため」の積極的改修などのポジティブな側面はやや少なめだ。

●もっともリフォーム目的は複合的であろうから、これらの目的がいくつか組み合わさった目的ということになる。

21-(2) <夫婦で楽しむ商品サービスへのこだわりの重視点(キーワード) : 住宅リフォーム>

問24: 夫婦で楽しむための商品・サービスを選ぶとき、あなたがこだわって重視したいキーワードは以下のどれですか。あなたの感じに少しでもピンと来るものがあれば、それぞれいくつでもお知らせください。(MA)

住宅リフォームのキーワード



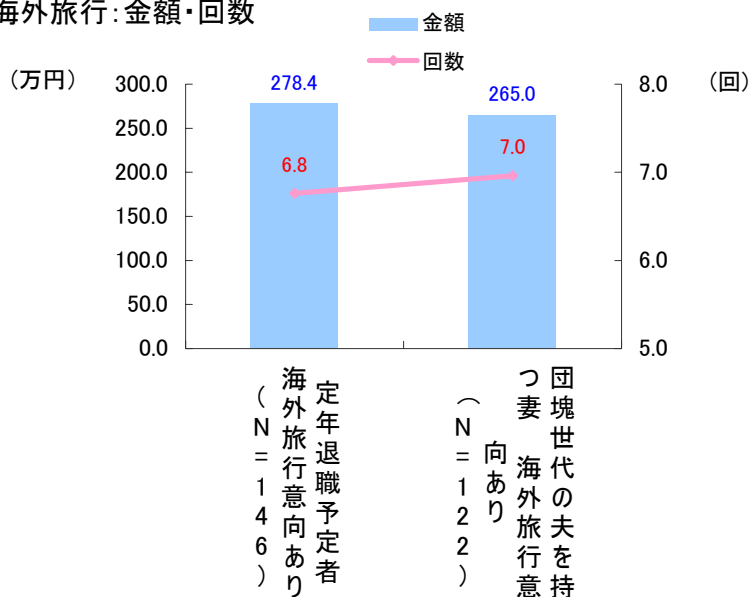
●夫婦で楽しむ住宅という観点からのリフォームの重視点は、「安全性」「シンプル」「体の楽な」「自分のペースでやれる」「自然と調和した」「上質な」などがキーワードにあげられている。安全性・シンプル・体の楽な、などは基調となる視点であろうが、「自然との調和」「自分のペースでやれる」という視点は退職後の夫婦の日常生活をかなり意識した項目ではなかろうか。

22-(1)＜海外旅行への希望＞

問32-1:退職後、ご夫婦や友人、家族との海外旅行には何回ぐらい出かけたいとお考えですか。(SA)

問32-2:退職後、夫婦や家族、友人との海外旅行に総額どの程度の支出をなさってもよい、とお考えですか。(SA)

海外旅行:金額・回数



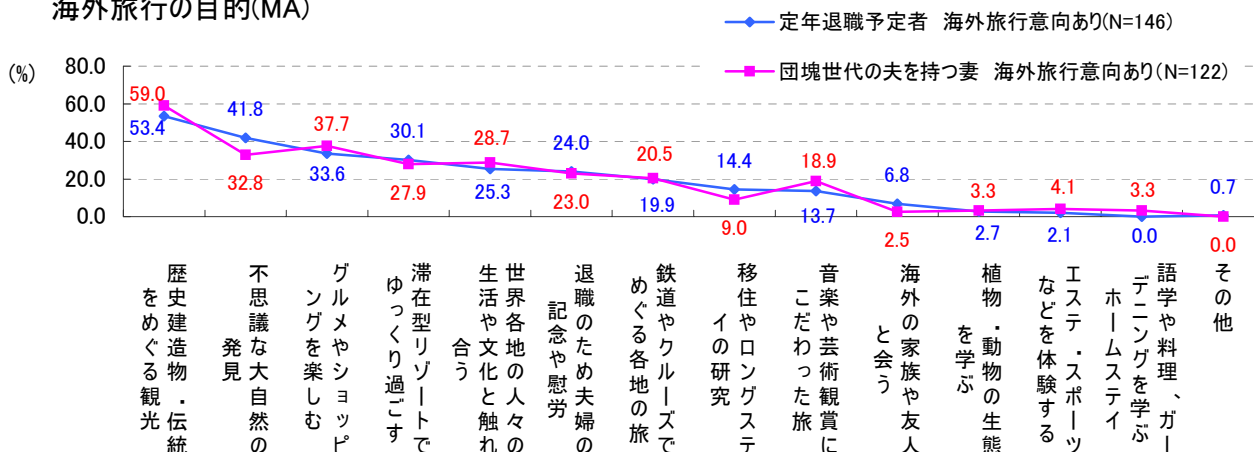
●定年退職後の夫婦での海外旅行は退職予定者38.3%妻39.6%。家族との海外旅行はそれぞれ9%、16.7%が行きたいとしている。

●退職後の海外旅行の希望回数、支出しても良い平均合計金額は、退職予定者6.8回、278万円。妻は7回、265万円であった。一回あたり35-40万円を想定しているようだ。

●出かけたい海外旅行の狙いは「歴史建造物・伝統をめぐる観光」、「不思議な大自然発見」、「グルメやショッピングを楽しむ」が3大目的となっている。

問32-4:退職後、出かけたい海外旅行の狙いは次のどれですか。(3MA)

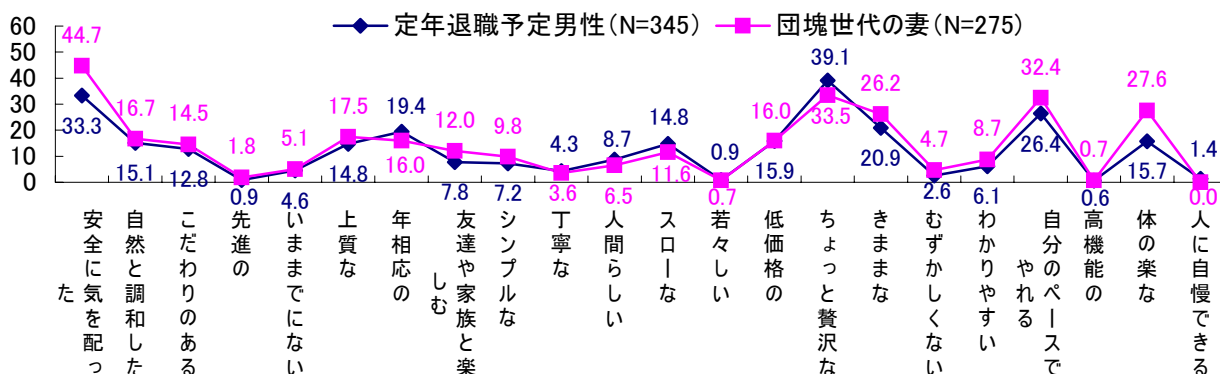
海外旅行の目的(MA)



22-(2)＜夫婦で楽しむ商品サービスへのこだわりの重視点(キーワード) :海外旅行＞

%

夫婦で行く海外旅行のキーワード

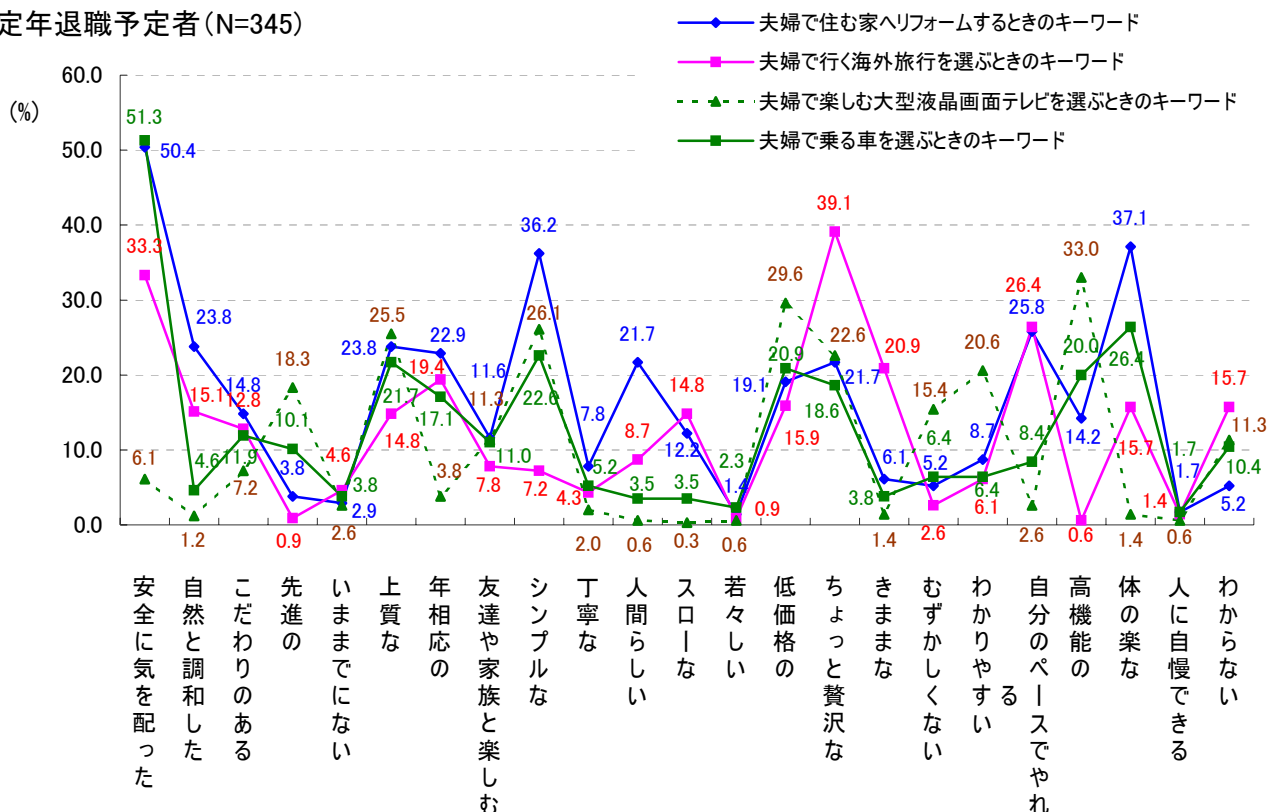


●夫婦で楽しむ海外旅行のこだわりのキーワードとしては、「安全に気を配った」「ちよつと贅沢な」「自分のペースでやれる」「体の楽な」「年相応の」「自然と調和した」などがあげられている。パック旅行でも日程や行程に余裕のある商品が望まれているということになる。

＜夫婦で楽しむ商品サービスへのこだわりの重視点（キーワード）：まとめ＞

問24：夫婦で楽しむための商品・サービスを選ぶとき、あなたがこだわって重視したいキーワードは以下のどれですか。あなたの感じに少しでもピンと来るものがあれば、それぞれいくつでもお知らせください。（MA）

定年退職予定者（N=345）



●男性定年退職予定者に絞って、定年後購入意向のある夫婦で楽しむ商品トップ4について、その重視点（こだわりのキーワード）を整理してみよう。

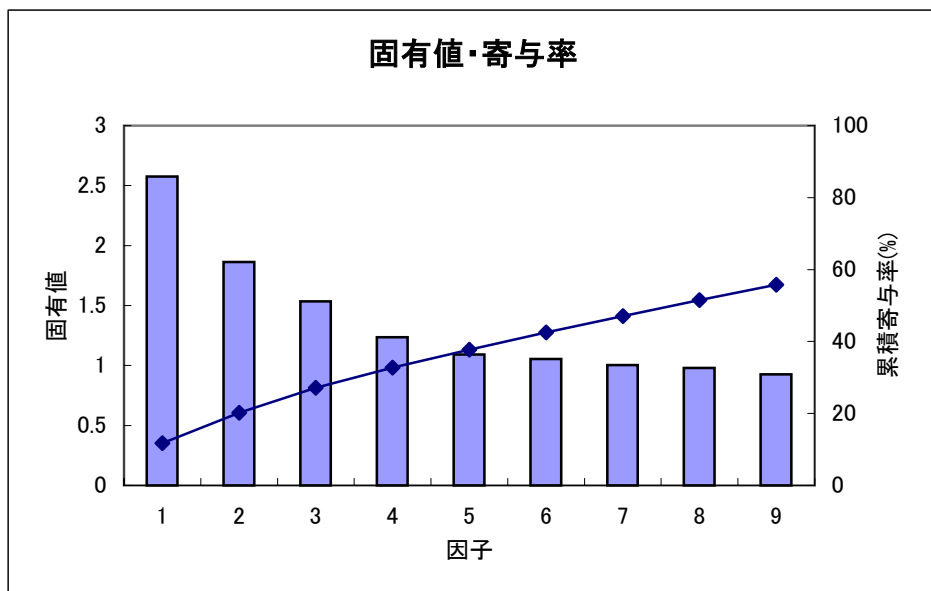
(1)「安全性」：大型画面テレビを除けば、残りの3つ、特にリフォームと車については50%を越えるこだわりを示している。「安全性」はいわばこれからの暮らしの原点ともいえることで、いいかえればリスクが少ないことがまず重要ということになる。

(2)「シンプル」：「海外旅行」をのぞけば、シンプルという特性もこだわりの重視点である。「リフォーム」や「大型画面テレビ」や「車」へもこの特性は望まれているところだ。シンプルだから体も楽だし、人間らしいともいえるかもしれない。

(3)「ちよっと贅沢な」：「海外旅行」でよく現れているが、「自分のペースでやれる」「年相応な」「きままな」などのこだわりと関係していて、単に高額のとこ、高級なという意味合いではなさそう。

(4)「高機能」：大画面テレビで重視されて入るが、それ뿐만 아니라機能性が高いだけではなくて、「低価格の」（割安感のある）、「上質感」が期待され、しかも操作がわかりやすいことが重要である。

23＜夫婦で楽しむ商品選定因子＞

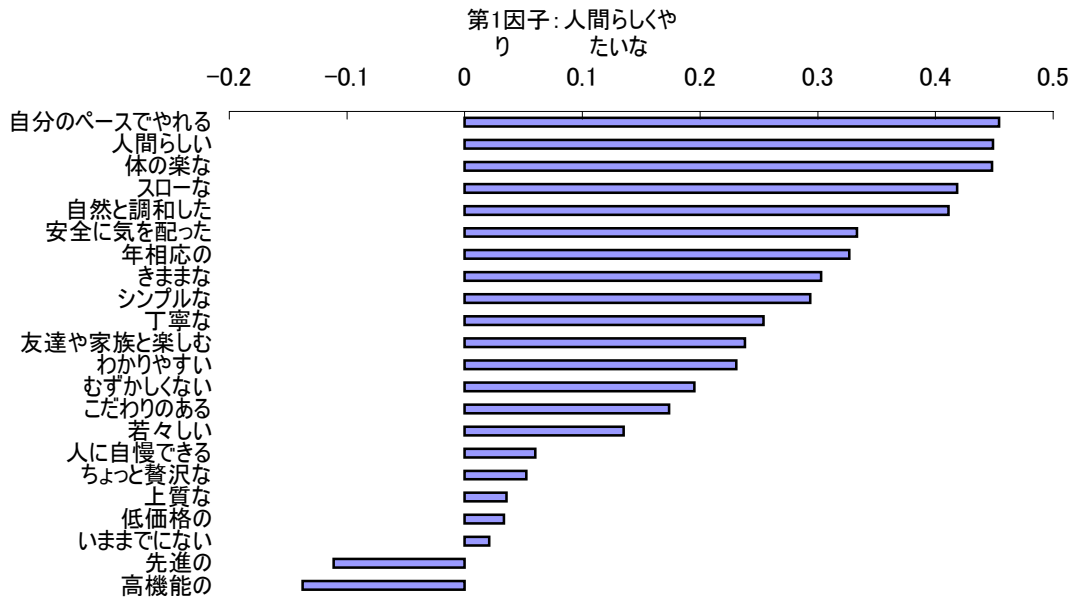


●夫婦で楽しむこれからの生活で購入意向の強い「リフォーム」「海外旅行」「車」「大画面テレビ」を選択する因子は第5因子までが影響しているが、特に第2因子までが大きく効いているのでこの2因子で商品ポジションマップを描いてみよう。

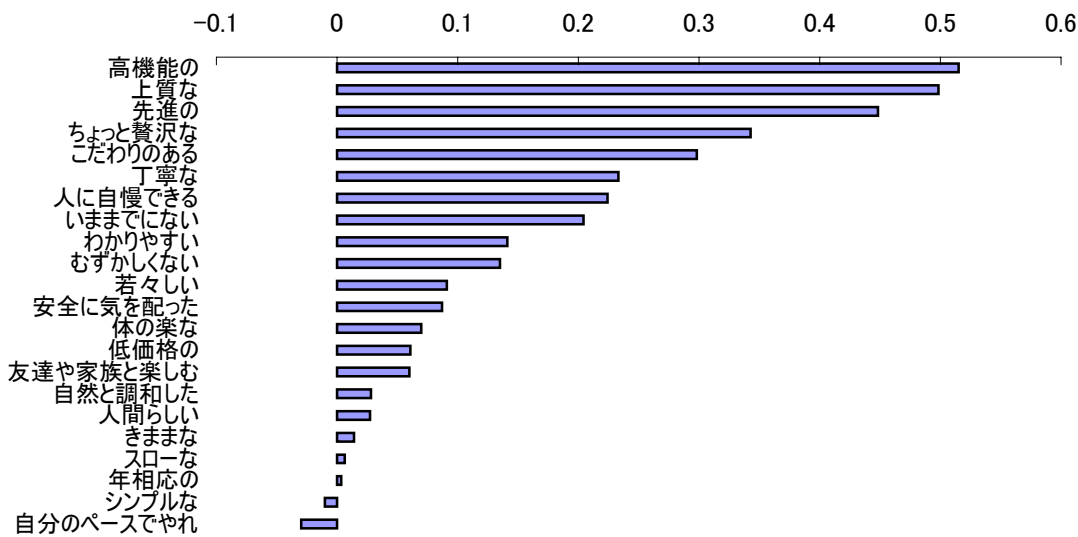
●第1因子は「人間らしくやりたい」因子とも呼べる因子で、高機能や先進性を重視しないという因子である。

●第2因子は同時に「高品質志向」とも呼べる因子で、上質、ちよっと贅沢、ということをも重視する因子である。

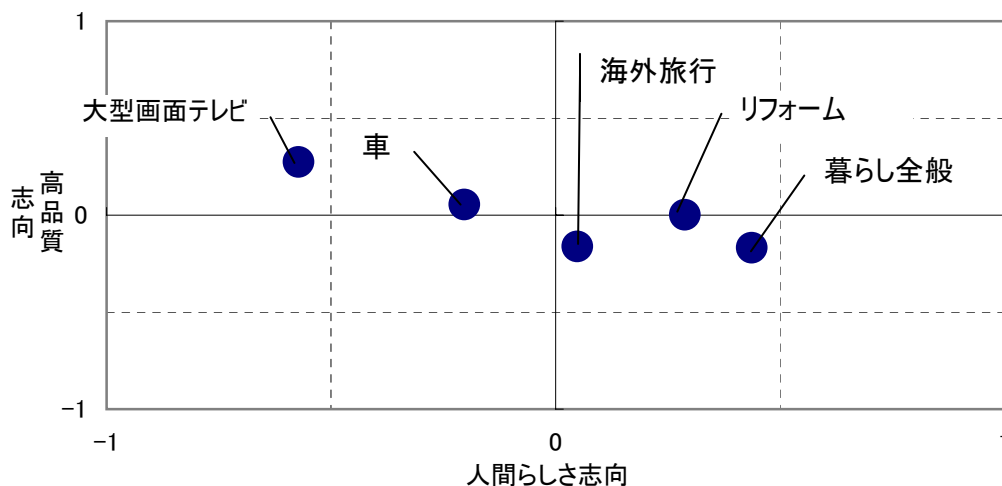
夫婦で楽しむ購入意向商品のこだわりの重視点(キーワード)



第2因子: 高品質志向



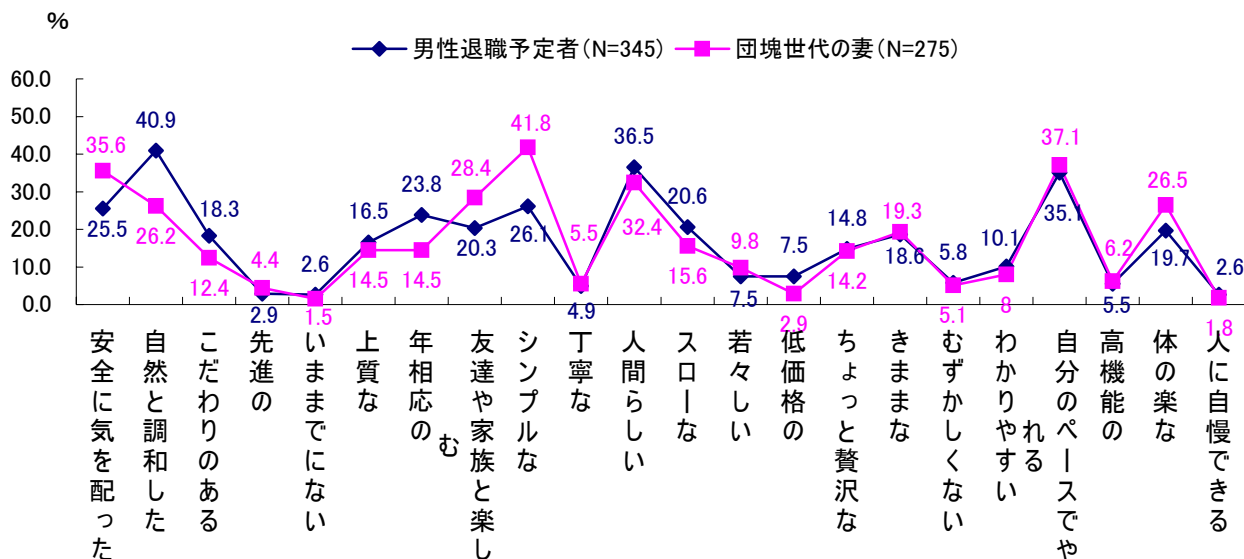
商品のポジショニングマップ



24＜夫婦で楽しむこれからの暮らしへのこだわりの重視点（キーワード）＞

問24：夫婦でこれからの暮らしを楽しむとき、あなたがこだわって重視したいキーワードは以下のどれですか。あなたの感じに少しでもピンと来るものがあれば、それぞれいくつでもお知らせください。（MA）

これからの望ましい暮らしのキーワード



●これからの暮らしの重視点として、暮らし全般について、どのようなキーワードがあげられたのか見てみよう。

●ある程度、男性も妻も似た傾向があるが、重要なポイントは「安全」「自然との調和」「シンプル」「人間らしい」「自分のペースでやれる」「体の楽な」となる。逆にこれからはあまり重視しない、というポイントは「先進の」「今までにない」「人に自慢できる」「高機能の」「丁寧な」というあたりであろうか。

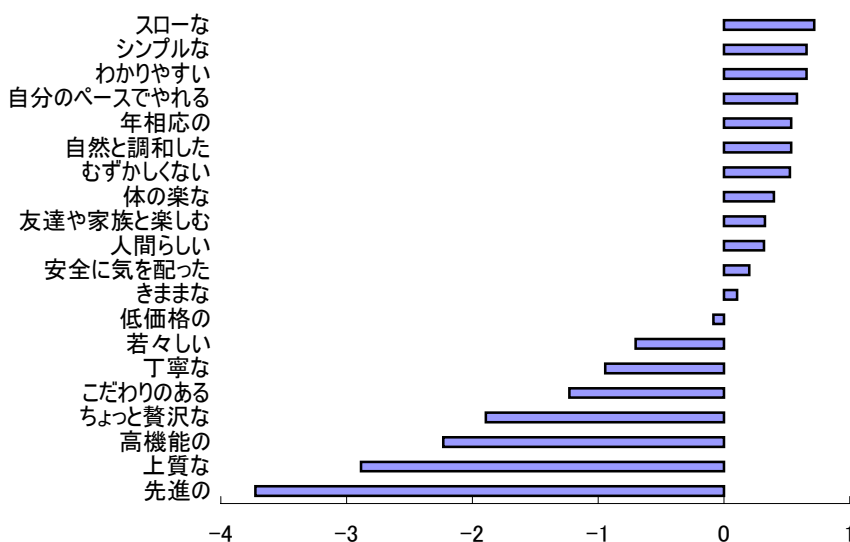
＜これからの暮らしの重要因子＞

数量化Ⅲ類による抽出因子

	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
第1軸	0.3356	8.41%	8.41%	0.5793
第2軸	0.2896	7.26%	15.68%	0.5381
第3軸	0.2879	7.22%	22.90%	0.5366
第4軸	0.2672	6.70%	29.59%	0.5169

＜第1軸：スローでシンプルに暮らせるかどうか＞

スローライフ軸

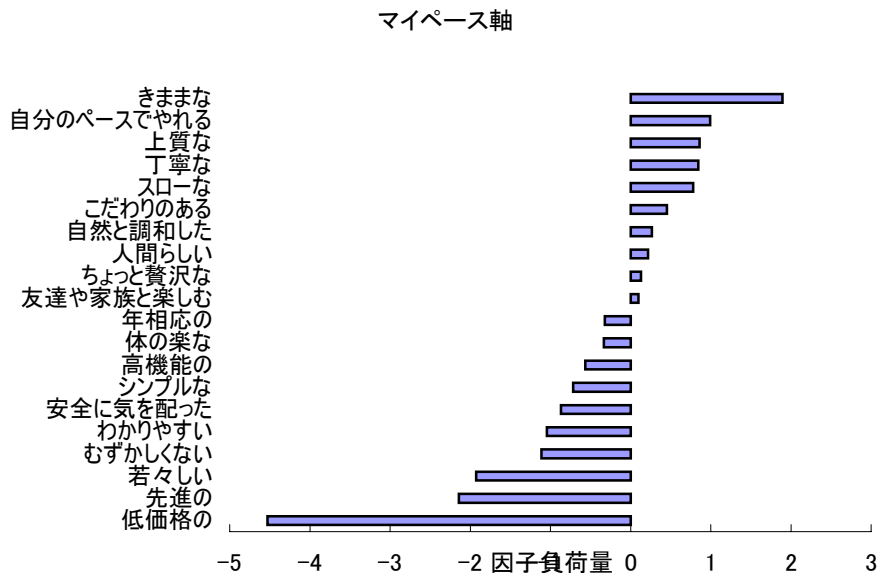


●これからの暮らしの重視点を因子分析した。

●7軸までの合計因子寄与率は50%あまりで、十分高いとはいえないが、そのうち主要な4軸について、見てみよう。残りの因子は4軸の裏側に相当するものであるように判断したためである。

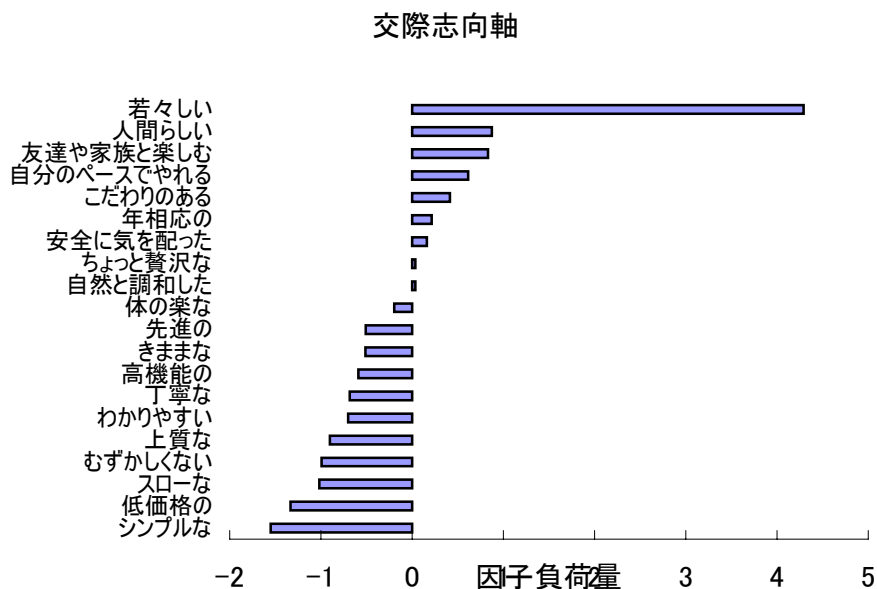
●＜第1軸＞は「スローライフ軸」である。「スロー」で「シンプル」で「わかりやすい」暮らしを重視したいと考えるか、「先進の」「高機能の」「ちょっと贅沢な」暮らしが良いかという軸である。

<第2軸:マイペースでできるかどうか>



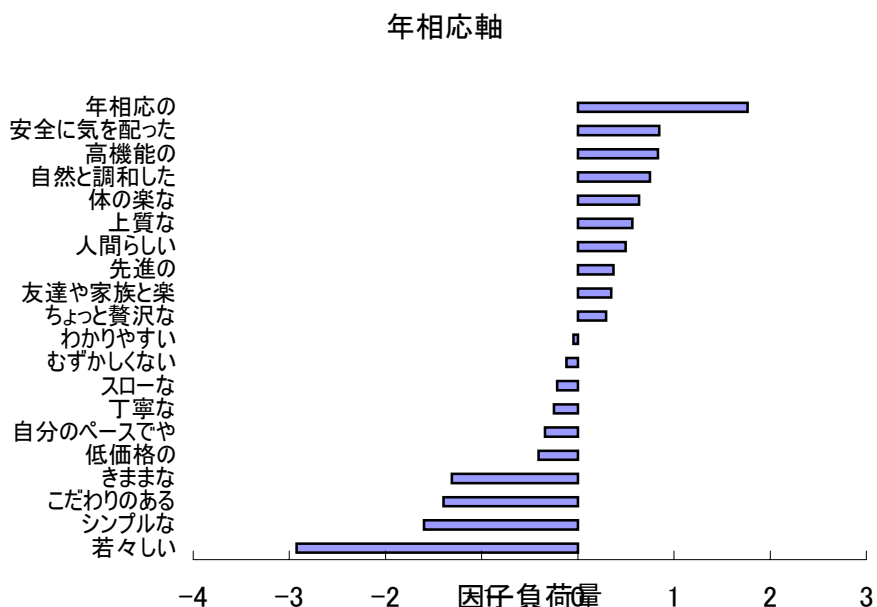
●<第2軸>は「マイペース軸」である。「きまま」「自分のペースでやれる」「ちょっと」「上質な」「丁寧な」暮らしを重視するか、逆に「低価格の」「先進の」「若々しい」暮らしを重視するか、という軸である。

<第3軸:若々しく付き合えるかどうか>



●<第3軸>は「交際志向軸」である。「若々しい」「人間らしい」「友達や家族と楽しむ」ことの出来る付き合いを重視するという暮らしか、逆になるべく人との付き合いを避け「シンプル」に、無駄を避けた「低価格の」「スローな」暮らしを望むか、という軸である。

<第4軸:年相応に暮らせるかどうか>



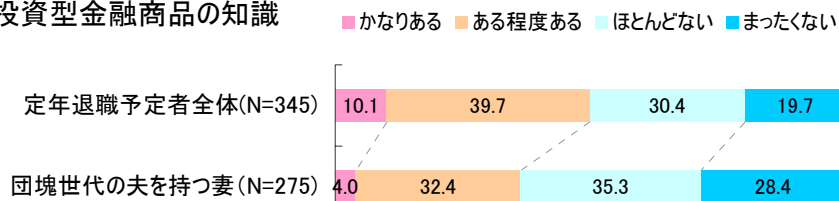
●<第4軸>は「年相応に」「安全に気を配った」という意味で「高機能な」「自然と調和した」それなりの年相応な安定した暮らしを重視するか、もしくは「若々しく」活動的な「こだわりの持つて」物事を割り切った「シンプル」で行動的な暮らしを望むか、という軸である。

※これら4軸で全ての「これからの暮らし」の重視点を説明できるわけではないが、主要なポイント(こだわり)は抽出されているように思う。

25＜投資型金融商品への関心＞

問33:あなたは外貨建金融商品・株式・投資信託などの投資型の金融商品についてどの程度の知識があると思われますか。(SA)

投資型金融商品の知識

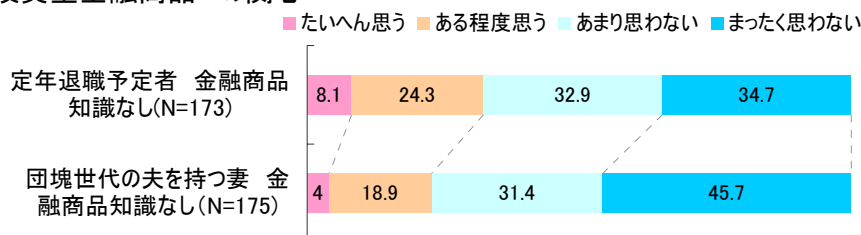


●株や投資信託に関する知識の有無についてはどうか。

●「ある小計」で男性は約50%、妻では36%の人が、「ある程度ある」も含めて、知識を持つ人が存在している中で、株や投資信託を購入したいという人は、男性定年退職予定者では39%、妻では27%あった。

問34:今後2-3年の間で、預貯金以外に投資型の金融商品を始めてみようと思われませんか。(SA)

投資型金融商品への関心

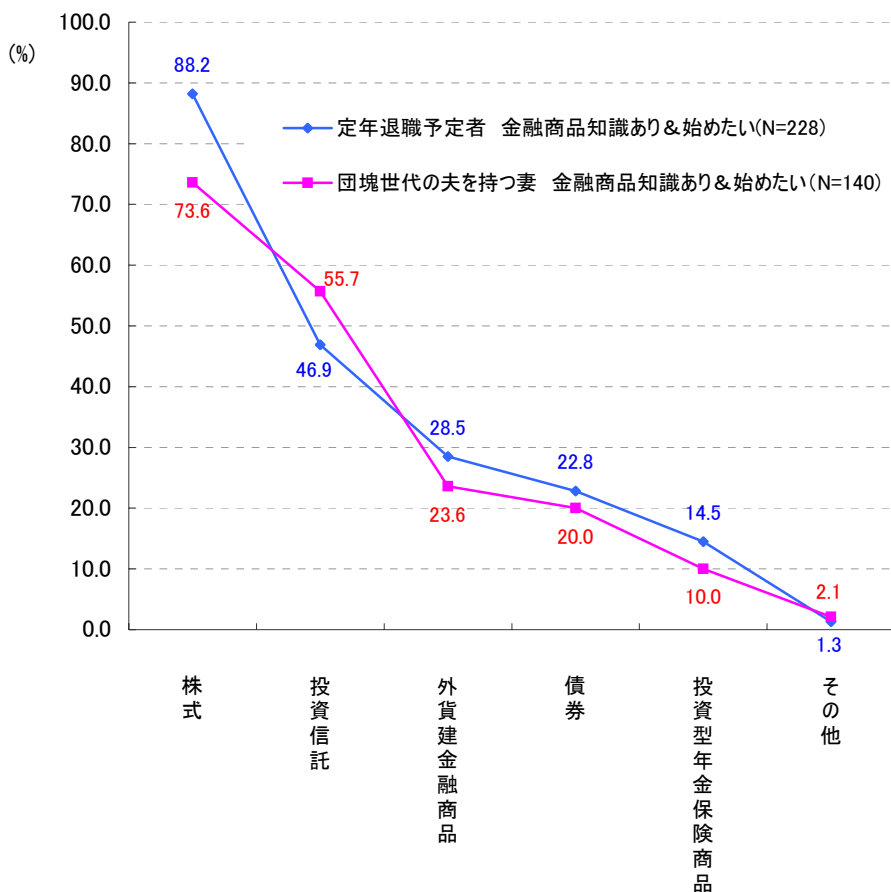


●一方、株や投資信託に知識がない人について、今後の投資型の金融商品への投資意向についてたずねた。

結果的には、知識がない人も男性で、そのうち32%の方は関心を持って投資して見たいと思っている。妻の方はややそれより少ないが、そのうち23%の人は始めてみたいとしている。

問35:どのタイプの金融商品にご関心がありますか。(MA)

関心のある金融商品のタイプ(MA)



●どのような金融商品に関心があるのかをたずねている。

●男性も妻も同様の傾向であるが、金融商品に対する知識があるか、もしくは知識はなくても始めたいとする人への関心は、株式へと向かっていることが最も多い。ついで投資信託であり、その他の金融商品はかなりの知識のある人が関心を持っている様子である。

「団塊世代の退職調査研究」

第3章 「退職者および退職者の妻への調査」 結果報告

<調査概要>

1)退職者の男性調査

- 1 対象者: 57歳～65歳の退職者男性
- 2 有効回答数: N=353
- 3 調査方法: インターネット、メール&ウェブ
- 4 調査地域: 全国
- 5 調査時期: 2006/8/12-8/15

2)退職者の夫を持つ妻調査

- 1 対象者: 退職の夫を持つ妻
- 2 有効回答数: N=236
- 3 調査方法: インターネット、メール&ウェブ
- 4 調査地域: 全国
- 5 調査時期: 2006/8/12-8/15

比較として

2006年4月実施の「退職予定者および団塊世代の夫を持つ妻調査」の結果も併載した。

- ①今後3年間に定年退職(早期退職を含む)を予定している男性給与所得者:有効回収345s
- ②団塊世代(56-58歳)を夫に持つ妻:有効回収275s

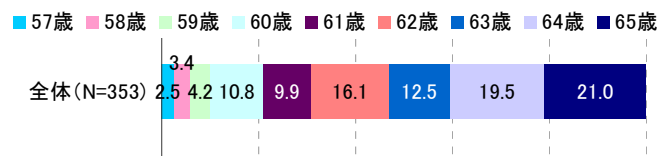
3)調査項目

○ 対象者のプロフィール	60
○ 自分は人生の何合目にいるか	62
○ 自分の人生への満足度	63
○ 第2の人生への考え方	64
○ 60代の生活目標	65
○ 退職後にやりたい夢やアイデアと実現したこと	66
○ 定年退職への態度	69
○ 定年退職後の生活への経済的不安	71
○ 定年退職後の就労	72
○ 定年退職者と妻の生活スタイル	73
○ 夫の自立と妻の評価:自分でできること、できると思うこと	76
○ 自分の居場所	77
○ 夫婦仲の認識	78
○ 団塊世代の意識	79
○ 定年退職後のライフスタイル意識	80
○ 退職金金額	82
○ 定年退職金の使途	83
○ 定年退職後の生活を豊にするために購入したい、サービス・商品	84
○ 購入したい車の大きさ(排気量)と支出金額	88
○ 購入したい車のタイプと重視点	88
○ 夫婦で楽しむ商品サービスへのこだわりの重視点(キーワード):夫婦で乗る車	89
○ 住宅リフォームの内容	90
○ 夫婦で楽しむ商品サービスへのこだわりの重視点(キーワード):住宅リフォーム	90
○ 海外旅行への希望	91
○ 夫婦で楽しむ商品サービスへのこだわりの重視点(キーワード):海外旅行	92
○ 投資型金融商品への関心	93

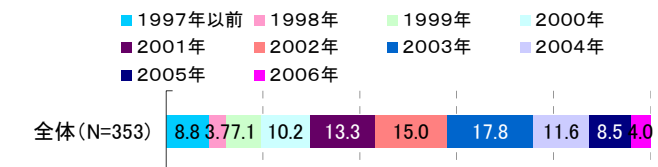
<(1)「退職男性および退職者を夫に持つ妻への調査」(2006年8月):対象者のプロフィール>

<退職者男性>

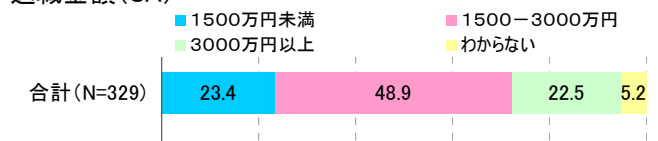
年齢別(SA)



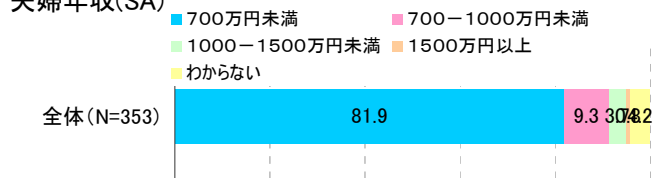
退職年(SA)



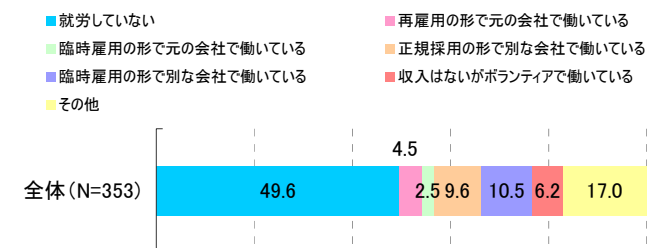
退職金額(SA)



夫婦年収(SA)



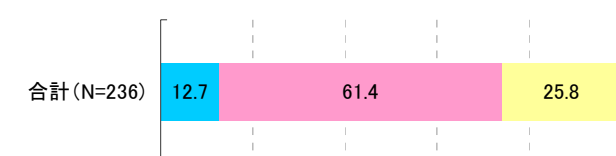
就労パターン(SA)



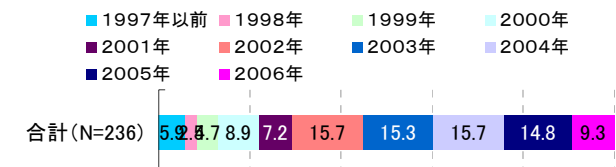
<退職者を夫に持つ妻>

年齢別(SA)

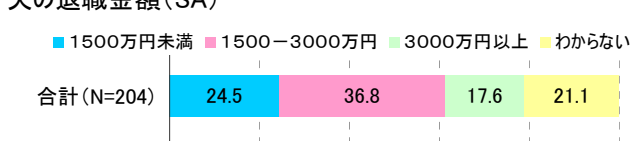
54歳以下 55-59歳 60歳以上



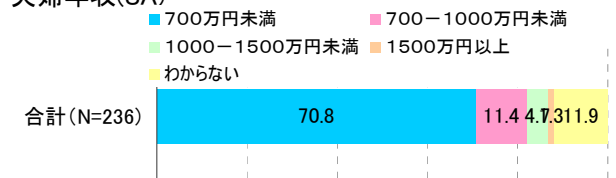
夫の退職年(SA)



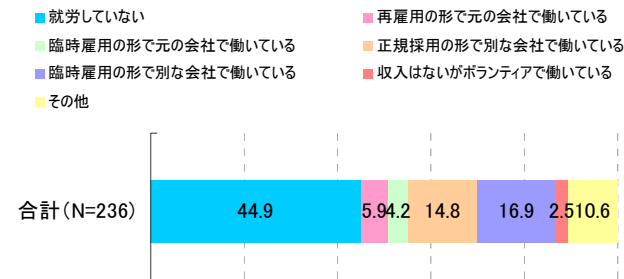
夫の退職金額(SA)



夫婦年収(SA)



夫の就労パターン(SA)



●対象者の年令

退職者男性は90%以上が60歳以上。妻は74%が60歳未満。

●退職年

退職者男性において、2年未満(2005年以降)が13%、2-3年(2003-4年)が29%あり、4-5年(2002-2001年)が28%あり、それ以上前が約30%となっている。妻の調査では夫の退職年は2年未満が25%程度を占めており、2-3年の夫が、同様に30%を占めるところから、比較的最近の退職者を夫に持つ妻である。

●退職金額

退職者男性においては1500-3000万円のグループが最も多く、49%を占める。妻の調査では「わからない」とする人も多い。

●夫婦年収

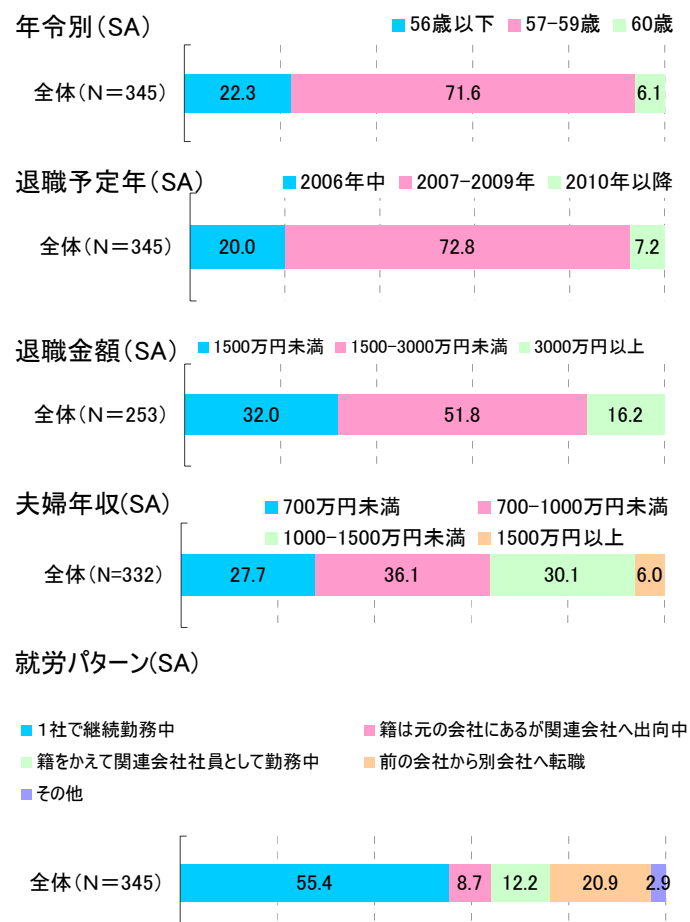
退職者男性、妻ともに700万円以下が最も多い。退職金金額と同様に、妻では「わからない」と回答する人が多い。

●就労パターン

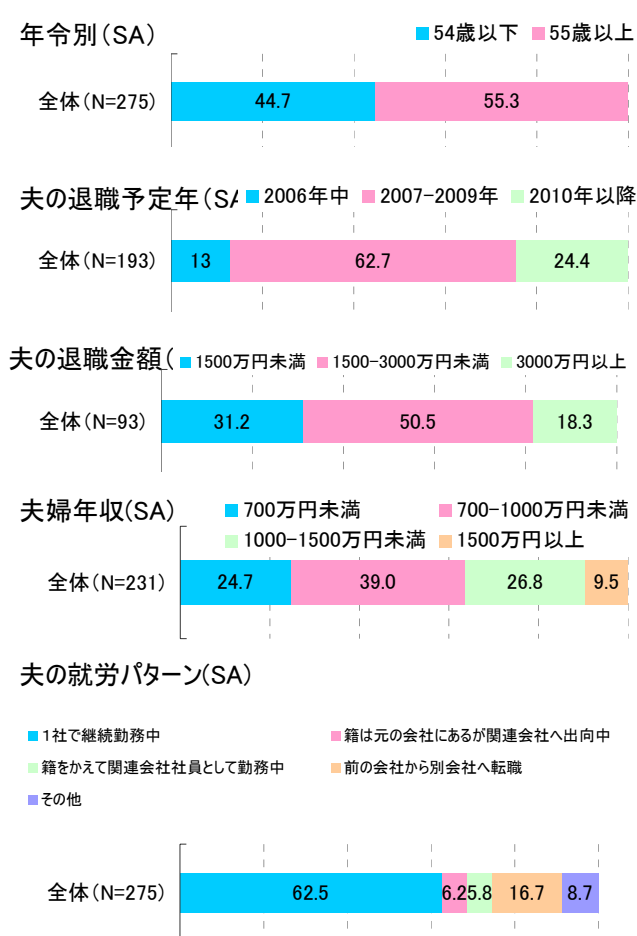
退職者男性の就労の有無をみると、「就労していない」が約5割、なんらかの(元の会社、別の会社合計)形で正規雇用の方は14%、臨時雇用の形では13%、となっている。収入がないがボランティアで働いている人は6%、その他が17%である。

妻の調査では「就労していない」45%、正規雇用21%、臨時雇用やはり約20%あり、となっている。夫の年令が相対的に若いせいか、多少就労率が高い傾向である。

＜(2)「退職予定者および団塊世代の夫を持つ妻への調査」(2006年4月):対象者のプロフィール＞
 ＜2006年以降退職予定男性＞



＜団塊世代の夫を持つ妻＞



●対象者の属性を事前に見ておこう。

＜2006年以降3年以内の退職予定男性＞

- 退職予定男性は、ここ3年程度で退職予定があるという限定から、57-59才(現在の団塊世代)が72%をしめ、56才以下が22%、60才が6%を占めている。
- 退職予定年も2007-2009年が73%、2006年中が20%という構成である。
- 退職金額の回答を得られたのは345s中253sである。1500-3000万円が52%をしめるが、1500万円以下も22%あり、3000万円以上は16%。
- 夫婦合算額面年収は700-1000万円が36%、1000-1500万円が30%、700万円以下が28%である。
- その就労パターンは1社で継続勤務中が55%。何らかの転職・移籍・出向組みは42%という構成である。

＜団塊世代の夫を持つ妻＞

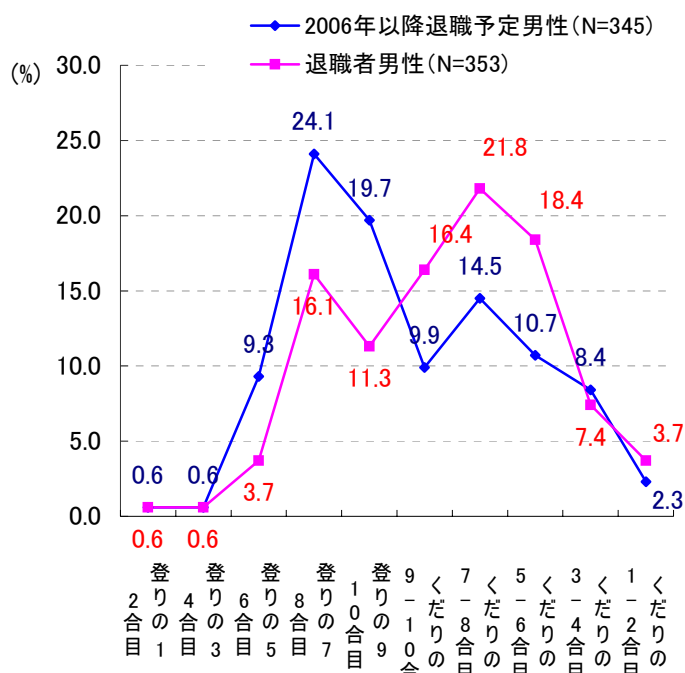
- 年令は団塊世代の妻ということもあって、同年代もかなり含まれて入るが(後述)、55歳を分岐点として、その上、その下がおおよそ半分ずつとなっている。
- 夫の退職予定年は、(夫の退職予定年をわかっている193sについて)2007-2009年が63%、2010年以降が24%、2006年中が13%となっている。
- 夫の退職金額は、(わかっている92sについて)男性退職予定者の回答分布と近い。
- 夫婦合算年収も男性退職予定者調査の回答分布に近い。

I. 調査結果の要約

1 <自分の人生の何合目にいるか>

【全対象者】問1：人生を山登りにたとえると、あなたはいま山の何合目にいると思われますか。（頂上を10合目とします）（SA）

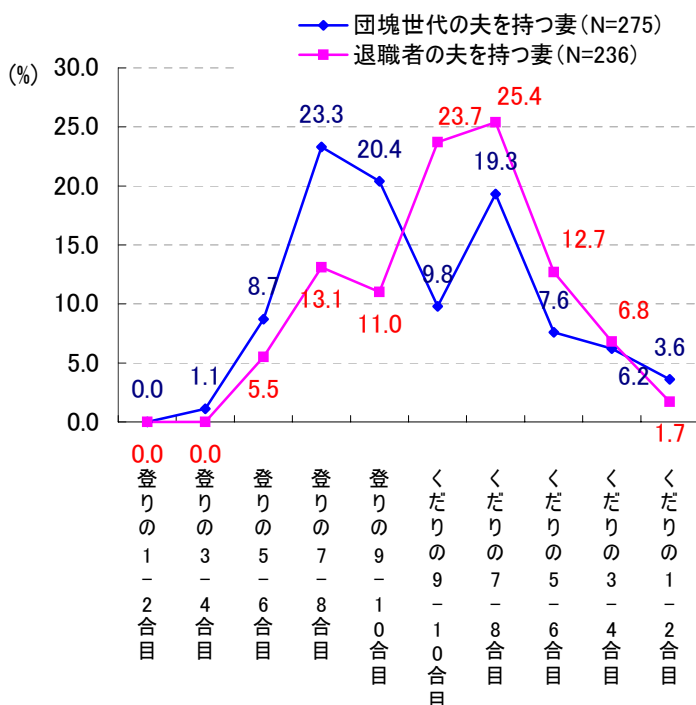
自分の人生の何合目にいるか（男性）



● 自分は今人生の何合目にいるか。退職者男性では「くだりの7-8合目」とする人が最も多く、22%あまり。「下り合計」では68%の人がそう認識している。

一方（比較のために）退職予定者では「のぼりの7-8合目」という人が24%と最も多く、「登り合計」では64%いる。退職というイベントが男性の「のぼり」「くだり」認識の分水嶺となっている。

自分の人生の何合目にいるか（女性）



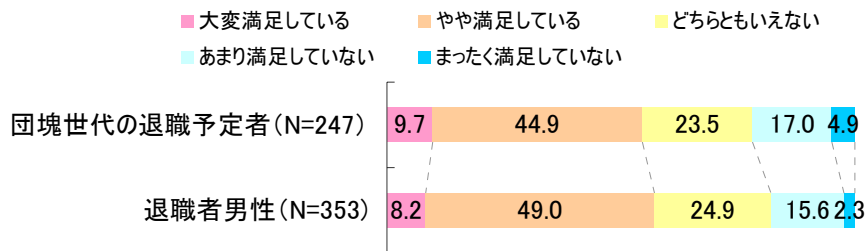
● 女性ではどうか。やはり退職というイベントは人生の上り下り意識に影響があるものなのか。

退職者男性を夫にもつ妻で最も多いのはやはり「くだりの7-8合目」25%、あるいは「くだりの9-10合目」24%。「下り合計」で70%となる。他方団塊世代の夫を持つ妻はどうだろうか。最も多いのは「のぼりの7-8合目」23%、あるいは「のぼりの9-10合目」20%である。「登り合計」は54%しかない。「くだりの7-8合目」という人も19%存在している。もちろん夫の退職が原因かどうかは最終的には不明であるが、のぼりとくだりの意識には多少なりとも夫の退職が原因している可能性は高い。

2＜自分の人生への満足度＞

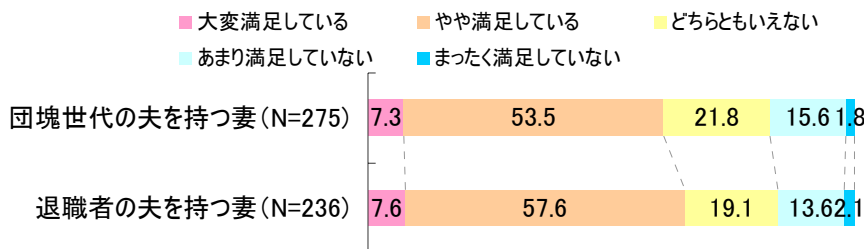
【全対象者】問2：あなたはこれまでのご自分の人生にどの程度満足なさっておりますか。(SA)

自分の人生の満足度(男性)(SA)



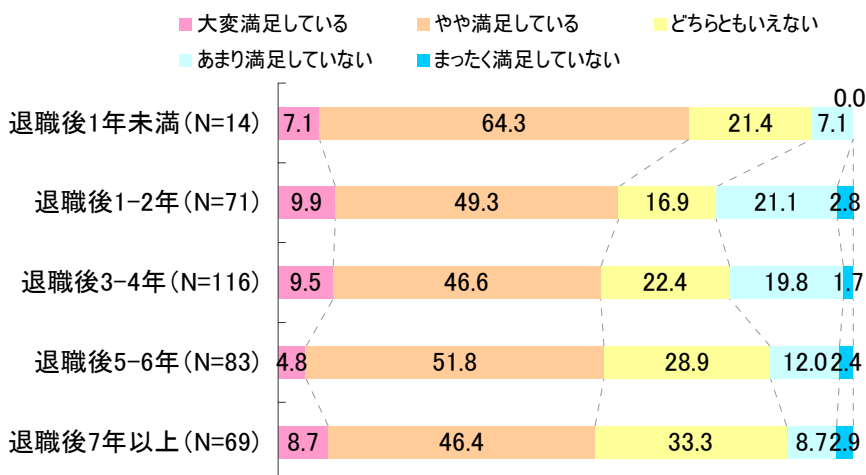
●「自分のこれまでの人生にどの程度満足しているか」退職者男性では57%が「満足している」であるし、退職予定者でも55%あまりが「満足」である。

自分の人生の満足度(女性)(SA)



●女性の側でもこの傾向は同様である。退職者男性の妻では65%が「満足」であり、団塊世代の夫を持つ妻においても61%が「満足」している。

自分の人生の満足度(退職者男性退職後経過年別)(SA)

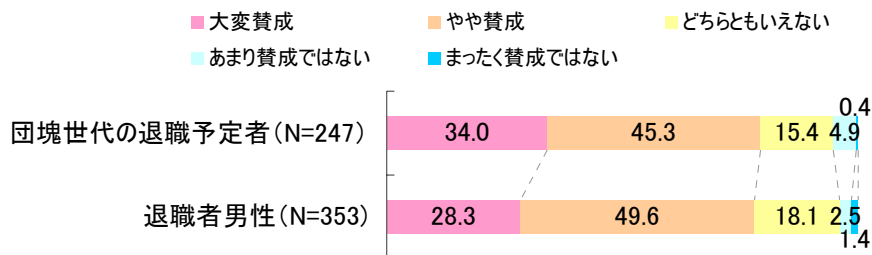


●退職者男性の退職後の経過年数によって、この満足度は変化するものだろうか。退職直後(1年未満)の人は、N数は少ないが、概して満足度は高い。しかし、1-2年経過すると「不満度」が増加する。しかしそれも徐々に収まってきて、決して「満足」感が深まるわけではないが、「どちらともいえない」が増加していく。なんらかの理由によって、不満を解消していく傾向があると読むことができるだろうか。たとえば、退職直後の自由感は満足度を高めるが、その自由感がある期間経過すると、逆に飽きや不充足感を生じ、いろいろなフラストレーションの元になる。しかし適当な趣味や活動、外出などを発見し、満足感を高めるわけではないが、不満を忘れさせている、ということがいえそうである。

3<第2の人生への考え方>

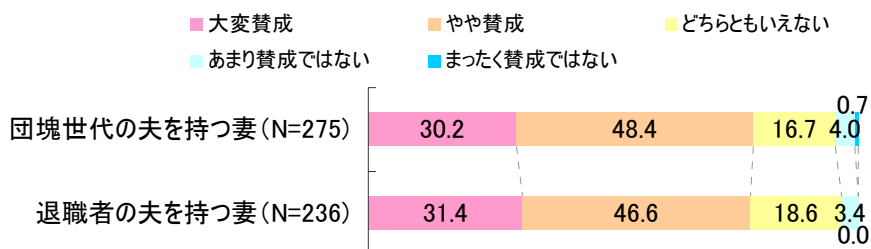
【全対象者】問3:「人生は仕事や子育てがすべてではない、退職後や子供が成長した後にこそ、もうひとつ自分の人生がある」という考えがありますが、あなたはこの考えについてどう思われますか。(SA)

第2の人生への考え方(男性)(SA)



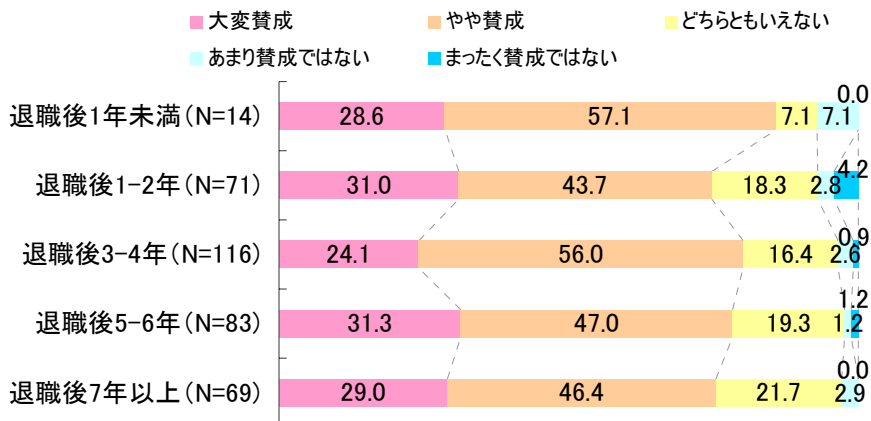
●「第2の人生」への考え方は基本的には前向きである。退職者男性よりも退職予定者の方が、やや積極的のようなのは、これからの第2の人生なので期待値も大きいということだろう。

第2の人生への考え方(女性)(SA)



●女性でも同様である。8割の人は積極的にかかわろうという姿勢でいる。退職者男性の妻も退職予定者の妻も前向きである。

第2の人生への考え方(退職者男性退職後経過年別)(SA)

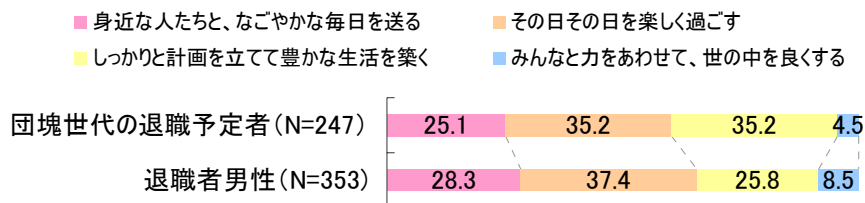


●退職後、経年によって第2の人生への考え方に変化が起こるだろうか。基本的には第2の人生を前向きに捉えていこう、という姿勢に変化はないが、多少、最初の勢いは減少するのかもしれない。しかし基本的には、いくつになっても人生張り切っていきたい、という前向きな姿勢を示す人が大勢を占める。

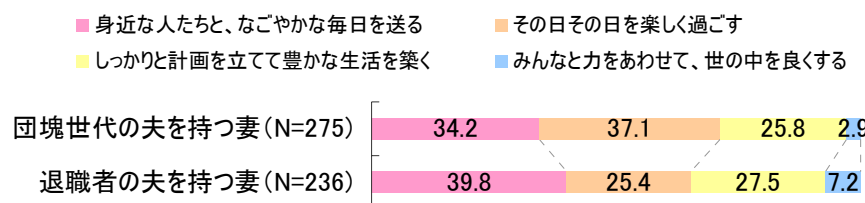
4＜60代の生活目標＞

【全対象者】問4：あなたは60代のご自分の生活についてどのような目標をおもちですか。(SA)

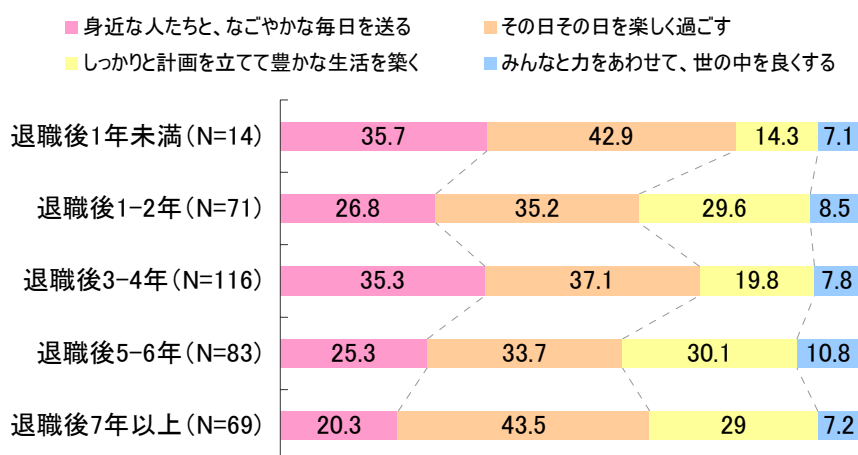
60代の生活目標(男性)(SA)



60代の生活目標(女性)(SA)



60代の生活目標(退職者男性退職後経過年別)(SA)



●60代の生活目標は退職予定者と退職者男性とでは多少変化が見られる。それは退職予定者では35%あった「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」という目標が、退職者男性では26%まで大幅に減少することである。逆にいえば退職予定者はまだ、現役であるから、この生活目標はまだ捨てていないということである。

●女性においては、この「しっかりと計画、豊かな生活」という目標に関して、団塊世代の夫を持つ妻と退職者男性の妻とでは違いがない。男性と比べて違いがあるのは、「身近な人たちとなごやかな毎を送る」と「その日その日を楽しく暮らす」という目標である。それぞれ、男性よりもかなり多くなっている

退職者男性の妻では「身近な人となごやかな…」という目標が最も支持され、一方団塊世代の夫を持つ妻では「その日その日を楽しく…」を支持する人が多い。
【快】志向から【愛】志向へと軸足が変化するのであろうか。

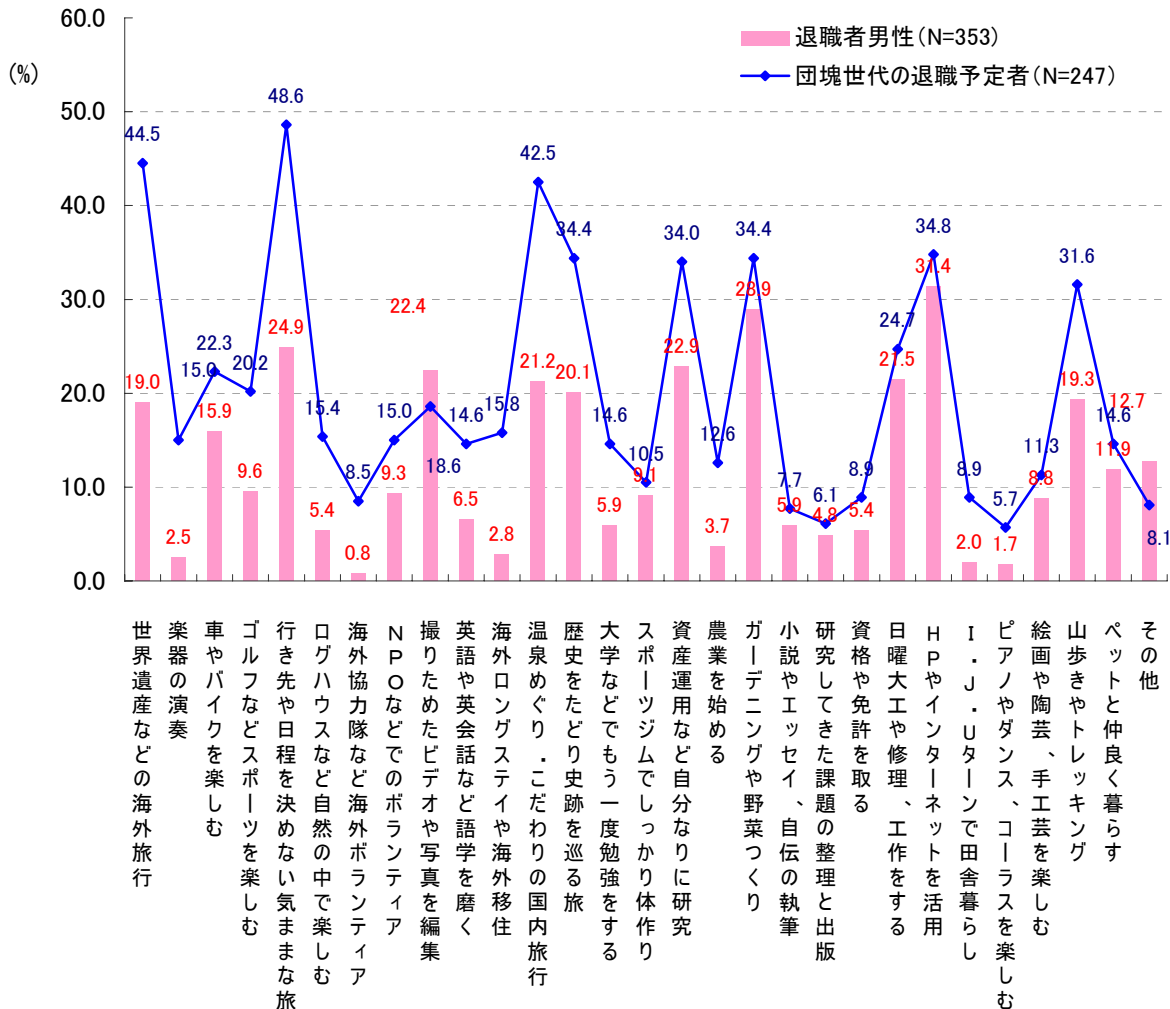
●退職者男性の経年変化で目標の変化をたどってみると、あまりはっきりとはないが、「その日その日を楽しく暮らす」という目標がしっかり定着していく傾向が見られる。退職直後はある種、浮かれ気分で「楽しく」「なごやかな」が目標となっているが、1-2年後には「しっかりと計画」を立てることの重要性に気がつき、再構築期が来るようだ。そして、「しっかりと計画しながら」「その日その日を楽しくすごそう」という落ち着きが戻ってくる。そんな足跡が見受けられそう。

5-(1)-①＜退職後にやりたい夢やアイデアと退職後に実現したこと＞

【定年予定者】問5：あなたには、「これまでやりたくてもできなかったが、退職後にはできればやってみたい。」という夢やアイデアがありますか。(MA)

【退職者】問5：あなたには、「退職前にはやりたくてもできなかったが、退職したのでようやく実現した、あるいは退職をきっかけに新しく始めた。」ということがありますか。それはどんなことでしょうか。(MA)

退職後にやりたい夢やアイデア(男性)(MA)



●退職前に見ていた「夢」や「希望」はどの程度「実現」するのだろうか。必ずしも裏付けのある夢や希望ではなかったかもしれないし、同一人物の追跡ではないから、正確には言い切れない。しかし定量としてみると、退職前の夢が退職後に実現した率はあまり高くはない。実現したことは、一般的にいて、あまりとっぴなことや費用のかかることではなく、身近なことであることが多い。

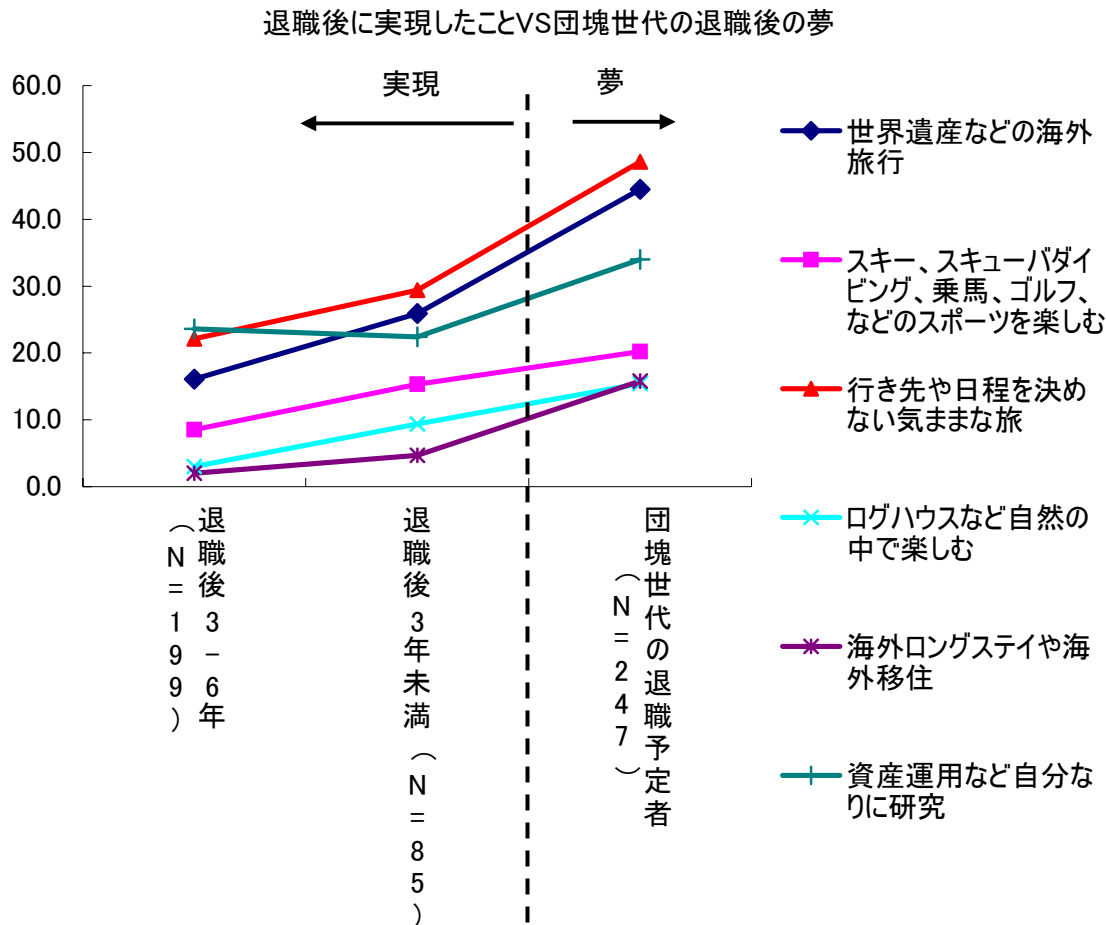
●退職予定者が夢みる退職後のイベントは、希望の多いものから「行き先や日程を決めない気ままな旅」(49%)、「世界遺産などの海外旅行」(45%)、「お遍路や温泉めぐりなどこだわりの国内旅行」(43%)、である。4割以上の人の心をひきつけている。時間や費用もかかるであろうそれらに次いで、3割台の期待イベントは、「ホームページづくりなどのインターネット活用」「ガーデニングや野菜作り」「歴史や史跡を巡る旅」「資産運用など自分なりに研究」「山歩きやトレッキング」と続く。

●それに対して、実現できたものは「ホームページ作りなどインターネット・・・」(31%)「ガーデニング・・・」(29%)など日常の出来事に近いものが多い。「気ままな旅」も、それに次いで実現されているが、おそらく期待値よりも規模は縮小しているのではあるまいか。

5-(1)-②＜退職後にやりたい夢やアイデアと退職後に実現したこと:続き＞

【退職者】問5:あなたには、「退職前にはやりたくてもできなかったが、退職したのでようやく実現した、あるいは退職をきっかけに新しく始めた。」ということがありますか。それはどんなことでしょうか。(MA)

【定年予定者】問5:あなたには、「これまでやりたくてもできなかったが、退職後にはできればやってみたい。」という夢やアイデアがありますか。(MA)



●退職者が退職前にどのような夢をもっていたか、すでに退職した人の夢についてはわからないが、何を退職後に実現させたかについてはわかる。また、団塊世代の退職予定者が実際にどのようなことを退職後に実現させるかはわからない。しかし、傾向として、徐々に退職者が時系列的に「何か」を実現することが多くなっているとしたら、また団塊世代の退職前の夢が、同様に高いとしたら、おそらく団塊世代はさらにその「何か」の夢を実現する割合は高くなるだろう。もちろん、夢の率そのものが実現率にはならないだろう。しかし3年前の退職者よりも実現率は高くなる可能性は高い。

●そこで、退職者を3-6年前に退職した人とここ3年以内に退職した人とにわけ、どのようなことを実行する人が多くなっているのかを見てみよう。さらにその延長戦上に団塊世代の夢を置いてみよう。おそらく、ここにあげられた夢や希望が実現する率は前の年代の退職者よりも大きくなるのではないだろうか。

●例えば、「気ままな旅」「世界遺産の旅」「資産運用」「スポーツ」「ログハウス」「史跡めぐり」「海外ロングステイ」など、ここにあげた行動はすべて右肩上がりであって、団塊世代の夢はその上を行っている。

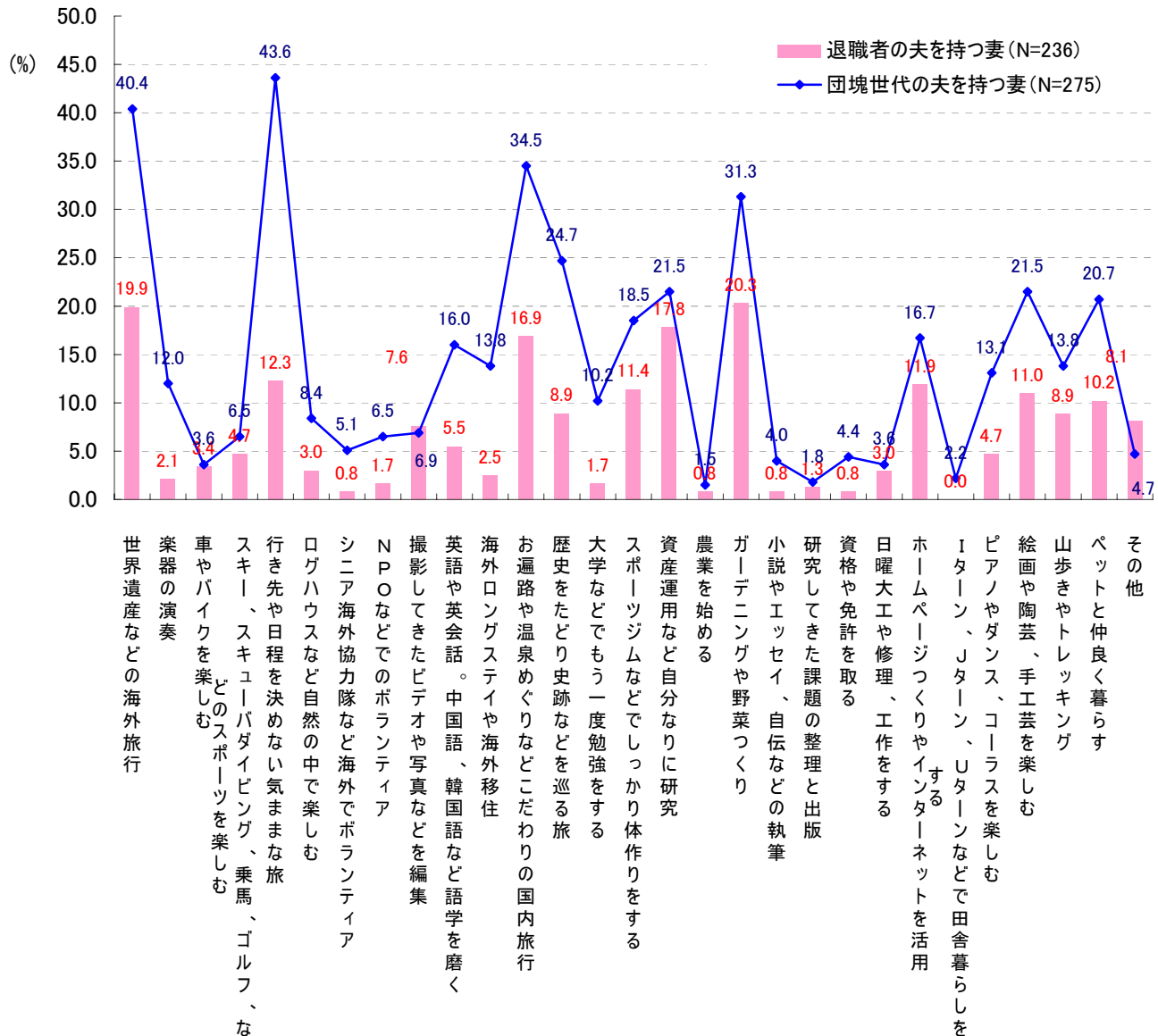
●団塊世代だから実現するという理由はここでは見つからないが、6年前より3年前のほうが増加しているイベントは、2007年以降には実行者が減少するという根拠はないとおもわれる。夢は念じれば実現するという性格もあろう。おそらくここにあげたイベントの実行者はかなり増加すると見るべきだろう。

5-(2) <夫の退職後にやりたい夢やアイデアと夫の退職後実現したこと>

【団塊の妻】問5: あなたには、「これまでやりたくてもできなかったが、夫が退職したときには是非やってみたい。」という夢やアイデアがありますか。(MA)

【退職者の妻】問5: あなたには、「夫の退職前にはやりたくてもできなかったが、退職したのでようやく実現した。あるいは退職をきっかけに新しく始めた。」ということはありませんか。それはどんなことでしょうか。(MA)

退職後にやりたい夢やアイデア(女性)(MA)



●女性も男性と似たような傾向を示している。

●団塊世代を夫に持つ妻が、夫が退職後にしたい3大夢といえば、「気ままな旅」(44%)、「世界遺産の旅」(40%)、「こだわりの国内旅行」(35%)である。一方、退職者男性の妻において、実現した夢は「ガーデニング」(20%)、「世界遺産の旅」(20%)、「資産運用」(18%)、「こだわりの国内旅行」(17%)となっており、夢と実現率との間の差は大きい。

●また男性と比べると、総じて、女性の方が夢見る率も実現率も低い傾向がみられる。おそらく退職が男性ほど身近かつ絶対的なものではないため、夫の退職後といってもあまり実感が湧かないか、あるいはそもそも夫の退職後にはそれほど期待していないか、のどちらかであろう。

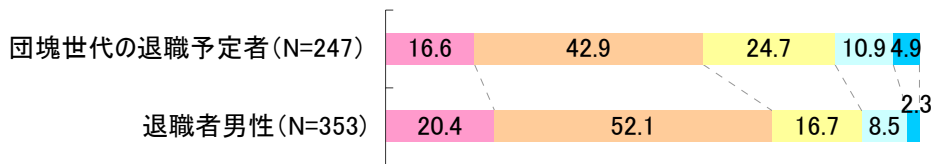
6＜定年退職への態度＞

【定年予定者】問7：あなたは定年退職についてどのようにお感じになっていますか。(SA)

【退職者】問7：あなたは定年退職について現在どのようにお感じになっていますか。(SA)

定年退職への態度(男性)(SA)

- 大変楽しみにしている/大変楽しんでいる
- やや楽しみにしている/やや楽しんでいる
- どちらともいえない
- あまり楽しみにしていない/あまり楽しんでいる
- まったく楽しみにしていない/まったく楽しんでいる



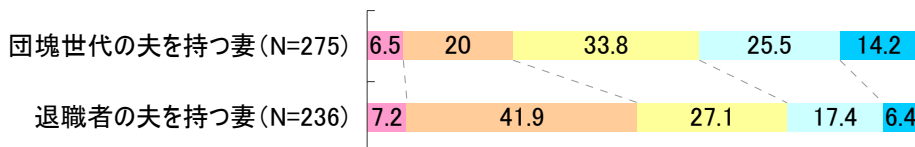
●団塊世代の退職予定男性は定年退職を「楽しみにしている計」で約6割、退職男性は7割が「楽しんでいる計」である。総じて、退職男性は定年をエンジョイしているわけだし、退職予定男性も一般的には楽しみたいと思っているわけだ。

【団塊の妻】問7：あなたは夫の定年退職についてどのようにお感じになっていますか。(SA)

【退職者の妻】問7：あなたは今、定年退職後の夫との生活についてどのようにお感じになっていますか。(SA)

定年退職への態度(女性)(SA)

- 大変楽しみにしている/大変楽しんでいる
- やや楽しみにしている/やや楽しんでいる
- どちらともいえない
- あまり楽しみにしていない/あまり楽しんでいる
- まったく楽しみにしていない/まったく楽しんでいる

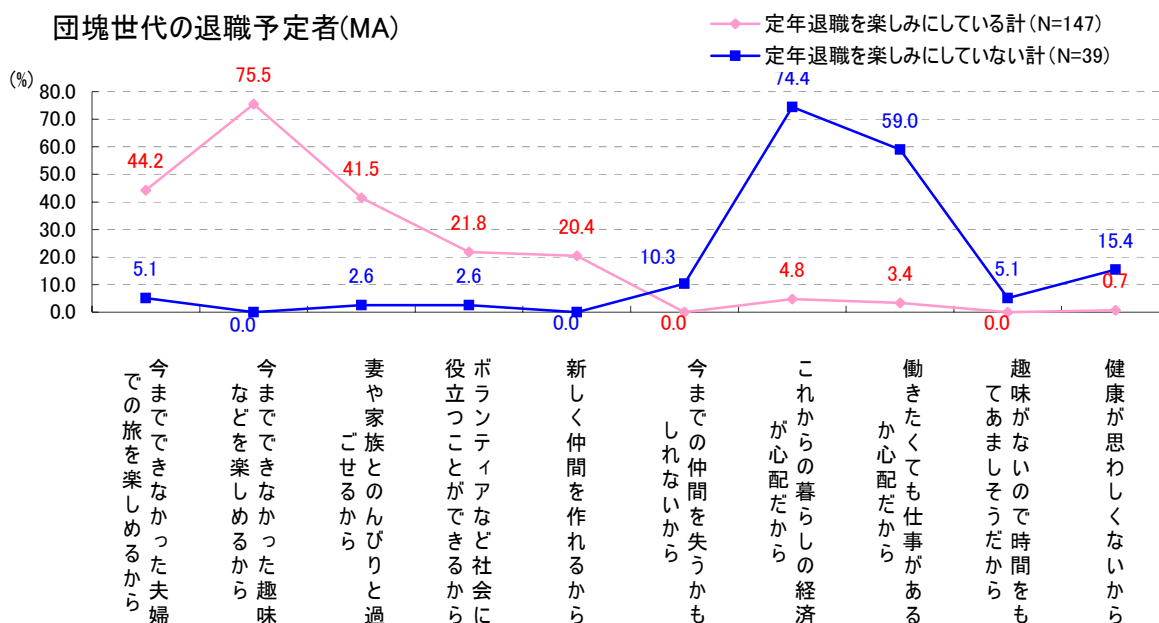


●女性の場合は男性ほど「楽しみにしていない」し「楽しんでもいない」。特にこれから退職する夫をもつ妻は、むしろ「楽しみではない」人が4割を占めている。ただし、夫が退職後は、なんとか「楽しんでいる」という人が増加する。

7＜定年退職への態度、その理由＞

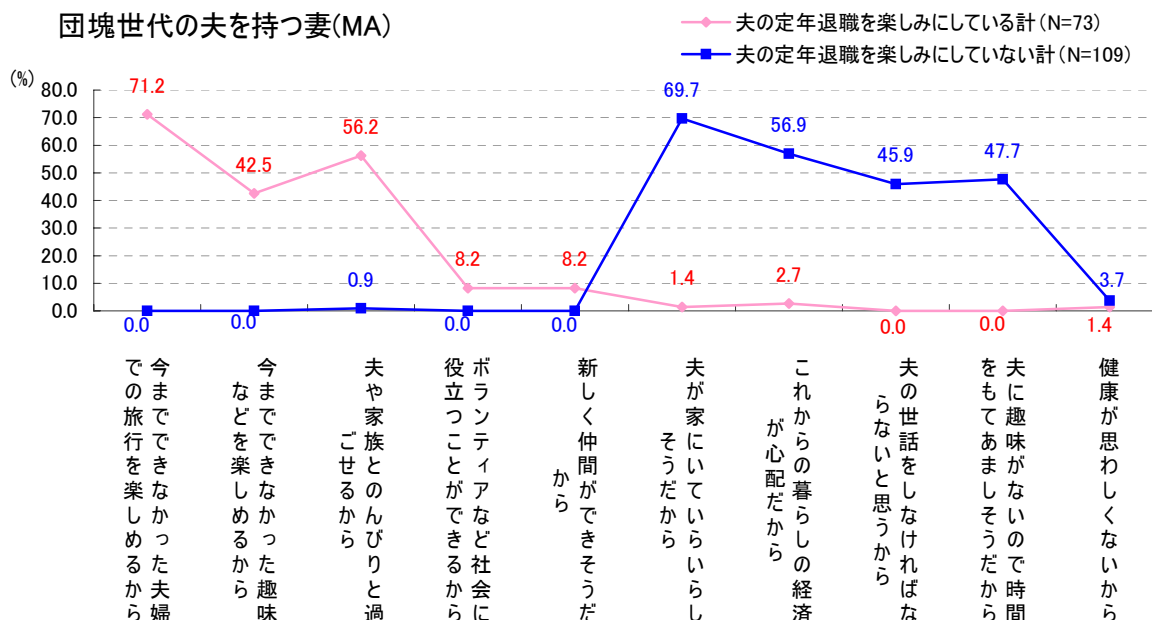
【定年予定者&団塊の妻】問8：そう思われるのはどのような理由からですか。(MA)

団塊世代の退職予定者(MA)



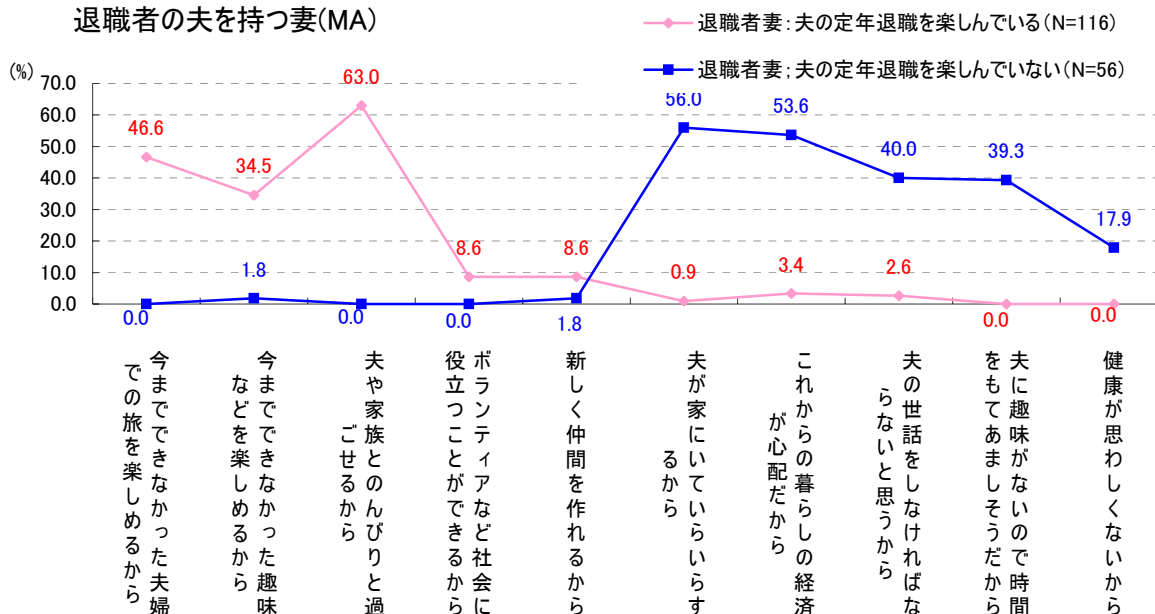
●退職予定男性が「楽しみにしている」という理由は「今までできなかった趣味を楽しめるから」(76%)であり、少数派ではあっても「楽しみにしていない」理由は「これからの暮らしの経済が不安」(74%)、「働きたくても仕事があるか心配」(59%)である。

団塊世代の夫を持つ妻(MA)



●一方、これから退職する団塊世代を夫に持つ妻に関してはどうか。夫の定年退職を「楽しみにしている」理由は、「今までできなかった夫婦での旅行ができるから」(71%)、「夫や家族とのんびりできるから」(56%)となっていて、夫との関係が良好である条件が大きい。一方「楽しみにしていない」理由は「夫が家にいていららしそうだから」(70%)、「暮らしの経済が心配」(57%)、「夫が時間をもてあましそうだから」「夫の世話をしなければならいから」である。妻の側は経済的理由だけでなく、家へ帰ってくる<夫>との関係で<いららし>や<憂鬱>を予想しているわけだ。

退職者の夫を持つ妻(MA)



●退職者男性の妻は夫退職前と比べて、定年退職を「楽しんでいる」人が増えることはわかったが、その理由はどうなのだろうか。団塊世代を夫に持つ妻と比べ、「楽しんでいる」理由としては「今までできなかった夫婦の旅」は71%⇒47%と減っているが「夫と家族とのんびり過ごせるから」が56%⇒63%と増えている。夫婦の旅がそれほど楽しくはなかったのか、あるいはより日常的な日々、夫や家族とのんびりすることの方が「楽しみ」なのか。おそらく夫婦の旅のハレよりも、波風のない日々是好日のケの方をいっそう大切に思うのであろう。

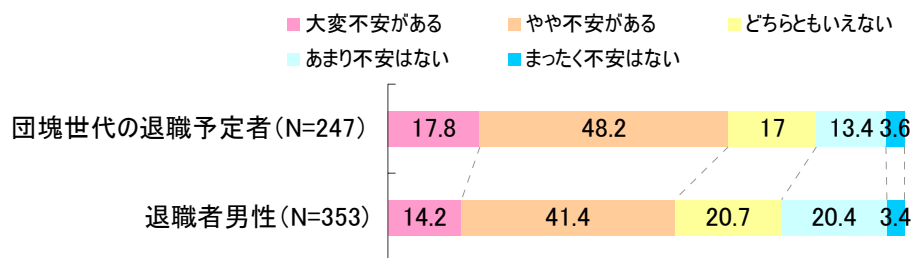
●一方、「楽しみではない」理由も退職前の意識と比べて変化がある。「いららし」感は70%⇒56%、「夫の世話」の負担感46%⇒40%、「夫の時間もてあまし」48%⇒39%と、夫が原因のイライラ感・負担感は減少する。おそらくは夫の自立や協力もあり、妻の側に余裕が生まれ、「楽しめる」ようになるからであろうか。ただし、「暮らしの経済への心配」感はそのままである。

8＜定年退職後の生活への経済的不安＞

【定年予定者】問9：あなたは定年退職後の生活について経済的不安がありますか。

【退職者】問9：あなたは今後の生活について経済的不安がありますか。(SA)

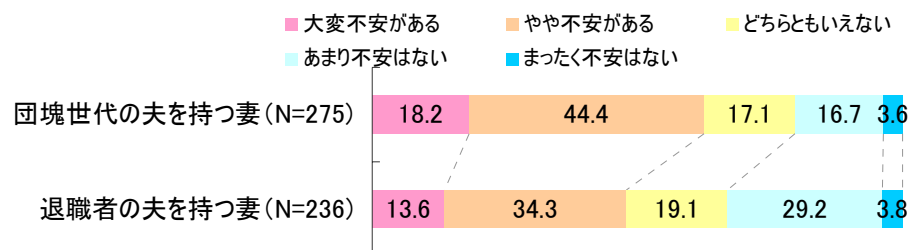
定年退職後の生活への経済的不安(男性)(SA)



【団塊の妻】問9：あなたは夫の定年退職後の生活について経済的不安がありますか。

【退職者の妻】問9：あなたは今後の生活について経済的不安がありますか。(SA)

定年退職後の生活への経済的不安(女性)(SA)



●定年退職後の経済的不安について特にとりあげてみよう。

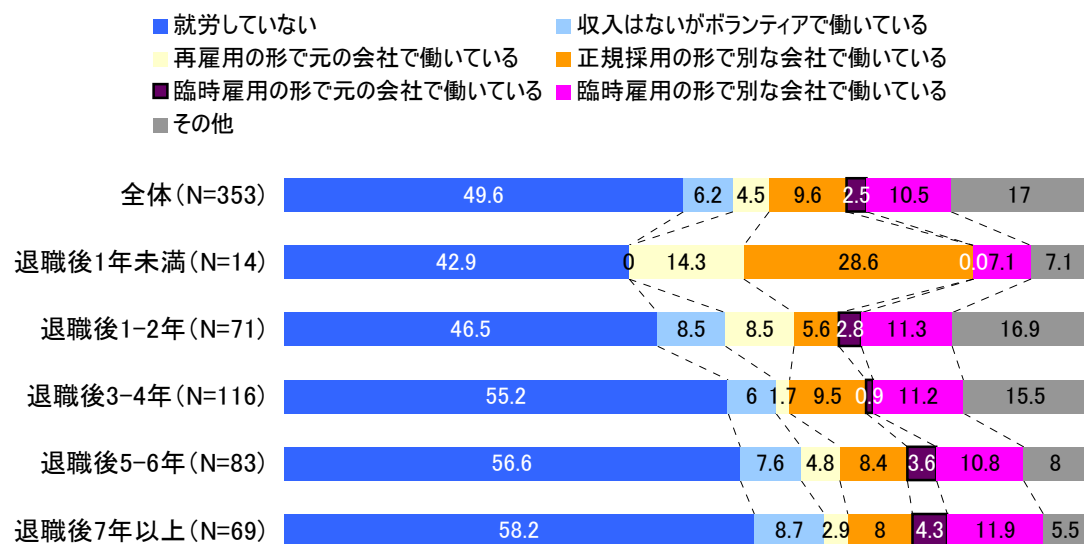
●団塊世代の退職予定男性では66%が「不安がある」としている。「不安がない」という人は17%でしかない。これは退職を「楽しみにしている」という人も実は密かに「不安」を抱えているという数字だ。経済的不安感は消費の先延ばしや貯蓄の積み増しを生み、必ずしも2007年以降の退職金を巡る消費ブームに対しポジティブ要因とはならない。

●団塊世代を夫に持つ妻についても男性と同様に63%の人が実は「不安」を抱えている。●それでは退職者の意識はどうなるのか。

●「不安」感は男性・女性ともにやや和らぐ傾向が見られる。「不安がある計」でみると、男性は、退職前66%⇒62%、女性では63%⇒48%である。おそらく、経済的に楽になったということではなく、実際に退職経験をしてみると、それなりに暮らしの工夫も会得し、意識の上で自信をもてるようになるからであろう。

【退職者】問36：あなたの(あなたの夫)現在の就労パターンをお知らせください。(SA)

退職男性の就労状況

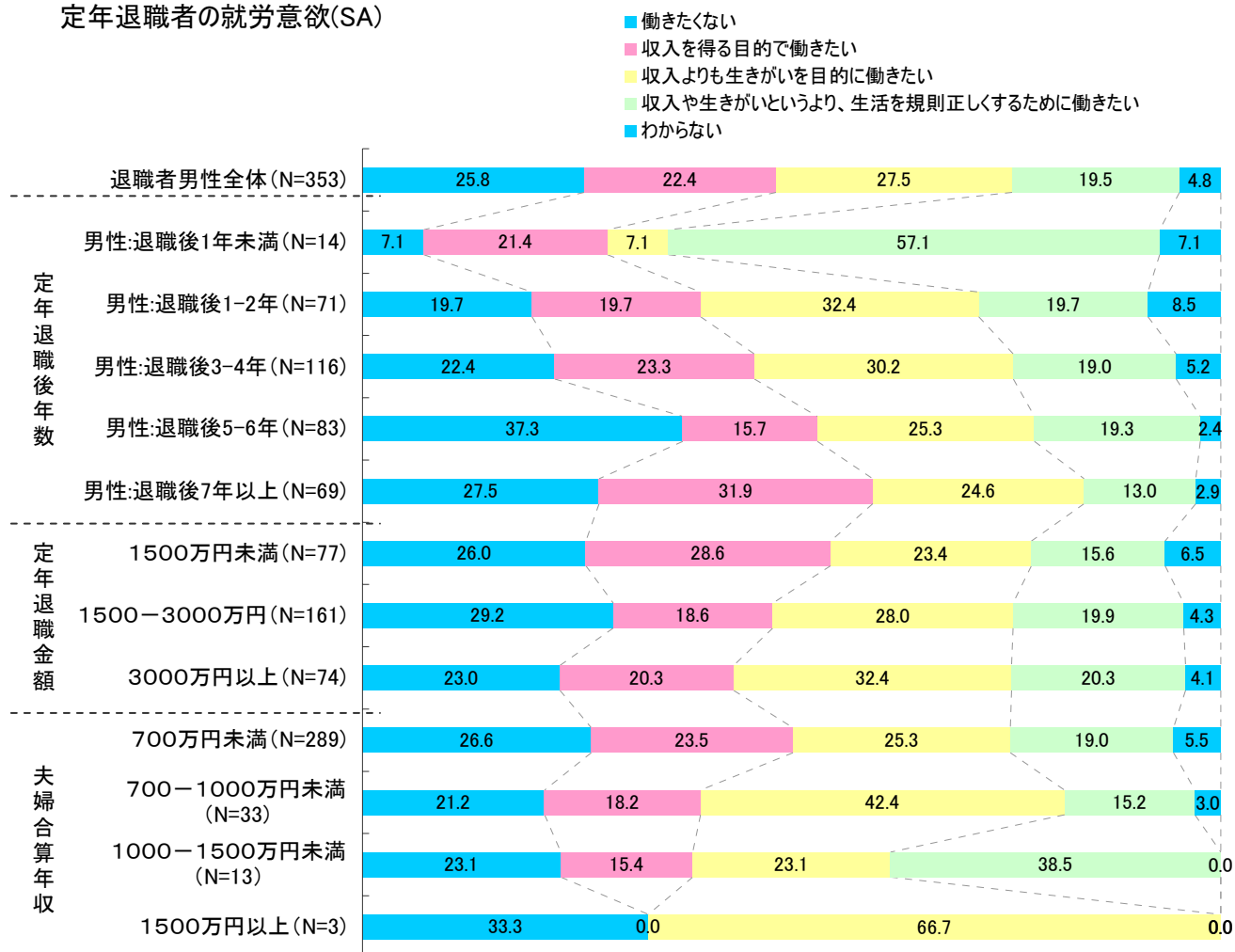


●退職男性の就労状況は厳しく、就労意向があっても就労率は高くはない。したがって、キャッシュフローが好転するわけではない。生活費に回るフローは預貯金からが多いわけである。意識の上で不安感は減るとはいうものの、おそらく団塊世代の退職後でも、今回調査でみられる家計構造に変化がないであろうから、将来不安の下で、安易な大型消費に直ちに火が付くという状況とは考えにくいところだ。

9＜定年退職者の就労意欲＞

【退職者】問12：あなたは何らかの形で就労したいですか。(SA)

定年退職者の就労意欲(SA)



	非就労率 (%)	就労意向率 (%)	ギャップ(ポイント)
全体 (N=353)	49.6	69.4	19.8
退職後1年未満 (N=14)	42.9	85.8	42.9
退職後1-2年 (N=71)	46.5	71.8	25.3
退職後3-4年 (N=116)	55.2	72.4	17.2
退職後5-6年 (N=83)	56.6	60.3	3.7

●追加的に退職男性の就労意向を見てみよう。上表参照。

●全体から「働きたくない」と「わからない」を除いた、何らかの目的で就労意向のある人は、対象者全体で69%、一方、就労していない率(前表で「就労していない」の%)は全体で50%。単純に就労意向率から就労していない率を引くと、上表の「ギャップ」となる。退職後年数を経るにしたがって、就労意向は減少するし、就労していない率は増加する。したがって、「ギャップ」は徐々に埋まっていくのだが、退職後2-3年は年金の満額受給前でもあり、かなり家計のリストラクチャリングが必要な状況と予想される。

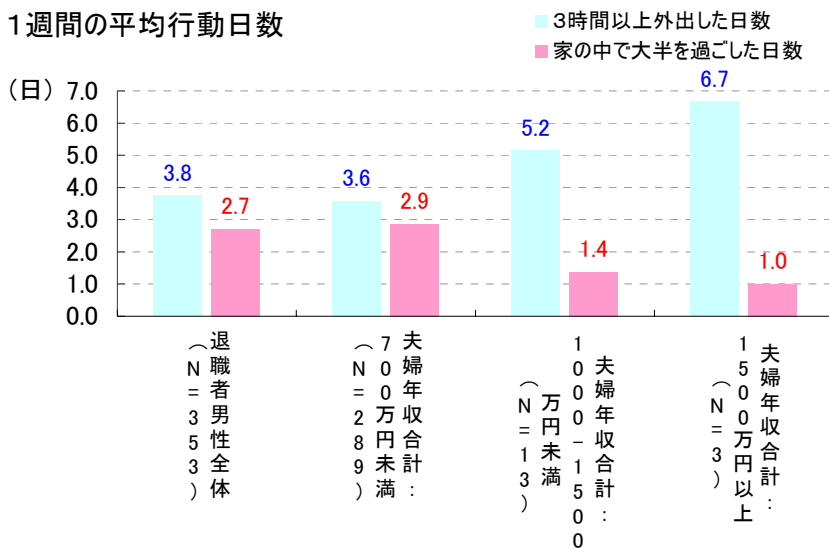
10＜退職者男性の生活スタイル＞

(1) 外出頻度/家にいた頻度

【退職者】問13: 3時間以上外出した日数は何日ありましたか。(SA)

【退職者】問15: 家の中で大半を過ごしたのは何日ありましたか。(SA)

1週間の平均行動日数



●退職者男性の暮らしぶりを1週間の外出日数、家の中にいた日数とで見よう。

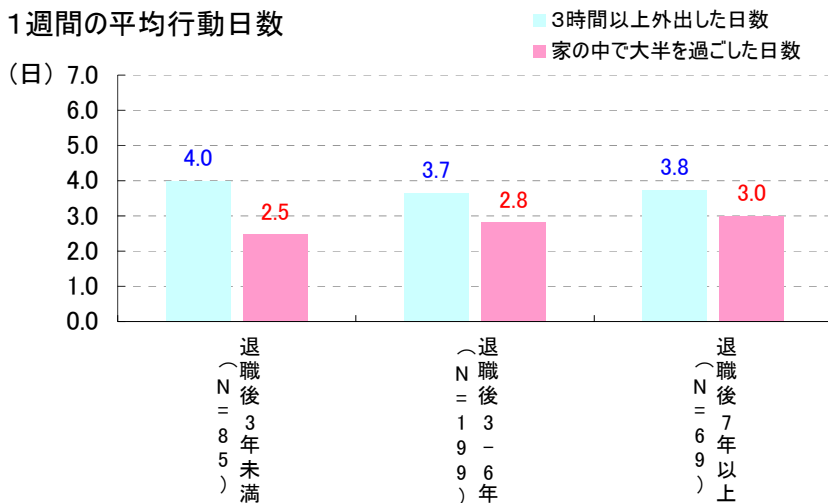
●外出(1日3時間以上の日数)に関しては、退職男性平均で3.8日。家にこもっていた日数(ほとんどの時間を家の中で過ごしたに数)は2.7日となる。

●年収が高いほど外出日数は増し(おそらくは仕事目的)、退職後経年数が少ないほど、家の中で過ごした日数が少ない。逆に言って、年収が少なく、定年後経過年数が増えるほど、家の中にいることが多くなる、ということだ。

外出するということは、活動力のバロメーターであると同時に、何らかの消費のバロメーターでもある。だから、大いに外出してもらいたいところだが、一種のひきこもりが、退職後、年数を経るにつれ起こってくるのが心配である。

●「買い物」「散歩やウォーキング」「仕事」が3大外出目的である。しかし、外出目的はかなりいろいろとバリエーションに富んでいて、様々な交友・学習・スポーツなどへ参加していることが分かる。

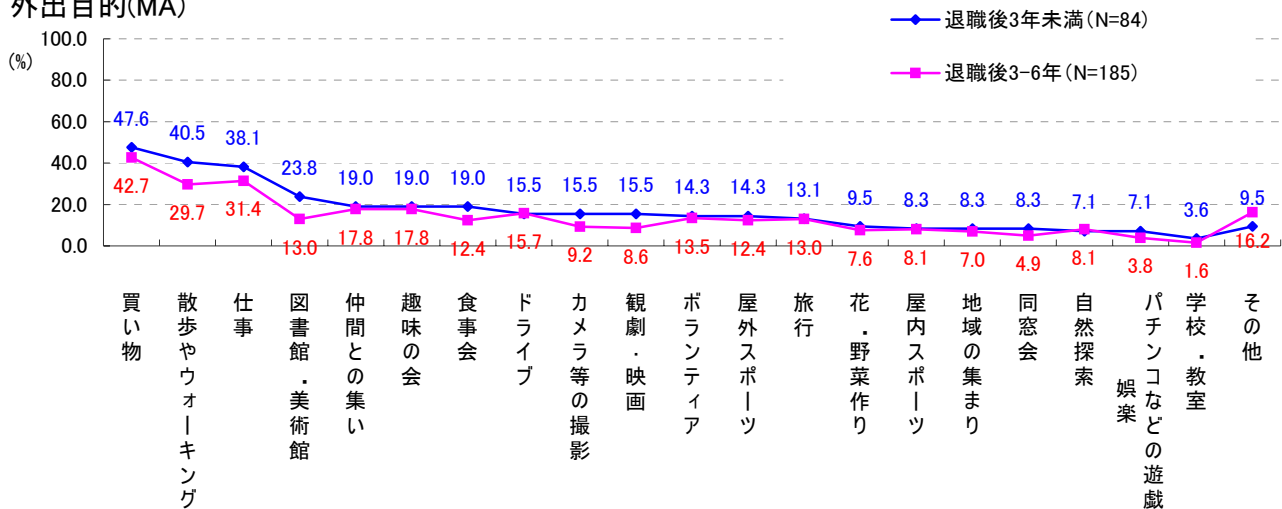
1週間の平均行動日数



(2) 外出目的

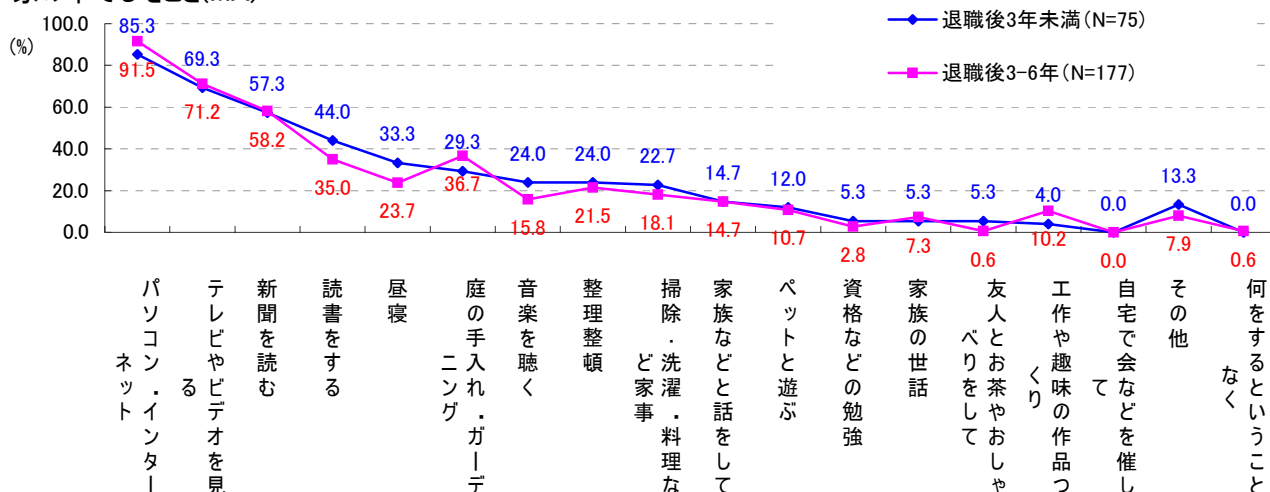
【退職者】問14: 外出の目的はなんでしたか。(MA)

外出目的(MA)



(3) 家の中でしたこと
【退職者】問16: 主に何をして過ごしていましたか。(MA)

家の中でしたこと(MA)



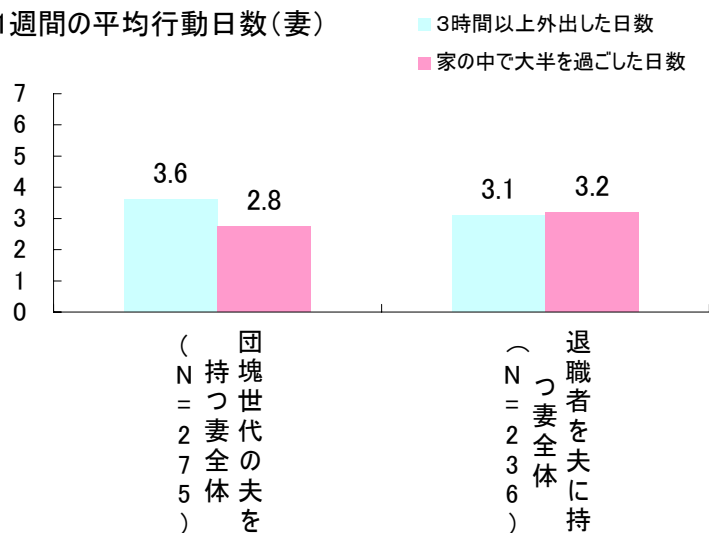
●家の中で主にしていたこともそれぞれであるが、「パソコン・インターネット」「テレビ・ビデオ」「新聞」が3大ツールである。家遊び的な活動はその他にもいろいろ挙げられているが、友人などと過ごす時間は比較的少なく、一人でする遊び(たとえば、読書、昼ね、庭に手入れ、音楽を聴くなど)が多いのが特徴である。

11 <妻の生活スタイル>

(1) 外出頻度/家にいた頻度

【団塊の妻 & 退職者の妻】問13: 同上質問(SA)

1週間の平均行動日数(妻)



●妻の側を見てみよう。

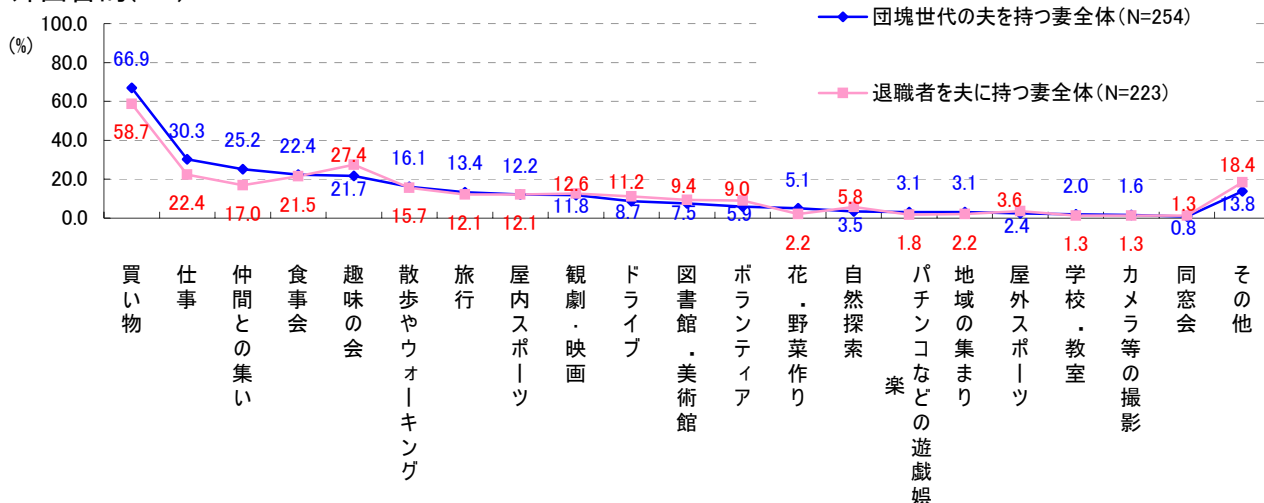
●全体としては男性より外出頻度が少なく、家にいる率が高い。

●団塊世代を夫に持つ妻の方が、若いせいだろうか、退職者男性の妻よりも外出頻度が高い。団塊世代の夫を持つ妻は今が人生の自由時間といってよいライフステージの踊り場にいる。したがって食事会、ショッピングと外出頻度は高くなるはずである。それが夫が退職すると同時になにやら不自由になる。妻が夫に自立して欲しいということの裏側には妻の側にも理由もあるということだ。

(2) 外出目的

【団塊の妻 & 退職者の妻】問14: 外出の目的はなんでしたか。(MA)

外出目的(MA)

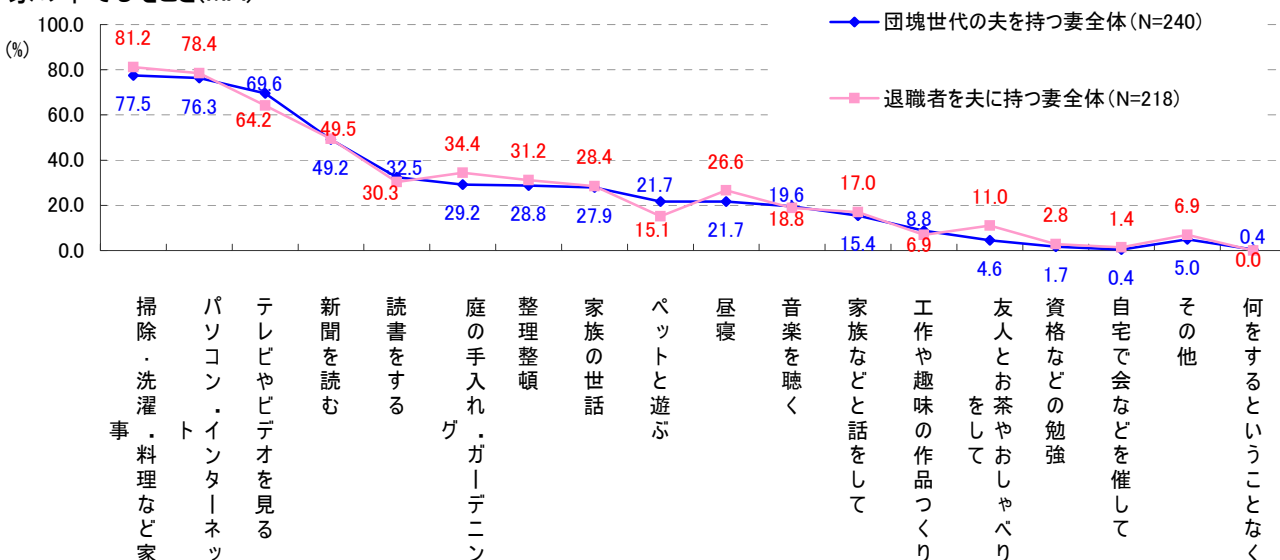


- 妻の側の外出目的は、団塊世代を夫に持つ妻においては、「買い物」「仕事」「仲間との集い」が3大目的。
- 退職者男性の妻においては、「買い物」「趣味の会」「食事会」がトップ3を占める。
- 男性と比べると、ほとんどの項目で、頻度が少ない中、「仲間との集い」「食事会」「趣味の会」など友人知人と一緒にする行動が多いことが特徴で、逆に「散歩やウォーキング」など一人でする活動が少ない傾向。

(3) 家の中でしたこと

【団塊の妻 & 退職者の妻】問16: 主に何をして過ごしていましたか。(MA)

家の中でしたこと(MA)

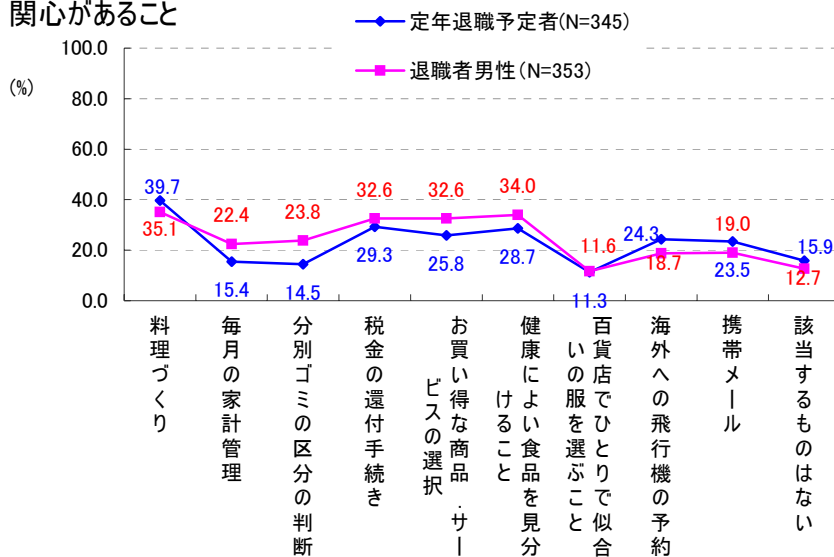


- 家の中でしたことのトップ3は「掃除・洗濯・料理などの家事」「パソコン・インターネット」「テレビ・ビデオ」である。団塊世代を夫に持つ妻と退職者男性の妻の間にそれほど大きな違いはない。
- トップ3に関して、男性と違うのは、男性が「新聞」を読む時間が長いのに対し、(その間)女性は家事をしているということである。あるいは、そんな瞬間に妻のイライラが生じるのかもしれない。(「早く外にでも出て行って頂戴、私の時間を取り戻したいから・」)

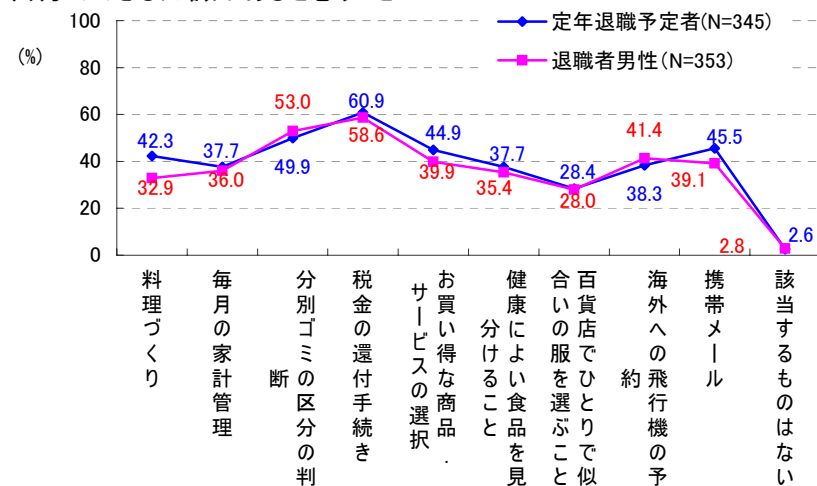
12＜自分でできること、できと思うこと(男性)＞

【定年予定者&定年者】問17：以下の行動の中で、あなたご自身が「関心があること」「自分でできる知識があると思うこと」「自分で行っていること」をそれぞれいくつでもお知らせください。(MA)

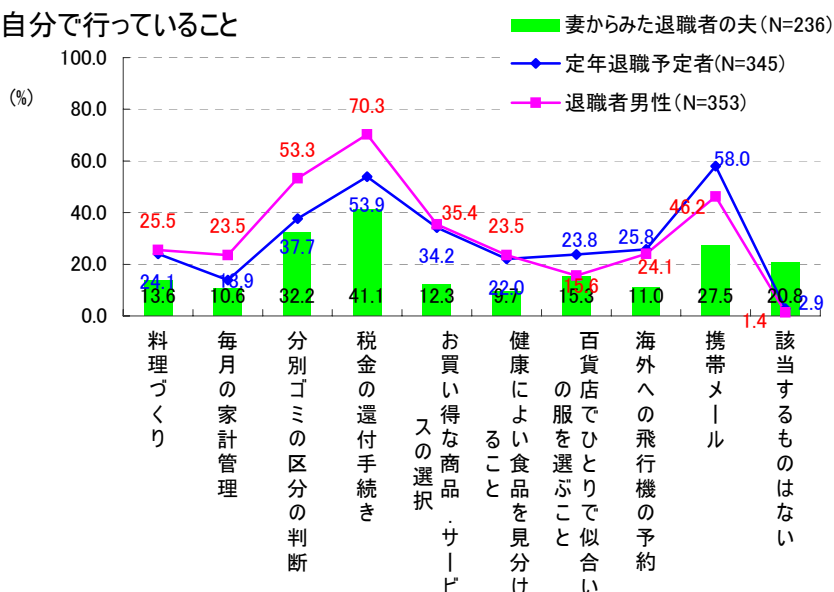
関心があること



自分でできる知識があると思うこと



自分で行っていること



●定年退職男性の自立度は、定年前と比べて向上するのだろうか。

●定年後の幸福感は夫婦関係のよさと大きな関係がある。夫婦関係のよさは、家計の見通しと夫の自立と関係する。したがって、退職後夫の自立が進むことが期待される。

●主として家事や買い物に関してどの程度自立しているのかを検討した。

●男性が関心のある事柄は、総じて多くはなく、ほとんどの項目で2-3割程度である。退職予定男性においては、「料理づくり」は若干高い関心があるようだ。逆に「百貨店でひとりで似合いの服を選ぶこと」には関心が薄い。

●自分でできると考えていることは、やや増加し、本当にできるかは別として、ほとんどの項目で4-5割の人ができるとしている。ほとんどの項目で関心はないけれど、やろうと思えばできる、と考えている様子である。「料理」は関心はあるけれど「知識が足りない」としている。

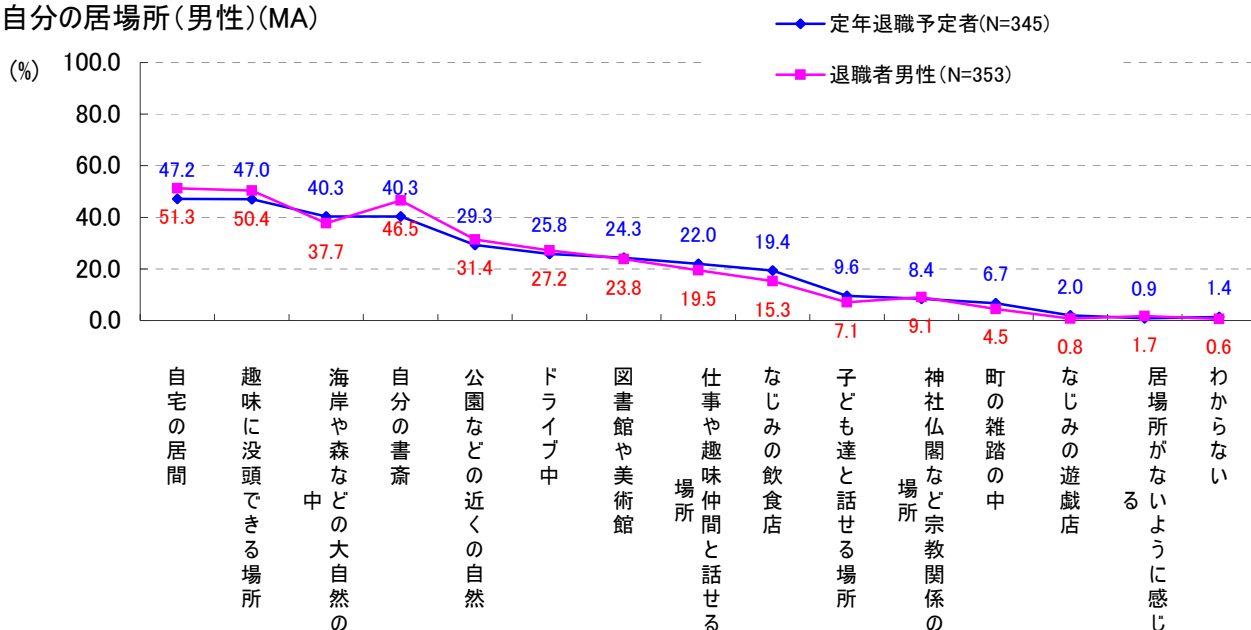
●実際の行動面ではどうか。自分でできると思っているし、実際自分で行っていると、男性退職者が考えていることは、多くはない。「税金の還付手続き」と「携帯メール」だけである。後の項目は＜できる知識はあるが、実際には行っていない＞という人が多い。ということは、妻の側からみれば、実際にやっていないことは知識があるということにはならなくて、自立していることにはならないだろう。逆に夫の側が「できる」と主張すれば、＜なぜやってくれないのか＞というイライラの原因になろう。

●しかし、男性は退職後ずいぶん自立の努力をしている様子が見られる。退職予定男性と比べ、退職男性が上回っている項目は、「毎月の家計簿」「分別ゴミ」「税金の還付手続き」がある。家事分野で改善が見られるわけで、そのことは妻も認めている傾向である。

13＜自分の居場所＞

【全対象者】問18：あなたがそこいるとストレスが癒され、気持ちが安らぐような、あなたの居場所はどこですか。(MA)

自分の居場所(男性)(MA)

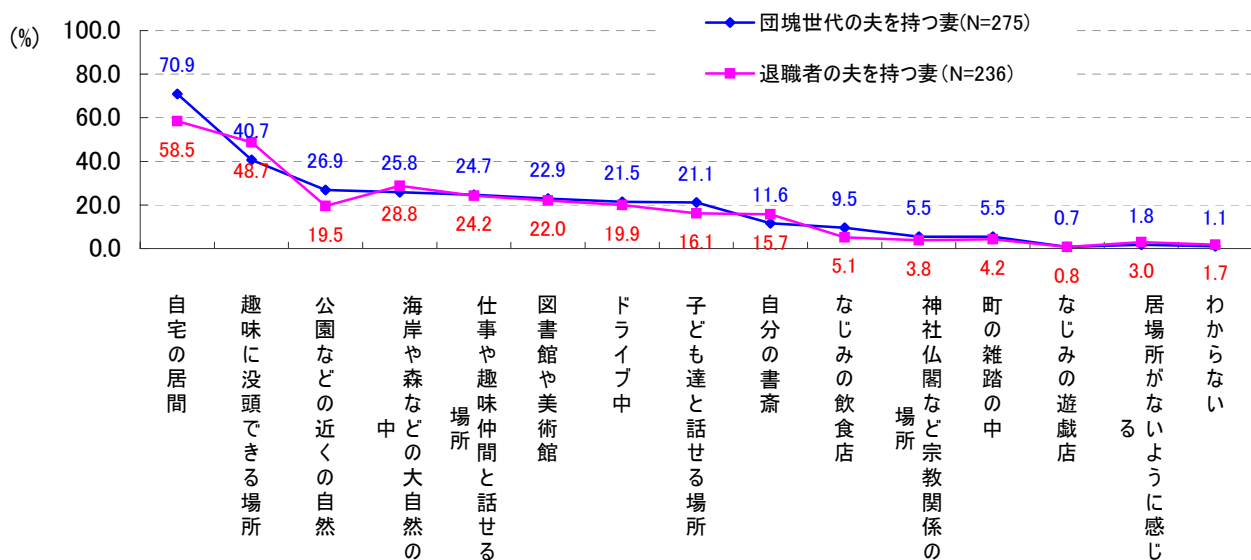


●自分の居場所を退職者はなくしているのではないか、という仮説がある。

●確かに、給与生活者だった男性は仲間と働き甲斐を共に失い、アイデンティティをなくす人も3割見られる(ハイライフ研究所「定年夫の妻”光と影”」に関する調査研究2003年参照)。家へ帰ってきた男性には家では居心地の悪さを感じる人も多い。果たして居心地のよい場所はどこにあるのだろうか。

●退職男性に関して言えば、ひとりになれる場所、趣味に没頭できる場所が居心地よい場所となるようだ。書斎がある人は書斎がそうだ。

自分の居場所女性(MA)



●妻の方はどうなのだろうか。

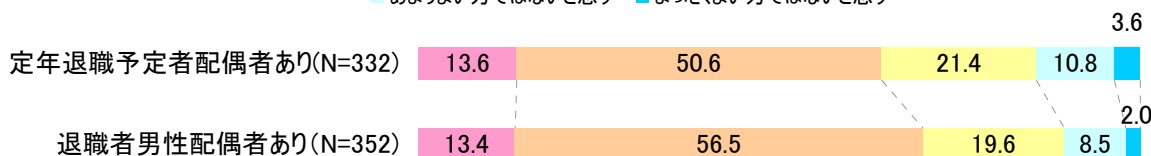
●夫が定年前の団塊世代を夫に持つ妻は「自宅の居間」が居心地のいい場所だ。しかし、夫が帰ってきた退職者男性の妻は居場所を居間から「趣味に没頭できる場所」へと変えるようだ。居間に夫がいれば、そこを占領された気持ちになるのかもしれない。こうした遠慮やイライラを脱出するために、夫も妻もやはり外出は有効な手段となるだろう。外で活動するサークルや仲間を見つけ、話をする、そういう場所は、だから、夫よりも妻の居場所なのだ。

14＜夫婦仲の認識＞

【全対象者】問19：あなたは一般の夫婦と比べて、夫婦の仲が良い方だと思われますか。それともよい方ではないと思われますか。(SA)

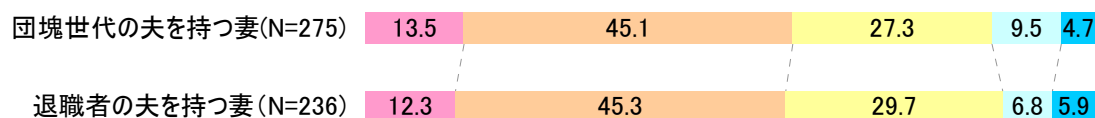
夫婦仲の認識(男性)(SA)

■ たいへん仲がよいほうだと思う ■ まあよいほうだと思う ■ どちらともいえない
■ あまりよい方ではないと思う ■ まったくよい方ではないと思う



夫婦仲の認識(女性)(SA)

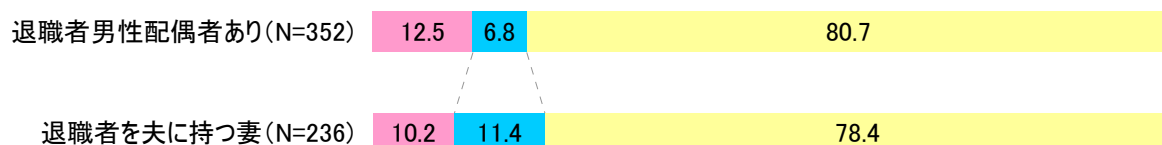
■ たいへん仲がよいほうだと思う ■ まあよいほうだと思う ■ どちらともいえない
■ あまりよい方ではないと思う ■ まったくよい方ではないと思う



【退職者＆退職者の妻】問20：あなたが退職なさった後、夫婦の仲には変化が起きましたか。(夫が退職すると、夫婦の仲には変化が起きましたか。)(SA)

退職後の夫婦仲の変化(SA)

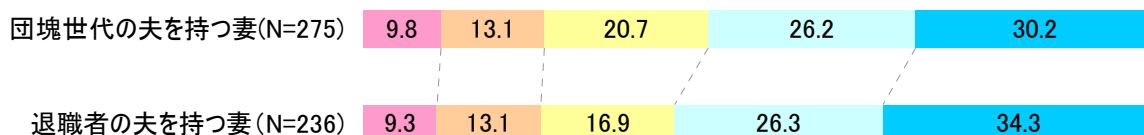
■ 仲がよかった ■ 仲が悪くなった ■ 変わらない



【団塊の妻＆退職者の妻】問21：熟年離婚が増えているといわれていますが、もし、子どもや経済の問題がないとしたら、あなたにも離婚の気持ちがありますか。(SA)

熟年離婚への意識(女性)(SA)

■ 大いにその気持ちがある ■ ややその気持ちがある ■ どちらともいえない
■ あまりその気持ちはない ■ まったくその気持ちはない



● 熟年離婚が取りざたされている。果たして退職後の夫婦仲はそれほど悪化するものなのか。

● 夫婦仲について質問すると、男性と女性とを比べて、男性の方が「夫婦仲がよい」とする傾向が一般にある。本調査でも若干その傾向が見られるし、また退職前と退職後とでの夫婦仲の認識についても「かわらない」が最も多い(約8割)のだが、夫の退職後「仲が悪くなった」とする人が、退職男性よりも退職者男性の妻の側で5%ほど多くなっている。確かに妻の側のイライラを考えると、妻が「仲が悪くなった」と感じて当然かもしれない。

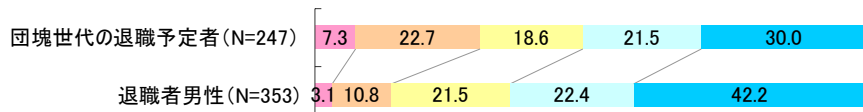
● しかし、その感情が熟年離婚ヘストレートにつながってしまうのであろうか。「子供や経済の問題がないとしたら」という条件付で熟年離婚への意識をたずねているが、それでも「大いにその気持ちがある」のは9%強程度しかない。しかも子供や経済の問題のない離婚など現実にはありえないから、実際に離婚がブームになるとは考えにくいところだ。

● 問題は熟年離婚発生率なのではなく、「大いにその気持ちがある」という意識は、実は何を示しているか、ということではなかろうか。この問題は、今後、頼り頼られる夫婦べつたりの＜演歌型夫婦関係＞から男女共に自立した＜自立型夫婦＞が増加する傾向にある、と読み解くのがよいのではないかと。＜自立型夫婦＞とはそれぞれの個性や生きがいを重視し、自分でできることは相手に頼らずに、互いに感謝しつつ今日の生活を送る大人の夫婦ということだ。定年前の少なからず夫唱婦随的価値観によっていた(その前提にある性による役割分業)夫婦関係の枠組みを脱皮し、それぞれが付かず離れずで共同する新しい夫婦の枠組みを再構築することが必要だろう。実は妻の側のイライラ感も夫の世話をしなければならぬという性による役割分業価値観を妻の側も引きずっているという証明なのだから。

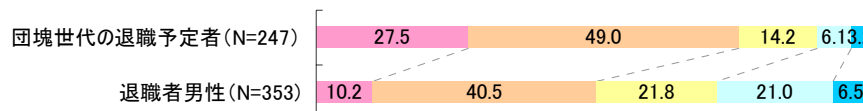
15＜団塊世代の意識(男性)＞

【定年予定者 & 退職者】問22:いろいろな意見があげてあります。あなたはそれぞれの意見にどの程度賛成なさいますか。(SA)

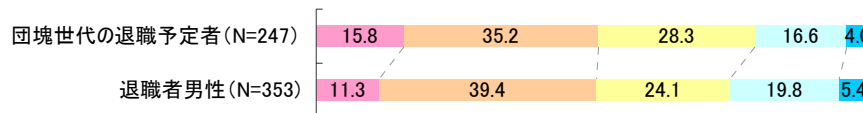
(1) 全共闘などの学生運動は
自分にとって意味あることだった



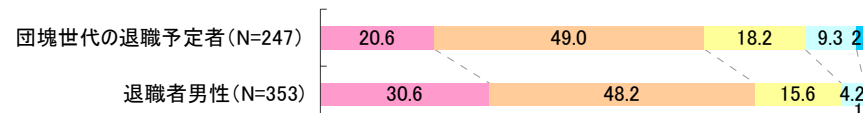
(2) 団塊世代は時代のブームを作ってきたと思う



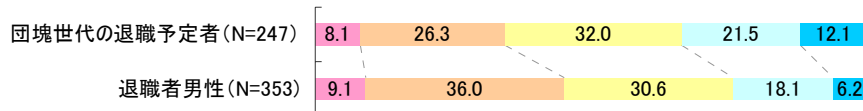
(3) 仕事や家族のために自分はずいぶん我慢してきたと思う



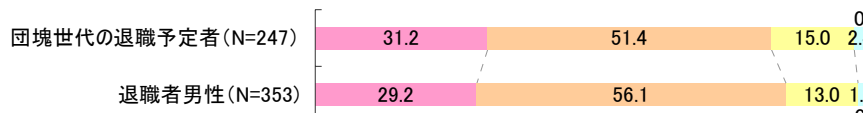
(4) なんととっても夫婦は運命共同体だ



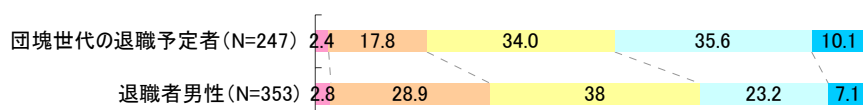
(5) 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ



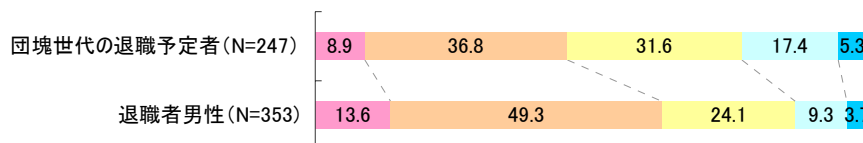
(6) 子供はその個性を大切に育てるべきだ



(7) 多少家庭を犠牲にしても仕事中心であるべきだ



(8) 努力すれば結果は相応についてくる



● 団塊世代の退職予定者と退職男性との意識や価値観の違いについて検討しよう。

● (1)および(2)は団塊世代の位置づけに関する質問。全共闘運動に対する評価は団塊世代ではある程度自分にとって意味あることだと考えられているが、退職男性にとってはほとんど意味を成さないことだ。団塊世代がブームを作ってきたということに関しては退職男性もある程度認めるし、団塊世代においてはかなりの賛成を得ている。団塊世代のある種の自負が見受けられる。

● 仕事や家族の犠牲になったと感じているかどうか。団塊世代とその先輩退職男性とではあまり差がないが、少なくとも我慢してきた人は我慢してきたとは思わない人の2.5倍いるということになる。

● 夫婦は運命共同体という意識は、いまだ主流の考え方であるが、団塊世代では、退職男性よりもかなり少なくなっている。

● (5)(6)(7)(8)は高度成長期に日本株式会社をささえた家庭内規範の4つの標準装置である。

＜性による役割分担＞

「男は外で女は家庭を守るべきだ」に関しては、退職男性においては賛成する人が反対する人を上回る。団塊世代ではほぼ同数にまで反対する人が増加している。

＜個性主義＞

「子供は個性を大切に・・」に関しては団塊世代も退職男性も大いに賛成であって、民主教育の基礎は退職男性も同じであるということ。

＜仕事中心主義＞

これは団塊世代において反対率が高い。退職男性では「どちらともいえない」と仕事人間の残滓がうかがえる。

＜努力成果主義＞

20年前の団塊世代ではこの価値観はたいへん高かったが、今日の団塊世代においては減少する。リストラをはじめ、人生には必ずしも公正なことだけではないと、ある種の挫折感を感じている様子である。

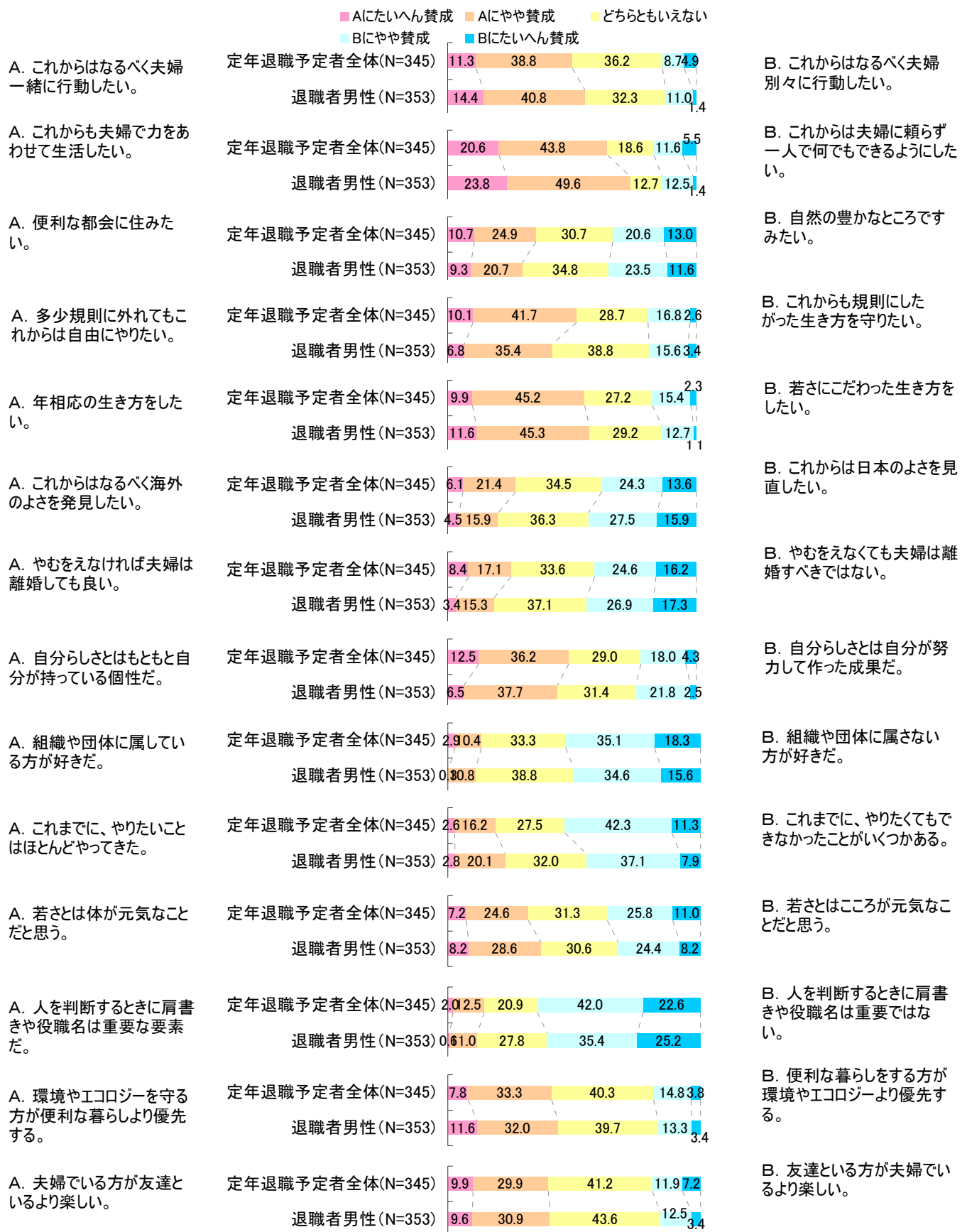
16<定年退職後のライフスタイル意（男性）

【定年予定者 & 退職者】問23：対になった意見があげられています。あなたはそれぞれどちらの意見に近いでしょうか。
 (SA) 次ページグラフ参照

	50%以上の多数意見	49%未満の少数意見
	○人を判断するときに肩書きや役職名は重要ではない(65%) ○これまでに、やりたくてもできなかったことがいくつかある(54%) ○組織や団体に属さない方が好きだ(53%) ○多少規則に外れてもこれからは自由にやりたい(52%)	○自分らしさとはもともと自分が持っている個性だ(49%) ○若さとはこころが元気なことだと思う(37%) ○便利な都会に住みたい(37%) ○これからはなるべく海外のよさを発見したい(28%) ○やむをえなければ夫婦は離婚しても良い(26%) ○友達という方が夫婦でいるより楽しい(19%) ○これからは夫婦に頼らず一人で何でもできるようにしたい(17%)
	○これからも夫婦で力をあわせて生活したい(73%) ○これからはなるべく夫婦一緒に行動したい(55%)	○やむをえなくても夫婦は離婚すべきではない(44%) ○これからは日本のよさを見直したい(43%) ○若さとは体が元気なことだと思う(37%) ○自然の豊かなところすみみたい(35%) ○これまでに、やりたいことはほとんどやってきた(23%)

●これからの定年退職を迎えて、退職予定男性は意識の上でもいままでのサラリーマン根性を脱皮しようとしていると見える。
 「肩書きはいらない」「組織や団体に属さない方が好きだ」「これまでにできなかったことがいくつかある」から「これからは多少規則に外れても自由にやりたい」という人が多い。というのも「自分らしさはもともと自分で持っているもの」だし「若さとは心の元気」のことだから、という意識があるからだ。これらのライフスタイル意識を退職予定男性の50%を越える人が持っているということは主流派だということだ。「チョイ悪おやじ」という命名があったが、これまでの退職者男性にはない行動が今後多く見られることだろう。
 それは肩書きのない世界で組織や団体に属さずにやりたくても出来なかったことを、いまからとり返そうという活動だ。世界遺産の旅、楽器の演奏、気ままな旅、こだわりの旅であり、本調査の「退職後やりたい夢やアイデア」の項目で挙げられたようなイベントになるだろう。

●また、退職予定男性においても「これからも夫婦で力をあわせて生活したい」といった夫婦一体主義は多数派であるが、しかし、少数派ではあるが、退職男性と比べて、夫婦関係に対する気持ちの持ち方は違ってきている。多数派ではないにしろ自立型の夫婦を目指している男性は退職男性よりも多く、退職後の夫婦リストラにおいて、この20%あまりの自立志向の男性が、夫婦の新しい関係をどう築き上げるかが注目されるところだ。

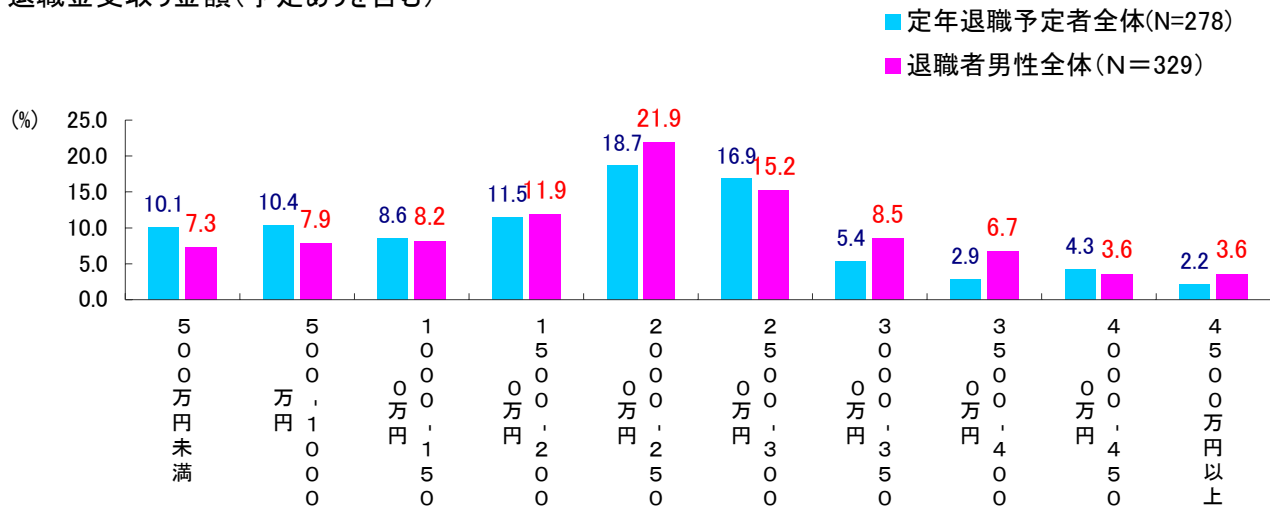


17＜退職金金額＞

【定年予定者】問26：失礼ですが、その額はいくらですか。二度以上受け取ったか、受け取る予定の方はその合計額をお聞かせください。(SA)

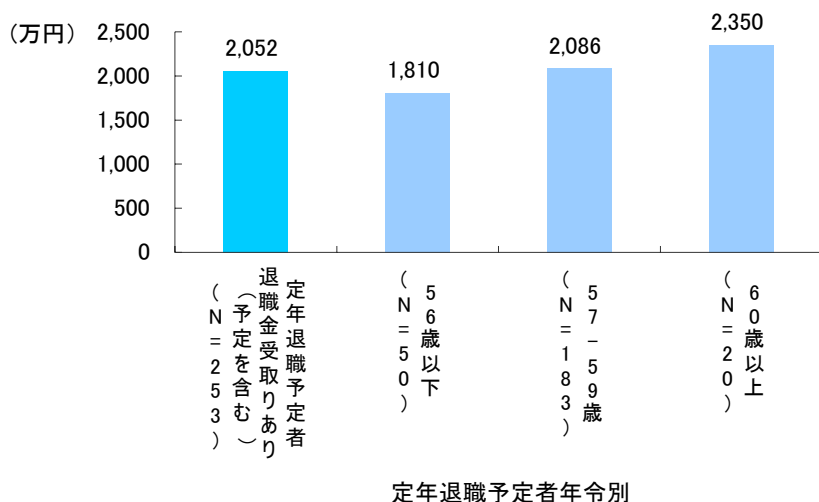
【退職者】問26：失礼ですが、その額はいくらですか。二度以上受け取った方はその合計額をお聞かせください。(SA)

退職金受取り金額(予定ありを含む)



＜年令別(定年退職予定者)＞

年令別 退職金金額平均



●退職金の行方について検討したい。

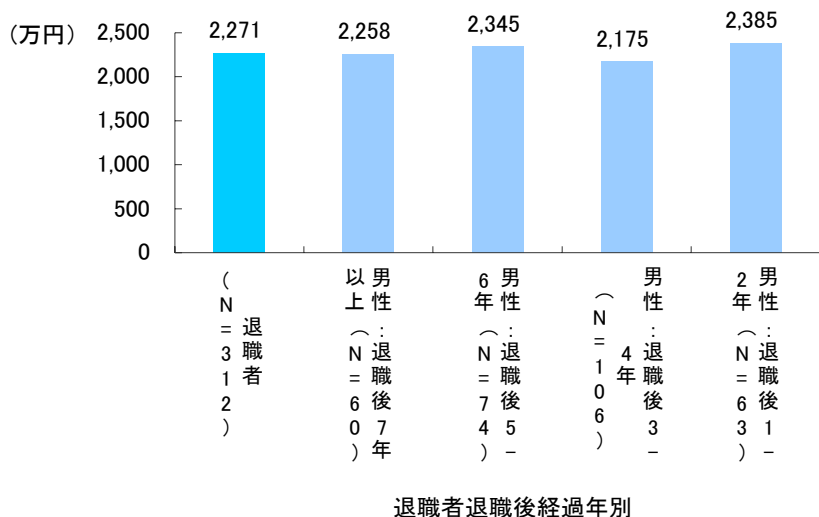
●退職金額を退職予定男性と退職男性とにたずねている。

●退職予定男性と退職男性とを比較すると、退職予定男性には早期退職予定者も含まれているので、退職予定男性の金額分布は、やや左側へ偏っている。つまり、退職男性よりも退職金が少ない人は多く、多い人は少ない。

平均値で見ると、退職予定男性では2052万円にたいし、退職男性では2271万円である。あるいは退職金格差がここ数年で大きくなっているということかもしれない。

＜退職後経過年別(退職者)＞

経年別 退職金金額平均



●退職予定者の受け取り予定金額は56歳以下の早期退職者で1840万円。60歳以上の(2次退職者＝退職金受取り2回目以上を含めた)退職予定者で2350万円。団塊世代の退職予定者で2086万円である。

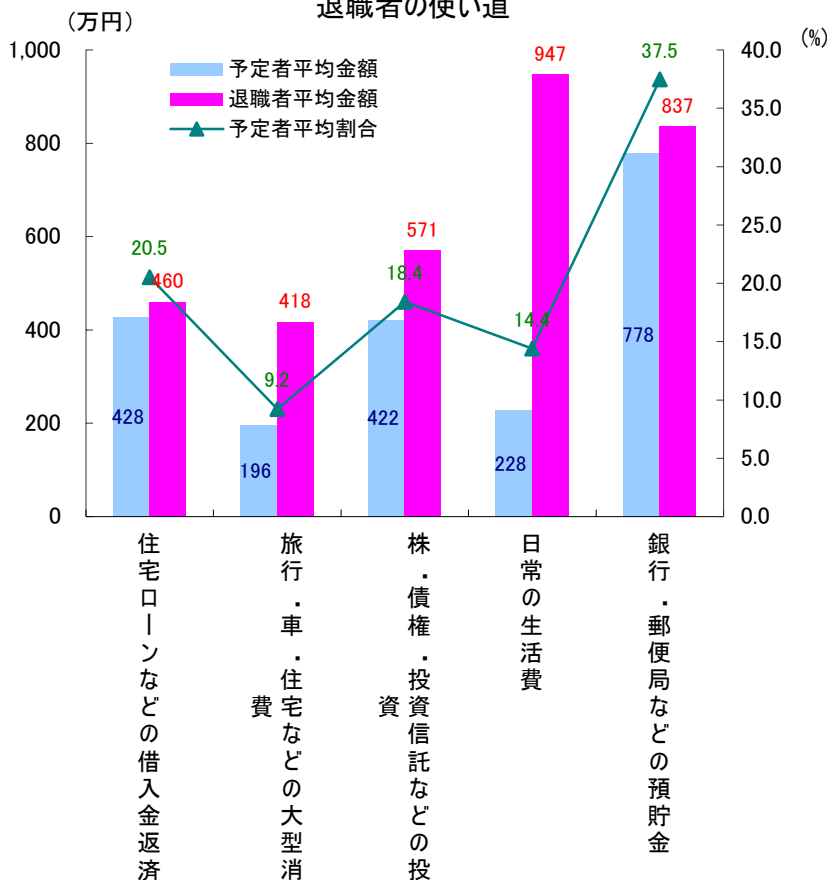
●すでに退職した退職者の退職年別にはそれほど大きな違いはなく、平均2271万円である。

18＜定年退職金の使途＞

【定職予定者】問28：退職金をどのようにお使いになる予定ですか、あるいはどのようにお使いになりましたか。退職金入手後、1年間を想定して、それぞれの項目へ割り当てる%をおきかせください。現在しっかりした計画がない場合でも、およその心積もりで結構ですので、お聞かせください。

【退職者】問28：退職してから現在までの、あなたの世帯の合計支出金額についておたずねします。（合計が退職金総額を越えても結構です。）

定年退職予定者の退職金計画と
退職者の使い道



●退職金の行方はどこへ

●退職金を受け取る前の退職予定男性の退職金の予定使途は、400万円ほどの住宅ローンなどの借入金を返して、すぐに大型消費へ走りこなく200万円ほどにとどめ、将来の生活費のためにとりあえず銀行・郵便局へ800万円ほど預けるが、金利を考えて400万円ほどは投資型の金融商品を買おう、というような堅実なプランとして要約されるだろう。

●それでは退職男性はどのように退職金を使ったか。退職後今日までの累積金額をたずねた。（退職後経年平均4.3年）

1) 大きく伸びるのは、当然ではあるが日常生活費である。就労収入や年金収入でまかなっている人が大部分だろうが、退職金を含めた預貯金からの取り崩しからもフローがあるだろう。（日常生活費だけで月平均18万円）。

2) 住宅ローンなどの返済はほぼ予定通り460万円実施されている。

3) 旅行・車・住宅などの大型消費へは4.3年後には420万円ほど支出され、予定の2倍となっている。

4) 株などの金融商品へは予定が420万円のところ570万円である。

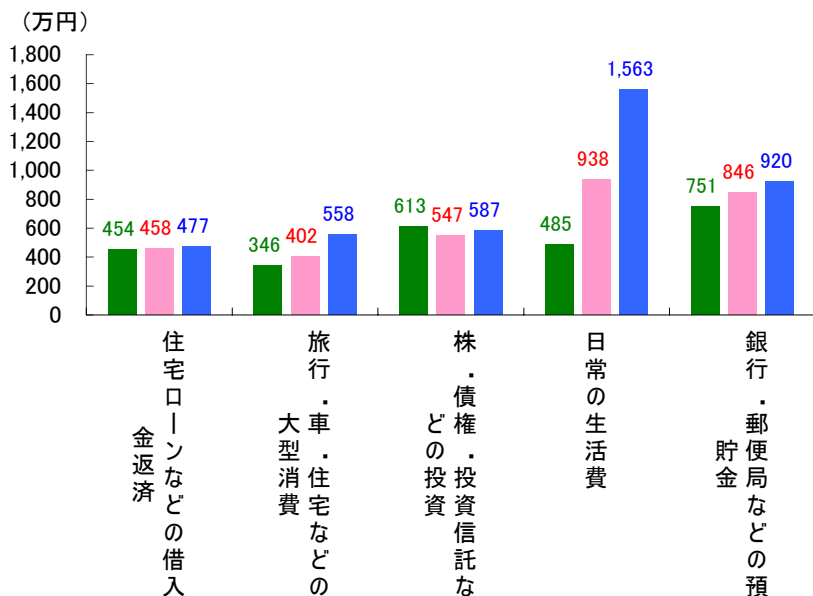
●退職男性の退職後の経年別に使途の変化を見てみよう。

確実に増加する日常生活費と一度返済・購入したら増加しない支出（住宅ローン・株などの投資型金融商品）があるが、旅などの大型消費は確実に増加するタイプの費目である。

団塊退職者の支出先は具体的にどこになるのだろうか。何に消費されるのだろうか。
以下のページで検討したい。

退職者の使い道（退職後年経過別）

■退職後3年未満 (N=79) ■退職後3-6年 (N=188) ■退職後7年以上 (N=62)



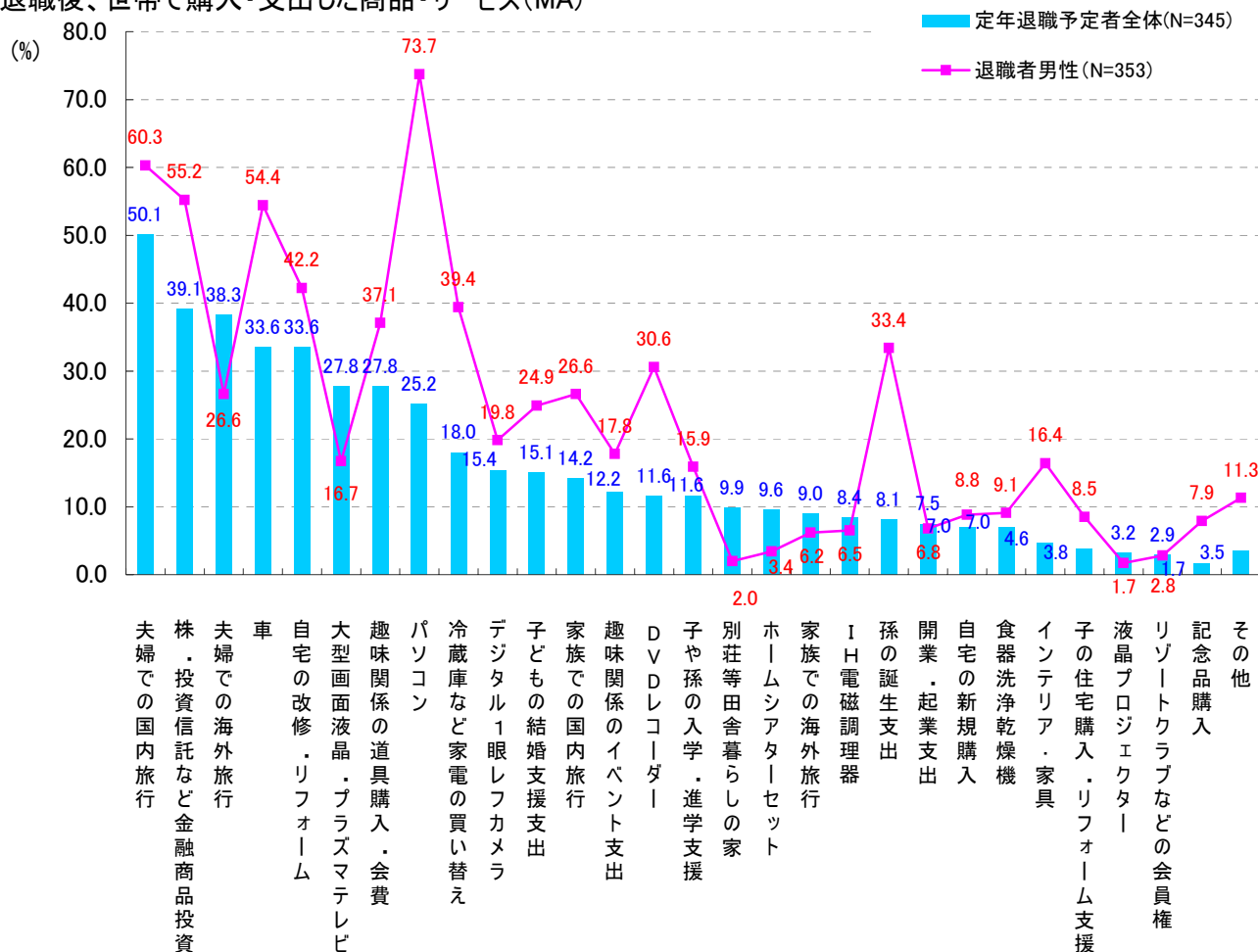
19-(1)＜定年退職後の生活を豊にするために購入したい、サービス・商品＞(全体)

【定年予定者】問29:退職金や預貯金を使って、退職後の生活を豊かにするために、どのような商品やサービスを購入なされたいですか。今後購入したい・実行したいとお考えの品目・サービスをすべてお聞かせください。(MA)

【退職者】問29:退職後、あなたの世帯で購入・支出なされたものを以下の商品やサービスのなかからすべてお知らせください。(MA)

定年退職後の生活を豊かにするために購入したい、サービス・商品(MA)

退職後、世帯で購入・支出した商品・サービス(MA)



●退職予定男性と退職男性について、退職後の生活を豊かにするために購入したい(購入した)商品・サービスについて検討しよう。

●退職予定男性が購入したいとしているよりも退職男性が多く購入したものは、「パソコン」「夫婦での国内旅行」「株・債券・投資信託などの金融商品」「車」「自宅の改修・リフォーム」の5品目である。ただし本調査がネット調査であることを考慮し「パソコン」は例外的に高いことから、これをはずすと、残り4つの商品が退職後暮らしの＜新4種の神器＞ということになる。

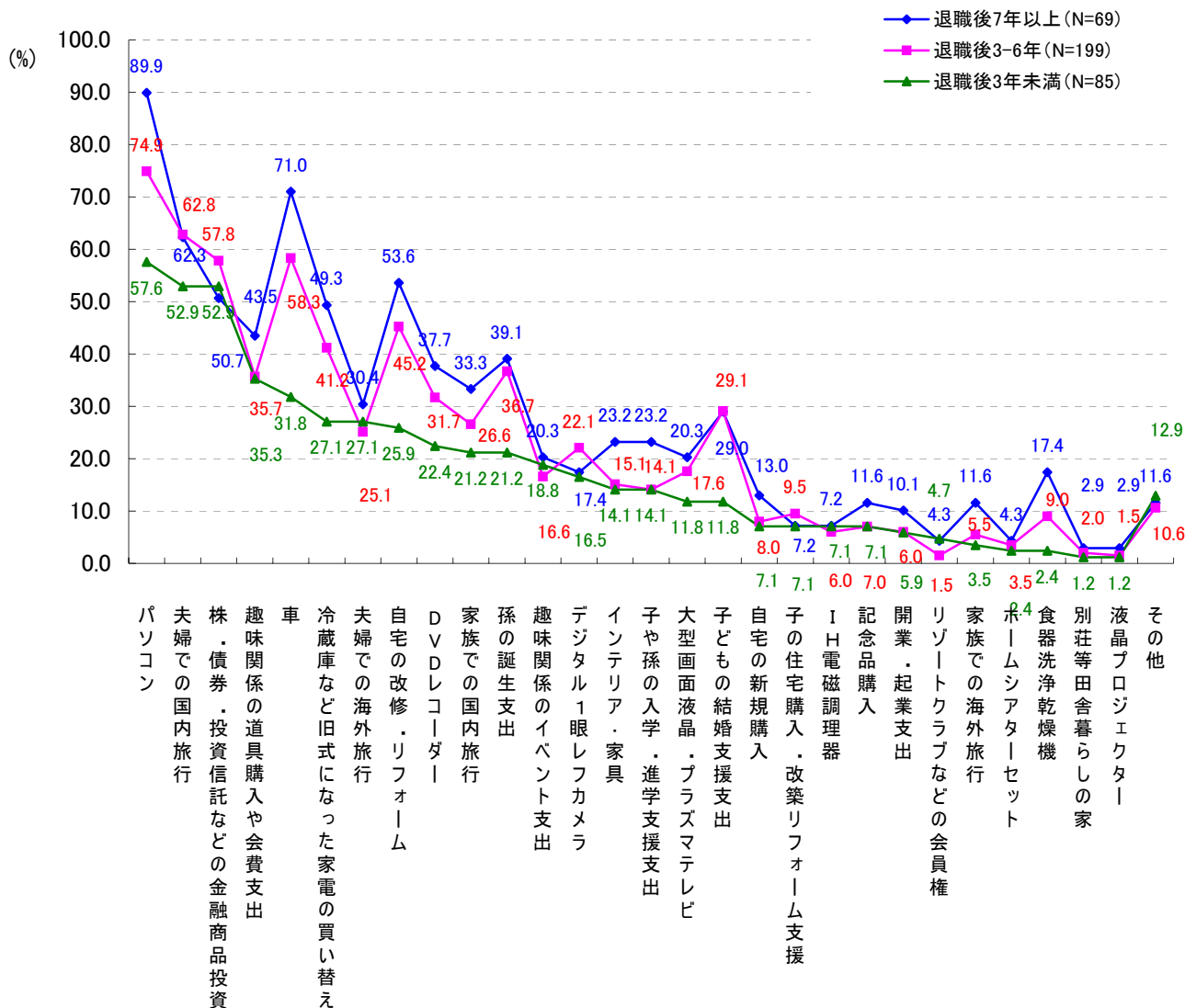
●一方、退職予定男性の希望の方が退職男性を上回る品目は団塊世代を7割含む退職予定男性に特徴的な購入意向品目といえるだろう。それらは「夫婦での海外旅行」「大型液晶・プラズマテレビ」である。また購入意向率は少ないが退職予定男性で特徴的に多い品目は、「別荘等田舎暮らしの家」「ホームシアターセット」がある。これらの品目も今後伸びていくと見てよいだろう。

●また、購入率はやや下がるが、退職予定男性と比べ、退職男性では明らかに高い品目は「冷蔵庫など家電の買い替え」「孫の誕生支出」「DVDレコーダー」である。これらは退職予定男性ではまだ気がつかないシニアライフステージ品目であって、今後も継続的に期待できる品目といえるだろう。

19-(2) <定年退職後の生活を豊にするために購入したい、サービス・商品> (退職後経年別)

【退職者】問29: 退職後、あなたの世帯で購入・支出なされたものを以下の商品やサービスのなかからすべてお知らせください。(MA)

退職後、世帯で購入・支出した商品・サービス(退職後経過年別)(MA)



●購入品目には退職後時間を経れば、それだけ多くの人が購入する品目と、一方それほど広がらず、限られた人が購入する品目とがある。

<時間がたてば広がる品目>

「パソコン」「車」「自宅の改修・リフォーム」「家電の買い替え」「孫の誕生支出」など。これらの品目はそう何度も同じ分野の商品を購入するわけではなく、買い替えが主流である。

<時間が経っても一定の人以上には広がらない品目>

「夫婦の国内旅行」「株などの金融商品」「趣味関係の道具支出」「夫婦の海外旅行」「趣味関係のイベント支出」があげられる。

もっともこれらの品目は広がりや反復頻度は高いであろうから、囲い込むことが重要だ。

<退職後最初の3年以内が特に購入率が高い品目>

「パソコン」「夫婦の国内旅行」「株などの金融商品」「趣味関係の道具支出」「車」「家電の買い替え」「夫婦の海外旅行」。これらの品目は最初の3年以内に30%程度の人が入る。早い時期から仕掛ける必要があろう。

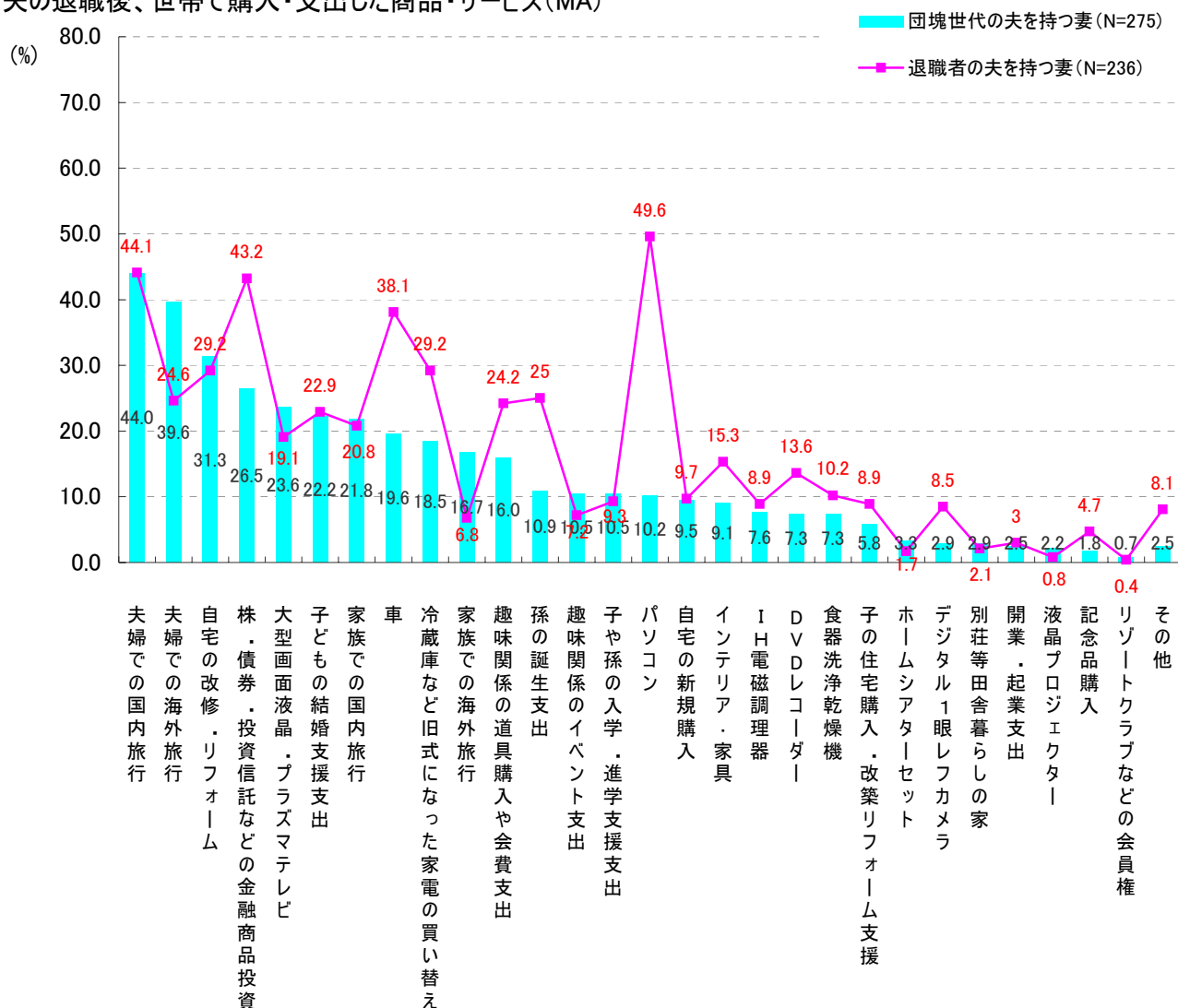
19-(3) <定年退職後の生活を豊かにするために購入したい、サービス・商品>(女性)

【団塊の妻】問29:退職金や預貯金を使って、退職後の生活を豊かにするために、どのような商品やサービスを購入なさりたいですか。今後購入したい・実行したいとお考えの品目・サービスをすべてお聞かせください。(MA)

【退職者の妻】問29:夫の退職後、あなたの世帯で購入・支出なさったものを以下の商品やサービスのなかからすべてお知らせください。(MA)

定年退職後の生活を豊かにするために購入したい、サービス・商品(MA)

夫の退職後、世帯で購入・支出した商品・サービス(MA)



●妻の側から見た、夫退職後の購入品目を見てみよう。

●購入品目トップ5は「パソコン」「夫婦での国内旅行」「株などの金融商品」「車」「自宅のリフォーム」である。世帯での購入品目であるから、夫と差はない。

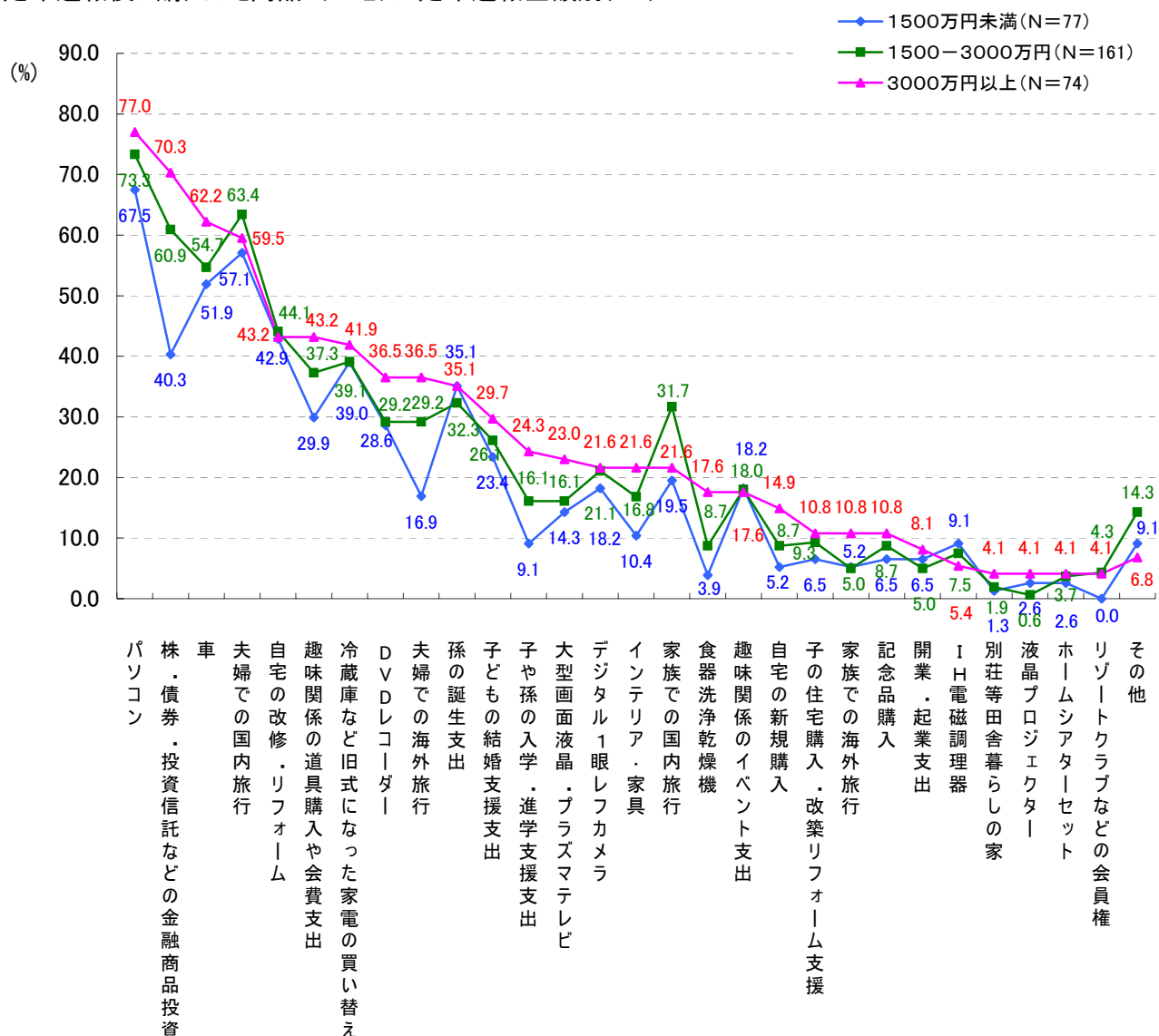
●団塊世代を夫に持つ妻が購入したいとするトップ5は「夫婦での国内旅行」「夫婦での海外旅行」「自宅のリフォーム」「株などの金融商品」「大型画面テレビ」であるが、とくにこれから退職する団塊世代を夫に持つ妻が希望する品目は「夫婦での海外旅行」である。また旅行では「家族での海外旅行」にも希望が大きい。これまで退職者の妻が購入した「夫婦での海外旅行」よりもたいへん高い希望となっており、実現するとすれば、たいへん大きな市場となる。

●夫の退職前にはそれほど支出予定として意識していなかったが、退職後に実際に支出したという品目は「家電の買い替え」「趣味関係の道具購入」「孫の誕生支出」などである。

19-(4) <定年退職後に購入した商品・サービス>(退職金額別)

【退職者】問29:退職後、あなたの世帯で購入・支出なされたものを以下の商品やサービスのなかからすべてお知らせください。(MA)

定年退職後に購入した商品・サービス 定年退職金額別(MA)



●退職金額の違いはどのような支出品目の違いとなっている現れるだろうか。

●退職金額の多少によって変わってくる品目は「株などの金融商品」「趣味関係の道具支出」「夫婦での海外旅行」「子や孫の入学・進学支援支出」「インテリア・家具」など高額品や余裕品目である。

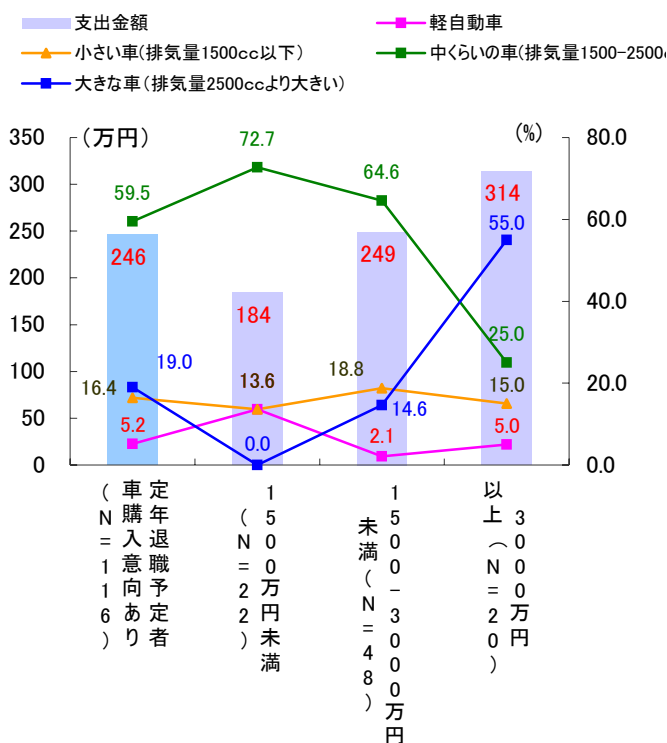
●逆に退職金額の多少にかかわらず支出された品目は「パソコン」「夫婦での国内旅行」「自宅のリフォーム」「家電の買い替え」「孫の誕生支出」「子どもの結婚支出」「デジタル一眼レフカメラ」「趣味関係のイベント支出」などとなっている。普及品や必需品への支出が多くなっている。また「家族での国内旅行」「夫婦での国内旅行」は特徴的で、退職金額が1500-3000万円未満の中間層において、特に支出率が高くなっている。いわばボリュームゾーンの商品である。余裕品だけの取り揃えだけではなく、数的に多いボリュームゾーンにも目をやる必要があるということだ。

20-(1)＜車の購入に関して＞

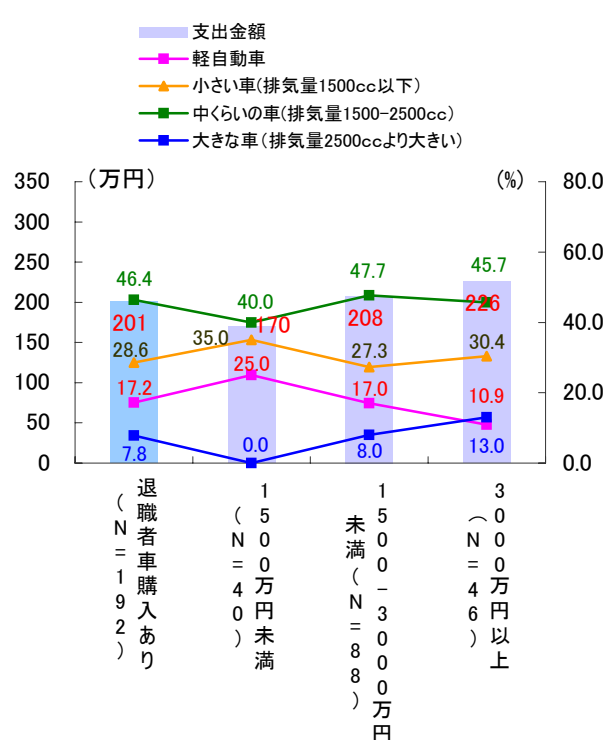
【定年予定者】【退職者】問30-2: ご購入なされたい(なされた)車の大きさ(排気量)をお知らせください。(SA)

【定年予定者】【退職者】問30-4: 車の購入に支出(なされた)してもよいと思われる金額をお知らせください。(SA)

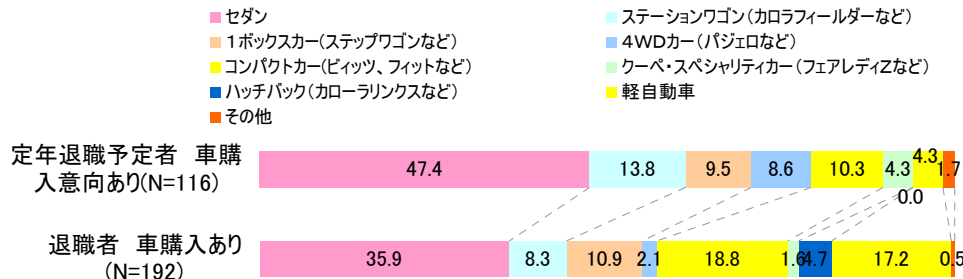
購入したい車の大きさ(排気量)と支出金額



購入した車の大きさ(排気量)と支出金額



購入したい(購入した)車のタイプ(SA)



●退職消費の＜4種の神器＞のうち＜車＞について検討しよう。

●定年予定者で車の購入意向のある人は＜車＞に246万円の支出を予定しているが、退職者で車を購入した人は201万円の支出だった。予定者と退職者とはかなりの差があるといえる。

●排気量でみると、予定者の6割の人が「中くらいの車(排気量1500-2500cc)」を購入したいと考えているが、退職者の購入者は46%でしかない。また予定退職金額3000万円以上の人55%は「大きな車(排気量2500cc以上)」を購入したいと考えているが、実際の退職金3000万円以上に人が購入した車で「大きな車」の人は12%でしかない。

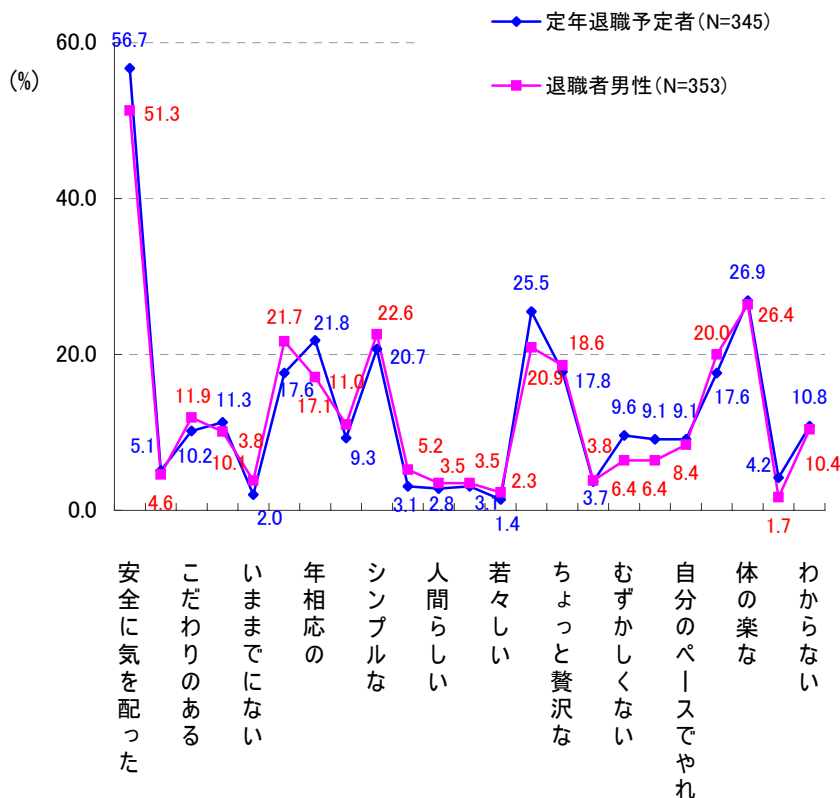
●逆に予定者の意向よりも退職者が購入した方が多かった車は「軽自動車」(5.2%⇒17.2%)、「小さい車」(16.4%⇒28.6%)である。団塊世代の今の購入意向を持って、退職後の購入を占うのはリスクを伴うということである。

●車種別に見ると、予定者の意向車種は「セダン」が多いが、退職者が購入した車種は「セダン」は相対的に少なく、その代わり、「コンパクトカー」(+8%)、「軽自動車」(+13%)が多くなっている。夫婦だけの生活に大型車は要らないと考えるのは当然のように思える。小型車、軽自動車でもどのようなコンセプトが受け入れられるのか。この背景にあるニーズを次に検討したい。

20-(2)＜車の選択理由＞

【定年予定者＆退職者】問24：夫婦で楽しむための商品・サービスを選ぶとき、あなたがこだわって重視したいキーワードは以下のどれですか。あなたの感じに少しでもピンと来るものがあれば、それぞれいくつでもお知らせください。(MA)

夫婦で乗る車を選ぶときのキーワード

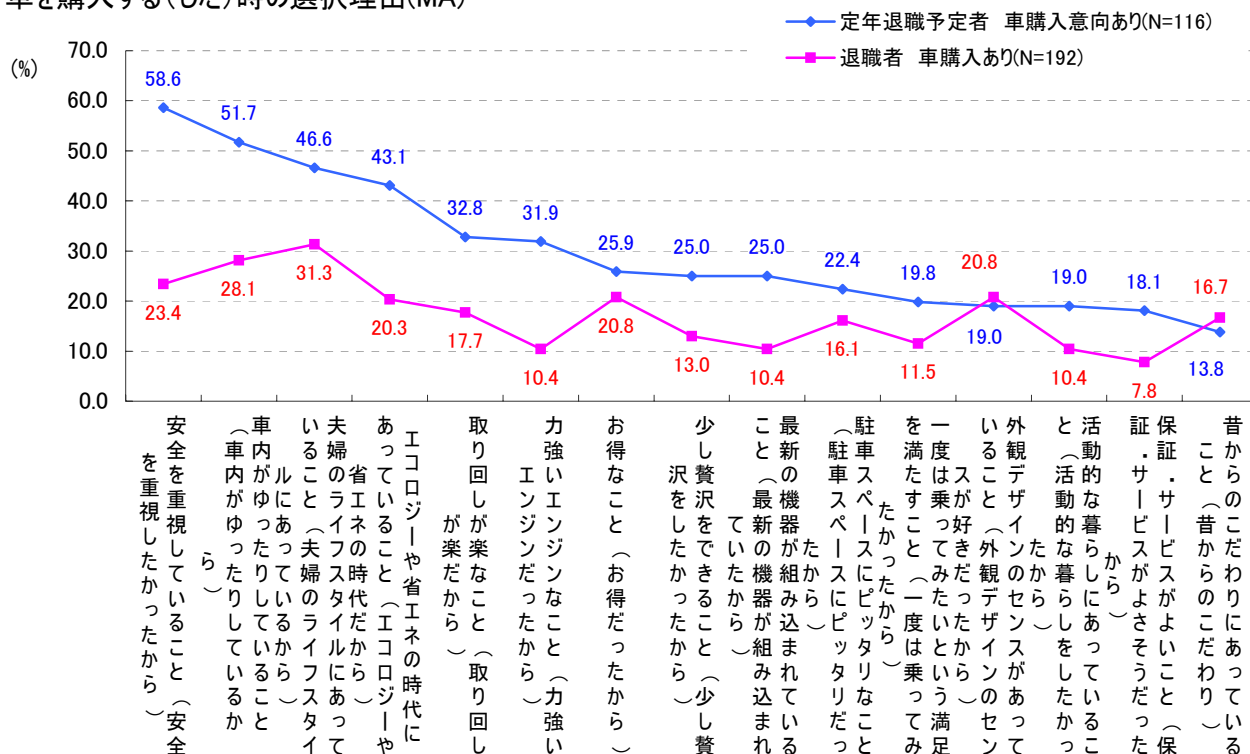


●「夫婦で乗る車」にたいするこだわりのキーワードは、「安全に気を配った」「体の楽な」「低価格の」「上質な」「シンプルなもの」あたりが上位を占める。意味的に矛盾することもあるが、それが矛盾していないような車ヘンズが向かっているということだろう。

●車購入時の選択理由(下図)でみると、退職予定者においては、「安全性重視」「車内ゆったり」「夫婦のライフスタイルにあっていること」「エコロジーや省エネ」が主要な選択理由であるが、退職者においては「夫婦のライフスタイルにあっていること」「がまずあげられている特徴がある。」「車内ゆったり」「安全性」「お得だったから」とつづく。「室内ゆったり」とは贅沢や裕福を求めているのではなく「体が楽な」ことを意味しているとおもわれる。

●また「外観・デザインのセンス」についても購入理由の重要な項目になっている。いままで買いたくても買えなかったスポーツカーなどに相当するだろう。

車を購入する(した)時の選択理由(MA)

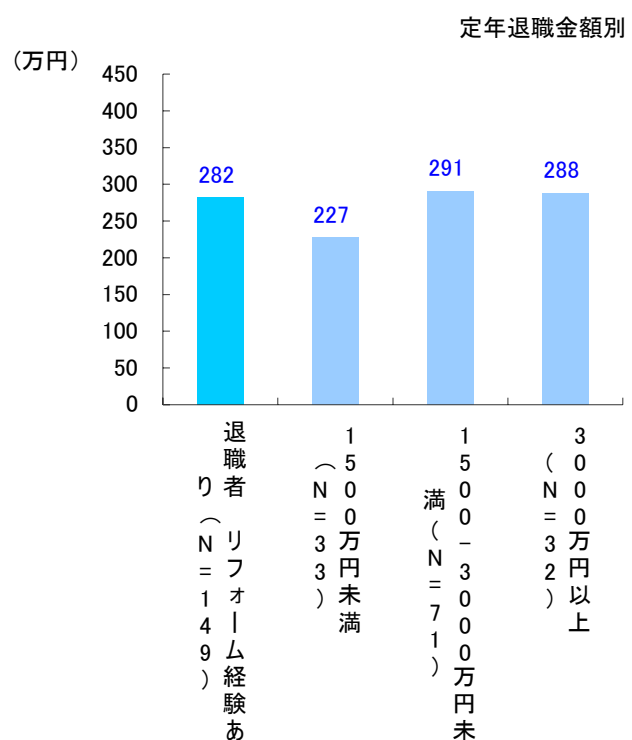
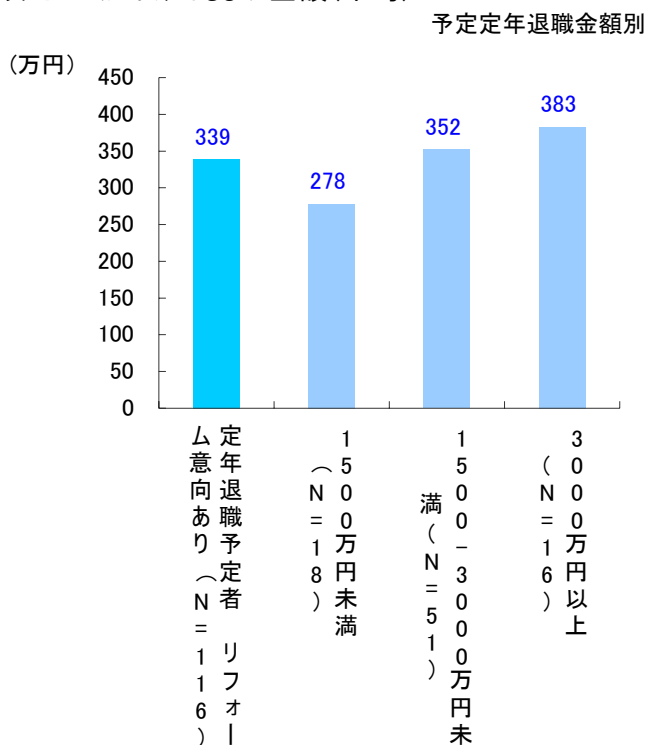


21-(1) <住宅リフォームへの支出に関して>

【定年予定者】【退職者】問31-2: リフォームにかけてもよいという金額(かけた金額)はいくらでしょうか。(SA)

リフォームにかけてもよい金額(平均)

リフォームにかかった支出金額(平均)



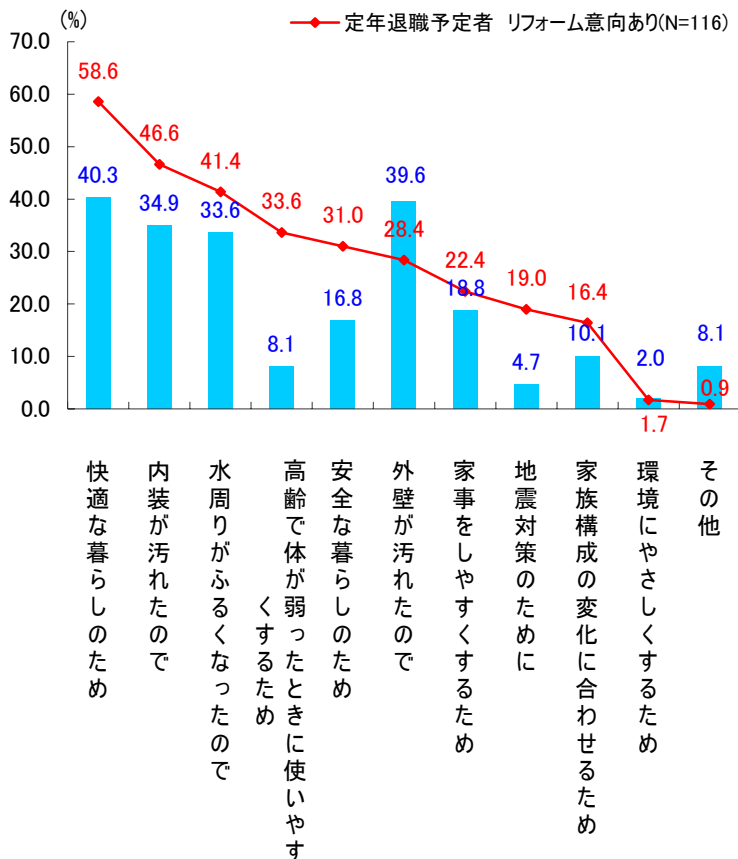
21-(2) <住宅リフォームの目的>

【定年予定者】【退職者】問31-3: リフォームをなさろうという目的(なされた目的)は何ですか。(MA)

リフォームの目的(MA)

■ 退職者 リフォーム経験あり(N=149)

● 定年退職予定者 リフォーム意向あり(N=116)



● <自宅のリフォーム>について検討しよう。

● 定年予定者のうちリフォーム予定のある人の平均予定金額は339万円。一方退職者のうちリフォームした人のかけた金額平均は282万円。やはりリフォームにおいても差は大きい。3000万円以上の退職金があった人でも288万円しか支出していない状況。

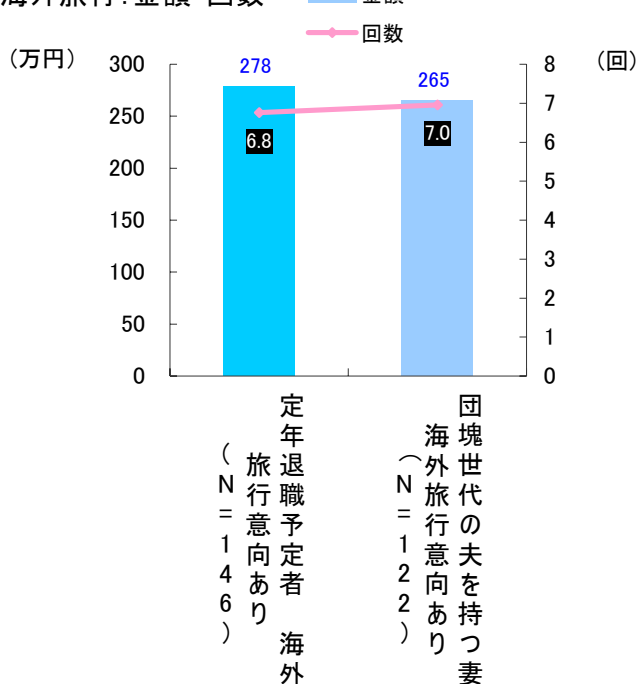
● リフォームの目的は予定者においては「快適な暮らしのため」「内装が汚れたので」「水周りが古くなったので」「高齢対策」となっているが、退職者の目的は「外壁が汚れたので」「快適な暮らし」「内装」「水周り」となっていて、両グループでの居住形態は違いが少なく、戸建て持ち家が多数派であるにもかかわらず、意外にも実際にはバリアフリー対策が少ないところ。まだ、その時期ではないということか。

22-(1)＜海外旅行への支出に関して＞

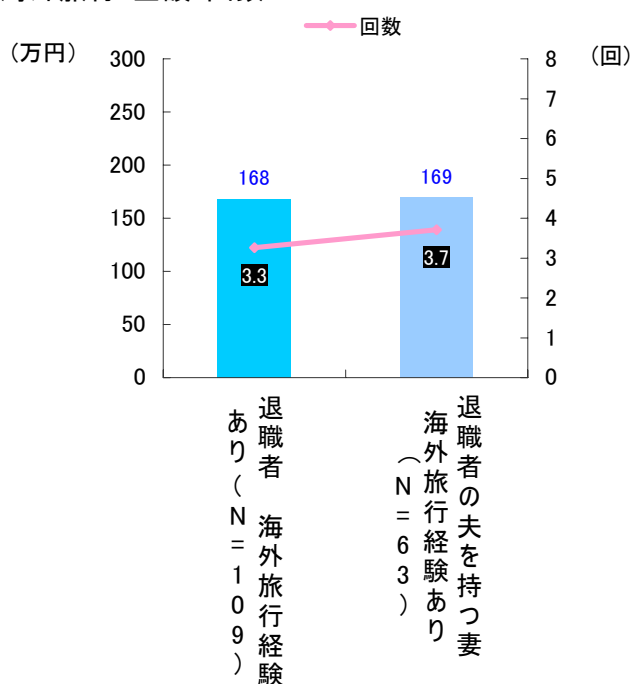
【定年予定者】【退職者】問32-1:退職後、ご夫婦や友人、家族との海外旅行には何回ぐらい出かけたいとお考えですか(何回ではけられましたか)。(SA)

【定年予定者】【退職者】問32-2:退職後、夫婦や家族、友人との海外旅行に総額どの程度の支出をなさってもよい、とお考えですか(いくら支出なさいましたか)。(SA)

海外旅行:金額・回数



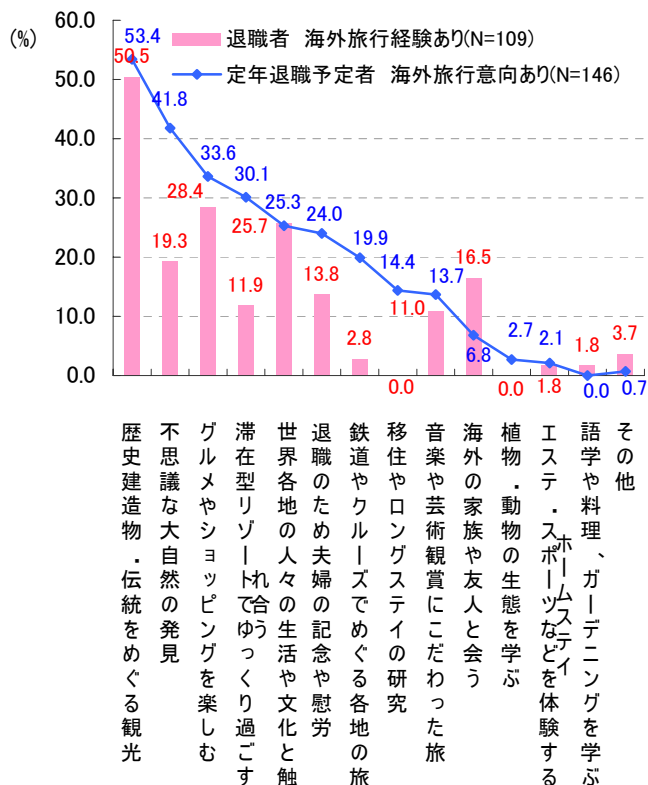
海外旅行:金額・回数



22-(2)＜海外旅行の狙い＞

【定年予定者&団塊の妻】【退職者&退職者の妻】問32-4:退職後、出かけたい海外旅行の狙いは次のどれですか(一番最近行かれた海外旅行の狙いは何ですか)。(3MA)

海外旅行の目的(3MA)

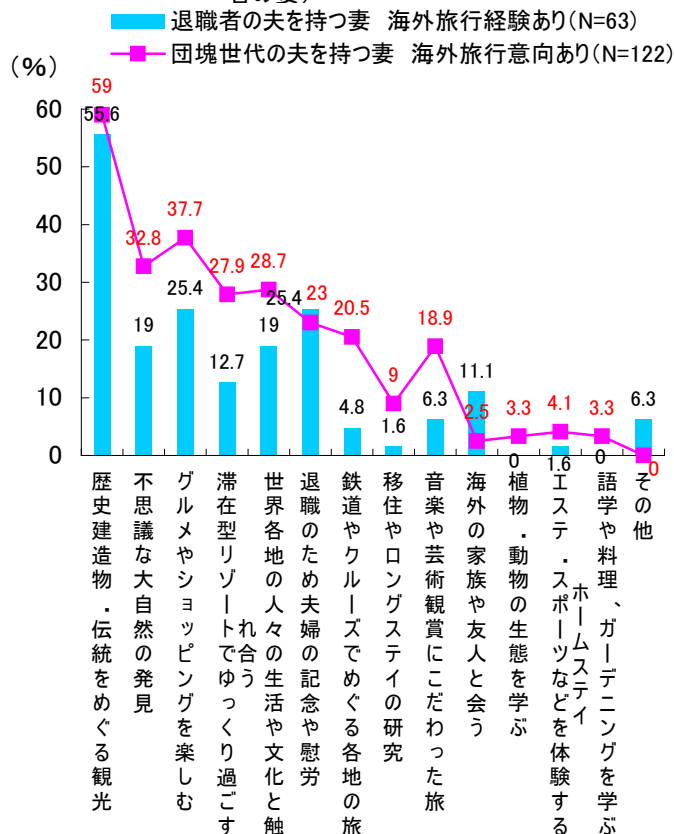


●＜海外旅行＞も退職者の4種の神器の一つだ。

●退職予定者は退職後に総額270万円あまりを海外旅行にあてたいと考えているが、退職者は170万円あまりを支出したとしている。また回数も退職予定者では7回あまりを予定しているが、退職者においては3-4回あまりである。退職予定者はあくまで希望であって、実際にはそこまではいかない、と見ることは妥当だと思うが、しかし、退職者と同じレベルだとも思えない。傾向として世界遺産などの海外旅行の希望者は増加しているし、海外旅行のエキスパートはシニアにはめずらしいことではない。団塊世代を中心とした退職者の増加は間違いのないとして、どのような狙いを持って海外旅行をするかというニーズが問題であろう。

●その点を検討しよう。まず退職者の海外旅行の狙いは「歴史建造物・伝統をめぐる観光」が最も多く、また、それに集中する傾向がある。一方退職予定者の狙いはいっとバラエティに富み、個性的な狙いを持っていると思われる。例えば「不思議な大自然」「滞在型リゾート」「鉄道やクルーズ」「移住やロングステイ」などリピーターならではのこだわりが見られる。いはば脱パック旅行であって、観光から体験へ、観光から滞在へと関心がいつそう移行しているように思われる。

海外旅行の狙い(団塊世代の夫を持つ妻VS退職者の妻)



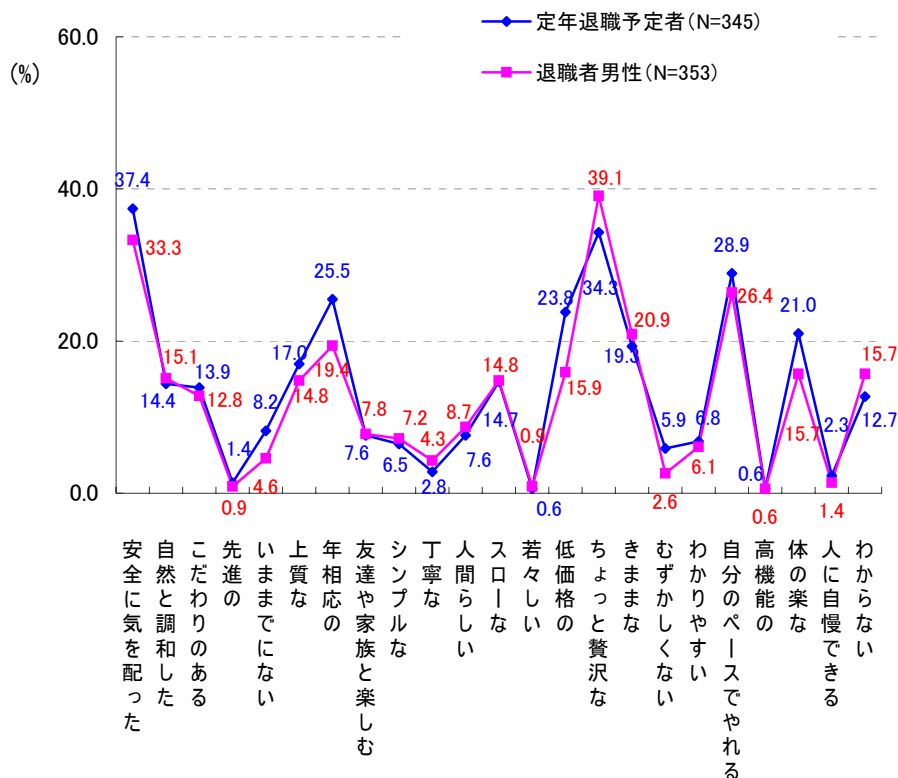
●女性の側にもそのことはいえそうだ。団塊世代を夫に持つ妻の方が退職者の妻よりも、旅の狙いは多様化し、いっそう目的がはっきりしてきているようだ。

●ただし、男性と違っているのは、退職者の妻では「退職のため夫婦の記念や慰労」という目的が2番目の理由となっていることだ。夫の退職旅行という側面を男性より強く意識しているといえるかもしれない。

●＜夫婦で行く海外旅行を選ぶ時のキーワード＞は「ちょっと贅沢な」「安全に気を配った」「自分のペースでやれる」「年相応の」「体の楽な」がキーワードである。退職予定男性と退職男性との間には顕著な差は見られないし、男性と女性でも大きな違いは見られない。こうしたキーワードで示されているコンセプトは、やはりパック旅行のようにひとまとめにされたくない、自分のペースで日程を組め、観光を欲張らずに疲れてしまわないようにしたい、やはり年相応に扱ってくれるような旅でありたい、ということである。それがちょっと贅沢という意味ではなかろうか。

【定年予定者&退職者】問24：夫婦で楽しむための商品・サービスを選ぶとき、あなたがこだわって重視したいキーワードは以下のどれですか。あなたの感じに少しでもピンと来るものがあれば、それぞれいくつでもお知らせください。(MA)

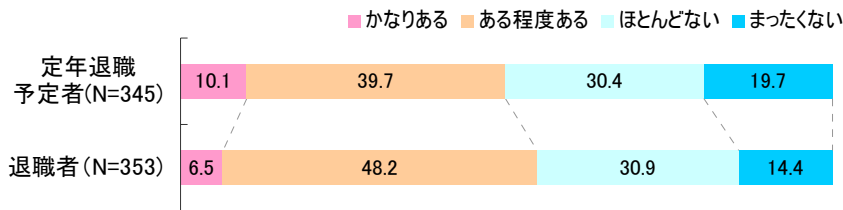
②夫婦で行く海外旅行を選ぶときのキーワード



23<投資型金融商品に関して>

【定年予定者&退職者】問33:あなたは外貨建金融商品・株式・投資信託などの投資型の金融商品についてどの程度の知識があると思われますか。(SA)

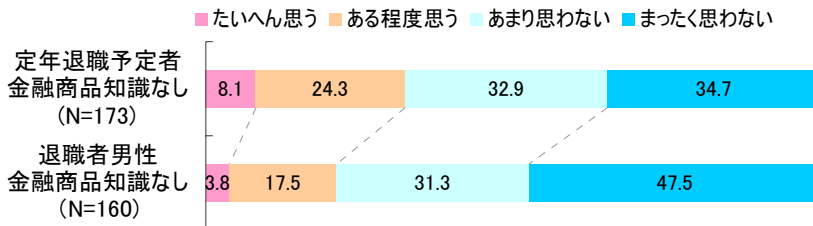
投資型金融商品の知識(男性)



●投資型金融商品についての知識があるとする人は退職予定者で50%程度。退職者で55%あまり。退職予定者では「まったくない」人が20%あまりいて、これからどう動くかが気になるところ。

【定年予定者&退職者】問34:今後2-3年の間で、預貯金以外に投資型の金融商品を始めてみようと思われませんか。(SA)

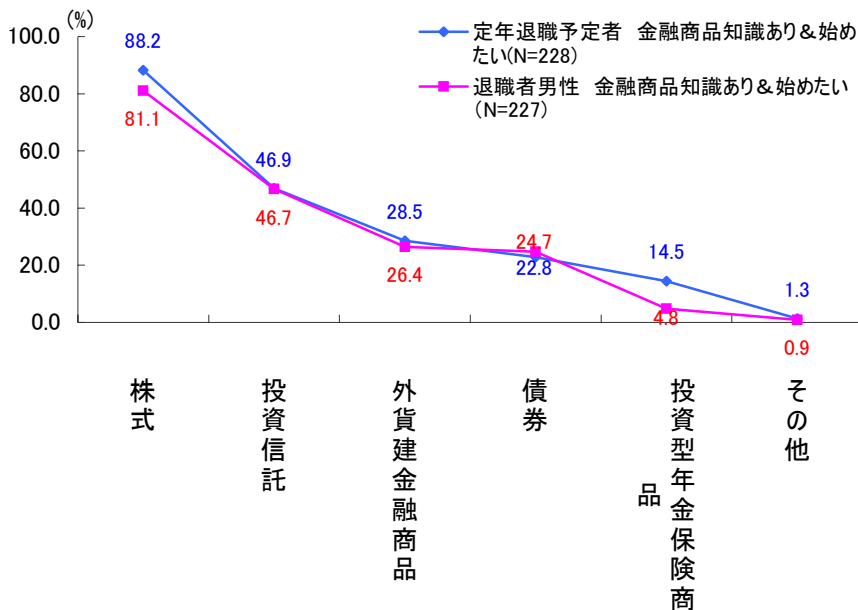
投資型金融商品を始める意向(男性)



●金融商品について知識のない人にたいして、今後2-3年以内に投資型金融商品を始める意向をたずねた。退職予定者ではその32%あまりに、また退職者では21%に意向があった。全体としては退職予定者の15%、退職者の9.5%である。したがって、2-3年後には投資型の商品を購入する60-65才の退職者の人は60%を超えることになる。

【定年予定者&退職者】問35:どのタイプの金融商品にご関心がありますか。(MA)

関心のある金融商品のタイプ(MA)

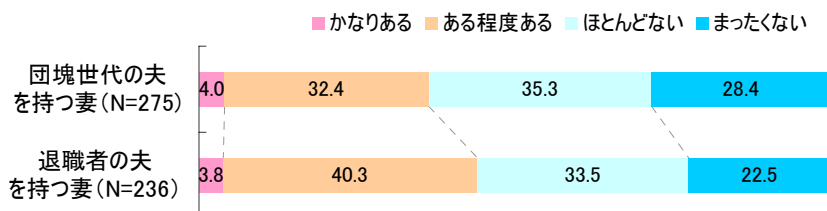


●どの金融商品に関心を持っているかといえば、それは圧倒的に株式である。それ以外にも投資信託にも関心が向かっているところだ。

●また、男性ほどではないにしろ、女性にも知識や関心がある。団塊世代の夫を持つ妻では36%が、退職者の妻では44%が知識あり、としている。退職後は、預貯金の使途は、夫婦の協議事項ということになろうし、夫が金融資産を勝手に使うことはなかなかむずかしいだろうから、投資へは夫だけでなく妻も巻き込んだアプローチが有効となろう。

【団塊の妻&退職者の妻】問33:あなたは外貨建金融商品・株式・投資信託などの投資型の金融商品についてどの程度の知識があると思われますか。(SA)

投資型金融商品の知識(女性)



「団塊世代の退職調査研究」

第4章 「退職予定者の退職後の追跡調査」 結果報告

<調査概要>

1)退職予定者追跡調査

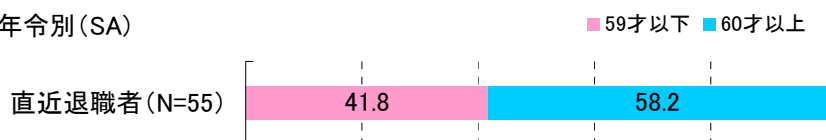
- 1 対象者: 2006年4月実施「退職予定調査」対象者のうち2007年1月までに退職予定ありの人
- 2 有効回答数: N=127
実際に2006年4月から2007年1月までに退職した人「直近退職者」: N=55
- 3 調査方法: インターネット、メール&ウェブ
- 4 調査地域: 全国
- 5 調査時期: 2007年1月

2)調査項目 目次

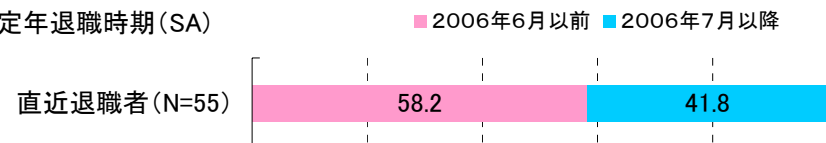
○ 対象者のプロフィール	96
○ 退職前の夢と退職後の現実	97
○ 定年退職への態度	98
○ 定年退職後の生活への経済的不安	99
○ 定年退職後の生活スタイル	100
○ 定年退職後の自立:自分でできること、できると思うこと	101
○ 自分の居場所	102
○ 夫婦仲の認識	102
○ 団塊世代の意識	103
○ 定年退職後のライフスタイル意識	104
○ 暮らしへのこだわりの重視点(キーワード)	106
○ 退職金金額	107
○ 定年退職金の使途	107

(1)＜対象者のプロフィール＞

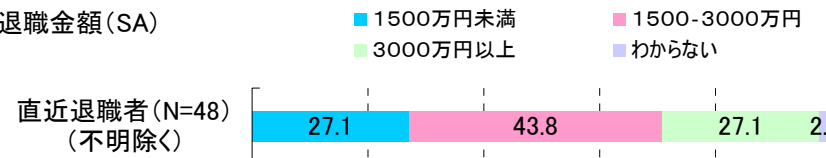
年齢別 (SA)



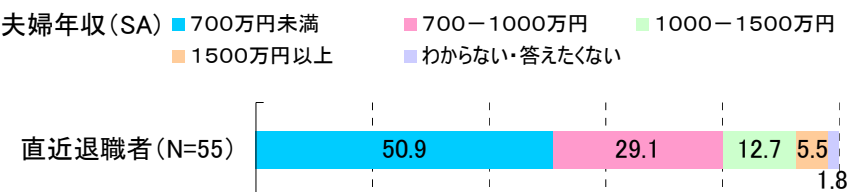
定年退職時期 (SA)



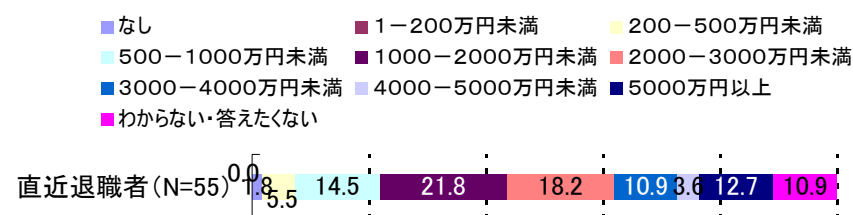
退職金額 (SA)



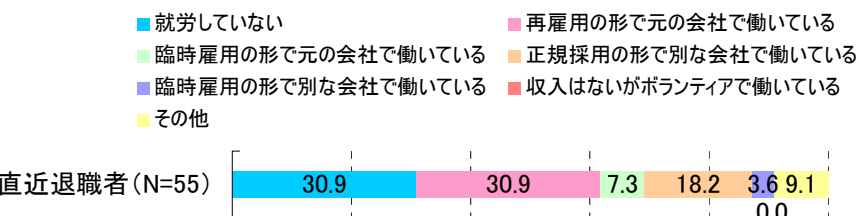
夫婦年収 (SA)



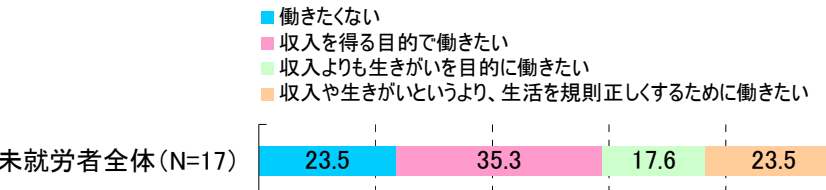
世帯保有金融資産 (SA)



就労状況 (SA)



未就労者の就労希望 (SA)



「直近退職者」のプロフィールを見ておこう。

●＜年齢＞

59才以下と60才以上とでは60才以上58%、59才以下の早期退職は42%。

●＜退職時期＞

2006年4-6月の人が58%。最長定年期間は9ヶ月。2006年7月以降2007年1月までの人が42%。最長6ヶ月から最短1ヶ月未満。

●＜退職金金額＞

直近退職者55名のうち退職金をもらった人は48名(87%)。

●＜夫婦年収＞

700万円未満51%。

●＜世帯金融資産＞

平均2400万円強。

●＜就労状況＞

「就労なし」31%、「再雇用で以前の会社で働いている」31%、「正規採用で別な会社で働いている」18%という状況。何らかの形で就労収入がある人は6割である。

●＜未就労者の就労希望＞

「収入目的で働きたい」35%、「生きがい目的で働きたい」18%、「生活を規則正しくする目的で働きたい」24%、「働きたくない」24%である。働きたいとする人合計77%。

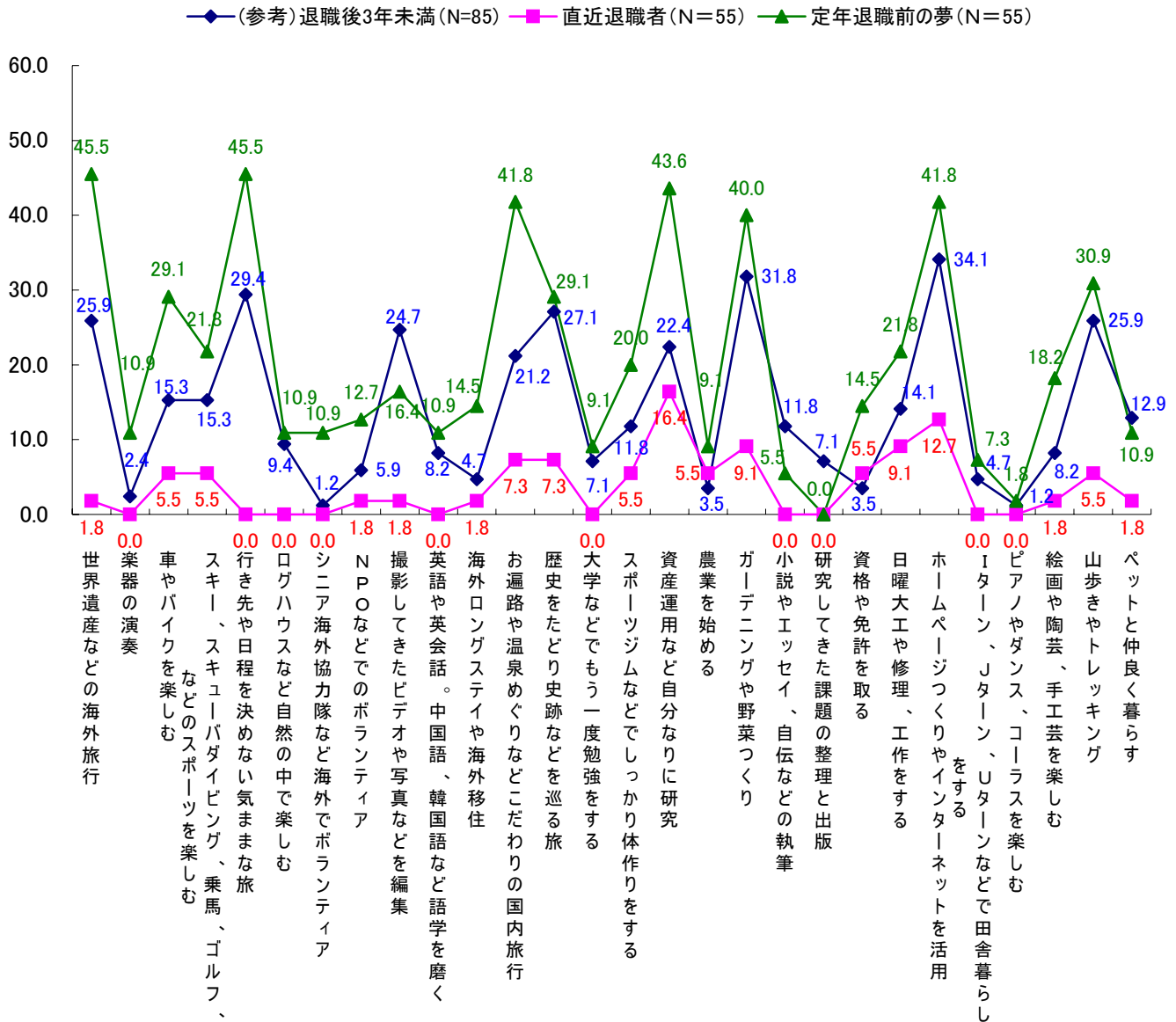
I. 調査結果の要約

1＜定年退職前の夢と退職後の実現＞

問5: 退職なさる前、あなたは退職したら「こんなことをしたい、やりたい」という希望や夢をお持ちでしたか。それはどんなことでしたか。できたらいいな、ということも含め、いくつでもお聞かせください。(MA)

問6: それでは、「退職したのでようやく実現した、あるいは退職をきっかけに新しく始めた。」ということはあるですか。それはどんなことでしょうか。いくつでもお聞かせください。(MA)

退職前の夢と夢の実現状況(1年&3年)



●定年退職前に願っていた夢は、その後実現しているだろうか。55人の直近退職者について追跡した。

●定年退職後最長9ヶ月、最短1ヶ月の人たちであるため、夢の実現はまだまだという結果であった。参考のため2006年8月実施の「退職者調査」から退職後3年未満の人の実施率を併載した。

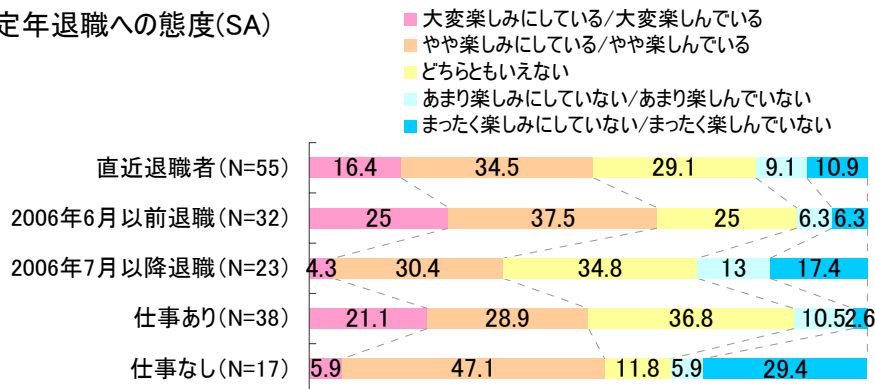
●55人の夢は「世界遺産などの海外旅行」「行き先を決めない気ままな旅」「資産運用など自分なりに研究」「こだわりの国内旅行」「ホームページづくりやインターネットを活用」「ガーデニングや野菜づくり」を実現したい、ということであった。これは2006年4月実施の「退職予定者調査」とほぼ同じ傾向で、55人は特別な人ではない。

●実現率はまだまだ低く、「資産運用研究」や「ホームページづくりなどインターネット」がやや実施されている割合が高い程度である。「世界遺産などに海外旅行」「行き先を決めない気ままな旅」は0%~2%程度。「こだわりの国内旅行」も7%あまりしかなく、先延ばしの状況。まだ定年退職になれていないせいか、「日曜大工」、「ガーデニング」など日常の延長にあるイベントしか手をつけていないということだろう。

2＜定年退職への態度とその理由＞

問7-1: あなたは定年退職について現在どのように感じていますか(SA)

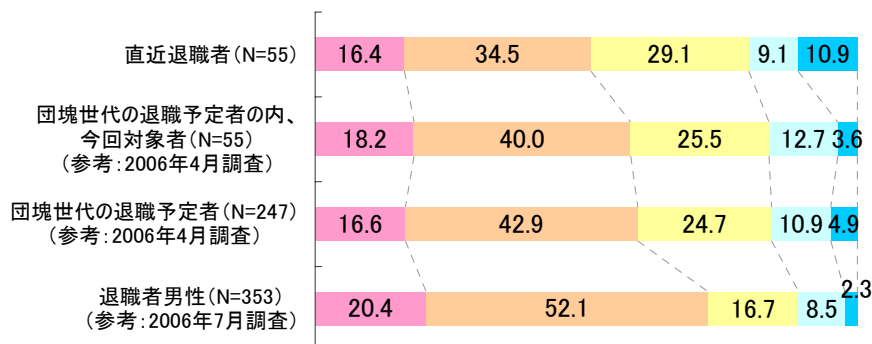
定年退職への態度(SA)



●定年退職への態度はこの1-9ヶ月でどのように変わったのだろうか。

●「直近退職者」全体では51%あまりが「楽しんでいる」としているが、退職後間もない7月以降退職者は、まだ慣れていないせいか、「楽しんでいる」という人は35%しかいない。また、「仕事なし」の人では「楽しんでいない」人が35%もいて「仕事あり」の人が退職を楽しんでいるのに比べ、対照的だ。

参考: 2006年4月7月調査との比較

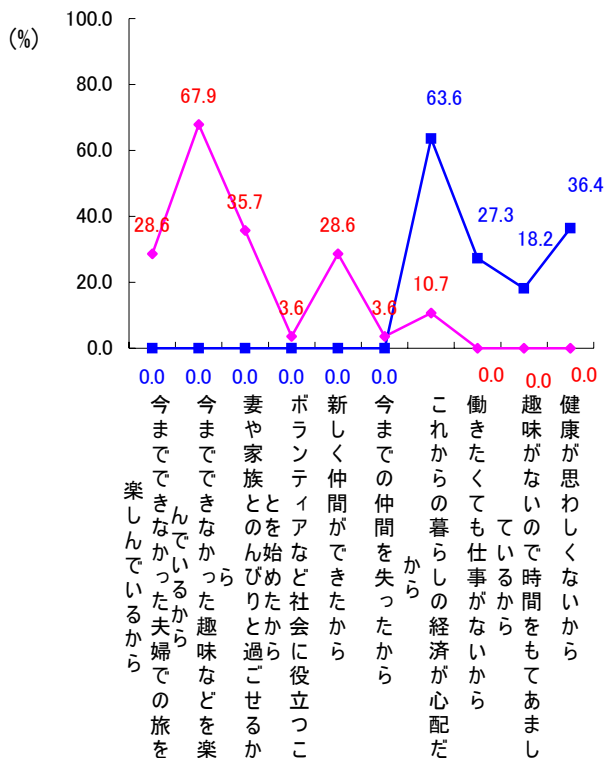


●退職直前の＜退職予定者調査: 2006年4月＞において、同じ人は「楽しみにしている」58%、「楽しみにしていない」16%であったのに対し、退職後では「楽しんでいる」という人がやや増えている。直後ということもあって、戸惑いを感じている様子。

問7-2: そう思われるのはどのような理由からですか。(MA)

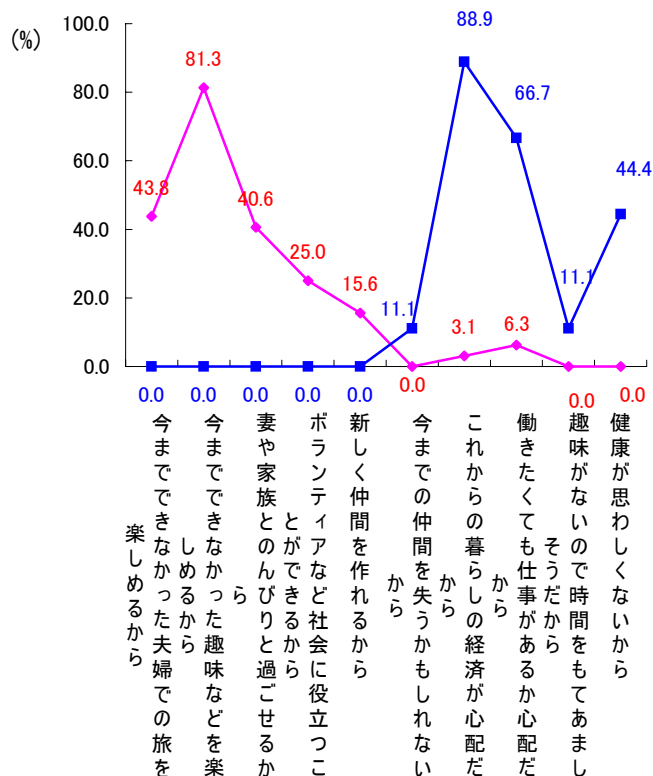
定年退職への態度、その理由(MA)

◆ 定年退職を楽しんでいる(N=28)
■ 定年退職を楽しんでいない(N=11)



定年退職への態度、その理由(MA)
(参考: 2006年4月調査の今回対象者)

◆ 楽しみにしている(N=32)
■ 楽しみにしていない(N=9)

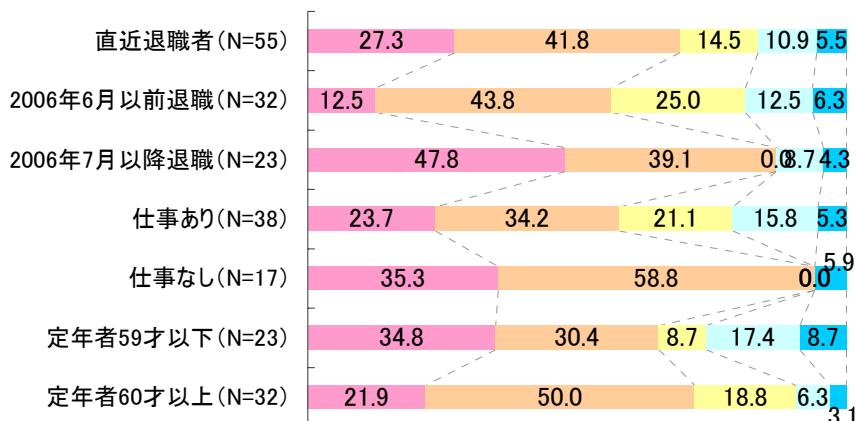


3＜定年退職後の生活への経済的不安＞

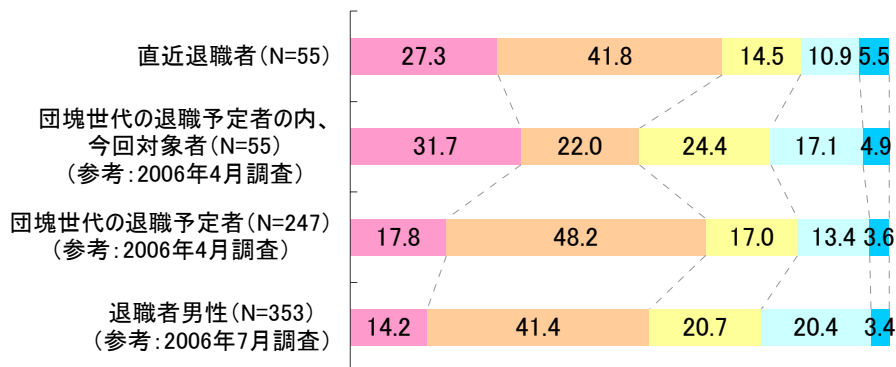
問8：あなたは定年退職後、将来の生活についてどの程度経済的不安がありますか。(SA)

定年退職後の生活への経済的不安(SA)

■ 大変不安がある ■ やや不安がある ■ どちらともいえない ■ あまり不安はない ■ まったく不安はない



参考：2006年4月7月調査との比較



●特に経済的不安についてみてみよう。

●N数が少ないので、参考値ではあるが、「直近退職者」は7割が不安感を持っている。4月調査のときは54%であったから、16ポイントも増えている。特に、「仕事なし」「7月以降に退職」の人が不安感を抱いている。

●7月実施の退職男性調査の結果からは不安感は徐々に払拭されていくことが分かっているが、また、それは就労できる人が増えるからではないと分かっているが、当面、「直近退職者」が不安感を持って生活していることは事実である。すると、不安感が提言するまでは、そのストックマネーが早い時期に消費へは回りにくい、ということを示しているかもしれない。

4-（1）＜退職者男性の生活スタイル＞

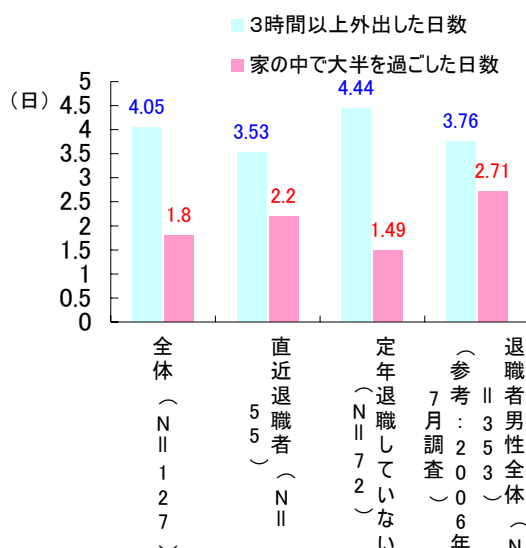
問10：最近1週間を振り返って、3時間以上外出した日数は何日ありましたか。

問12：最近1週間を振り返って、家の中で大半を過ごしたのは何日ありましたか。

問11：外出の目的はなんでしたか。(MA)

問13：主に何をして過ごしていましたか。(MA)

1週間の平均行動日数



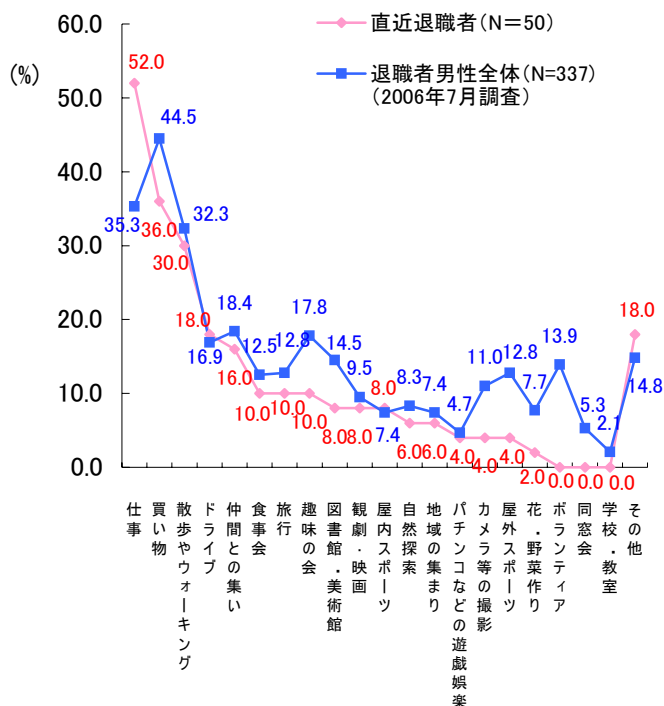
●退職者の消費は、1)家計の将来見通し 2)夫婦関係のよさ 3)健康状態 と大きく関係するという仮説がある。

また夫婦関係のよさは、1)夫の自立 2)外出頻度と大きく関係するといわれる。そこで、「外出頻度」と「夫の自立」と「夫婦関係」について、退職後にどんな変化があるのか見てみたい。

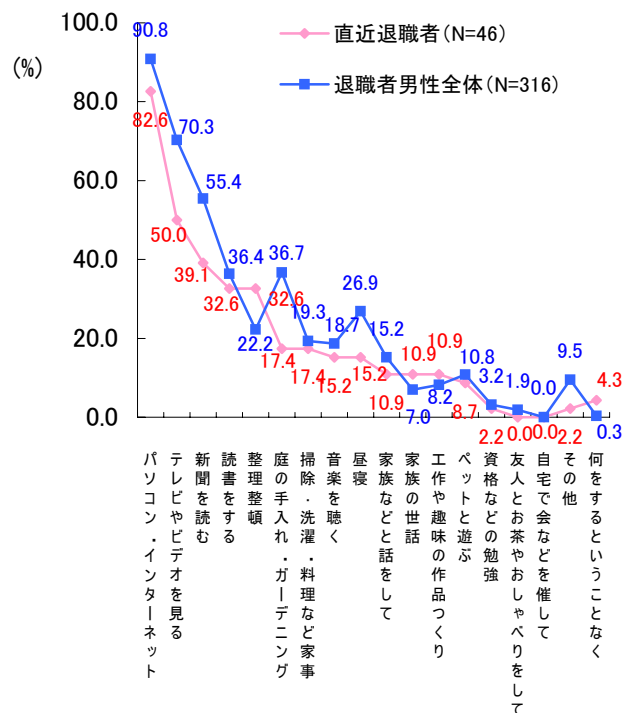
●「直近退職者」は1週間のうち3.5日は外出し、2.2日は家にいる。外出日数は「退職者全体」と比べて、やや少ない傾向がある。

4-(2) <退職者男性の生活スタイル 2006年7月調査との比較>

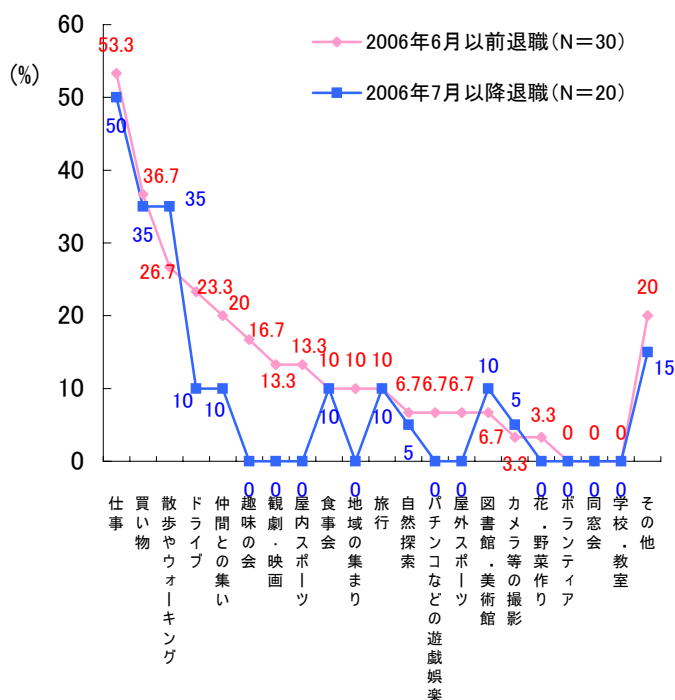
外出目的: 定年退職者(MA)



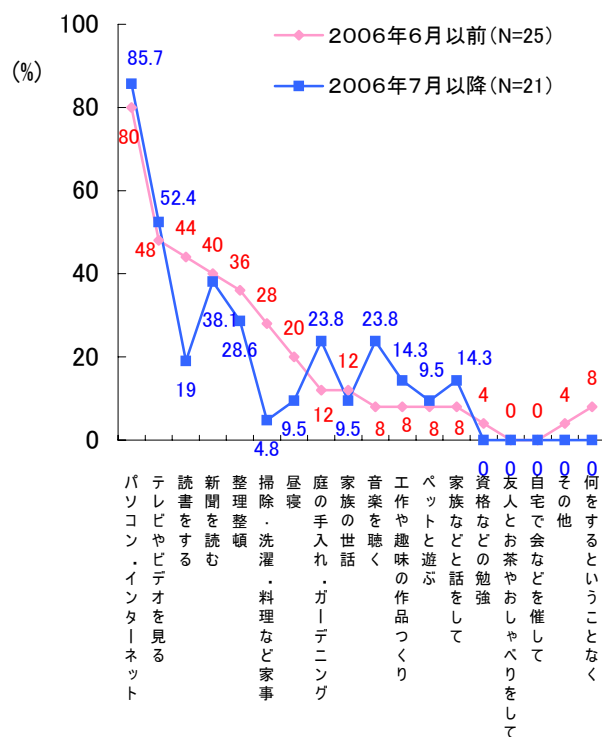
家の中でしたこと: 定年退職者(MA)



外出目的(MA)



家の中でしたこと(MA)



●<外出目的>

「直近退職者」はまだ仕事を持っている人が多いので、退職男性全体と比べるとまだ「仕事」が断然多く、外遊びの広がりはまだ少ない。また、さらにこの6ヶ月以内に退職した直近の退職者はほとんど仕事中心から抜け出していないが、9ヶ月以内となるとさすがにリタイア生活に慣れるためか、「ドライブ」「仲間との集い」「趣味の会」「屋内スポーツ」と広がってくる。

●<家でしたこと>

「PC・インターネット」「テレビ・ビデオ」「新聞」が御三家であるが、退職男性と比べると、「直近退職者」の実施率は少なく、決して余裕のあるものではない。

問14：以下の行動の中で、あなたご自身が「関心があること」「自分でできる知識があると思うこと」「自分でやっていること」をそれぞれいくつでもお知らせください。(MA)

直近退職者(N=55) 団塊世代の退職予定者の内、今回対象者(N=55) 退職者男性(N=353)

(参考:2006年4月調査)

(%)

サービス	直近退職者(N=55)	団塊世代の退職予定者の内、今回対象者(N=55)	退職者男性(N=353)
料理づくり	18.2	21.9	25.5
毎月の家計管理	7.3	10.9	23.5
分別ゴミの区分の判断	38.2	41.8	53.3
税金の還付手続き	58.2	70.3	65.5
サービスの選択	35.4	40.0	35.4
お買い得な商品を見分けること	10.9	23.6	23.5
健康によい食品を選ぶこと	9.1	12.7	15.6
似合いの服を選ぶこと	18.2	24.1	20.0
百貨店でひとりの予約	20.0	24.1	20.0
海外への飛行機の予約	72.7	78.2	46.2
パソコンソフトのインストール	72.7	78.2	46.2
携帯メール	56.4	56.4	46.2

直近退職者 (N=55)

団塊世代の退職予定者の内、今回対象者 (N=55)
(参考: 2006年4月調査)

(%)

サービス	直近退職者 (N=55) (%)	団塊世代の退職予定者の内、今回対象者 (N=55) (%)
料理づくり	41.8	32.7
毎月の家計管理	41.8	27.3
分別ゴミの区分別の判断	41.8	36.4
税金の還付手続き	58.2	58.2
品・サービスの選択	47.3	43.6
お買い得な商品を見分ける	30.9	30.9
健康にふさわしい食料品を選ぶ	29.1	25.5
百貨店でひとりで似合いの服を買う	38.2	32.7
海外への飛行機の予約	56.4	65.5
パソコンソフトのインストール	41.8	40.0
携帯メール	41.8	40.0
該当するものはない	1.8	3.6

直近退職者(N=55) 団塊世代の退職予定者の内、今回対象者(N=55)
(参考:2006年4月調査)

項目	直近退職者(N=55) (%)	団塊世代の退職予定者の内、今回対象者(N=55) (%)
料理づくり	43.6	34.5
毎月の家計管理	14.5	20.0
分別ゴミの区分の判断	18.2	14.5
税金の還付手続き	45.5	34.5
お買い得な商品のサービスの選択	43.6	32.7
健康にいい食品を見分けること	41.8	32.7
似合いの服を選ぶこと	14.5	14.5
百貨店でひとりでの買い物をすること	27.3	32.7
海外への飛行機の予約	27.3	32.7
パソコンソフトのインストール	41.8	50.9
携帯電話の買い換え	20.0	27.3
該当するものはない	7.3	10.9

それは「知識がない」からではなく、「関心がない」からである。関心が知識を上回るのは、ここでは「料理づくり」と「健康によい食品を見分けること」だけである。いわば知恵が追いついていない、ということをも認める事柄だ。

しかし「家計簿」「分別ゴミ」「税金還付手続き」「お買い得」「自分の服を選ぶ」「携帯メール」いずれも、自分がすることではない、と考えるのか、知恵はあっても関心は低く、自分でやる人が少ない。

これは妻に任せればよい、としている意識が背景にある。仮に妻の側が自分でやってもらいたいと考えていてもである。

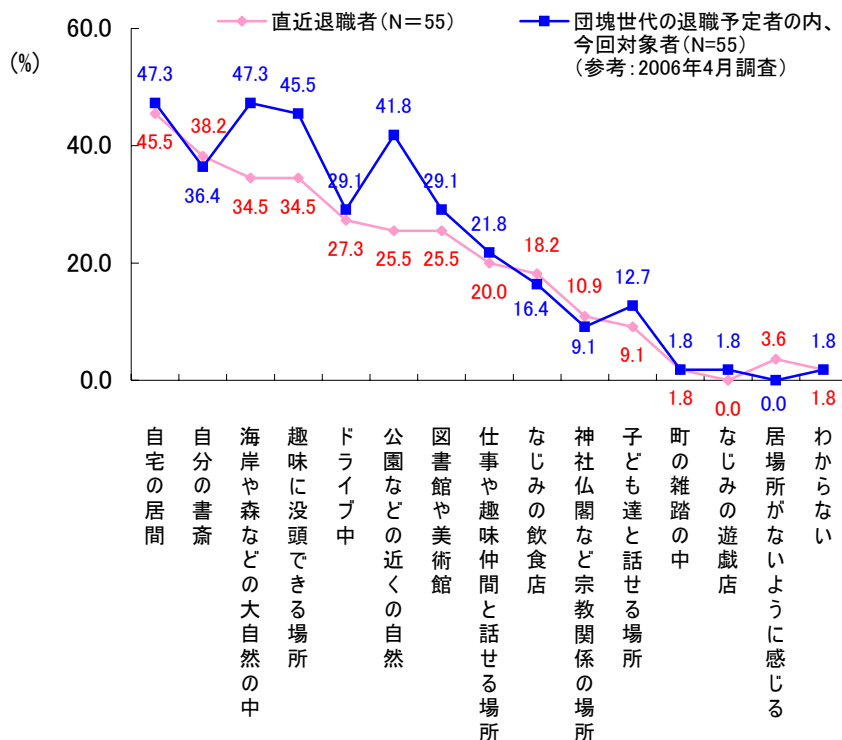
夫に退職があるとするなら、妻にも退職がある、という意識は当然のことだ。妻の意識としてありうることだ。

こうした背景から、退職後の夫婦を見てみよう。

6＜自分の居場所＞

問15：あなたがそこにいとストレスが癒され、気持ちが安らぐような、あなたの居場所はどこですか。(MA)

自分の居場所(参考：2006年4月調査との比較)



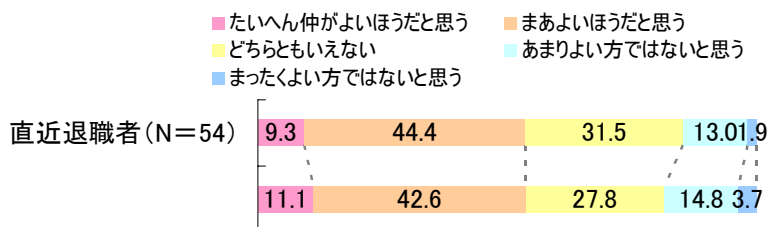
●それでは、退職後自分の居場所は夫はどこに求めたらよいのか。

●居場所意識は退職前と直後ではどうも変化するようだ。退職前には「自宅の居間」以外に「海岸や森などの大自然」「公園などの自然」が自分の気持ちが安らぐ居場所だ、としていた同じ人がそうは思わなくなったり、「趣味に没頭できる場所」としていた人が、そうは思わなくなったり、どうも余裕を失っている感じがする。退職直後には何かに追われる気持ちなのであろうか。
※ハイライフ研究所の「退職後の夫と妻”光”と”影”研究」において、夫たちが退職後アイデンティティを失っている(つまり居場所を失っている)ことが示されている。

7＜夫婦仲の認識＞

問16：あなたは一般の夫婦と比べて、夫婦の仲が良い方だと思いますか。それともよい方ではないと思いますか。(MA)

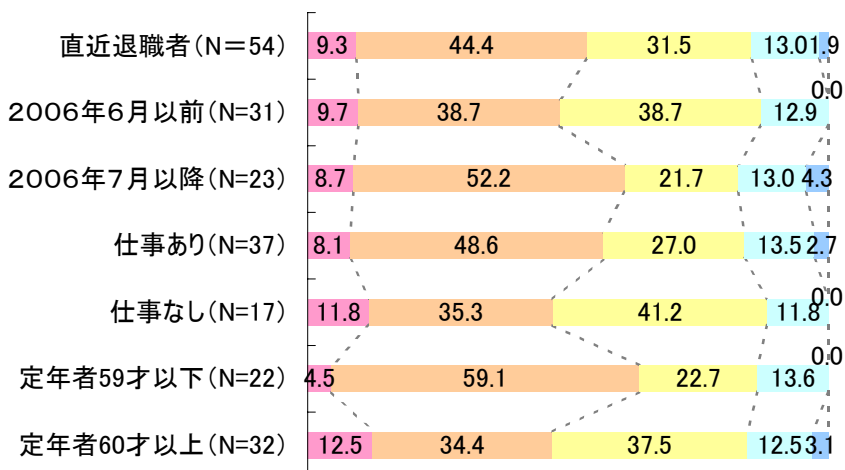
夫婦仲の認識(SA)(2006年4月調査との比較)



●自立も進まず、アイデンティティを失っている人も少なくない「直近退職者」の夫婦関係はどのようなものだろうか。

●幸いなことに、夫婦仲が悪くなっている傾向は見られない。むしろ退職後の方が若干、「夫婦仲がよい方ではない」という人は減ってさえいる。

夫婦仲の認識(SA)
 ■ たいへん仲がよいほうだと思う
 ■ まあよいほうだと思う
 ■ どちらともいえない
 ■ あまりよい方ではないと思う
 ■ まったくよい方ではないと思う

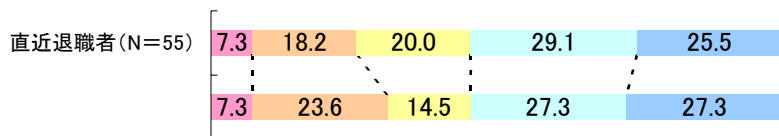


8＜団塊世代の意識＞

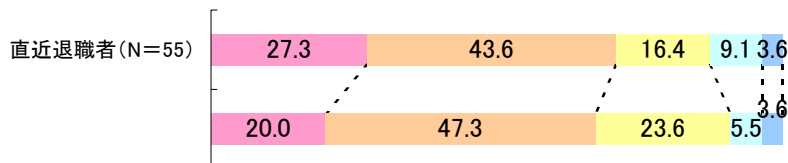
問17: いろいろな意見があげてあります。あなたはそれぞれの意見にどの程度賛成なさいますか。(SA)

(1) 全共闘などの学生運動は
自分にとって意味のあることだった

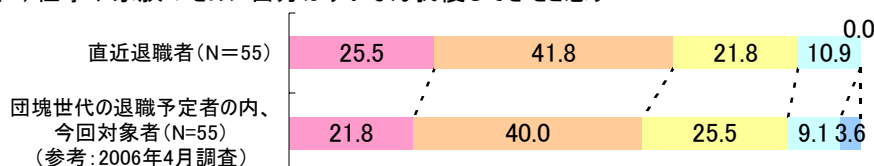
■ たいへんそう思う ■ ややそう思う
 ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない
 ■ まったくそう思わない



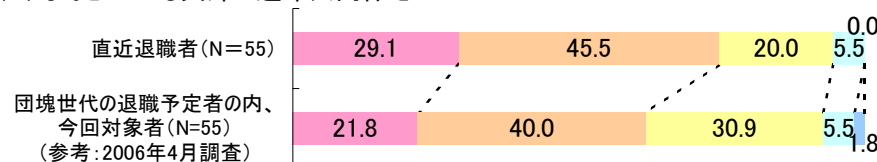
(2) 団塊世代は時代のブームを作ってきたと思う



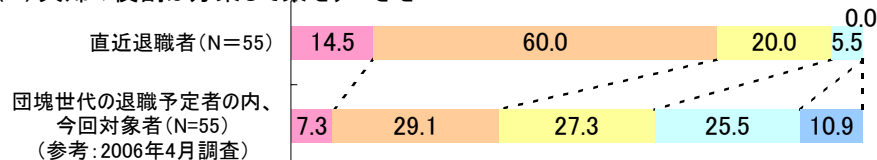
(3) 仕事や家族のために自分はずいぶん我慢してきたと思う



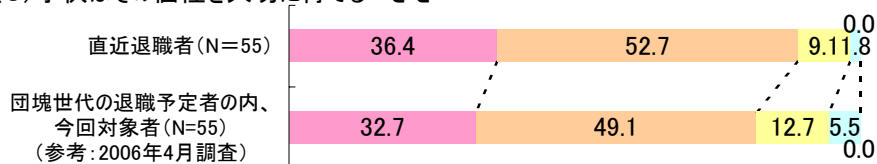
(4) なんといっても夫婦は運命共同体だ



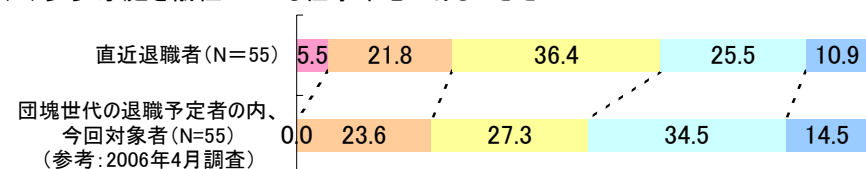
(5) 夫婦の役割は分業して果たすべきだ



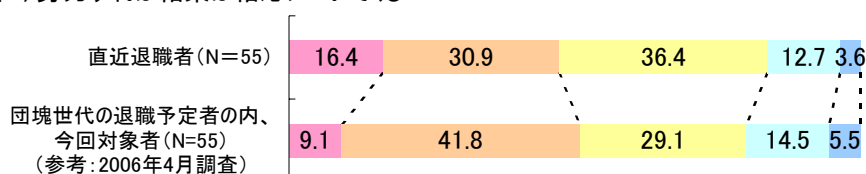
(6) 子供はその個性を大切に育てるべきだ



(7) 多少家庭を犠牲にしても仕事中心であるべきだ



(8) 努力すれば結果は相応についてくる



●「直近退職者」は1946年生まれの人であるが、国勢調査では1946年7月生まれの人から突然人口が前年同月比128%で増加を始める。じつは団塊世代はここから誕生始める。したがって、本調査の「直近退職者」はすでに団塊世代の退職者といえる。
その団塊世代の先触れ退職者は、その同じ人が退職の前後でどう意識が変わったか。

●退職後に意識が強まった意見は次のようなものだ。

○なんといっても夫婦は運命共同体だ(+12.7ポイント)
○子供はその個性を大切に育てるべきだ(+7.3P)
○多少家庭を犠牲にしても仕事中心であるべきだ(-12.6P)
○仕事や家族のために自分はずいぶん我慢してきたと思う(+5.5P)

退職後、夫婦である意識がかなり強くなるとともに、当然かもしれないが、仕事中心意識が弱くなることが明らかだ。

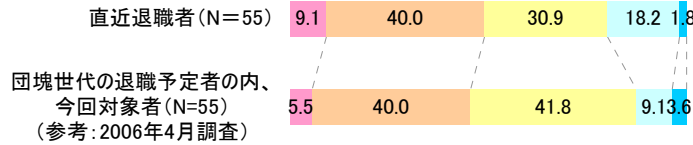
※「夫婦の役割は分業して果たすべきだ」は事前と事後ではワーディングが少し異なっているので、ここでは分析の対象にしない。

9＜定年退職後のライフスタイル意識＞

問18: 対になった意見があげられています。あなたはそれぞれどちらの意見に近いでしょうか(SA)

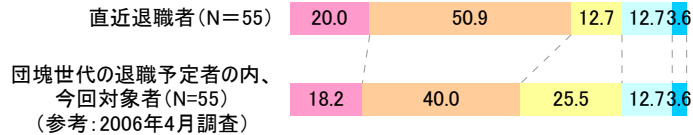
■ Aにたいへん賛成 ■ Aにやや賛成 ■ どちらともいえない ■ Bにやや賛成 ■ Bにたいへん賛成

A. これからはなるべく夫婦一緒に行動したい。



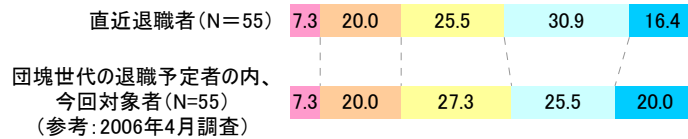
B. これからはなるべく夫婦別々に行動したい。

A. これからも夫婦で力をあわせて生活したい。



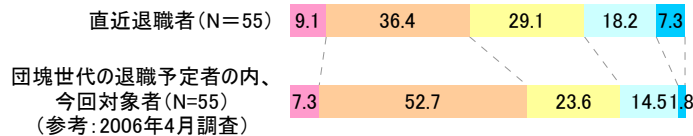
B. これからは夫婦に頼らず一人で何でもできるようにしたい。

A. 便利な都会に住みたい。



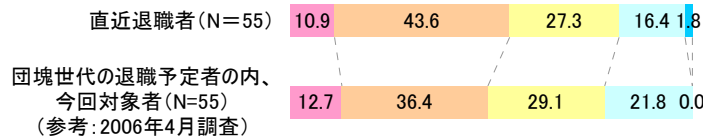
B. 自然の豊かなところみたいです。

A. 多少規則に外れてもこれからは自由にやりたい。



B. これからも規則にしたがった生き方を守りたい。

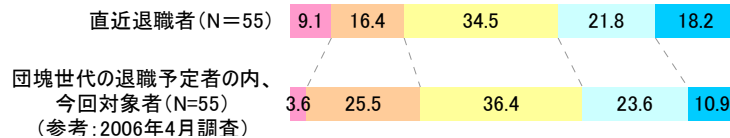
A. 年相応の生き方をしたい。



B. 若さにこだわった生き方をしたい。

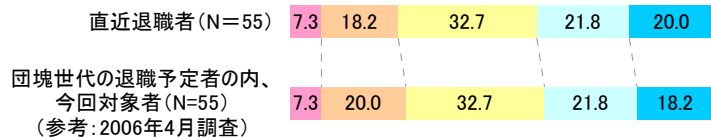
■ Aにたいへん賛成 ■ Aにやや賛成 ■ どちらともいえない ■ Bにやや賛成 ■ Bにたいへん賛成

A. これからはなるべく海外のよさを発見したい。



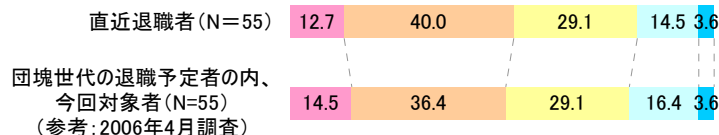
B. これからは日本のよさを見直したい。

A. やむをえなければ夫婦は離婚しても良い。



B. やむをえなくても夫婦は離婚すべきではない。

A. 自分らしさとはもともと自分が持っている個性だ。

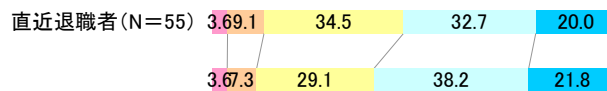


B. 自分らしさとは自分が努力して作った成果だ。

<定年退職後のライフスタイル意識> (続き)

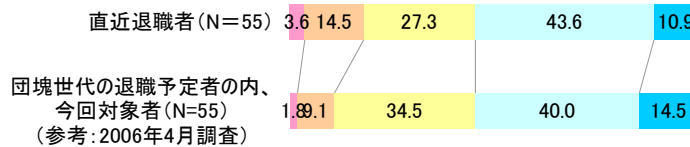
■ Aにたいへん賛成 ■ Aにやや賛成 ■ どちらともいえない ■ Bにやや賛成 ■ Bにたいへん賛成

A. 組織や団体に属している方が好きだ。



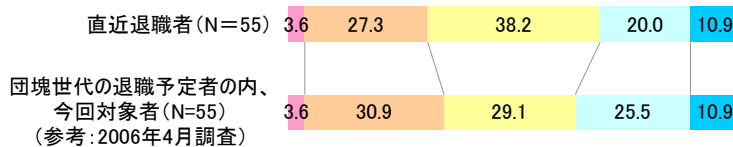
B. 組織や団体に属さない方が好きだ。

A. これまでに、やりたいことはほとんどやってきた。



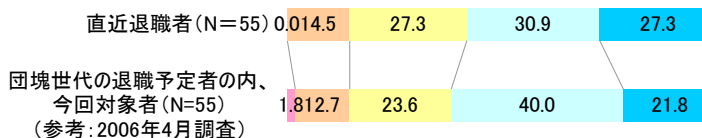
B. これまでに、やりたくてもできなかったことがいくつかある。

A. 若さとは体が元気なことだと思う。



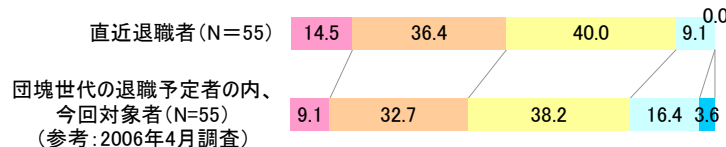
B. 若さとはこころが元気なことだと思う。

A. 人を判断するときに肩書きや役職名は重要な要素だ。



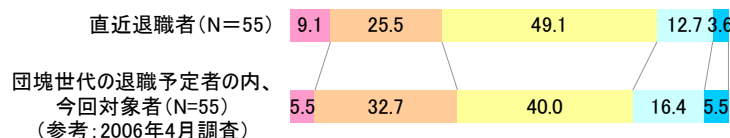
B. 人を判断するときに肩書きや役職名は重要ではない。

A. 環境やエコロジーを守る方が便利な暮らしより優先する。



B. 便利な暮らしをする方が環境やエコロジーより優先する。

A. 夫婦でいる方が友達といるより楽しい。



B. 友達という方が夫婦でいるより楽しい。

● ライフスタイルに関する退職前と後での意識比較では、かなり変化しているものがある。

● 退職前より退職後で強くなるライフスタイル意識は次のようなものだ。

○ これからはなるべく夫婦一緒に行動したい (+12.7P)

○ これからも夫婦で力をあわせて生活したい (+12.7P)

○ これまでに、やりたいことはほとんどやってきた (+7.2P)

ここでもやはり夫婦で協力して生活したい、という仲よし夫婦志向が退職後かなり強くなる変化が見られる。

一方、退職後、退職前と比べて少なくなるライフスタイル意識は次のようなものだ。

◆ 多少規則に外れてもこれからは自由にやりたい (-14.5) 逆に、これからは規則にしたがった生き方を守りたい (+9.2P)

◆ 便利な暮らしをする方が環境やエコロジーより優先する (-10.9P) しかし、環境やエコロジーを守る方が便利な暮らしより優先する (+9.1P) と考え方は分離する傾向。

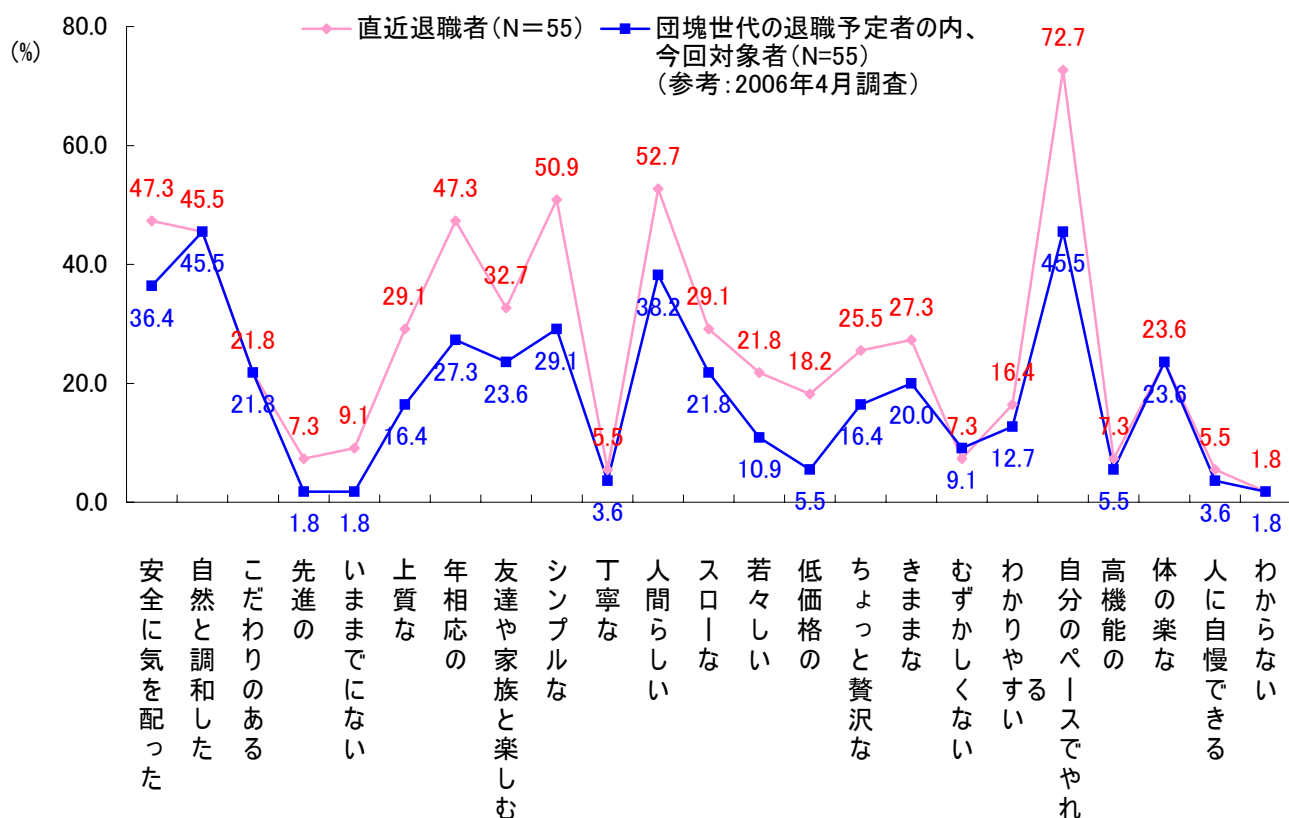
◆ 組織や団体に属さない方が好きだ (-7.3P) が、組織や団体に属している方が好きだ、が増加するわけではない。

総じて、退職前と比べてかなり保守的というか、守勢に回ったライフスタイル志向となっている。

10＜暮らしのキーワード＞

問19: あなたがこうありたいと思う、暮らしのキーワードは何ですか(MA)

暮らしのキーワード(MA)



●こうありたいと思う、暮らしのキーワードは退職前よりかなり鮮明になってくる。

●退職前に考えていた暮らしのキーワードから大きくずれることはないが、さらに強く意識されるキーワードと、それほど変化しないキーワードとがあるようだ。

●いっそう強くこうありたい(+10P以上)とされるキーワードは次の通り。

○自分のペースでやれる(+27.2P)

○シンプルな(21.8P)

○年相応の(20.0P)

○人間らしい(14.5P)

○上質な(+12.7P)

いずれも退職前でもかなり多くの方がそう思っていたキーワードだ。

●いっばう、あまり変わらないキーワードもある。

◆自然と調和した(+0)

◆こだわりのある(+0)

◆体の楽な(+0)

◆丁寧な(+1.9P)

◆高機能の(+1.8P)

自然と調和した、は多くの方がこうありたい、と思っている要素だが、おそらく基本的要素なので、変化がないのだと思われる。丁寧な、高機能の、に関しては、もともと関心が薄いせい、変化が見られない。

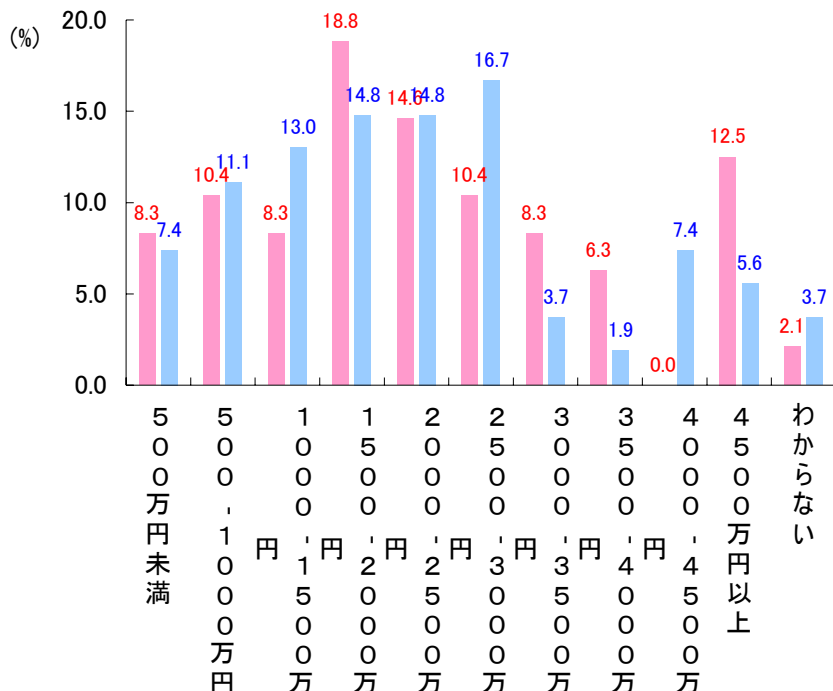
11-(1) <退職金金額>

問21: 失礼ですが、その額はいくらですか。二度以上受け取った方はその合計額をお聞かせください。(SA)

退職金金額(2006年4月調査は、予定金額)

■ 直近退職者(N=48)
加重平均退職金金額2244.8万円

■ 団塊世代の退職予定者の内、
今回対象者(N=54)
(参考: 2006年4月調査)
加重平均退職金金額2083.3万円



● 受け取った退職金金額と受け取るだろうと考えていた退職金金額とには差が生じている。

● 同じ人であるし、直近・直後であるから、もし関心があるのであれば、かなり退職金金額は事前に分かっているであろうから、金額にそれほど差が出るとは考えづらいが、平均2083万円予想に対し、実際には平均2245万円である。誤回答している可能性も否定できないが、N数が少ないからともいえる。

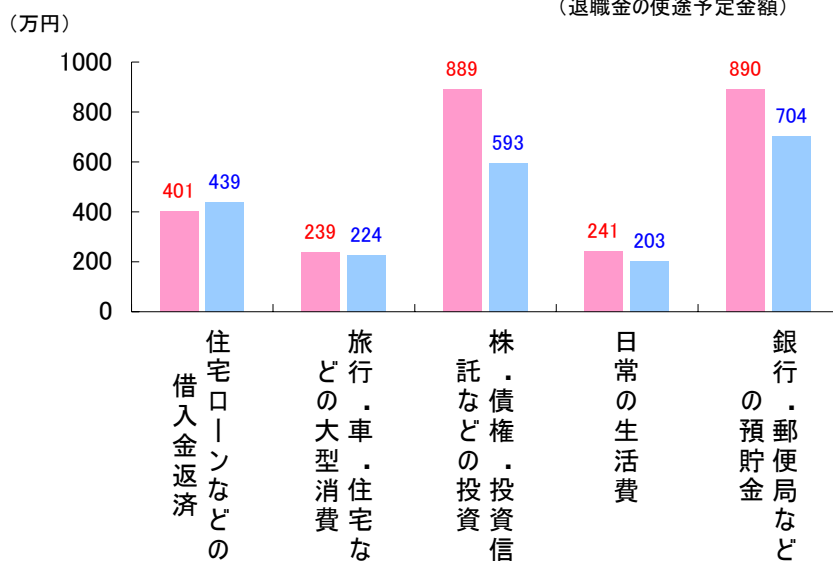
11-(2) <定年退職金の使途>

問24: 退職してから現在までの、あなたの世帯の合計支出金額についておたずねします。

定年退職金の使途

■ 直近退職者(N=48)

■ 団塊世代の退職予定者の内、
今回対象者(N=52)
(参考: 2006年4月調査)
(退職金の使途予定金額)

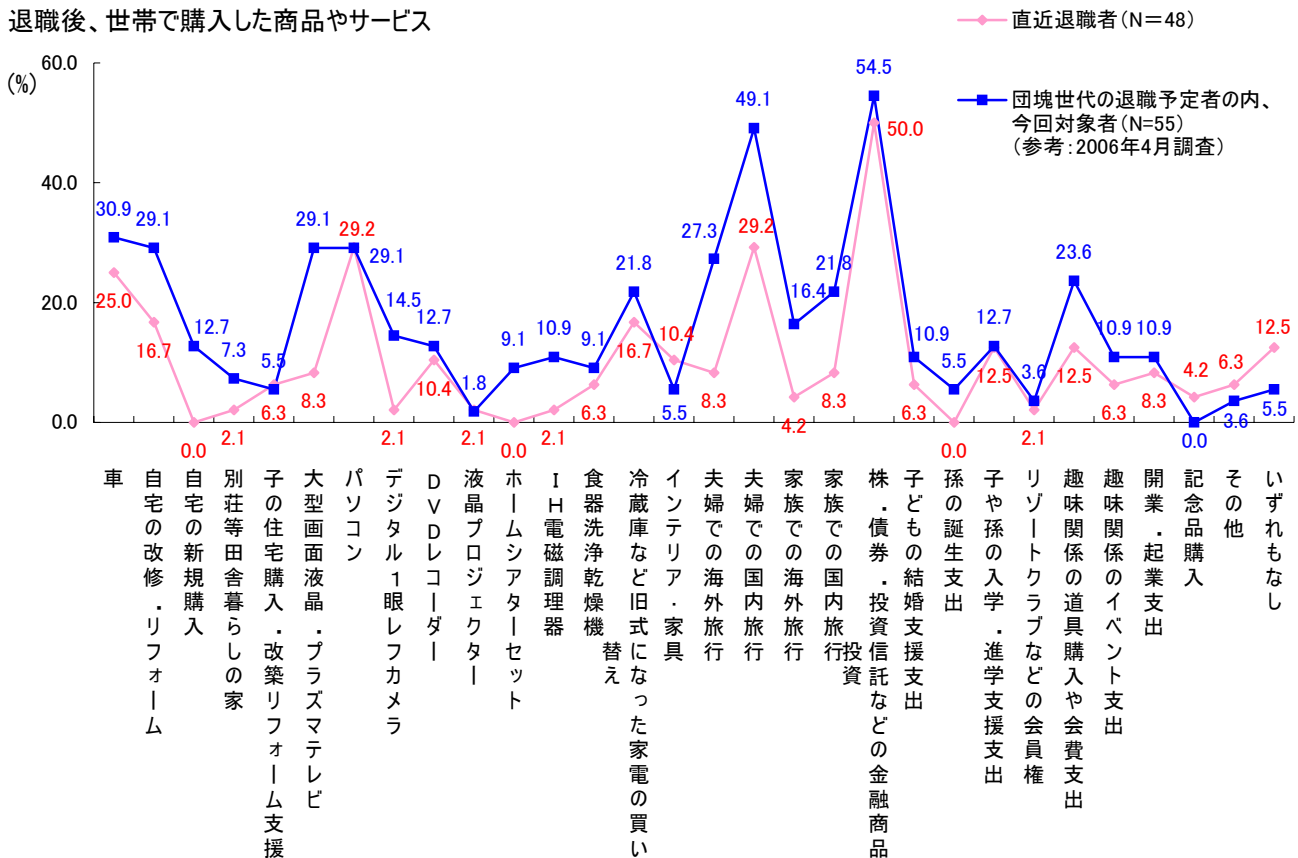


● 退職金の使途は、その意味では事前の計画と事後とはそれほど違いがないといえる。

● ローン返済は400万円あまりであり、大型消費へはあまりまわらず230万円あまりで日常生活費へは200万円あまり。違いがあるのは株などの投資金額と預貯金である。退職後には退職金金額が予定より多かった分、投資に+300万円あまり、預貯金へ+200万円あまり積み増されているという構造だ。

問24:退職後、あなたの世帯で購入・支出なされたものを以下の商品やサービスのなかからすべてお知らせください。
(MA)

退職後、世帯で購入した商品やサービス



●退職後購入したいもの、と購入したもの、についてみてみよう。

●「直近退職者」においても、多数の退職者と同様に退職後購入したい品目は「株などの金融商品」「夫婦での国内旅行」「自宅のリフォーム」「車」「大型画面テレビ」「パソコン」である。

●また、実際に購入率が高い(20%以上)品目は、「株などの金融商品」「夫婦での国内旅行」「パソコン」「車」である。

●したがって、詳細に見ると、退職後9ヶ月以内に予定通り購入という、早い時期に購入するものと、購入意向はあっても様子を見ているものとがある。

●退職後9ヶ月以内にほぼ予定通り購入という品目は以下の通り。

○株などの金融商品、パソコン、車

●購入意向はあっても様子を見ているものは以下の通り。

○夫婦での国内旅行、夫婦での海外旅行、大型画面テレビ、自宅リフォーム

これらの違いがなぜ生じるのかは定かではないが、比較的夫だけで購入意思決定できそうな品目とか、金額が明確に分かっているものとか、比較的低額で負担感が少ないものとか、が早期に購入され、夫婦で相談する必要があるものとか、まだ先行き価格低下しそうなものとか、が手控えられている可能性がある。また「直近退職者」とはいえ、まだ就労率も高く、70%が就労している状況では、自由時間がまだ取れないということも旅行などの消費を遅延させる理由でもある。

11-(3)＜定年退職金の使途＞

問24: 退職後、あなたの世帯で購入・支出なされたものを以下の商品やサービスのなかからすべてお知らせください。
また、その金額を万円単位でお知らせください。(MA)

購入支出平均金額

(万円)

